

上野地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

小田原遺跡



2004.2

長野県辰野町教育委員会

県営中山間総合整備事業に先立つ緊急発掘調査

上野地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

小田原遺跡

2004.2

長野県辰野町教育委員会



調査区全景



調査区遠景



住居址付近



第11～13号住居址



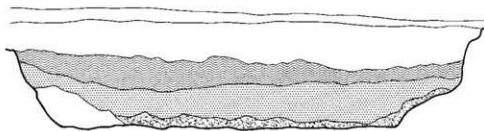
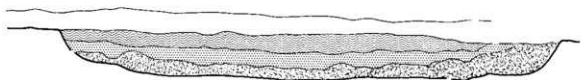
第11号住居址



第12号住居址



第13号住居址



第11～13号住居層位区分 (1:11住, 2:12住, 3:13住) (☐:上層, ◻:中層, ◼:下層)



出土遺物（1：6住、2：8住、3：石拍場、4：27集石印）

例 言

1. この報告書は県営中山間地総合整備事業小田原工区に先立って実施された長野県上伊那辰野町大字平出3908番地他に所在する小田原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、上伊那地方事務所長と辰野町長との委託契約に基づいて行われた。
なお、発掘調査の組織については発掘調査体制として別掲した。
3. 発掘調査は平成11年3月3日から平成12年6月4日まで断続的に試掘調査を実施し、平成12年5月15日から平成13年5月9日まで現場の本発掘調査作業を行った。また、平成12年5月15日より平成16年2月27日までの間、遺物整理及び報告書の作成を実施した。
4. 発掘現場における記録は、福島永が担当し、遺構等の実測図の作成は板倉裕子、大森淑子、早川裕美子が主として行い、赤羽弘江、大木丈夫、工藤信子、佐藤直子、竹内みどり、村上茂子、福島が補助した。遺物等の実測図及びトレースの作成は板倉裕子、赤羽弘江、大森淑子、佐藤直子、竹内みどりが行った。なお、土器復原は福沢幸一氏にお願いした。また、土器および石器（第Ⅱ章 2(1)、(2)3）および考察については、会田進氏に執筆を依頼した。
5. 本報告書に掲載されている遺構図版の内、方位を示していないものについては図版の天が真北である。
6. 調査時及び、整理時に作成した実測図及び写真は、辰野町教育委員会で保管している。

発掘調査体制

調査主体者	一ノ瀬健二（～H14.9） 小林 辰興（H14.10～）（辰野町教育委員会教育長）
事務局	武井 誠（～H15.3） 有賀 米吉（H15.4～）（辰野町教育委員会生涯学習課長） 三浦 孝美（辰野町教育委員会生涯学習課長補佐兼文化財保護係長） 福島 永（辰野町教育委員会生涯学習課）発掘調査担当者 大木 丈夫（～H15.3）（辰野町教育委員会生涯学習課）
発掘調査協力者	赤羽 弘江、板倉 裕子、大森 淑子、吉川 勝大、工藤 信子、古清水智美、 佐藤 直子、高木 四郎、竹内みどり、田中 正子、早川裕美子、堀内 智司、 堀内 誠、松下 秀徳、丸山 勝好、宮沢 英子、宮原 栄二、村上 茂子、 (注) 上伊那広域シルバー人材センター
整理作業協力者	赤羽 弘江、板倉 裕子、大森 淑子、工藤 信子、古清水智美、佐藤 直子、 竹内みどり、早川裕美子、村上 茂子

目 次

序

例 言

第Ⅰ章 小田原遺跡の遺構と遺物

1. 住 居 址	1
2. 土 坑	94
3. 石 列	147
4. 溝 址	152
5. 礫 群	155

第Ⅱ章 ま と め

1. 遺 構	162
2. 遺 物	164

考 察 175

あとがき 190

写 真 図 版 191

付 図	4. 第1号礫群平面図
	5. 第2号礫群平面図
	6. 第3号礫群平面図
	7. 小田原遺跡全体測量図 (1)
	8. 小田原遺跡全体測量図 (2)

插图目次

第1图	第3·8号住居址实测图	2	第44图	第11号住居址出土文物(13)	45
第2图	第3号住居址出土文物(1)	3	第45图	第11号住居址出土文物(14)	46
第3图	第3号住居址出土文物(2)	4	第46图	第11号住居址出土文物(15)	47
第4图	第3号住居址出土文物(3)	5	第47图	第11号住居址出土文物(16)	48
第5图	第3号住居址出土文物(4)	6	第48图	第11号住居址出土文物(17)	49
第6图	第3号住居址出土文物(5)	7	第49图	第11号住居址出土文物(18)	50
第7图	第8号住居址出土文物(1)	8	第50图	第11号住居址出土文物(19)	51
第8图	第8号住居址出土文物(2)	9	第51图	第11号住居址出土文物(20)	52
第9图	第4号住居址实测图	10	第52图	第11号住居址出土文物(21)	53
第10图	第5号住居址实测图	10	第53图	第11号住居址出土文物(22)	54
第11图	第4号住居址出土文物	11	第54图	第11号住居址出土文物(23)	55
第12图	第5号住居址出土文物	12	第55图	第11号住居址出土文物(24)	56
第13图	第4号、5号住居址出土文物	13	第56图	第11号住居址出土文物(25)	57
第14图	第6号住居址实测图	14	第57图	第11号住居址出土文物(26)	58
第15图	第6号住居址出土文物(1)	15	第58图	第12号住居址实测图	60
第16图	第6号住居址出土文物(2)	16	第59图	第12号住居址出土文物(1)	61
第17图	第6号住居址出土文物(3)	17	第60图	第12号住居址出土文物(2)	62
第18图	第6号住居址出土文物(4)	18	第61图	第12号住居址出土文物(3)	63
第19图	第6号住居址出土文物(5)	19	第62图	第12号住居址出土文物(4)	64
第20图	第6号住居址出土文物(6)	20	第63图	第12号住居址出土文物(5)	65
第21图	第5号、6号住居址出土文物	21	第64图	第12号住居址出土文物(6)	66
第22图	第6号住居址出土文物(7)	22	第65图	第12号住居址出土文物(7)	67
第23图	第6号住居址出土文物(8)	23	第66图	第12号住居址出土文物(8)	68
第24图	第6号、8号、9号住居址出土文物	24	第67图	第12号住居址出土文物(9)	69
第25图	第7号住居址实测图	25	第68图	第12号住居址出土文物(10)	70
第26图	第7号、8号、10号、13号住居址出土文物	26	第69图	第12号住居址出土文物(11)	71
第27图	第10号住居址实测图	27	第70图	第12号住居址出土文物(12)	72
第28图	第10号住居址出土文物(1)	28	第71图	第12号住居址出土文物(13)	73
第29图	第10号住居址出土文物(2)	29	第72图	第12号住居址出土文物(14)	74
第30图	第10号住居址出土文物(3)	30	第73图	第12号住居址出土文物(15)	75
第31图	第11号住居址实测图	32	第74图	第12号住居址出土文物(16)	76
第32图	第11号住居址出土文物(1)	33	第75图	第12号住居址出土文物(17)	77
第33图	第11号住居址出土文物(2)	34	第76图	第12号住居址出土文物(18)	78
第34图	第11号住居址出土文物(3)	35	第77图	第12号住居址出土文物(19)	79
第35图	第11号住居址出土文物(4)	36	第78图	第12号住居址出土文物(20)	80
第36图	第11号住居址出土文物(5)	37	第79图	第12号住居址出土文物(21)	81
第37图	第11号住居址出土文物(6)	38	第80图	第12号住居址出土文物(22)	82
第38图	第11号住居址出土文物(7)	39	第81图	第12号住居址出土文物(23)	83
第39图	第11号住居址出土文物(8)	40	第82图	第12号住居址出土文物(24)	84
第40图	第11号住居址出土文物(9)	41	第83图	第13号住居址实测图	85
第41图	第11号住居址出土文物(10)	42	第84图	第13号住居址出土文物(1)	86
第42图	第11号住居址出土文物(11)	43	第85图	第13号住居址出土文物(2)	87
第43图	第11号住居址出土文物(12)	44	第86图	第1号住居址カマド实测图	88
			第87图	第1号住居址实测图	89

挿図目次

第88図	第1号、2号住居址出土遺物	90	第132図	集石炉出土遺物(1)	142
第89図	第2号住居址実測図	91	第133図	集石炉出土遺物(2)	143
第90図	第2号住居址カマ下実測図	92	第134図	集石炉出土遺物(3)	144
第91図	第9号住居址実測図	93	第135図	集石炉出土遺物(4)	145
第92図	土坑実測図(1)	96	第136図	集石炉出土遺物(5)	146
第93図	土坑実測図(2)	97	第137図	石列実測図	148
第94図	土坑実測図(3)	98	第138図	第1号石列出土遺物	149
第95図	土坑実測図(4)	99	第139図	第1号、2号石列出土遺物	150
第96図	土坑実測図(5)	100	第140図	第2号石列出土遺物	151
第97図	土坑実測図(6)	101	第141図	溝址実測図	152
第98図	土坑実測図(7)	102	第142図	1号溝址実測図	153
第99図	土坑実測図(8)	103	第143図	第1号礫群出土遺物	156
第100図	土坑実測図(9)	104	第144図	第2号礫群出土遺物	157
第101図	土坑実測図(10)	105	第145図	礫群出土遺物(1)	158
第102図	土坑実測図(11)	106	第146図	第3号礫群出土遺物	159
第103図	土坑実測図(12)	107	第147図	礫群出土遺物(2)	160
第104図	土坑実測図(13)	108	第148図	礫群出土遺物(3)	161
第105図	土坑実測図(14)	109	第149図	小田原遺跡文様組成比	170
第106図	土坑実測図(15)	110	第150図	美女遺跡文様組成比	171
第107図	土坑実測図(16)	111	第151図	美女遺跡の石摺り石(1)	180
第108図	土坑実測図(17)	112	第152図	美女遺跡の石摺り石(2)	181
第109図	土坑、小堅穴実測図	113	第153図	美女遺跡と樋沢遺跡の石摺り石	182
第110図	土坑出土遺物(1)	117	第1表	小田原遺跡土坑一覽	114
第111図	土坑出土遺物(2)	118	第2表	小田原遺跡集石炉一覽	140
第112図	土坑出土遺物(3)	119	第3表	模様別土器片点数	165
第113図	土坑出土遺物(4)	120	第4表	模様別点数	167
第114図	土坑出土遺物(5)	121	第5表	石摺り石の機能面・ 部の組み合わせと点数	173
第115図	土坑出土遺物(6)	122	第6表	磨石類遺構別点数	177
第116図	土坑出土遺物(7)	123	第7表	石摺り石の分類別点数	178
第117図	土坑出土遺物(8)	124	第8表	美女遺跡における石摺り石8類の点数	183
第118図	集石炉実測図(1)	126	第9表	磨石類ほか	185
第119図	集石炉実測図(2)	127			
第120図	集石炉実測図(3)	128			
第121図	集石炉実測図(4)	129			
第122図	集石炉実測図(5)	130			
第123図	集石炉実測図(6)	131			
第124図	集石炉実測図(7)	132			
第125図	集石炉実測図(8)	133			
第126図	集石炉実測図(9)	134			
第127図	集石炉実測図(10)	135			
第128図	集石炉実測図(11)	136			
第129図	集石炉実測図(12)	137			
第130図	集石炉実測図(13)	138			
第131図	集石炉実測図(14)	139			

写真図版

図版 1	全体写真 (1)	図版50	集石炉 (15)
図版 2	全体写真 (2)	図版51	集石炉 (16)
図版 3	第1号住居址	図版52	集石炉 (17)
図版 4	第2号住居址	図版53	石列
図版 5	第3号住居址	図版54	溝址
図版 6	第4号住居址	図版55	第3号住居址出土土器 (1)
図版 7	第5号住居址	図版56	第3号住居址出土土器 (2)
図版 8	第6号住居址 (1)	図版57	第4号住居址出土土器
図版 9	第6号住居址 (2)	図版58	第6号住居址出土土器 (1)
図版10	第7号住居址	図版59	第6号住居址出土土器 (2)
図版11	第8号住居址	図版60	第6号住居址出土土器 (3)
図版12	第9号住居址	図版61	第6号住居址出土土器 (4)
図版13	第10号住居址	図版62	第8号住居址出土土器
図版14	第11号住居址	図版63	第10号住居址出土土器
図版15	第12号住居址	図版64	第11号住居址出土土器 (1)
図版16	第13号住居址	図版65	第11号住居址出土土器 (2)
図版17	土坑 (1)	図版66	第11号住居址出土土器 (3)
図版18	土坑 (2)	図版67	第11号住居址出土土器 (4)
図版19	土坑 (3)	図版68	第11号住居址出土土器 (5)
図版20	土坑 (4)	図版69	第11号住居址出土土器 (6)
図版21	土坑 (5)	図版70	第11号住居址出土土器 (7)
図版22	土坑 (6)	図版71	第11号住居址出土土器 (8)
図版23	土坑 (7)	図版72	第11号住居址出土土器 (9)
図版24	土坑 (8)	図版73	第11号住居址出土土器 (10)
図版25	土坑 (9)	図版74	第11号住居址出土土器 (11)
図版26	土坑 (10)	図版75	第11号住居址出土土器 (12)
図版27	土坑 (11)	図版76	第11号住居址出土土器 (13)
図版28	土坑 (12)	図版77	第11号住居址出土土器 (14)
図版29	土坑 (13)	図版78	第12号住居址出土土器 (1)
図版30	土坑 (14)	図版79	第12号住居址出土土器 (2)
図版31	土坑 (15)	図版80	第12号住居址出土土器 (3)
図版32	土坑 (16)	図版81	第12号住居址出土土器 (4)
図版33	土坑 (17)	図版82	第12号住居址出土土器 (5)
図版34	土坑 (18)	図版83	第12号住居址出土土器 (6)
図版35	土坑・小竈穴	図版84	第12号住居址出土土器 (7)
図版36	集石炉 (1)	図版85	第12号住居址出土土器 (8)
図版37	集石炉 (2)	図版86	第12号住居址出土土器 (9)
図版38	集石炉 (3)	図版87	第12号住居址出土土器 (10)
図版39	集石炉 (4)	図版88	第13号住居址出土土器／遺構外出土土器 (1)
図版40	集石炉 (5)	図版89	遺構外出土土器 (2)／遺構外出土土器 (3)
図版41	集石炉 (6)	図版90	遺構外出土土器 (4)／遺構外出土土器 (5)
図版42	集石炉 (7)	図版91	小型石器 (1)／小型石器 (2)
図版43	集石炉 (8)	図版92	小型石器 (3)／小型石器 (4)
図版44	集石炉 (9)	図版93	礫器 (1)／礫器 (2)
図版45	集石炉 (10)	図版94	礫器 (3)／礫器 (4)
図版46	集石炉 (11)	図版95	礫器 (5)／礫器 (6)
図版47	集石炉 (12)	図版96	礫器 (7)／礫器 (8)
図版48	集石炉 (13)	図版97	礫器 (9)／礫器 (10)
図版49	集石炉 (14)	図版98	礫器 (11)／礫器 (12)

第I章 小田原遺跡の遺構と遺物

1. 住居址

(1) 縄文時代

第3号住居址(第1図)

この住居址は第1調査区の中央部、Ke09 7-14 Bc-8付近より第8号住居址と重複して出土している。なお、土層観察畦によって重複関係を確認したところ、第3号住居址が第8号住居址を掘り込んでいた。

この地点では遺構検出時に礫が集中して出土したため、当初は礫群として調査を進めていたが、礫を取り上げた段階で、円形のプランを確認したため、住居址と判断した。この住居址は、南北に長軸を持ち、長軸はN8°Eを示す。プランは長径約4.5m、短径約3.6mを測り、深さは約10cmの不整楕円形を呈している。壁は比較的なだらかに立ち上がり、断面風状を呈していた。

なお南壁は耕作が深く及んでいたため、残存状況は良好とはいえず、壁の立ち上がりも明確でない箇所もあった。床には硬化面は確認されていないが、ローム層まで掘り込まれていたことから、壁の検出は容易であった。しかし、第8号住居址との重複部分については壁が明確に確認できなかったため、サブトレンチを開坑し、壁の立ち上がりの状況を確認してから調査をすすめた。なお、覆土内等から焼土、炭等は出土しておらず、床面にも焼土地点は検出されていない。またピットについては西部壁際に2基検出されている。遺物等は遺構が比較的浅く検出されたためか、床面に比較的近い高さで出土しているものがほとんどであった。また、土器については壁際に集中して出土している傾向が伺えた。

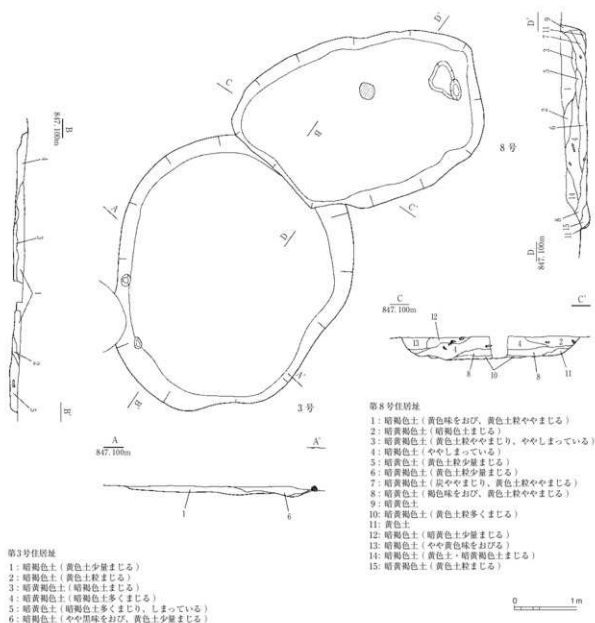
遺物(第2図～第6図)

この住居址からは約280点の土器及び石器が出土している。土器の多くはいわゆる押型文の破片であり、格子目文(第2図)を中心として、網目文(第3図1～7・14)や山型文(第3図8・9・12、第4図1～5)、楕円文(第3図10・11・13)の他、黒鉛入りの土器片(第4図2・4)も出土している。石器は石畿では凹基無茎畿3点(第5図1・3・4)、平基無茎畿1点(第5図7)、不明2点(第5図2・5)である。なお、第5図7は比較的大型であり、挿器的な役割を持つ石器の可能性もある。その他、楔型石器1点(第5図6)、剥片石器4点(第5図8～11)をはじめ、磨石類4点(第6図4～7)、横刃型石器と考えられる石器(第6図9)、砥石(第6図2・3)等が出土している。砥石のうち2の下部には、切り込み状の溝が確認される。

第8号住居址(第1図)

第3号住居址に西部壁を切られる形で出土している。長径約3.5m、短径約2.6mの長方形に近い台形のプランをもち、長軸はN72°Eを示す。壁は直立気味に立ち上がり、やはりローム層を掘り込んでいることからプランの検出は容易であった。覆土には炭や焼土は混入していないものの、各層にロームの小粒が混入しており、第3号住居址とは覆土に違いをみる事ができた。また、床には硬化面は確認できなかったものの、焼土が検出されているほか、東部には浅い掘り込みも検出された。なお、これらの焼土、掘り込みについての性格については明確にすることができなかったものの、土層観察では、カクランの痕跡が見られないことから、この遺構に伴うものと判断している。

この住居址から出土している遺物の多くは覆土中から多くの礫と共に出土している。



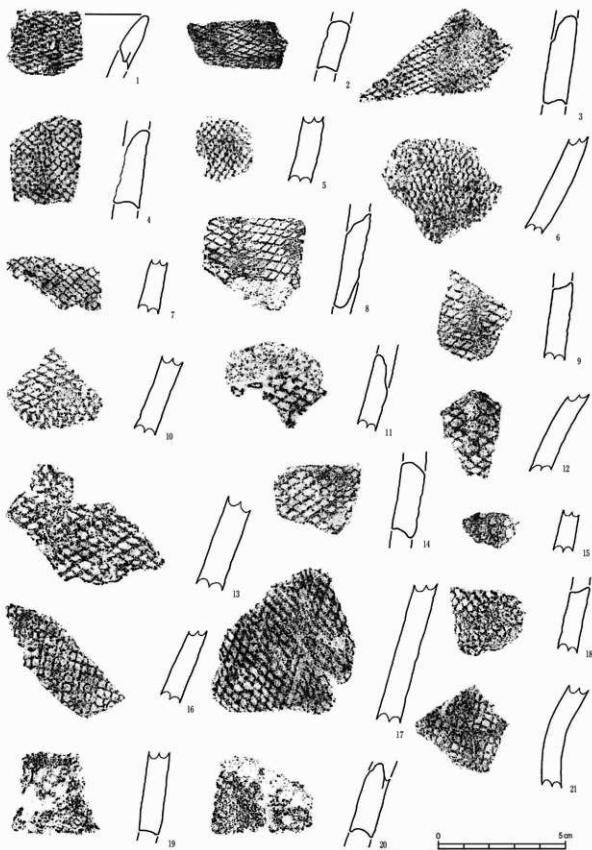
第1図 第3・8号住居址実測図

遺物 (第7図～第8図、第24図・第26図)

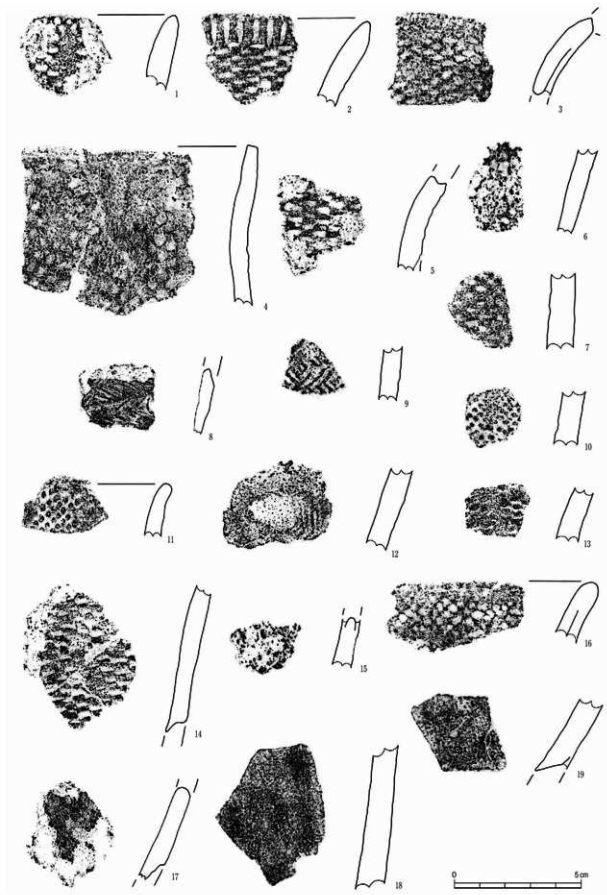
約100点の遺物が出土しているが、遺物として図化できたものは比較的少量であり、ほとんどが石器加工以前の材料として持ちこまれた石と考えられる。

土器は押型文の破片が中心であるが、点数的には少数である。文様の主体は格子目文 (第7図～第8図3) であるが、他にも少量であるが、網目文 (第8図5・6) や、山形文 (第8図7・8) 等が出土しているのをはじめ、網目状撫糸文 (第8図10) も出土している。

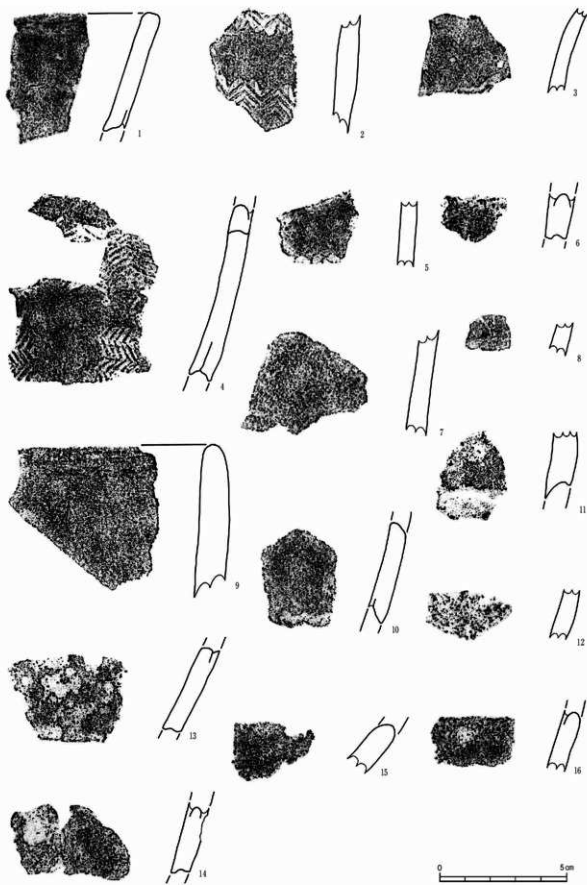
また、石器についても図化できたものは楔型石器が2点 (第26図2・3) と、剥片石器1点 (第26図4)、いわゆる穀摺石1点 (第24図4) を含む磨石類2点 (第24図3・4)、横刃形石器と考えられる石器1点 (第24図5) 等が出土している。



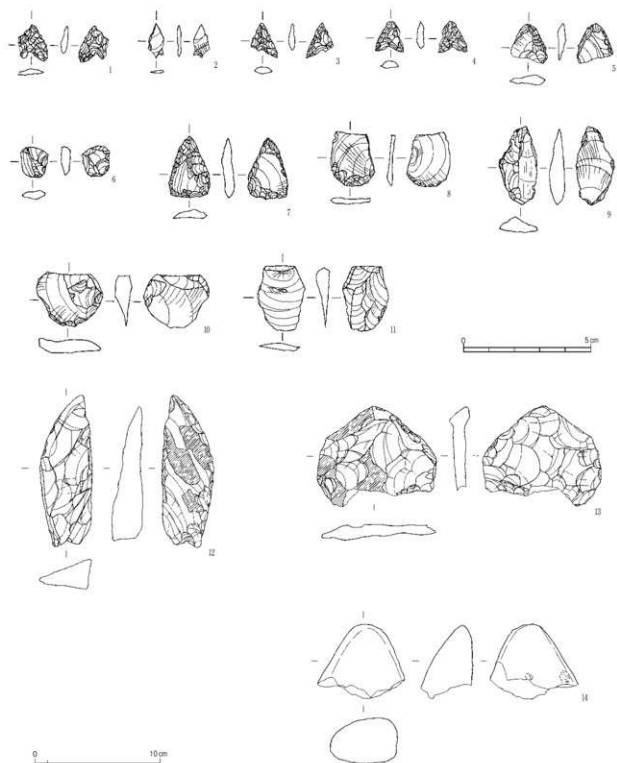
第2图 第3号住居址出土遺物 (1)



第3図 第3号住居址出土遺物(2)



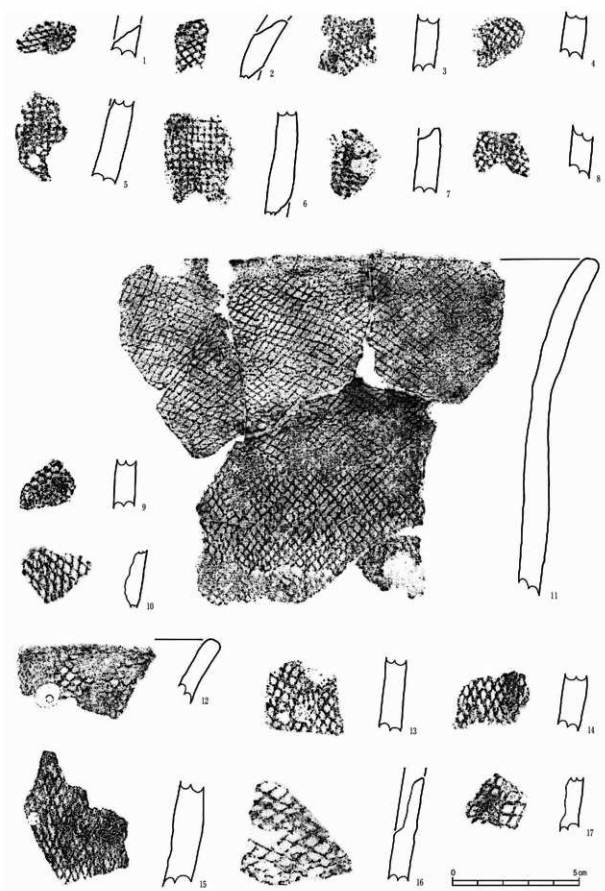
第4图 第3号住居址出土遺物 (3)



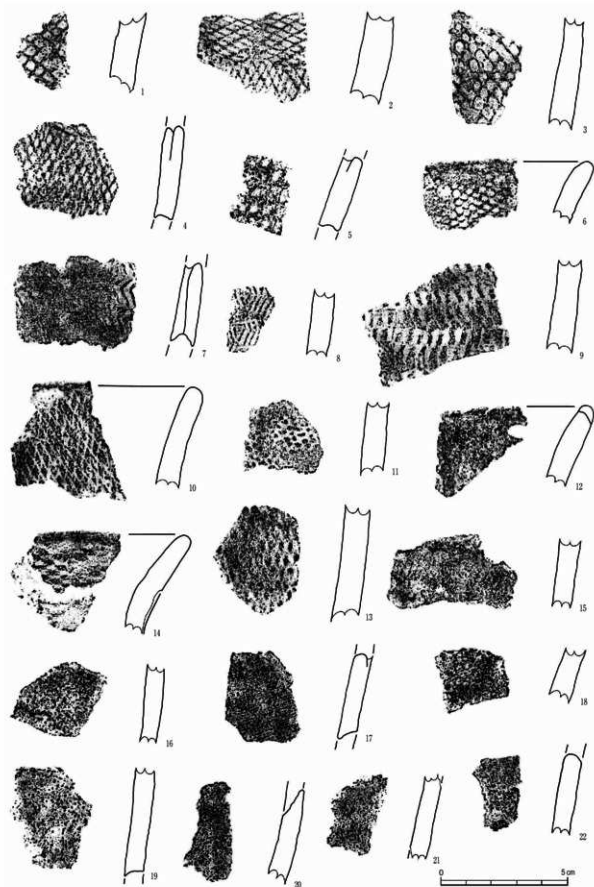
第5図 第3号住居址出土遺物 (4)



第6图 第3号住居址出土遺物 (5)



第7図 第8号住居址出土遺物 (1)



第8图 第8号住居址出土遗物(2)

第4号住居址（第9図）

調査地区の最北部、Kc09 7-14 Bf-3に位置している。直径約2.5mの隅丸方形のプランを呈し、軸はN39°Eを示す。小規模のため、住居址というよりは、小竪穴といった印象の遺構である。

覆土は全体的には黄色味を帯びており、ロームの小粒の混入が確認できる。また、北壁にはこの遺構に伴うか明確ではないが、焼土が検出面から出土し、この地点が張り出し状になっている。床面に硬化面は確認されなかったが、やはりロームを掘り込んでいることから壁は容易に確認できた。壁は南と北の壁はややなだらかに立ち上がるのに対して、東・西壁は直立気味に立ち上がっている。覆土中に礫が混入しており、床面付近からの遺物の出土は少量であった。床からはピット、焼土等は検出されていない。

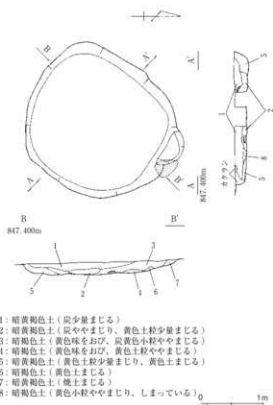
遺物（第11図・第13図）

遺物の出土量は少なく、第11図と第13図1～5が図化できたすべてである。土器片は押型文の格子目文（第11図1～4・8）を中心に、楕円文等が出土している。石では、石鎌は凹基無茎鎌が3点（第13図1～3）、凹石1点（第13図5）横刃型石器と考えられる石器1点（第13図4）が出土している。

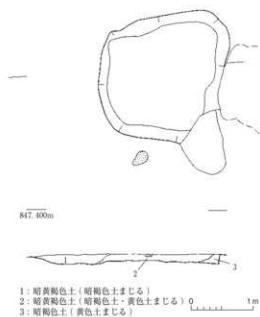
第5号住居址（第10図）

第8号住居址北部、第4号住居址との間に挟まれる形で出土している。プランは直径約4mの不整形であるが、やや台形に近い。南東部隅には土坑が重複して検出されており、当初その存在を確認できなかったため、住居址の調査中に同時に発掘してしまい、前後関係等が明確にできなかった。この住居址も第4号住居址や第8号住居址と同様に、覆土中から礫が出土し、遺物の出土は少量であった。床面に硬化面は確認できず、ピット等の施設も検出されていない。壁はローム層を掘り込んでいたために容易に確認でき、西部は壁の残存状況は悪かったものの、全体的にはややなだらかに立ち上がることを確認している。軸方向はほぼ真北となっている。

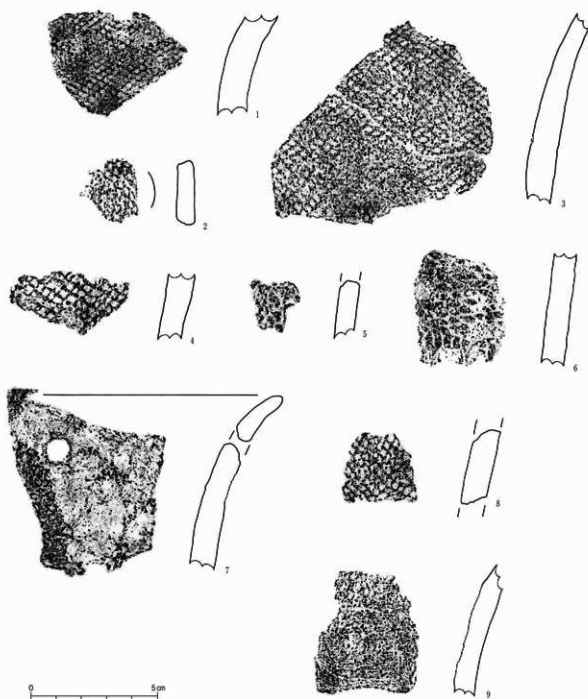
覆土は暗黄褐色系の土を中心に堆積している。



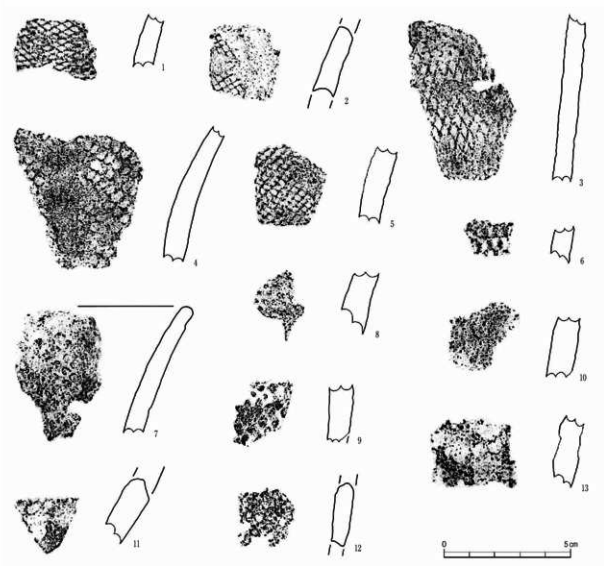
第9図 第4号住居址実測図



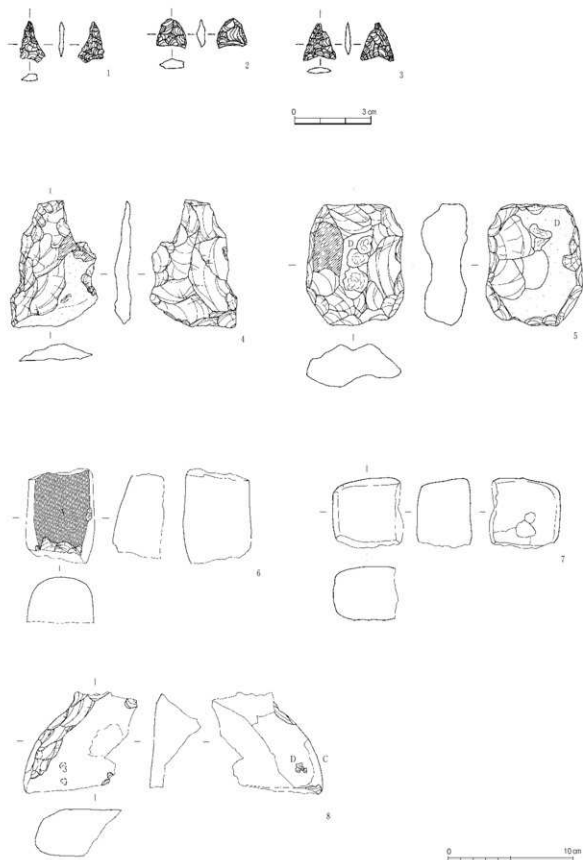
第10図 第5号住居址実測図



第11图 第4号住居址出土遗物



第12図 第5号住居址出土遺物



第13图 第4号、5号住居址出土物 (1~5:4住、6~8:5住)

第1章 小田原遺跡の遺構と遺物

遺物 (第12図・第13図・第21図)

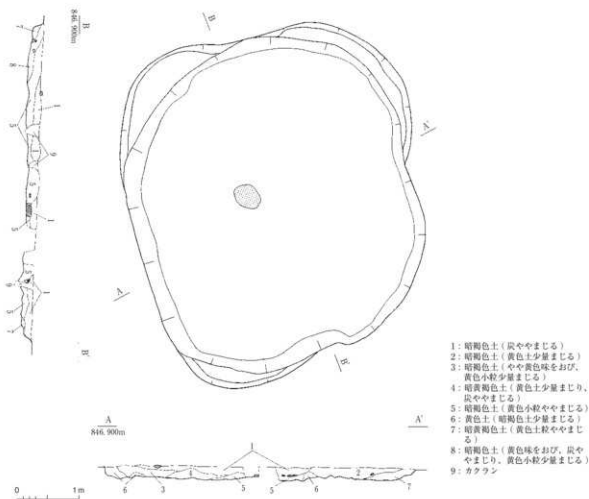
第12図・第13図6～8・第21図1～3が図化できた遺物である。遺物総数も46点と少ない。土器(第12図)は格子目文(1～5)を中心に、楕円文や、山形文等が出土している。

石器(第13図)では磨石類2点(6)、敲打の見られる石器(8)等が出土している。

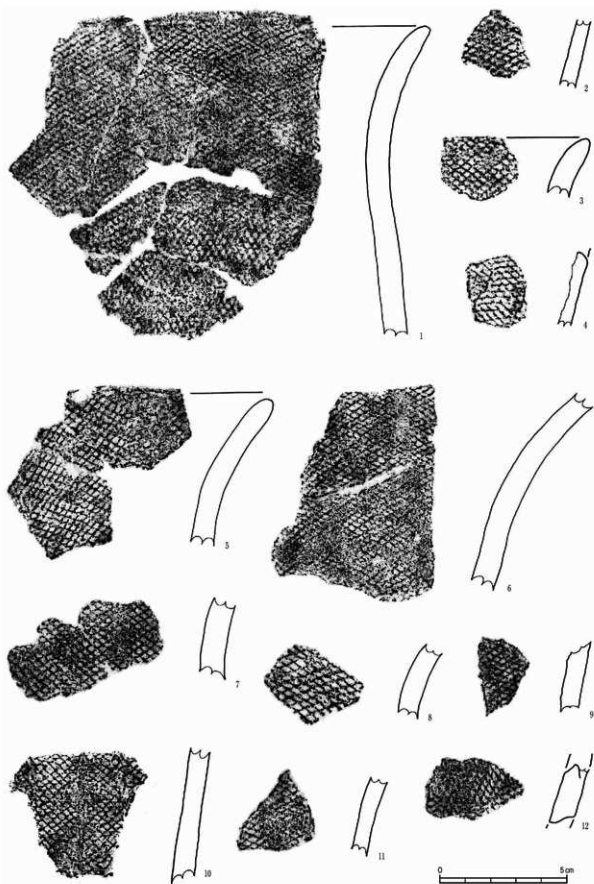
第6号住居址(第14図)

Kc09 7-14 Ba-5付近より出土している。遺構検出作業中にこの付近より礫が集中して出土しており、住居址の中央部付近には第23号集石炉も重複して出土している。プランはこの礫の取り上げ後に確認でき、長径約8m、短径約6.5m、深さ約20cmの隅丸長方形を呈し、軸方向はN21°Wを示している。

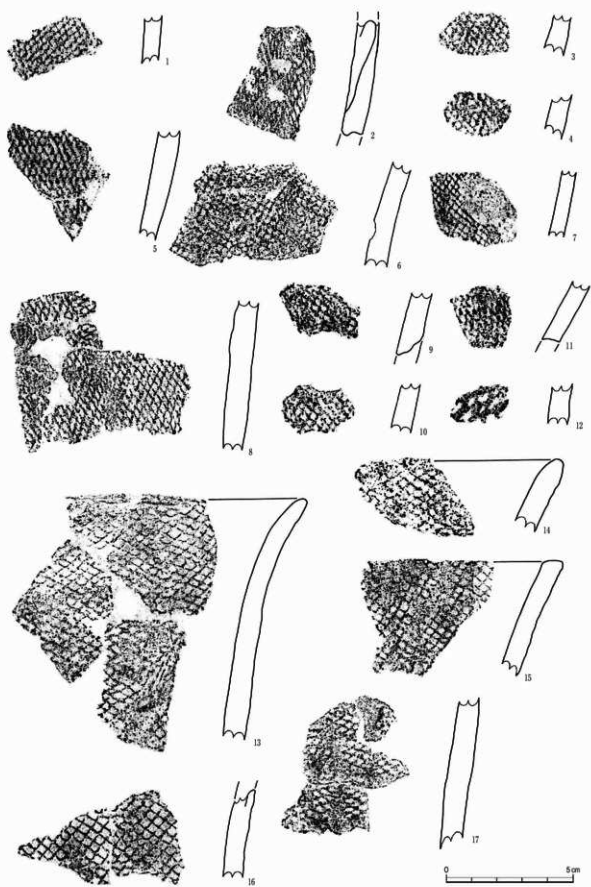
床面の中央部付近には焼土が検出されており、土器の小片も出土しているものの、ピットは確認されていない。また、壁は明確に検出できず、3隅にテラス状に張り出した掘り込みを検出したが、住居址が重複したことによるものかどうかは明確にすることができなかった。このテラスは、床から約10cmあがった所から掘られており、一部平坦面を作りながら、そのままゆるやかに遺構検出面まで立ち上がっている。なお、遺構自体はローム層を掘り込んでいるため、床面のプランは明確に確認できたことから、調査段階での掘りすぎの可能性は低い。



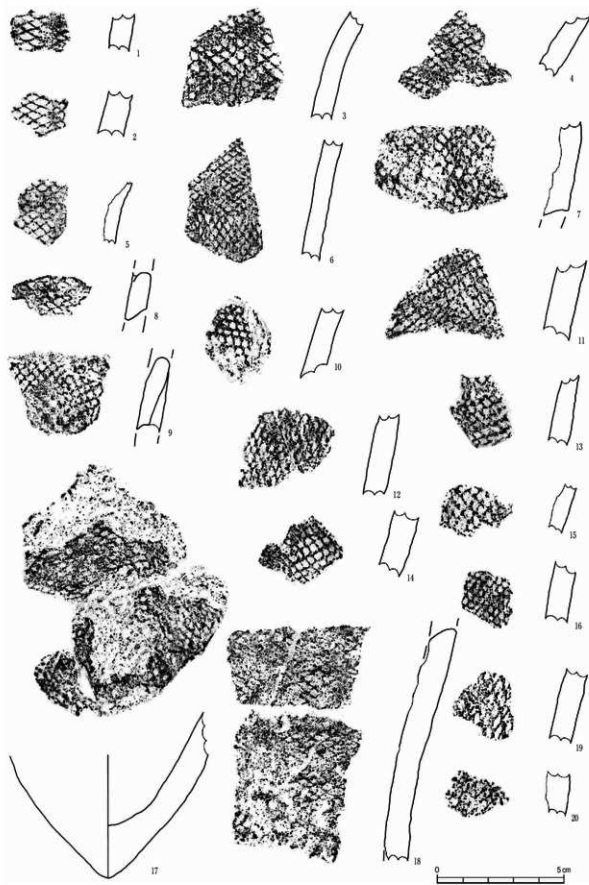
第14図 第6号住居址実測図



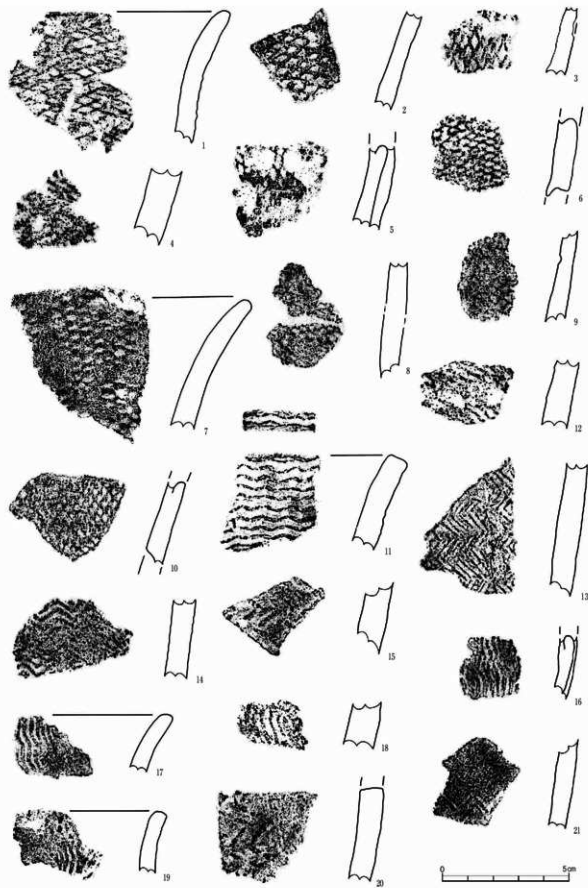
第15图 第6号住居址出土遗物 (1)



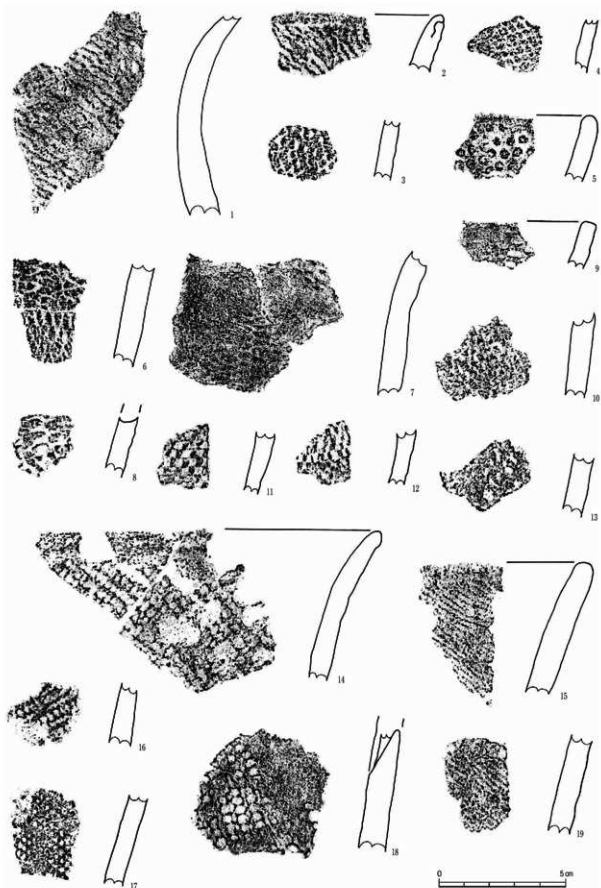
第16図 第6号住居址出土遺物 (2)



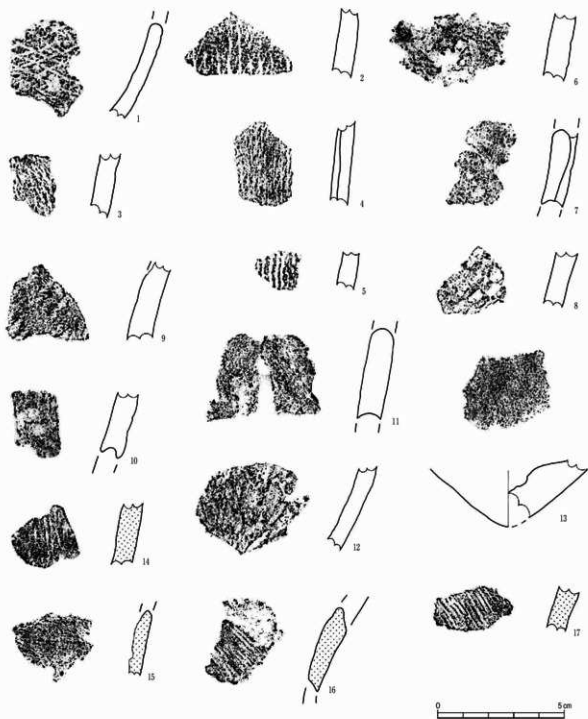
第17图 第6号住居址出土遺物 (3)



第18図 第6号住居址出土遺物 (4)

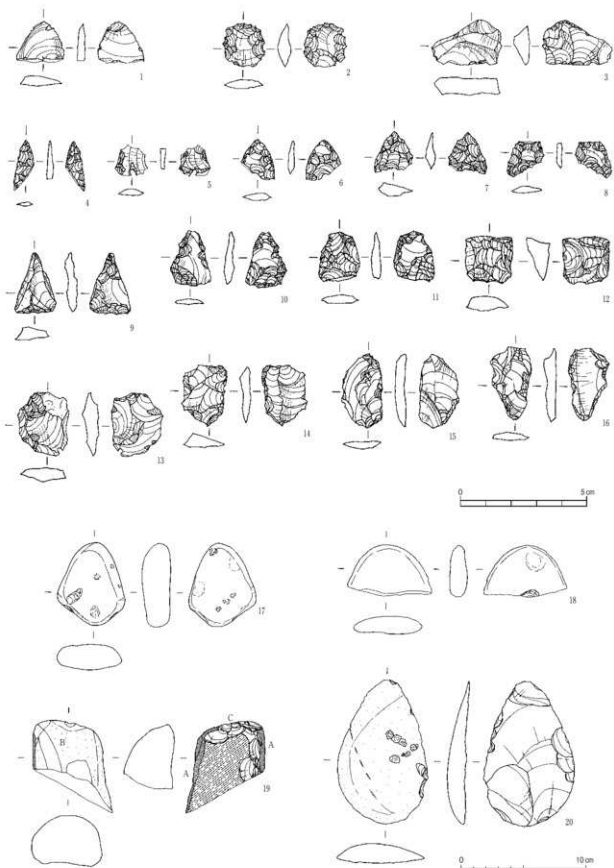


第19图 第6号住居址出土遗物 (5)



第20図 第6号住居址出土遺物 (6)

1. 住居址



第21图 第5号、6号住居址出土遺物 (1~3:5住、4~20:6住)



第22図 第6号住居址出土遺物 (7)



第23图 第6号住居址出土遺物 (8)



第24図 第6号、8号住居址出土遺物 (1・2:6住、3~5:8住)

礫は覆土の上層を中心として出土しており、遺物は一部床面からも出土している。覆土は全体的には黄色味を帯びた土が中心で、ロームの小粒も混入している。また一部に炭の混入も認められた。

なお、テラス状の掘り込みのおよんでいない部分の壁は直立気味に立ち上がっている。

遺物（第15図～第24図）

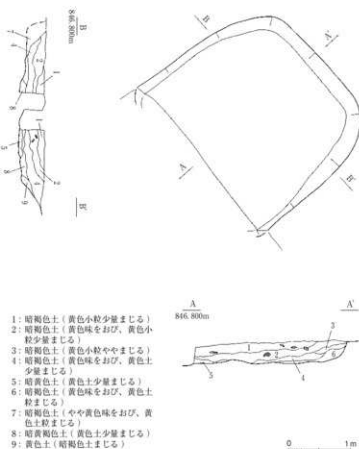
約480点出土している。土器片は押型文が中心であるが、縄文系（第19図14～19）や燃糸文系（第20図1～5）も出土している。押型文では格子目文（第15図～第18図6）が多数出土しており、その他に、網目文（第18図7～10）、山形文（第18図11～21、第19図1・2）、楕円文（第19図3～8）等が出土している。石器は石鎌の凹基無茎鎌5点（第21図4～8）、平基無茎鎌の未製品と考えられるもの3点（第21図9～11）、楔形石器と考えられるもの1点（第21図12）、剥片石器7点（第21図13～16）の他、磨石類9点（第21図18・19、第22図1・3・4、第23図1・2・4・5）等が出土している。

第7号住居址（第25図）

この住居址は、平安時代の第2号住居址に切られて検出された。当初は第2号住居址のプランと考えて調査を行っていたが、発掘段階で張り出し状に広がる事が判明し、重複を確認した。なお、床面は第2号住居址とほぼ同じレベルである。

この住居址は、一辺約3mの方形で、軸方向はN44°Wであり、壁は直立気味に立ち上がっている。また、斜面の低い場所からの出土ということもあり、遺構検出面からの深さは約40cmと、今回の調査でも遺存状況は良好のほうであった。覆土は黄色味を帯びた土を中心にして堆積しているが、炭や、焼土等の混入は確認されなかった。また、覆土の堆積状況もレンズ状に堆積しており、自然堆積と考えられる。なお、床には硬化面は検出されず、地山と考えられる黄色土が確認できたところを床と判断した。しかし全面を検出した段階で、若干床面があれた土で構成されていることが判明し再度掘り込んだが、不整形な落ち込みとなった。この落ち込み内の土はすべてあれた黄色土であり、性格は明確にできなかった。また、このような状況であるため、炉址も確認できなかった。このため、一応縄文時代早期の竪穴としているものの疑問を挟む余地もある。

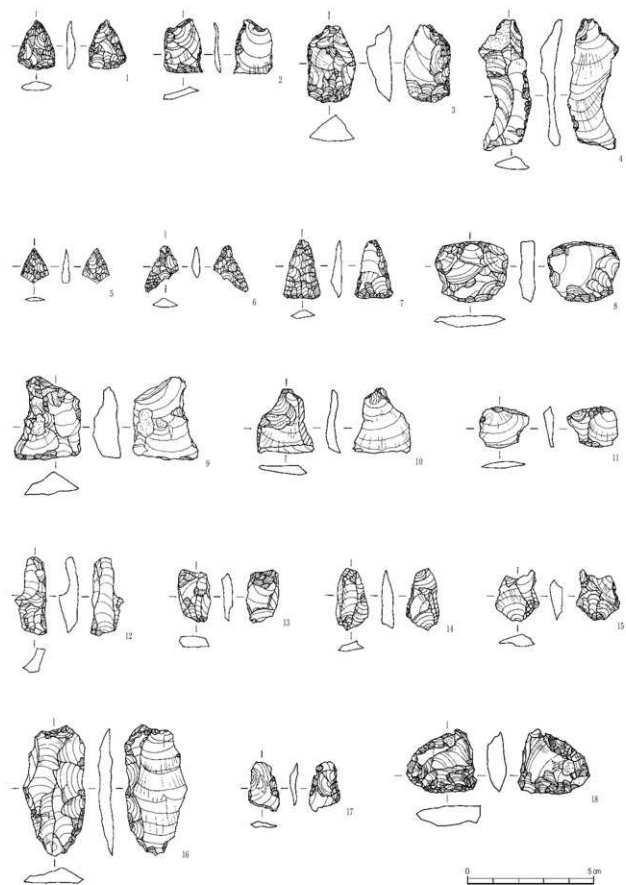
覆土中には礫が混入していたものの、遺物の出土はほとんどなかった。



- 1: 暗褐色土（黄色土少量まじる）
- 2: 暗褐色土（黄色味をおび、黄色土少量まじる）
- 3: 暗褐色土（黄色土少やまじる）
- 4: 暗褐色土（黄色味をおび、黄色土少量まじる）
- 5: 暗褐色土（黄色土少量まじる）
- 6: 暗褐色土（黄色味をおび、黄色土少量まじる）
- 7: 暗褐色土（やや黄色味をおび、黄色土少量まじる）
- 8: 暗褐色土（黄色土少量まじる）
- 9: 黄色土（暗褐色土まじる）

第25図 第7号住居址実測図

第1章 小田原遺跡の遺構と遺物



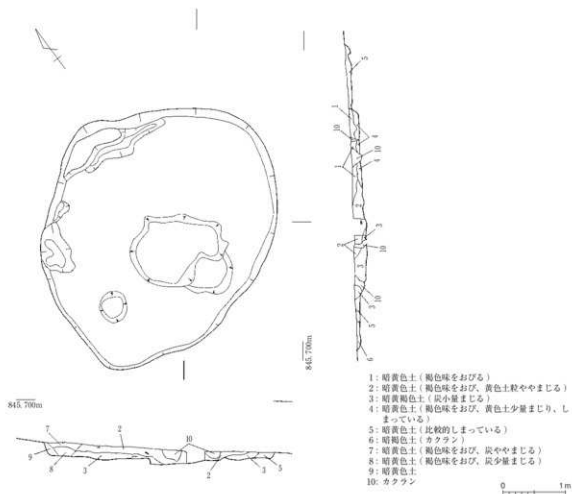
第26図 第7号、8号、10号、13号住居址出土遺物 (1:7住, 2~4:8住, 5~17:10住, 18:13住)

第10号住居址(第27図)

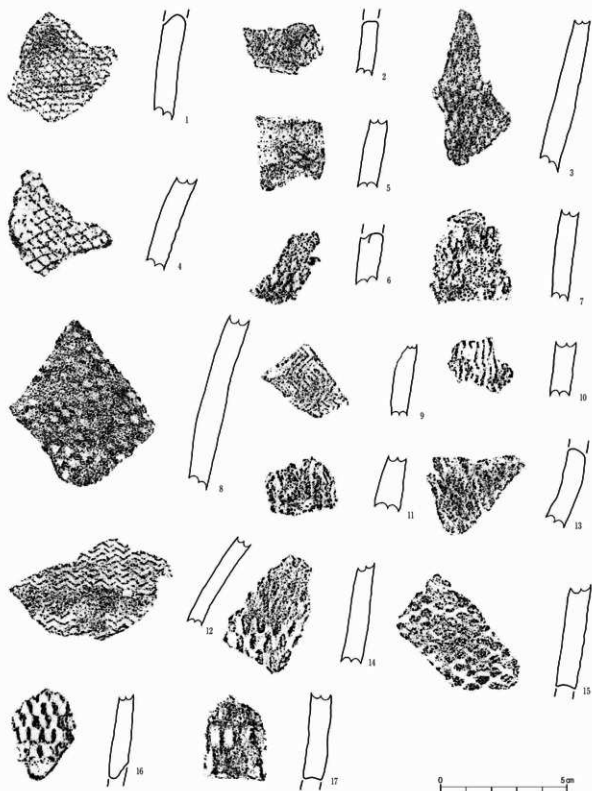
この住居址は調査区の南東部より出土している。この地区は、畑の耕作土が薄く、遺構の床にまで耕作が一部及んでいる状態であった。このため、削平が進んでいたことから、住居址の遺存状況も悪く、最深部で約20 cmを測るにすぎない。プランは長径約4.5 m、短径約3.5 mの楕円形であり、長軸がN77°Eと大きく東に傾いている。床は凹凸が激しく、硬化面は確認されていない。また、住居址中央部付近は耕作により破壊されていた。覆土は全体的に暗黄色系の土で覆われ、地山との識別はこの明暗で行っている。また、壁は一度わずかに立ち上がってから再び検出面から5 cmほどの深さで平坦面が検出され、その後ゆるやかに立ち上がっていた。これにより、調査段階でも重複あるいは建て替えの可能性も考えたが、明確にすることができなかった。しかし、テラス状になる地点の覆土は他の覆土と比較してややしまっている印象を受けた。このテラス部分の測量する際に明確なプランが確認できなかったため、測量していない。なお、床に焼土は確認されていない。

遺物(第26図・第28図～第30図)

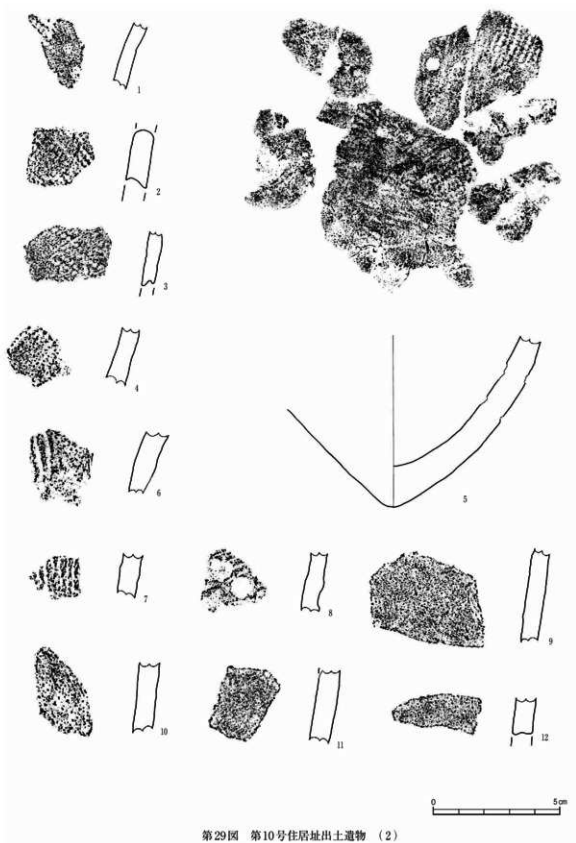
約160点出土している。格子目文(第28図1～5)、網目文(第28図6～8)、山形文(第28図9～12)、楕円文(第28図13～15)、縄文(第29図1～5)等が出土している。石器は石鏃1点(第26図5)、楔形石器と考えられるもの2点(第26図13・14)の他、剥片石器が4点(第26図12・15～17)出土している。



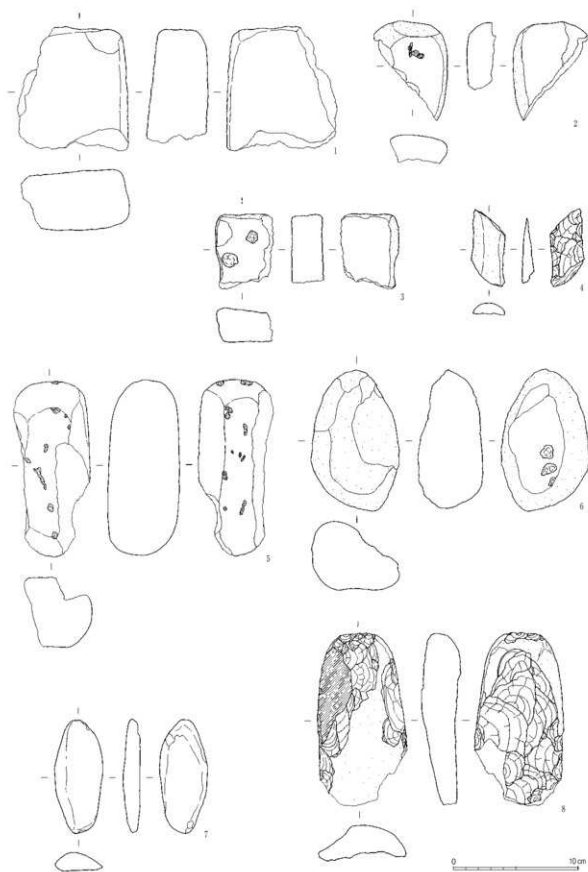
第27図 第10号住居址実測図



第28図 第10号住居址出土遺物 (1)



第29图 第10号住居址出土遺物 (2)



第30図 第10号住居址出土遺物 (3)

第11号住居址（第31図）

調査区の東境界付近で出土している。住居址全体の約半分を調査することができたと推定される。また、調査できた範囲の約半分が農道部分にかかっていたため、まず西半部の調査を行い、農閑期を待って残りの東半部の調査を行っている。

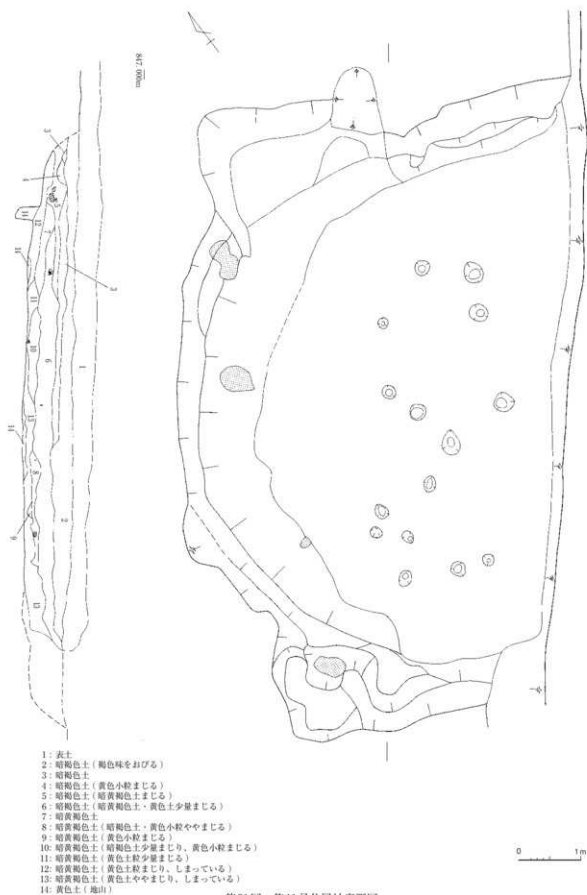
当初、この地点を黒色系の土が傾斜地に自然堆積していると考えていたが、遺物が集中して出土していたため、サブトレンチを入れて確認したところ、壁と考えられる部分が検出されたので遺構と判断した。この住居址は、ローム層を掘り込んで作られていたものの、全体的に壁を明確に検出することができなかった。そのため、一部掘り込んで破壊してしまっている。この住居址のプランは、一辺約10mの円形を呈し、深さは遺構検出面から約80cmと遺存状況は非常に良好であった。壁の断面形は傾斜しながら立ち上がる、いわゆる碗形を呈すると考えられ、多い所では3回傾斜角の変化点があり、少ないところでも2カ所の変化点をとらえることができた。また、一部にテラス状の平坦部が壁の中間部分に検出されているが、調査時に覆土に変化が見られなかったことから、このテラス状の平坦部についてはこの遺構に付随するものと考えている。

さらに、焼成による赤化した部分が壁沿いの4箇所から出土しているものの、そのうちの2箇所は壁に掘られているテラス状の地点からの検出である。また、北壁の部分を引き出し状に検出しているが、この遺構の関連施設なのか、他の遺構の重複なのか把握することができなかった。床は固くしまったロームを掘り込んでいるため若干しまっているもの硬化面という状況ではなかった。また、全体的に若干凹凸が見られ、深さ2cm～55cmの小規模なピットが出土している。支柱穴は、P1（深さ30cm）P2（55cm）がその可能性はあるものの、特定は困難である。遺物は含繊維条痕文系が上層に出土しているが、当初住居址との認識がなかったために、その多くを層位の確認をせずに取り上げてしまった。しかし、農道部分を拡張して行った調査地点では、暗褐色系の覆土を上層、暗黄褐色系の覆土を中層、黄色土を中心とした最下層の覆土を下層と、大きく3層に分層して遺物を取り上げている。なお、調査中に大きく分層したため、それぞれの層の境界については明確に分層しているとは言い難い。また、中層にあたる暗黄褐色系の土はよくしまっていた。

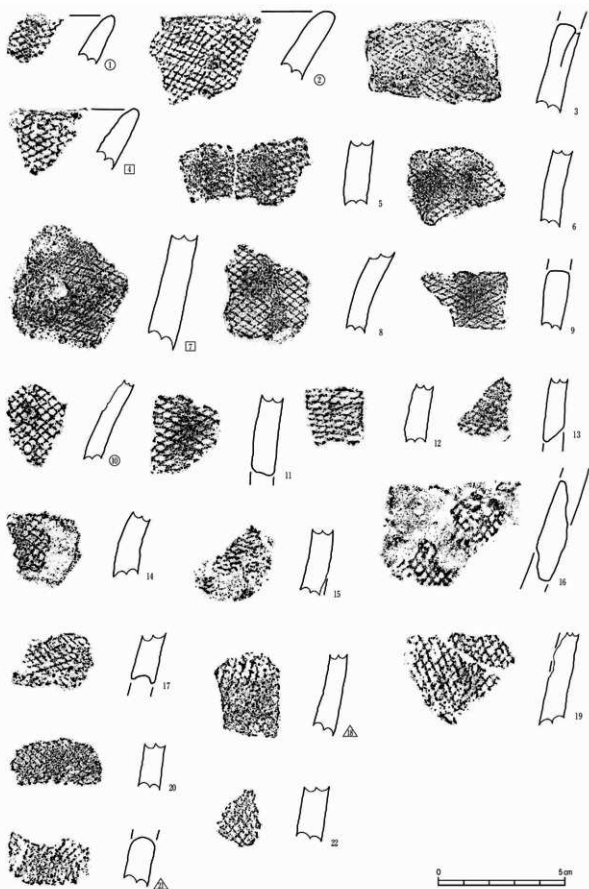
遺物（第32図～第57図）

約1,880点出土している。土器は表裏に縄文を施文する破片（第40図～第41図）のものから、含繊維（第45図10～第48図）のものまで多岐に渡っている。押型文は格子目文（第32図～第35図1～9）、網目文（第35図10～22、第36図1～10）が中心となっているが、山形文（第36図11～第38図1～15・18・19）や、楕円文（第39図1～13）等も出土している。なお、第36図11～18・21は黒鉛入りの土器片である。多くの遺物が層位的には上層から出土し、なかでも含繊維条痕文系が多くを占めていた。また、中層からは格子目文を中心として、山形文等の押型文が出土している。なお、下層からは遺物の出土は極わずかであり、押型文が出土している。

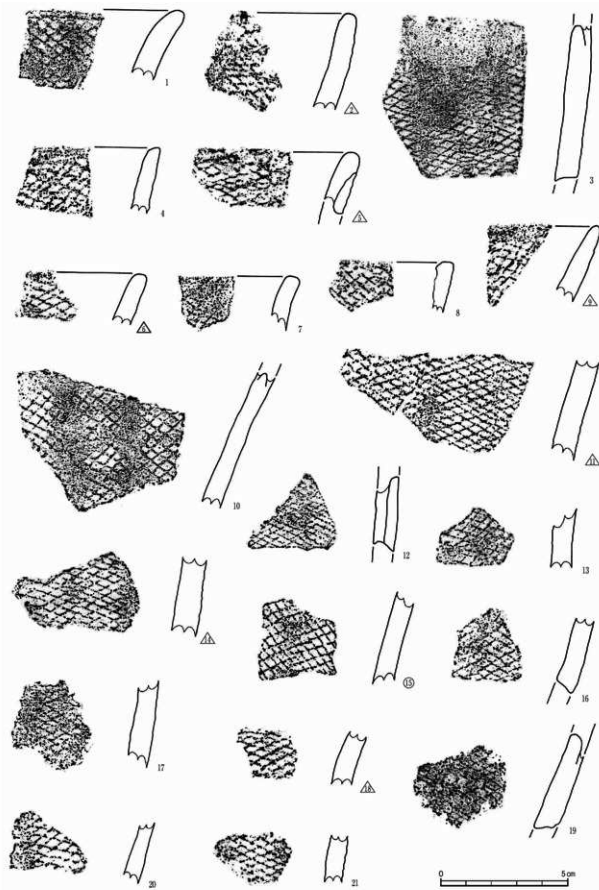
石器は石鏃が32点（第49図）石鏃の未製品と考えられるものが3点（第50図1～3）出土している。これらの中、凹基無茎鏃のものが22点あり（第49図1～17）、正三角形を呈するもの（第49図9～17）と、細長い形態（第49図1～8）に分けることができる。また、平基無茎鏃は7点（第49図18～22）と考えられるが、なかには未成品や、石鏃以外の用途で製作された石器の可能性のあるもの（第49図19）も含まれている。その他、石錐（第50図4）や剥器と考えられる石器（第50図7～10）、楔形石器（第50図18・20・21）、剥片石器（第51図他）等が出土している。大型の石器は、断面三角形のいわゆる穀摺石11点（第52図1～6・第53図1・4・6・7）をはじめとした磨石を中心に出土している。また、石器として使用するために持ち込まれたと考えられる硬砂岩系を中心とした石材も出土している（第57図4～11等）。



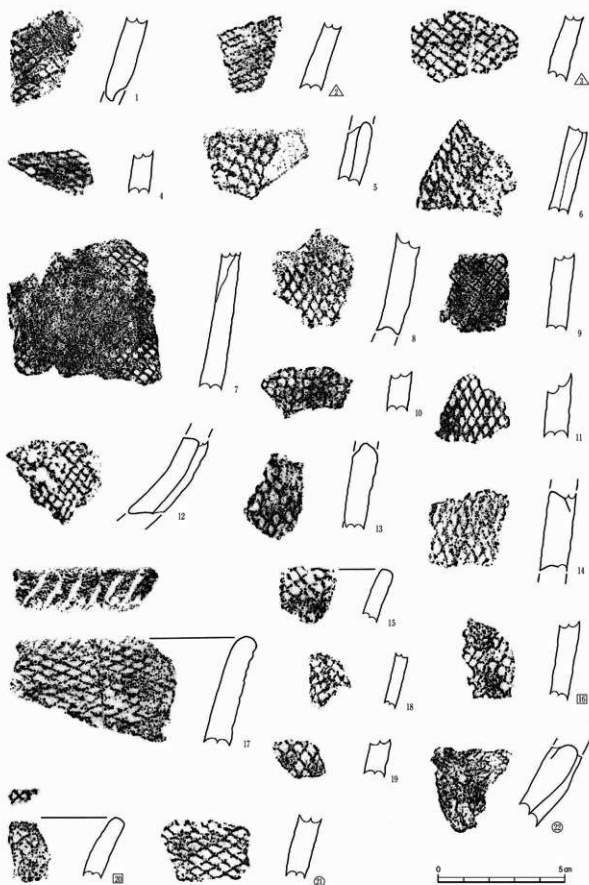
第31図 第11号住居址実測図



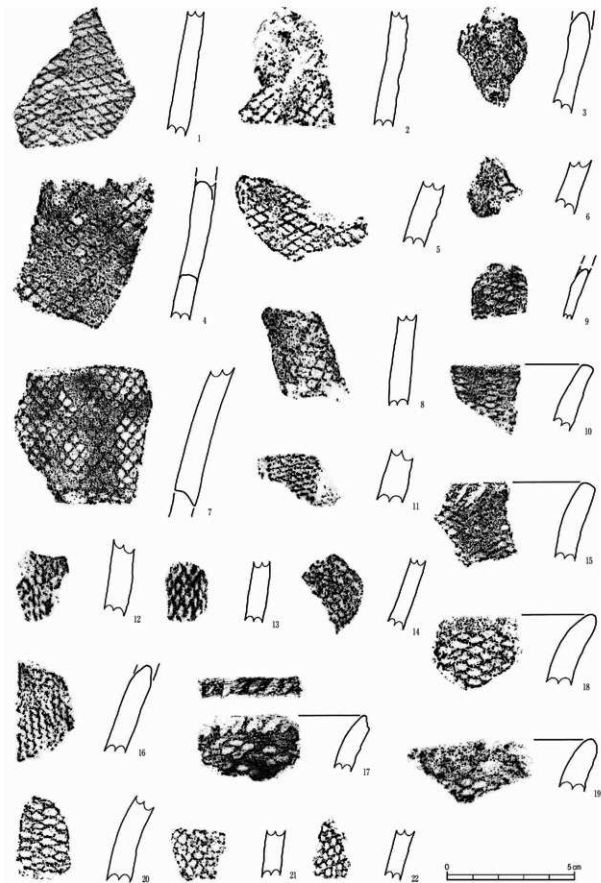
第32图 第11号住居址出土遗物 (1) (○付上層、△付中層、□付下層出土)



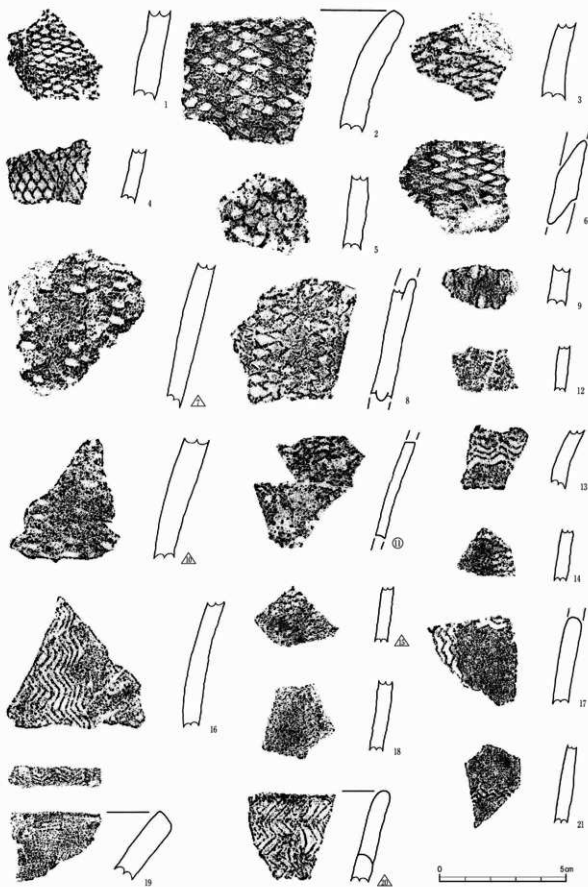
第33図 第11号住居址出土遺物 (2) (○付上層、△付中層、□付下層出土)



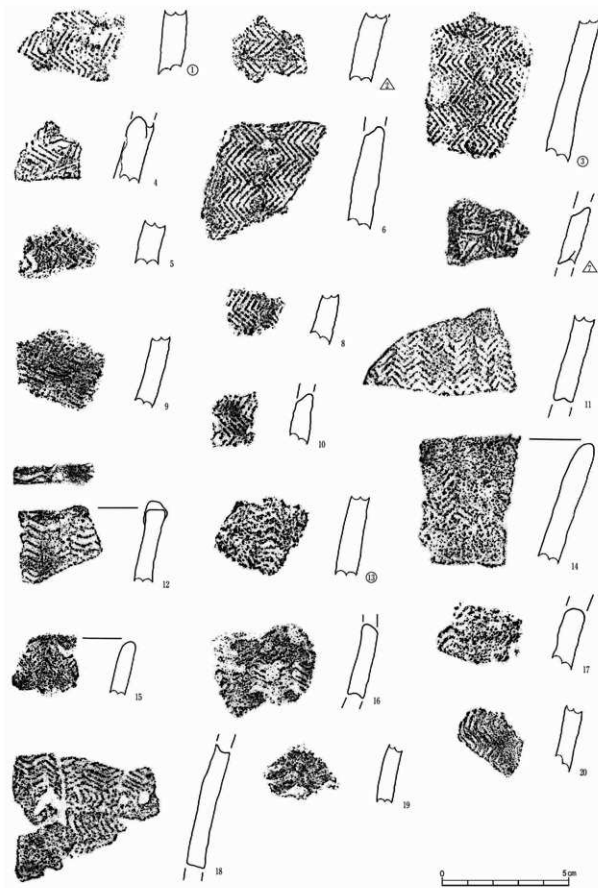
第34图 第11号住居址出土遗物 (3) (○付上层, △付中层, □付下层出土)



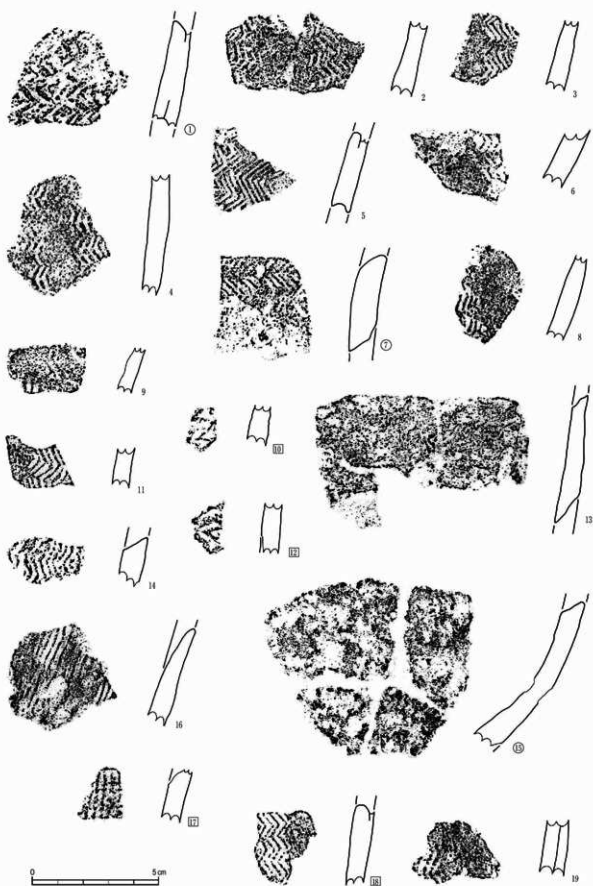
第35図 第11号住居址出土遺物 (4) (○付上層、△付中層、□付下層出土)



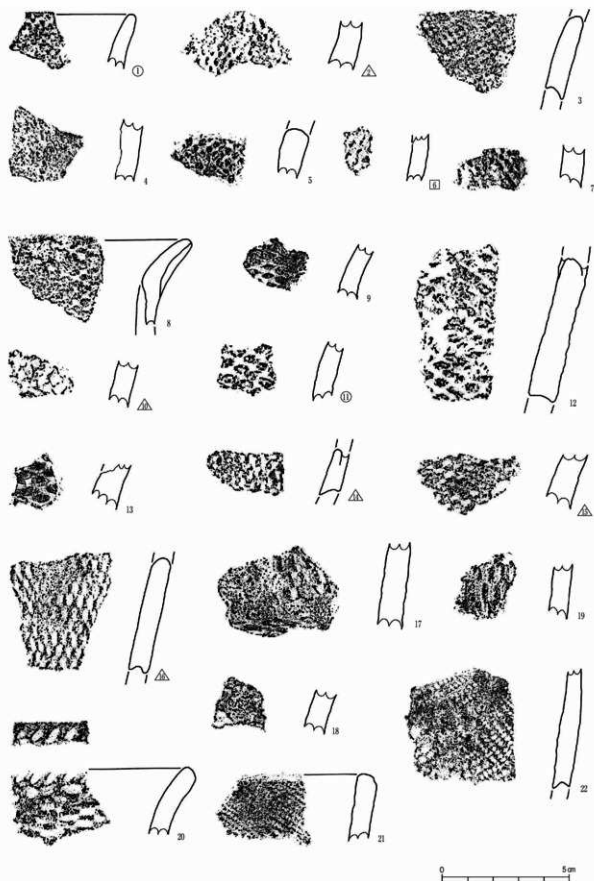
第36图 第11号住居址出土遗物 (5) (○付上層, △付中層, □付下層出土)



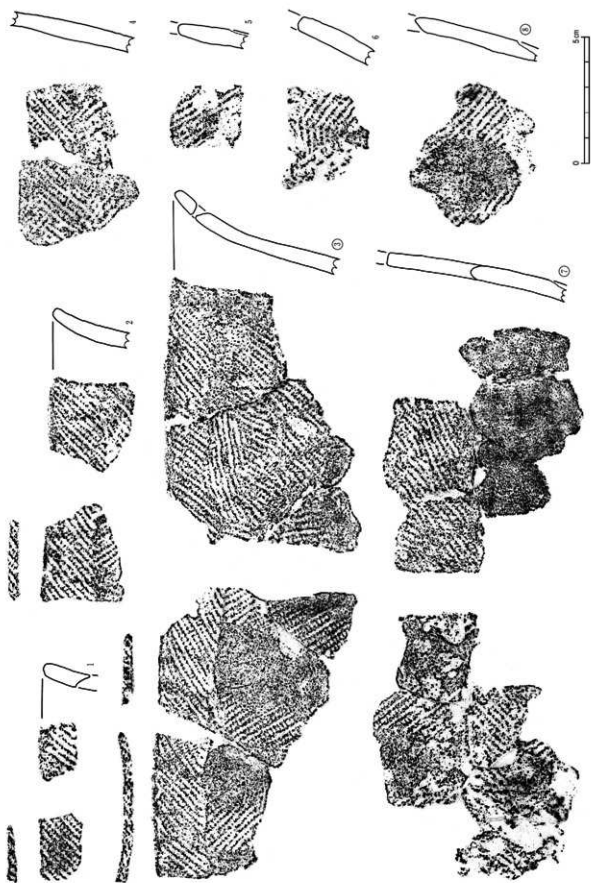
第37図 第11号住居址出土遺物 (6) (○付上層、△付中層、□付下層出土)



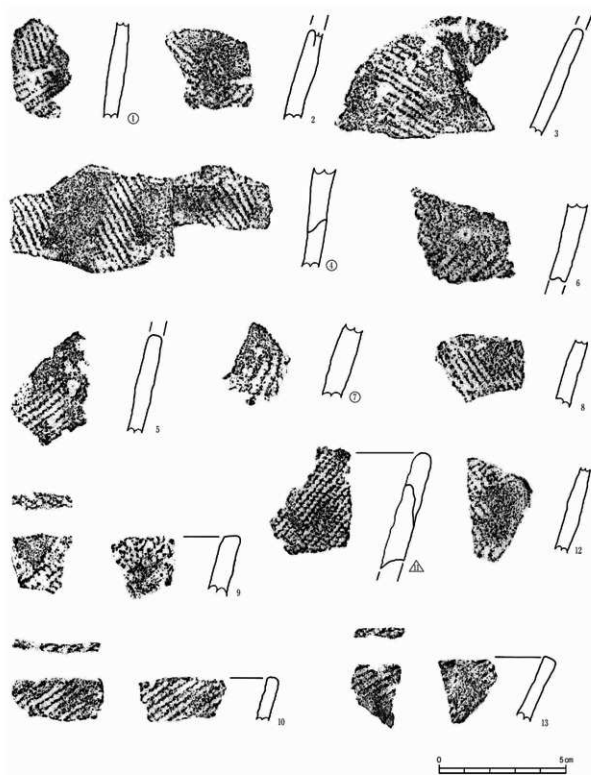
第38图 第11号住居址出土遗物 (7) (○付上層, △付中層, □付下層出土)



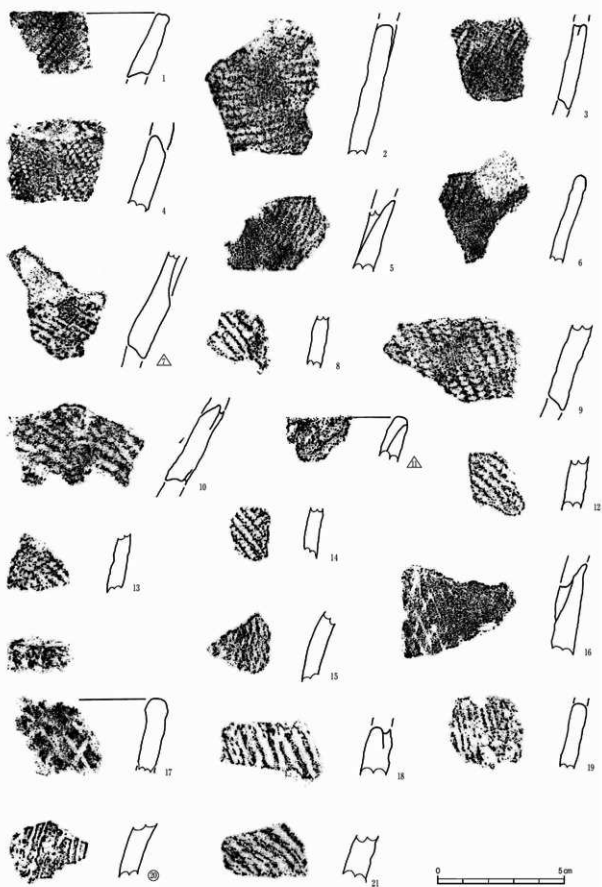
第39図 第11号住居址出土遺物 (8) (○付上層, △付中層, □付下層出土)



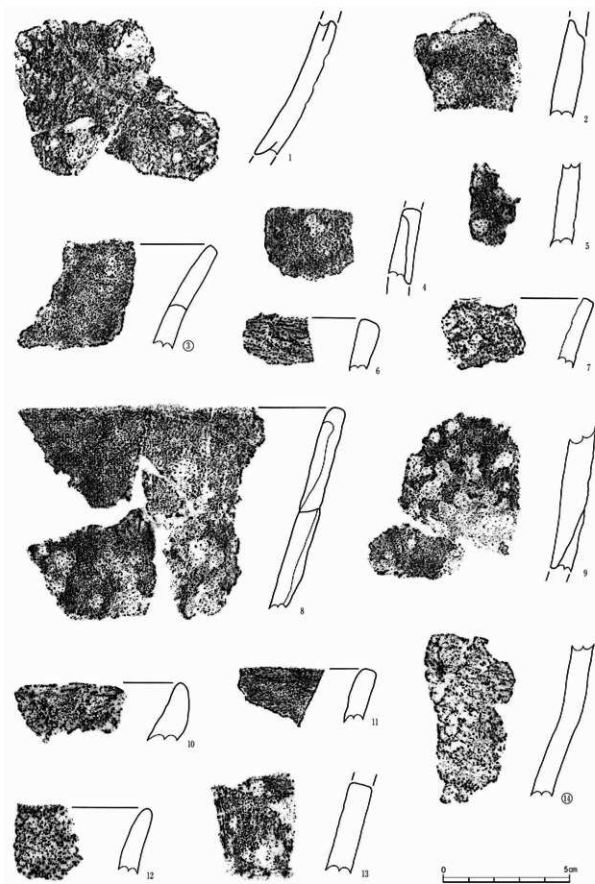
第40图 第11号住居址出土遺物 (9) (○付上層、△付中層、□付下層出土)



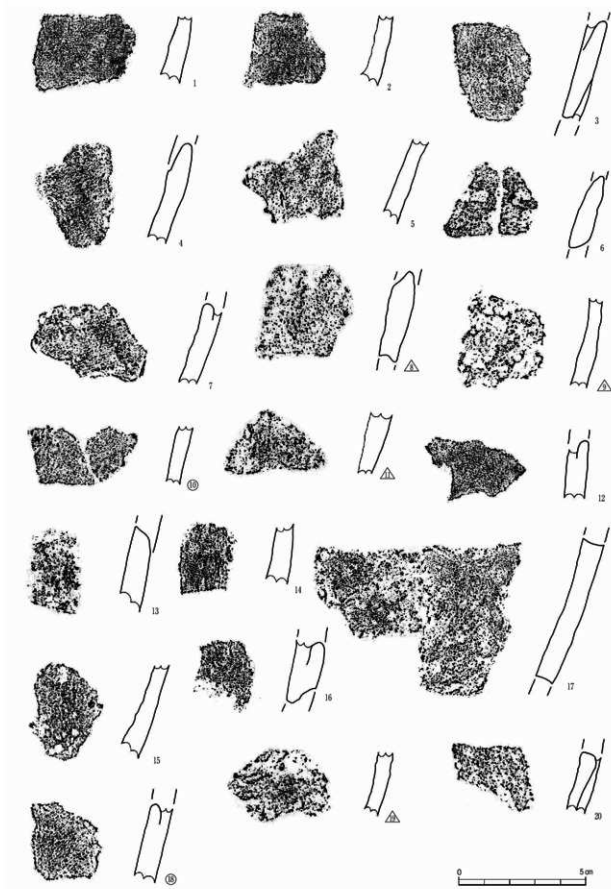
第41図 第11号住居址出土遺物 (10) (○付上層、△付中層、□付下層出土)



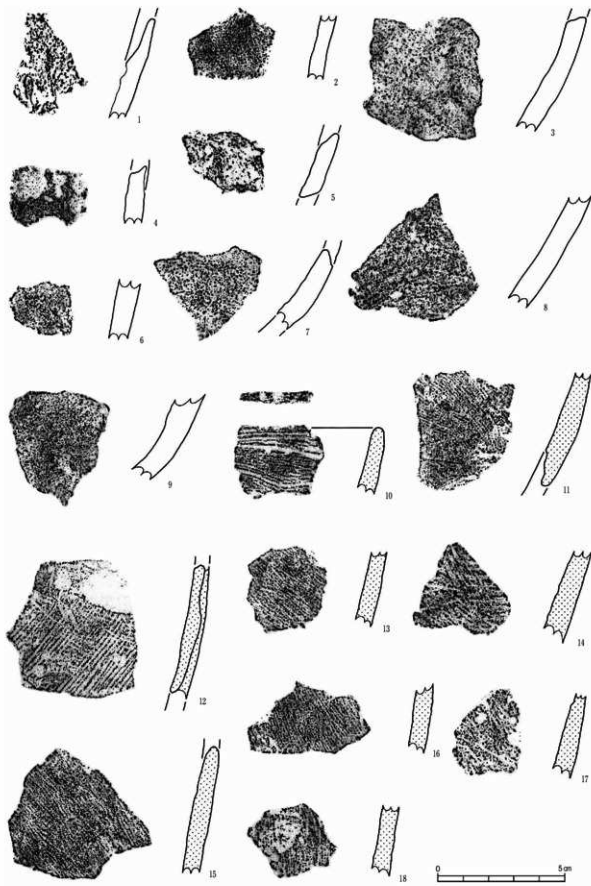
第42图 第11号住居址出土遗物 (II) (○付上層, △付中層, □付下層出土)



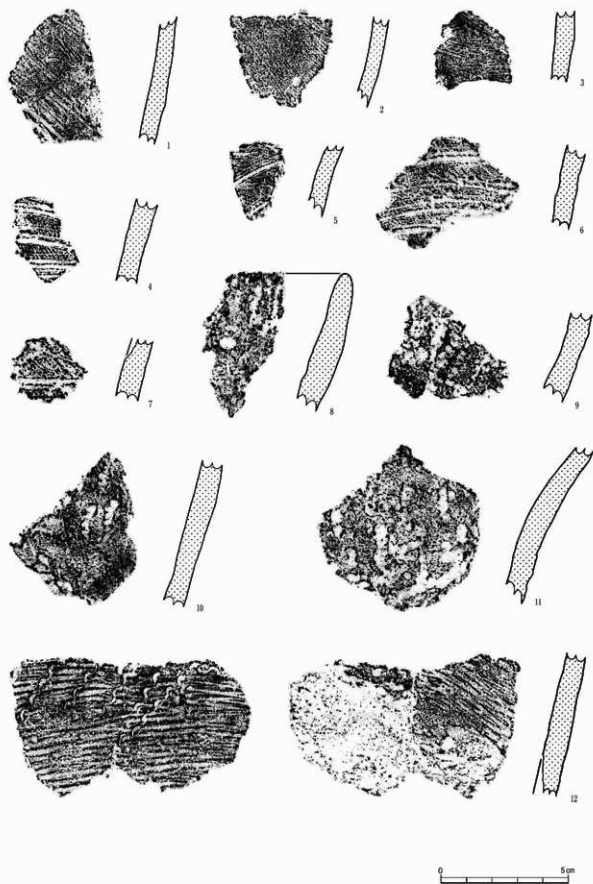
第43図 第11号住居址出土遺物 (12) (○付上層, △付中層, □付下層出土)



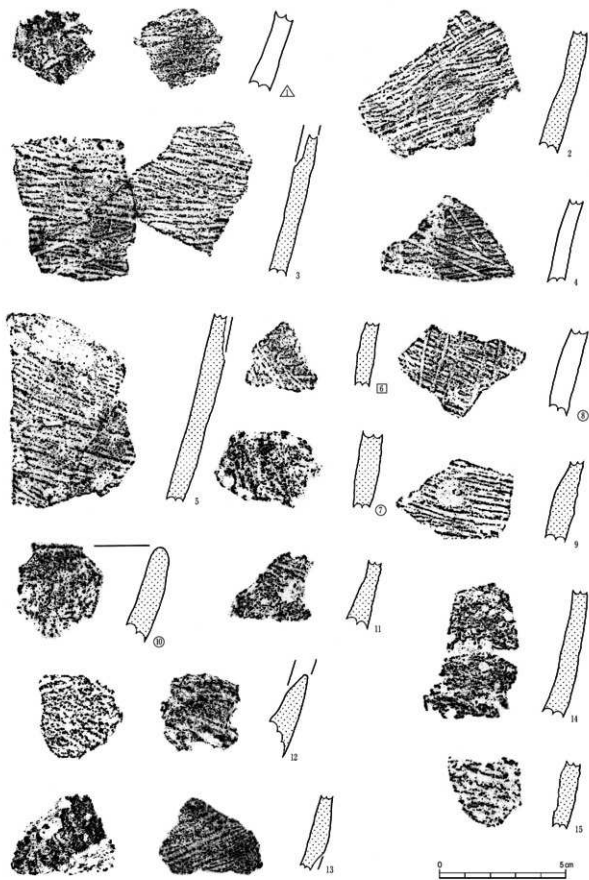
第44图 第11号住居址出土遗物 (13) (○付上層、△付中層、□付下層出土)



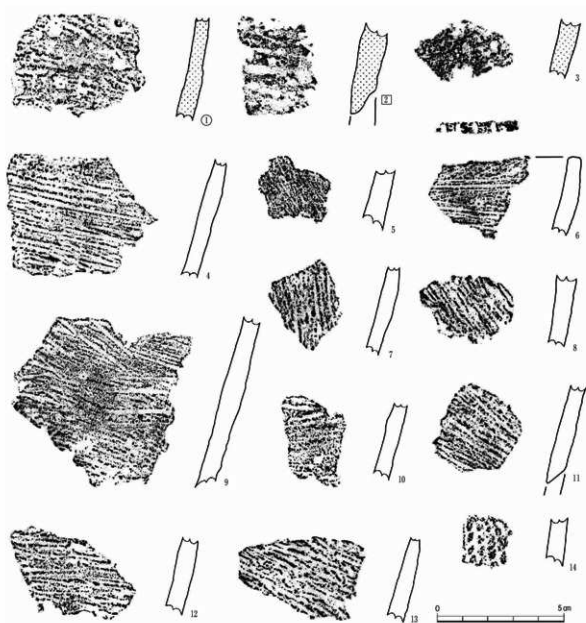
第45図 第11号住居址出土遺物 (14) (○付上層、△付中層、□付下層出土)



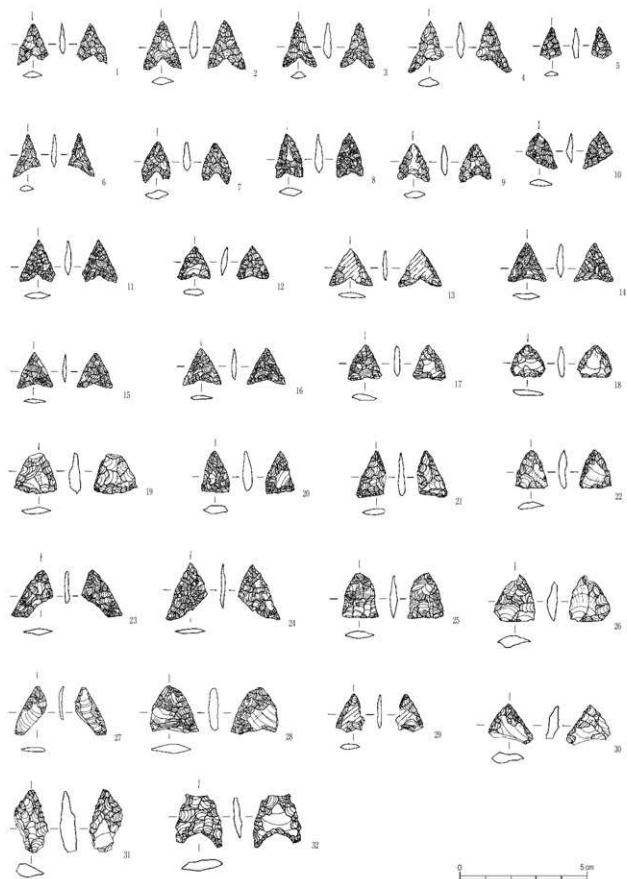
第46图 第11号住居址出土遗物 (15) (○付上層、△付中層、□付下層出土)



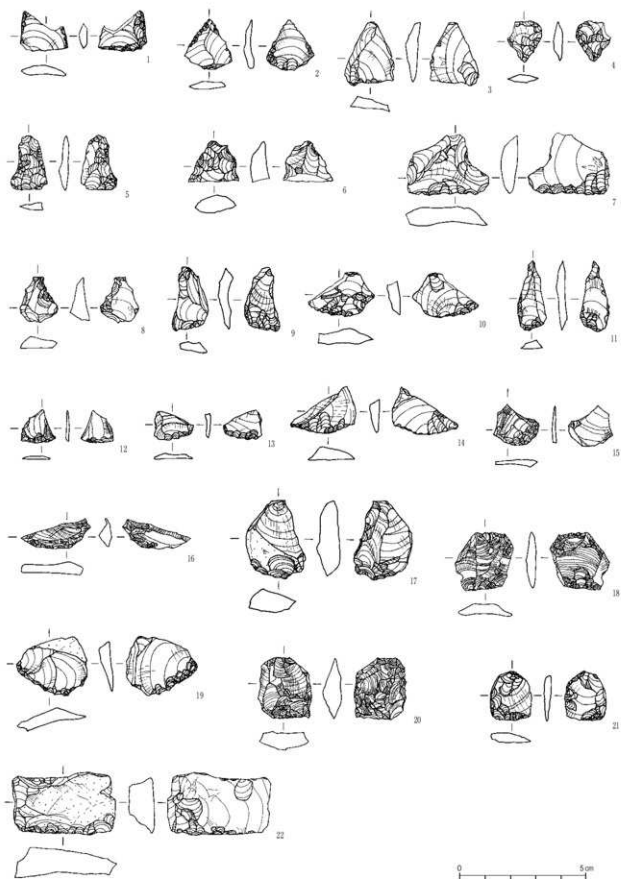
第47図 第11号住居址出土遺物 (16) (○付上層、△付中層、□付下層出土)



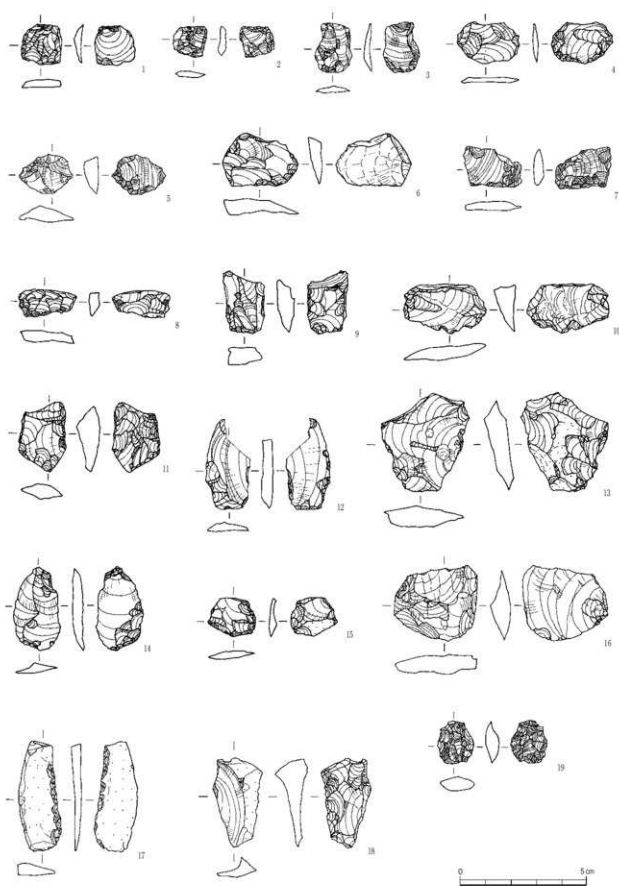
第48图 第11号住居址出土遗物 (17) (○付上層、△付中層、□付下層出土)



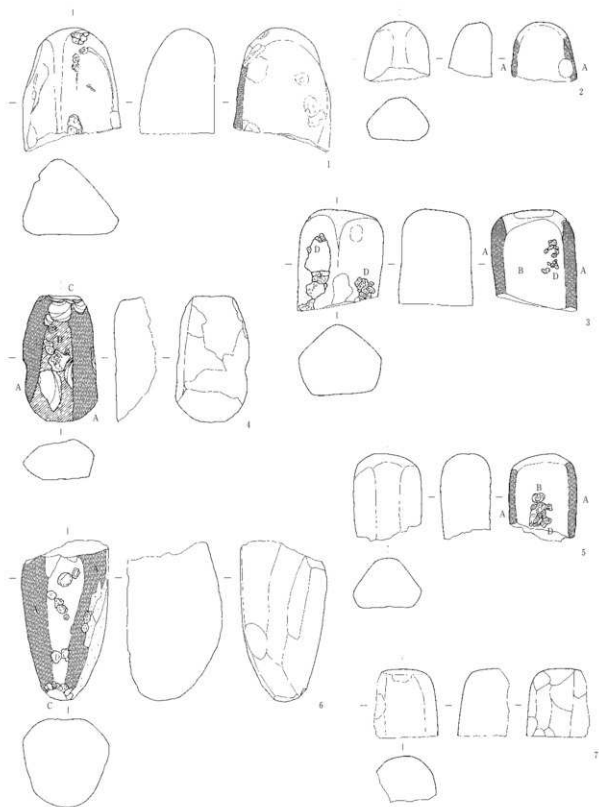
第49図 第11号住居址出土遺物 (18)



第50图 第11号住居址出土遺物 (19)



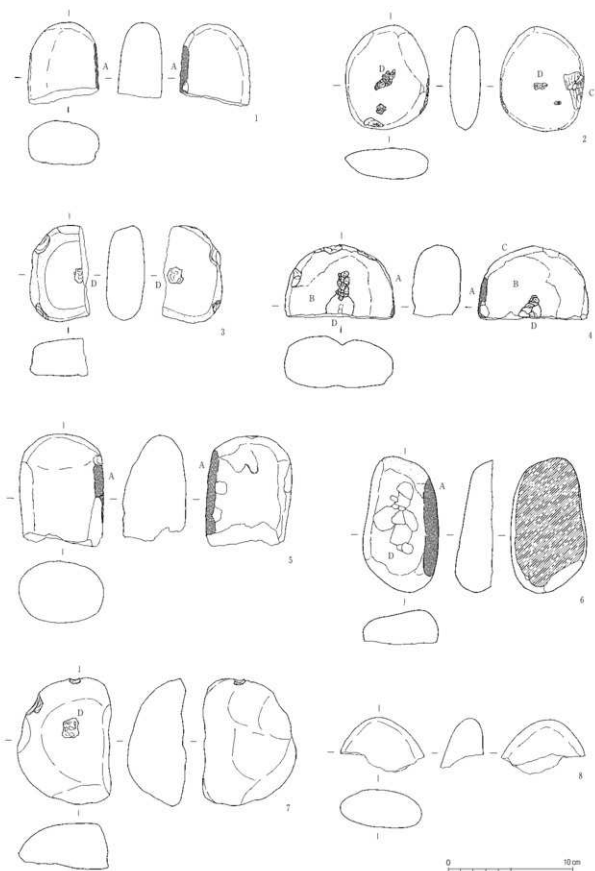
第51図 第11号住居址出土遺物 (20)



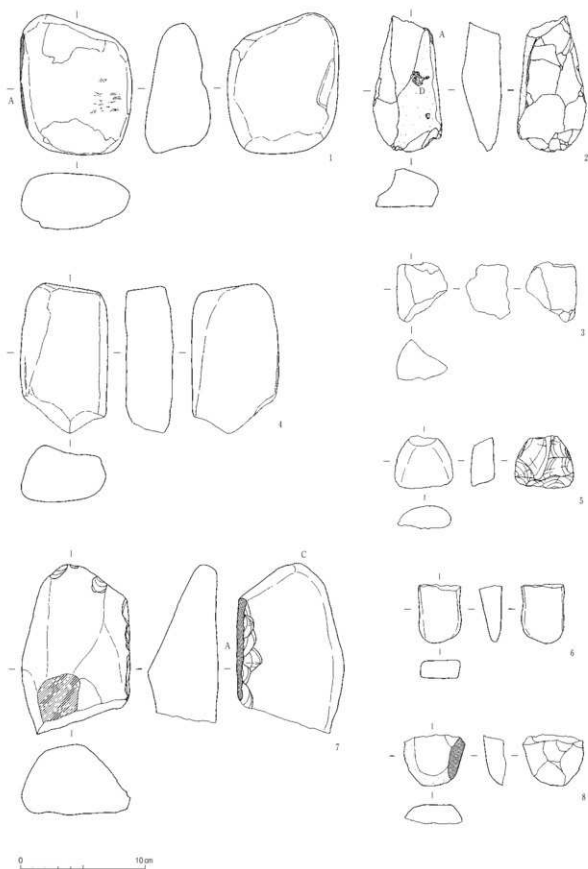
第52图 第11号住居址出土遗物 (21)



第53図 第11号住居址出土遺物 (22)

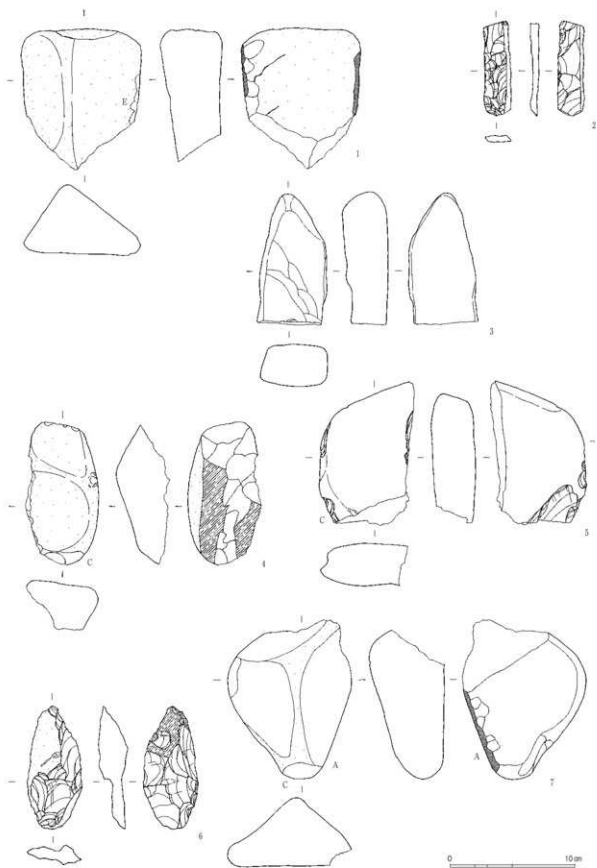


第54图 第11号住居址出土遗物 (23)

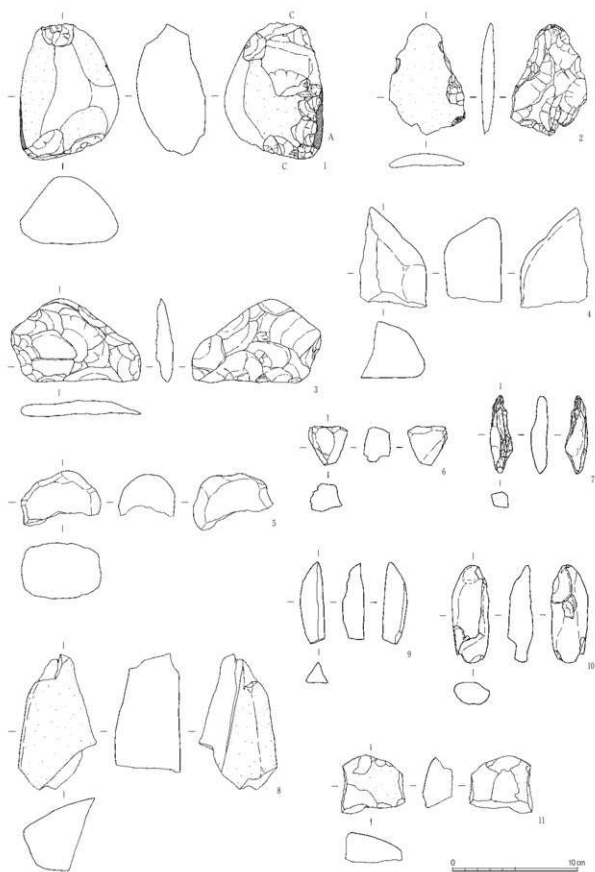


第55図 第11号住居址出土遺物 (24)

1. 住居址



第56图 第11号住居址出土遗物 (25)



第57図 第11号住居址出土遺物 (26)

第12号住居址(第58図)

この住居址は第11号住居址の南部から出土している。この住居址の調査によって規模や壁の立ち上がりの傾向を把握できたため、第11号住居址の壁を把握することができた。この住居址も第11号住居址と同様に農道部分を後で拡張して調査を行っている。直径約7.5mの隅丸方形のプランで、深さは約70cmを測る。壁は断面で碗形に立ち上がり、2～3カ所の傾斜角の変化点が確認される。また、床より高い位置でテラス状に壁を掘り込んで、平坦部を作り出している部分もある。

この住居址も第11号住居址と同様に農道部分の拡張区において大きく3層に分けて遺物を取り上げている。覆土の傾向としてはそれぞれ、上層は暗褐色系の土、中層は褐色味の強い暗黄褐色系の土、下層は暗黄褐色系のしまった土であった。なお、遺物の取り上げ時には、上層と中層の分層が明確にできなかったため、中層として取り上げた遺物の数量は少数である。

床面はロームまで掘り込まれていたが、硬化面は確認できない。また、若干凹凸が検出されており、深さ約7cm～23cmのピットが不規則に出土している。なお、竈址は出土していない。

遺物、礫は上層の暗褐色土を中心に出土しており、床面近くではほとんど出土していない。

この住居址は集石が4基重複して出土している(第40号集石炉・第67号集石炉・第68号集石炉・第72号集石炉)。

遺物(第59図～第82図)

この住居址からは、土器片が多数出土しており、上層(○付図番号)からは縄文、条痕文等をはじめ、格子目文、山形文といった押型文も出土している。下層(□付図番号)についても格子目文を中心としているものの、山形文、楕円文等の押型文や縄文が出土し、多様な様相を示している。

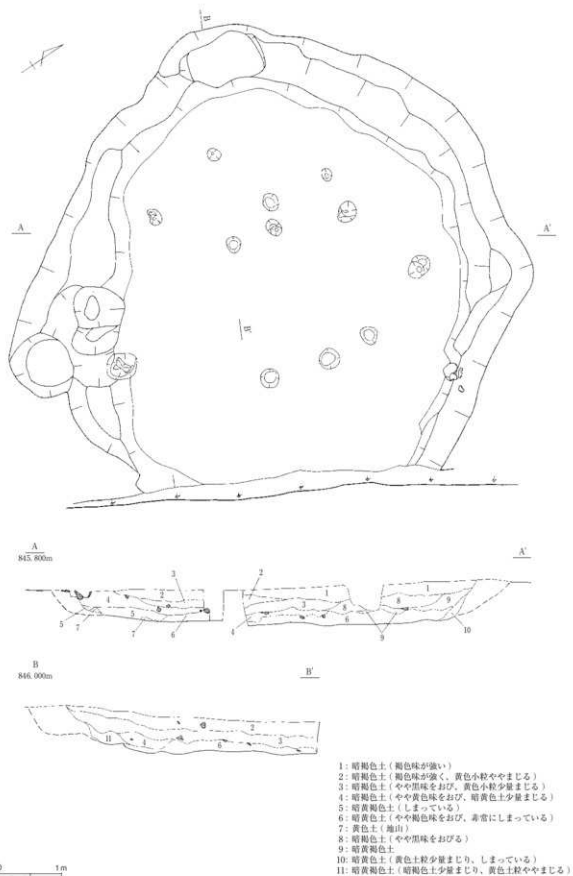
石器は石鏃が20点確認され、これらの内、凹基無茎鏃のものが10点(第75図1～3・5・6・13～17)、平基無茎鏃は2点(第75図8・9)出土している。また、凹基鏃が2点(第75図10・11)、凹基有茎鏃が1点(第75図19)出土している。その他、掻器的な役割をもった石器(第75図20～26)や、楔型石器(第76図7～14)と考えられる石器も出土している。大型の石器はいわゆる穀摺石(第77図6・9、第78図1・2・4・5・7・8、第79図3～7)をはじめとする磨石類(第77図6～第80図5、第81図1)と、礫器(第81図4～第82図)が出土している。

第13号住居址(第83図)

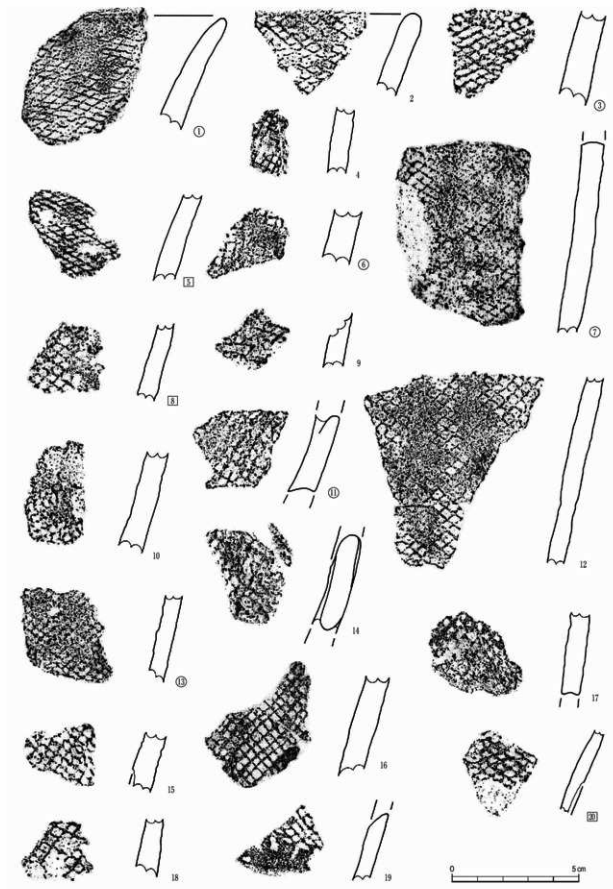
この住居址は、第11号住居址の調査時に住居址南部の調査区との境界付近の壁が確認されないことから発見された遺構である。調査区の境界地点であったため、調査面積も限られたものとなってしまう。

壁高は約80cmで、その上層に包含層が存在していることが土層断面で確認されている。壁は断面碗型に立ち上がり途中で3～4ヶ所の傾斜角の変化点がみられる。覆土は全体的に暗褐色系の土で占められ、中層よりやや下部に黒色味を帯びた層が確認できる。また、壁と床との境界部には小規模なピットが集中して検出されているが周溝状に壁際全面には存在していない。ピット自身もさほど深くなく、2～11cm程度であった。床は比較的平坦であるが調査範囲内には柱穴と考えられるようなピットは検出されなかった。

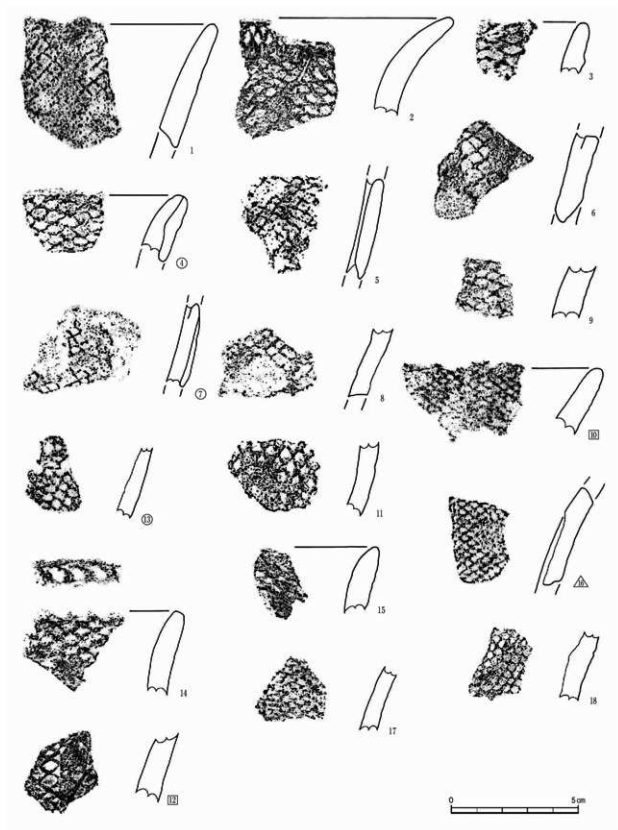
また、東部隅には偏平な安山岩が立てられ、その周辺から多量の焼土が出土している。この部分は焼土を残した状態では小さな段差が数段検出されたが、焼土を取り除いた段階では方形に近いプランの落ち込みが、平石を立てるために掘り込んだと考えられるピットを伴って検出されている。



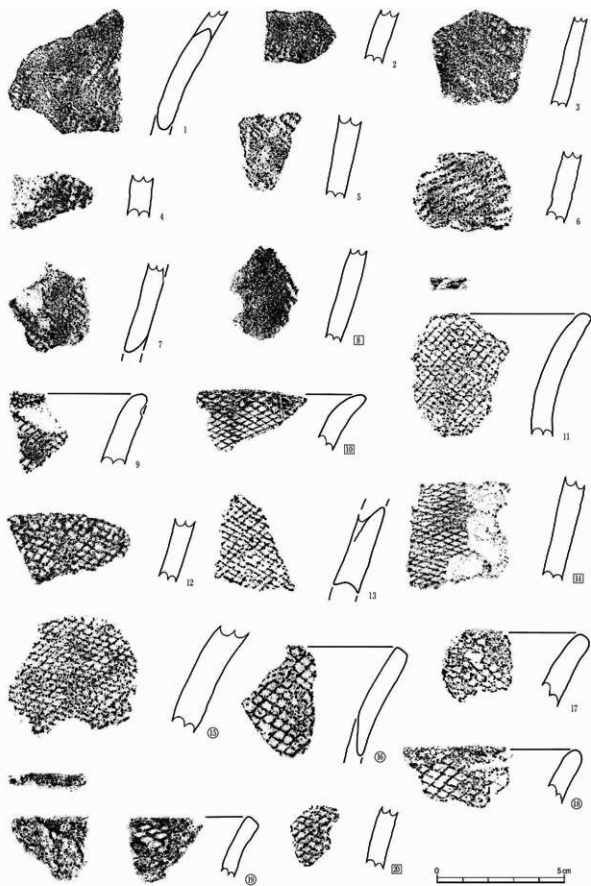
第58図 第12号住居実測図



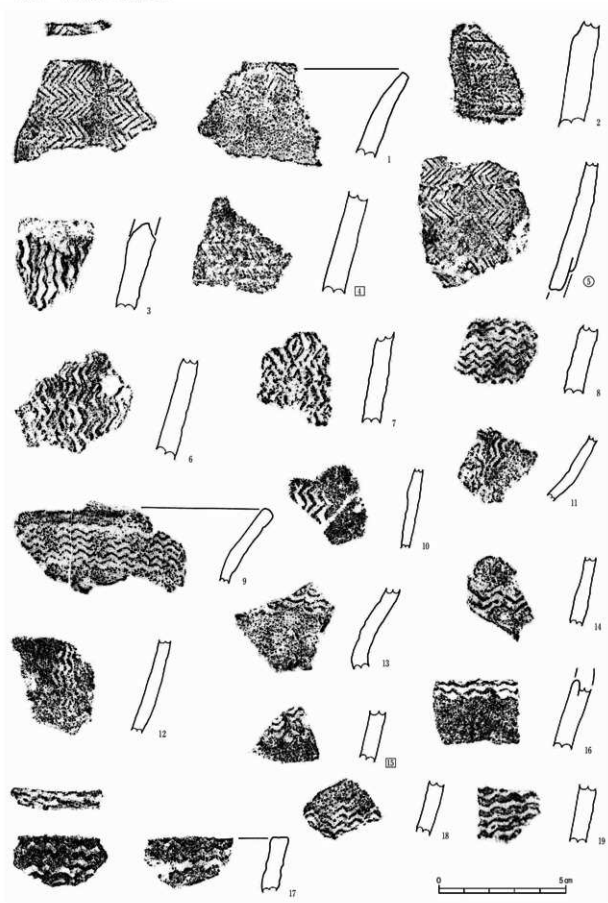
第59图 第12号住居址出土遗物 (1) (○付上層, △付中層, □付下層出土)



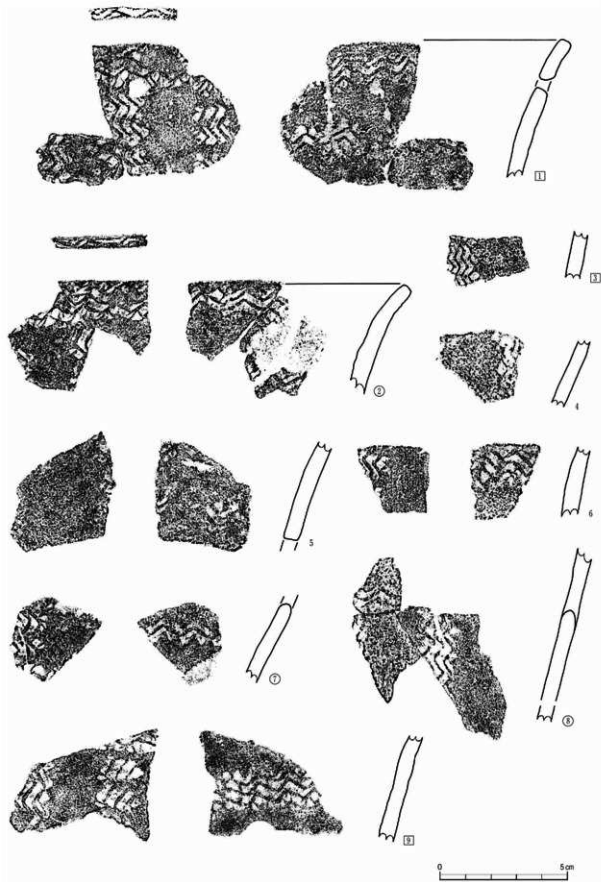
第60図 第12号住居址出土遺物 (2) (○付上層、△付中層、□付下層出土)



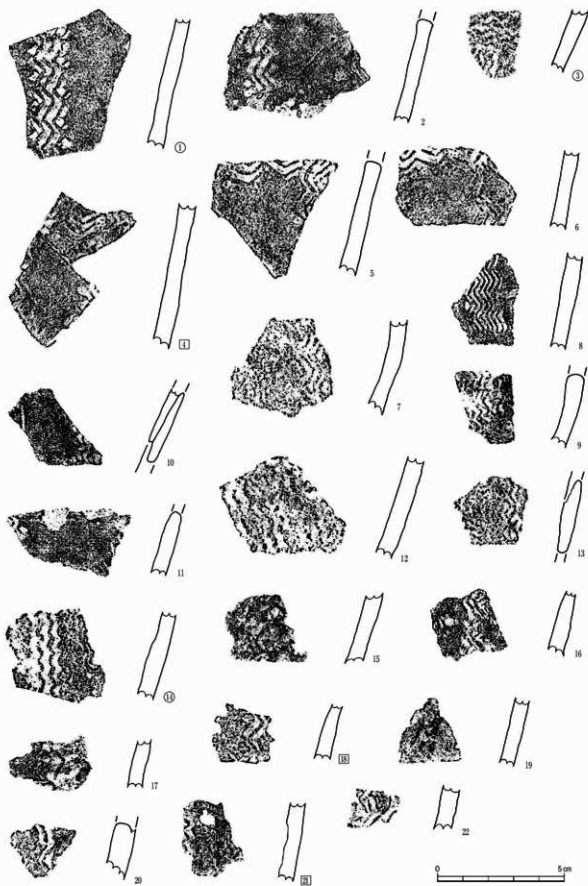
第61图 第12号住居址出土遺物 (3) (○付上層、△付中層、□付下層出土)



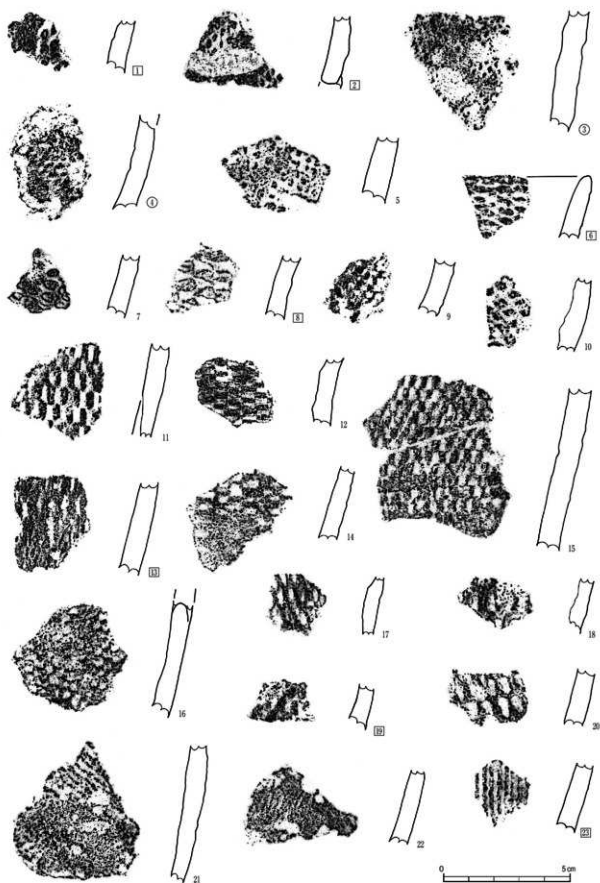
第62図 第12号住居址出土遺物 (4) (○付上層、△付中層、□付下層出土)



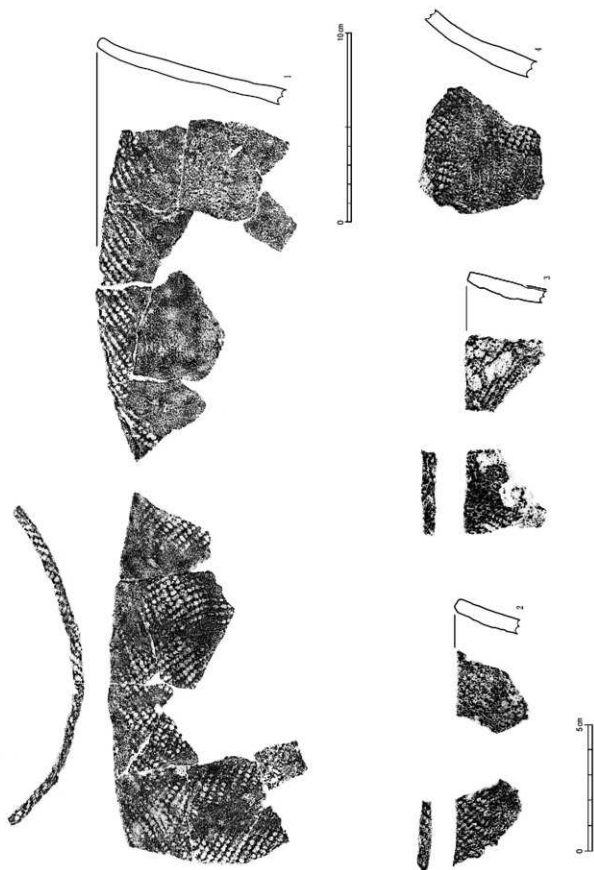
第63图 第12号住居址出土遺物 (5) (○付上層, △付中層, □付下層出土)



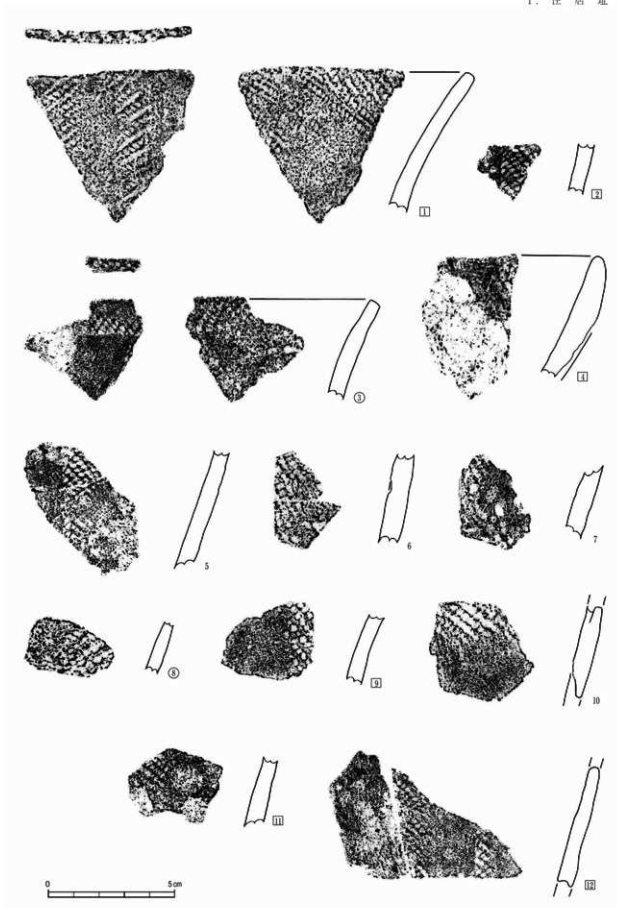
第64図 第12号住居址出土遺物 (6) (○付上層、△付中層、□付下層出土)



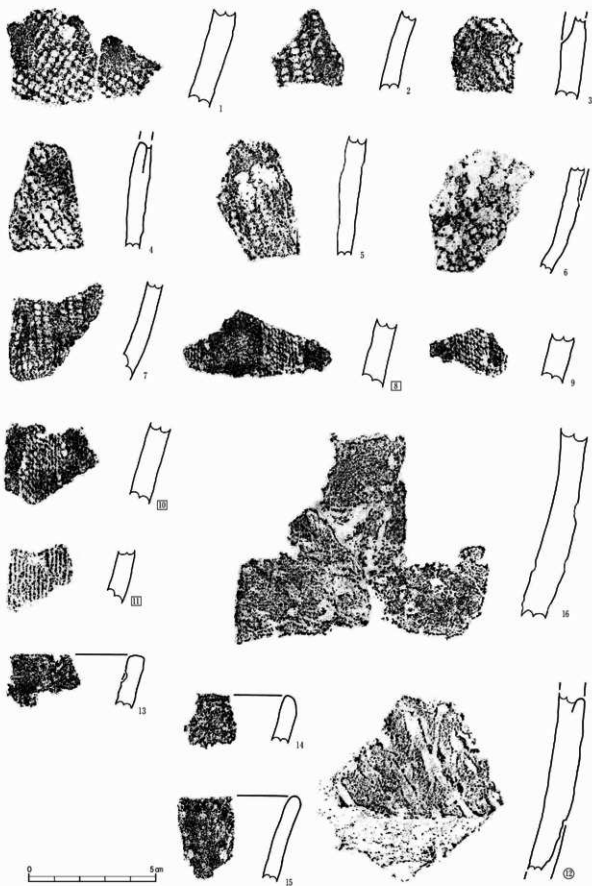
第65图 第12号住居址出土遺物 (7) (○付上層、△付中層、□付下層出土)



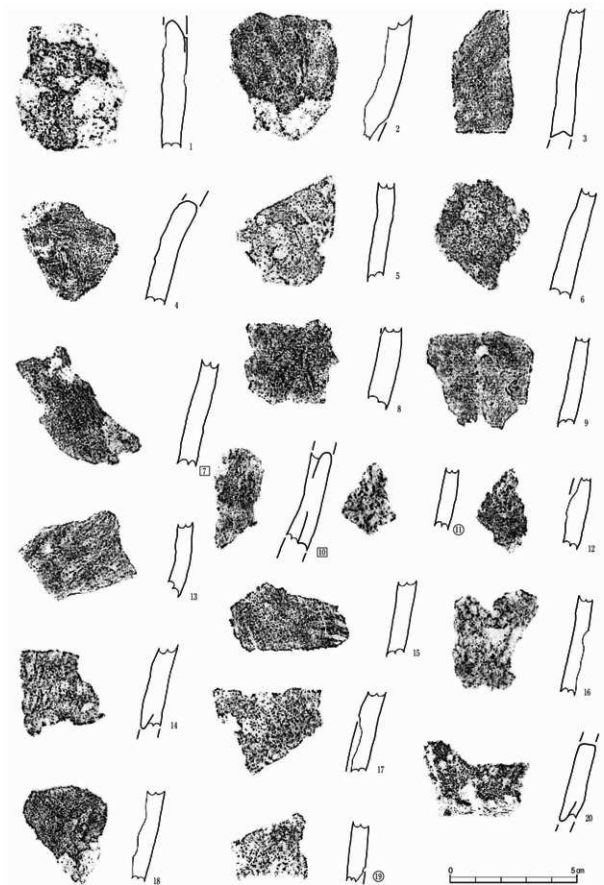
第66図 第12号住居跡出土遺物 (8) (○付土庫、△付中壁、□付下層出土)



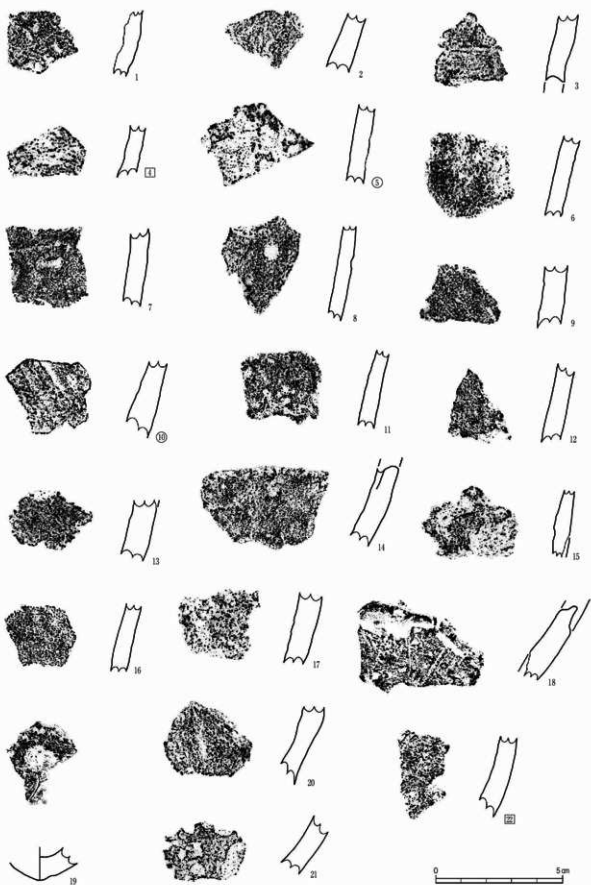
第67图 第12号住居址出土遺物 (9) (○付上層, △付中層, □付下層出土)



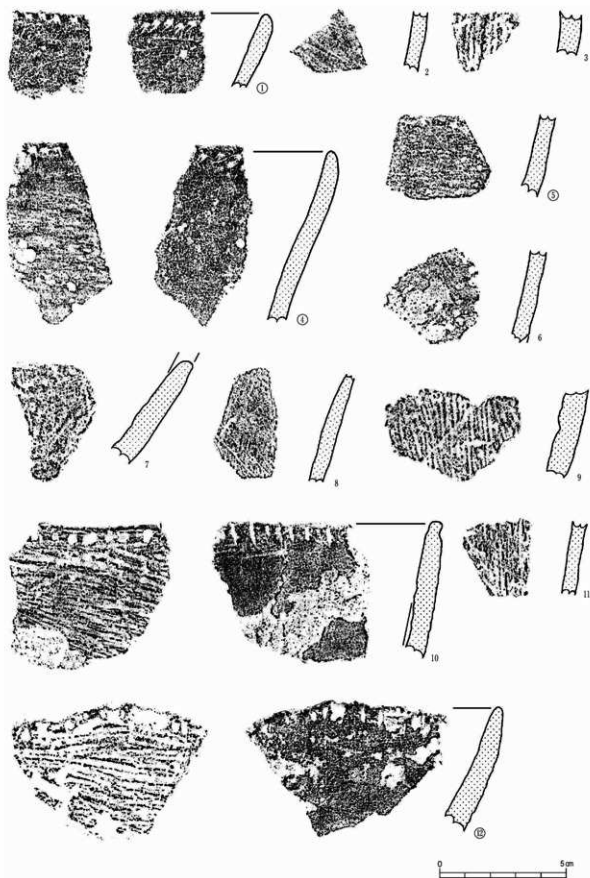
第68図 第12号住居址出土遺物 (10) (○付上層, △付中層, □付下層出土)



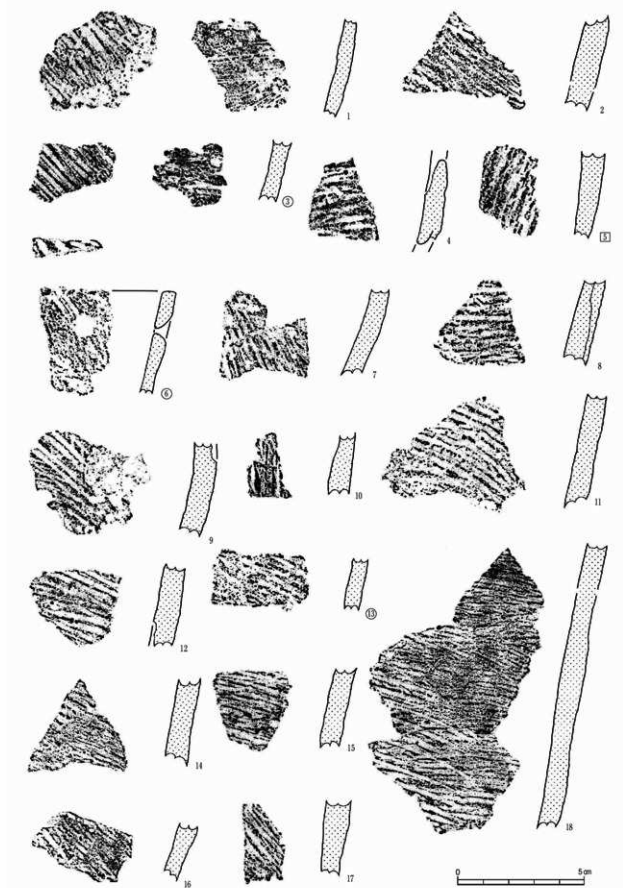
第69图 第12号住居址出土遺物 (11) (○付上層、△付中層、□付下層出土)



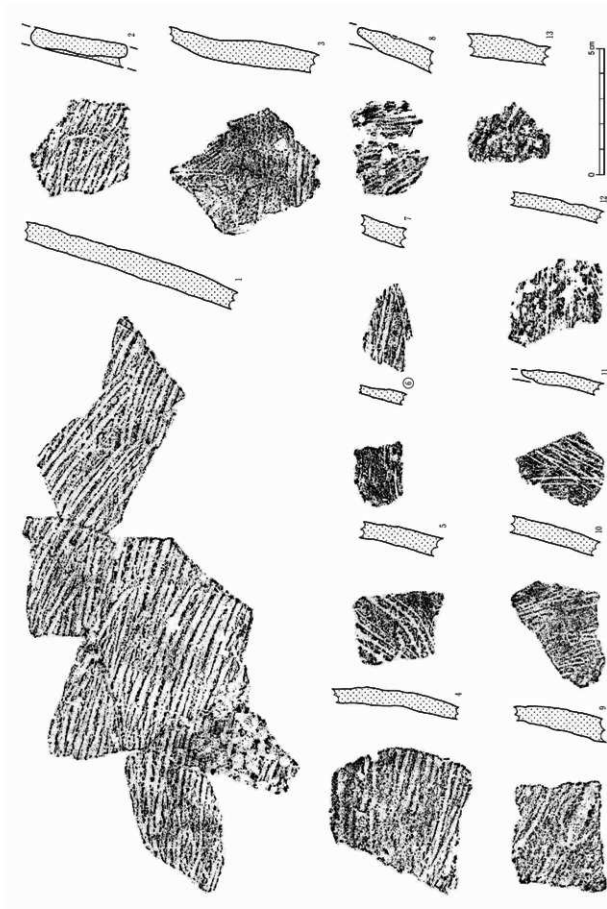
第70図 第12号住居址出土遺物 (12) (○付上層, △付中層, □付下層出土)



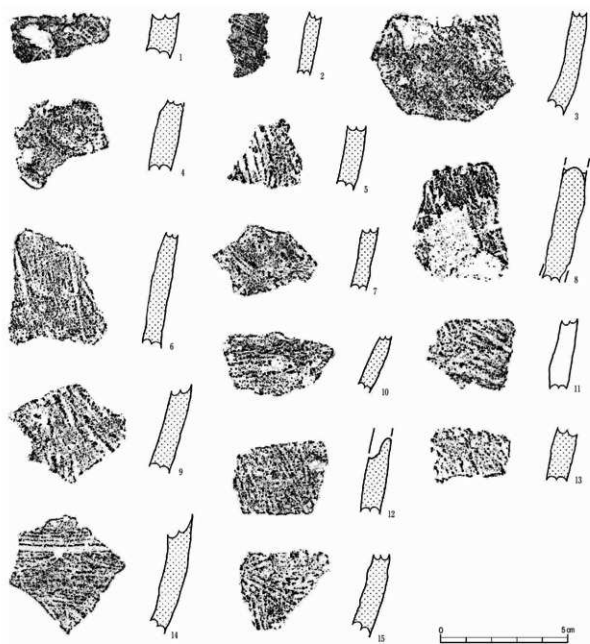
第71图 第12号住居址出土遗物 (13) (○付上層、△付中層、□付下層出土)



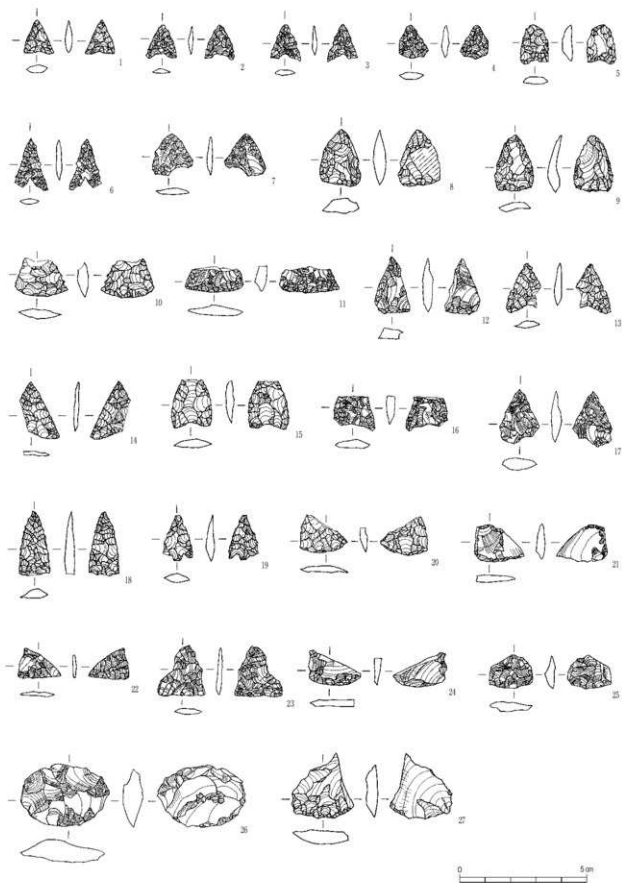
第72図 第12号住居址出土遺物 (14) (○付上層、△付中層、□付下層出土)



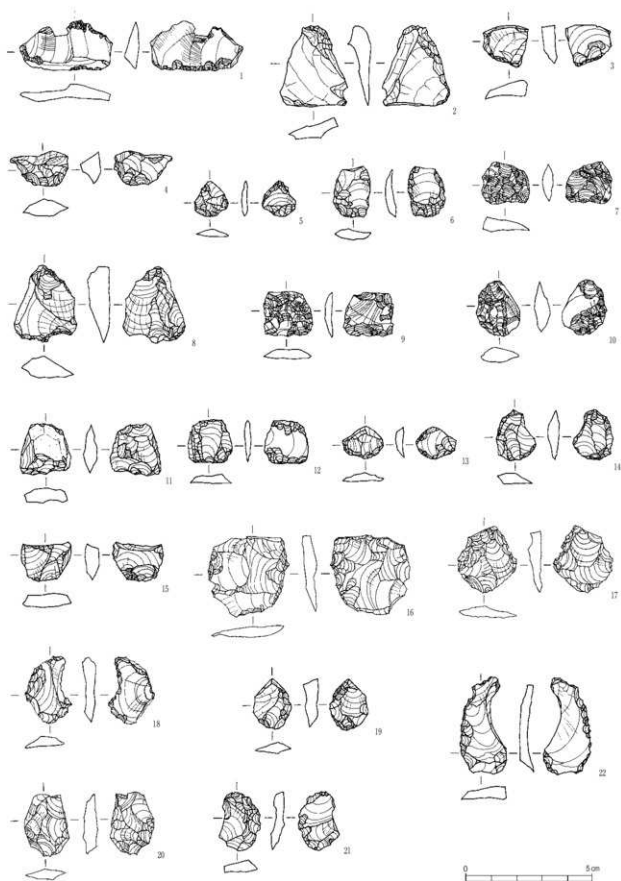
第73图 第12号住居址出土遺物 (15) (○存上端, △存中端, □存下端以上)



第74図 第12号住居址出土遺物 (16) (○付上層、△付中層、□付下層出土)

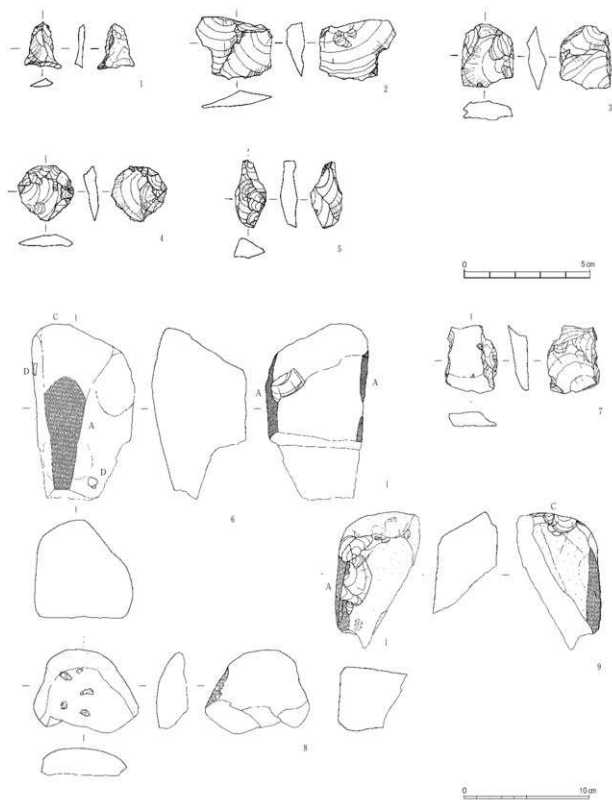


第75图 第12号住居址出土遗物 (17)

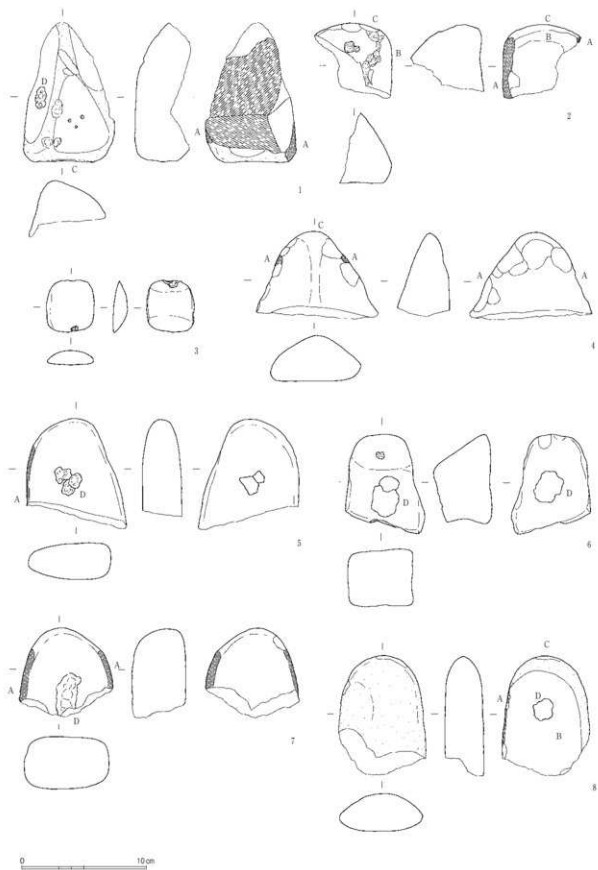


第76図 第12号住居址出土遺物 (18)

1. 住居址



第77图 第12号住居址出土遗物 (19)

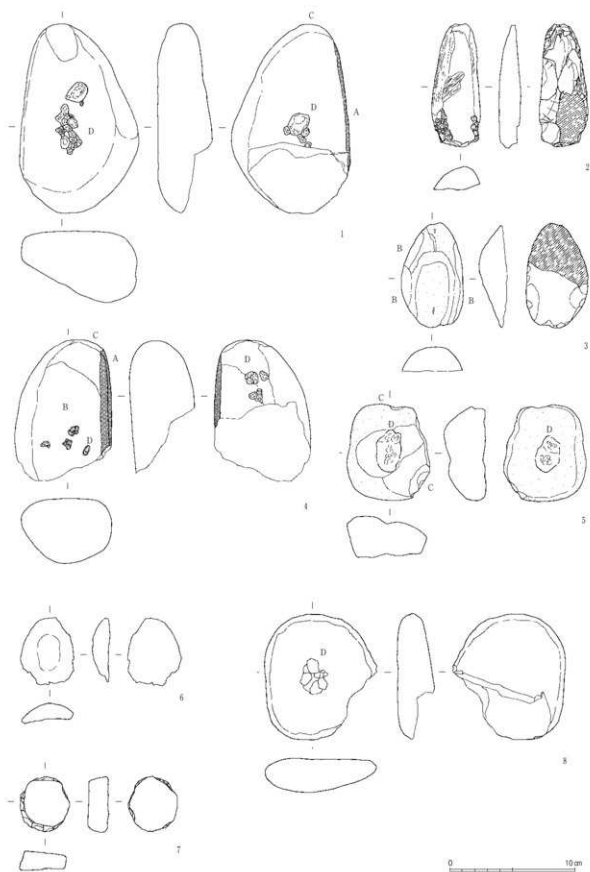


第78図 第12号住居址出土遺物 (20)

1. 住居址



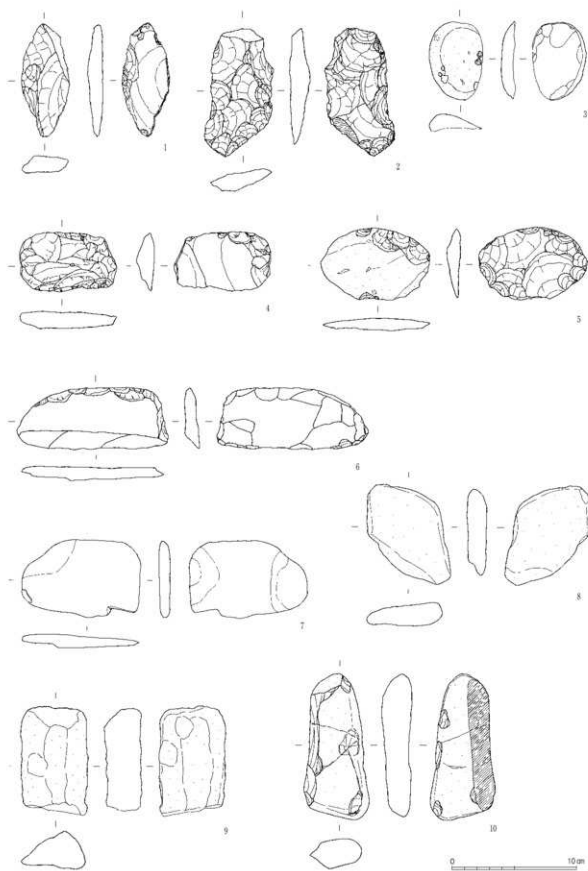
第79图 第12号住居址出土遗物 (21)



第80図 第12号住居址出土遺物 (22)



第81图 第12号住居址出土遺物 (23)

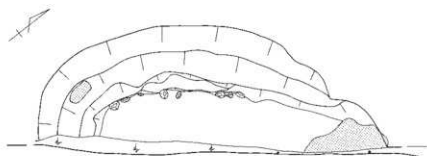


第82図 第12号住居址出土遺物 (24)

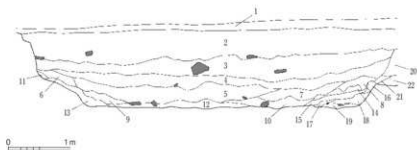
この遺構が出土した当初は平安時代のカマドか考えたものの、平安時代と考えられる遺物が出土せず、押型文を中心とする土器片が出土し、壁についても若干弧を描いていることから、早期の住居址と判断している。このため、この焼土は何らかの施設であることは分かるものの実態は不明である。

遺物（第84図～第85図）

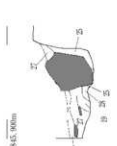
調査範囲が狭かったためか遺物の出土量は少ない。土器としては格子目文（第84図1・2）、網目文（第84図3～5）、山形文（第84図6～8）、縹文（第84図10）等様々な土器が出土している。また、石器も、磨石類（第85図1・2）、打製石斧（第85図4・7）等少数ながら出土している。また第85図5は円柱状の石であり、この住居址以外からも数点出土している。石器としてとりあげてよいかわ不明である。



847.600m



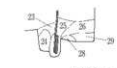
0 1m



845.900m



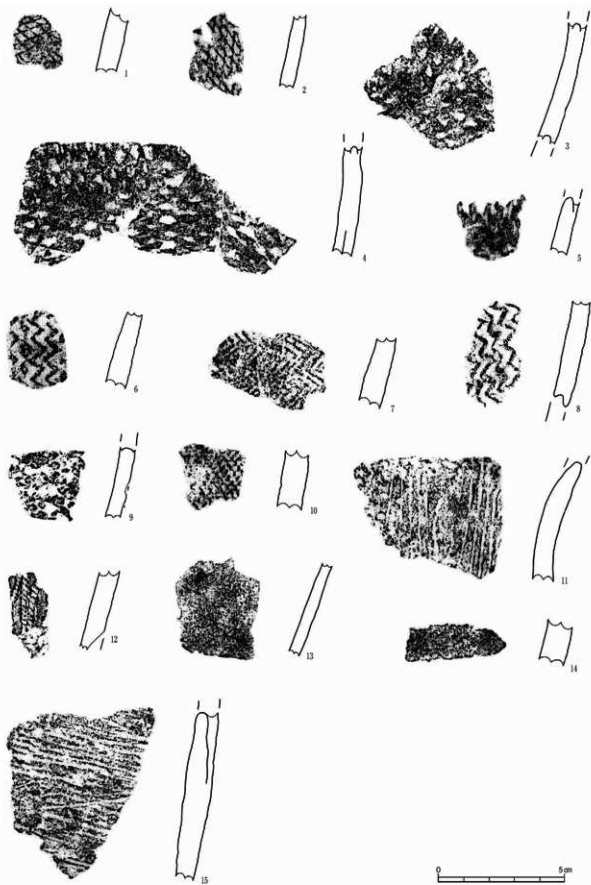
0 5cm



0 5cm

- 1: 道路敷（碎石）
- 2: 暗褐色土（しまっている）
- 3: 暗褐色土（やや黒味をおびる）
- 4: 暗褐色土
- 5: 暗褐色土（やや黒味をおび、黄色小粒ややまじる）
- 6: 黒褐色土（褐色味をおびる）
- 7: 暗褐色土（焼土粒ややまじる）
- 8: 暗褐色土（焼土粒少量まじる）
- 9: 暗褐色土
- 10: 暗褐色土（やや黄色味をおび、黄色土粒少量まじる）
- 11: 暗褐色土（黄色味をおびる）
- 12: 暗褐色土（黄色土少量まじる）
- 13: 暗褐色土（褐色味強く、黄色土ややまじる）
- 14: 暗褐色土（黄色土粒・焼土粒多くまじる）
- 15: 暗褐色土（焼土粒・黄色土粒少量まじる）
- 16: 黄色土（焼土少量まじる）
- 17: 黄色土（焼土まじる）
- 18: 暗褐色土（赤味をおびる） 熱のため
- 19: 焼土
- 20: 暗褐色土
- 21: 暗褐色土（黄色土粒まじる）
- 22: 暗褐色土
- 23: 暗褐色土（焼土多くまじる）
- 24: 黄色土（ハードローム）
- 25: 暗褐色土（焼土ややまじる）
- 26: 焼土（暗褐色土少量まじる）
- 27: 暗褐色土（焼土多くまじり、黄色土ややまじる）
- 28: 黄色土（地山）
- 29: 焼土（暗褐色土まじる）

第83図 第13号住居址実測図



第84図 第13号住居址出土遺物 (1) (○付上層、△付中層、□付下層出土)



第85图 第13号住居址出土遺物 (2)

(2) 平安時代

第1号住居址(第86図・第87図)

この住居址は、調査区北部の尾根の稜線上、Kc09 7-14 Bi-9付近に位置している。一辺が約4.2mの方形で、検出時の深さは約25cmであった。主軸はN28°Eを示す。北東部壁の中央部に板状節理の安山岩でカマドが築かれている。カマド内部の土は、暗褐色系の土が中心であった。カマドの外壁には粘土等検出できなかった。また、袖石は壁際の左右各1枚程度が原状をとどめている程度で、天井石はカマド内に落ち込み、遺存状況はよくなかった。また、この周辺からは、土師器の長胴甕の破片をはじめ、内黒土器の坏等が出土している。

また、南東部壁に細長い土坑が検出されているが、住居址の存在する以前の土坑と考えられる。

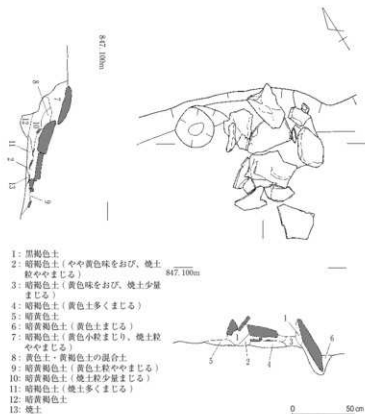
床は軟弱で、硬化した床面が一度破壊されているようなブロック状の固まりを多量に含んだ土で構成されており、硬化面は検出できなかった。また、4隅には不整形な土坑が掘り込まれている。これらの土坑のうち、カマド右脇の土坑については覆土が暗黄褐色土ではあるものの、直径約1mのやや不整形な円形であるが、プランが比較的しっかりしているため、この住居址の施設と考えられる。しかし、他の3基については深さがそれぞれ最深部で、27cm、47cm、35cmとまちまちであり、住居址を築造する時点で掘り込まれていることは確かながら、住居址が使用されている時点でどのような状態であったのか確認できなかった。

なお、柱穴と考えられるピットは検出することができなかった。

遺物(第88図)

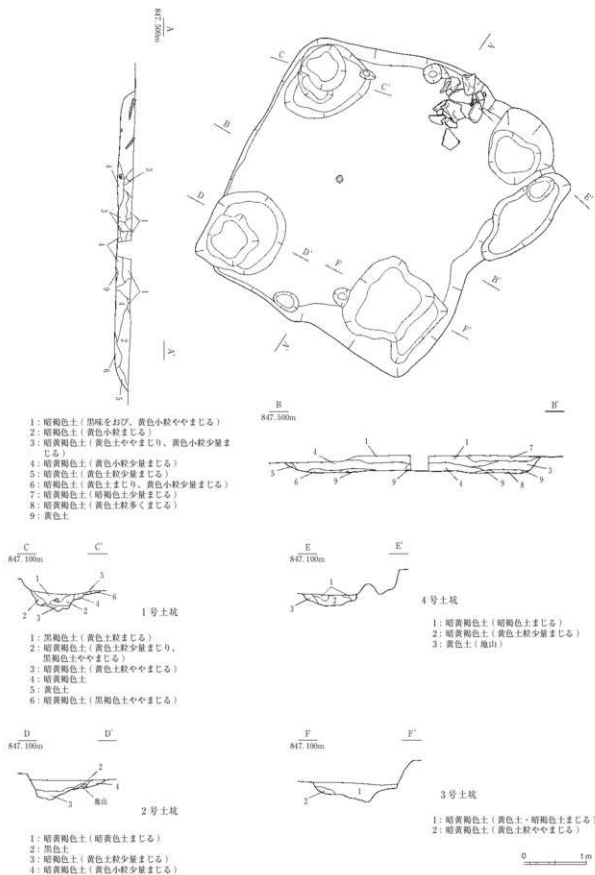
この住居址からは土師器長胴甕を中心とした遺物が出土している。

第88図3~14がこの住居址から出土している遺物である。3は内黒土器の坏である。やや重んだ器形であるが、体部外面に2ヶ所墨書がみられる。内面のミガキ調整はややあらい。4は長胴甕の上半部である。頸部付近を横位にナデ調整を行っており、体部の縦位のハケ目をナデ消している。また、体部のハケ目は上半部で3回に分けて施されている。なお、口縁部内面には横位のカキ目が施されている。5~14は長胴甕の破片である。6~8は体部上半部、その他は体部中部の破片である。4・6・8はいずれも口縁部の屈曲は弱く、口縁部中部が肥厚することはない。

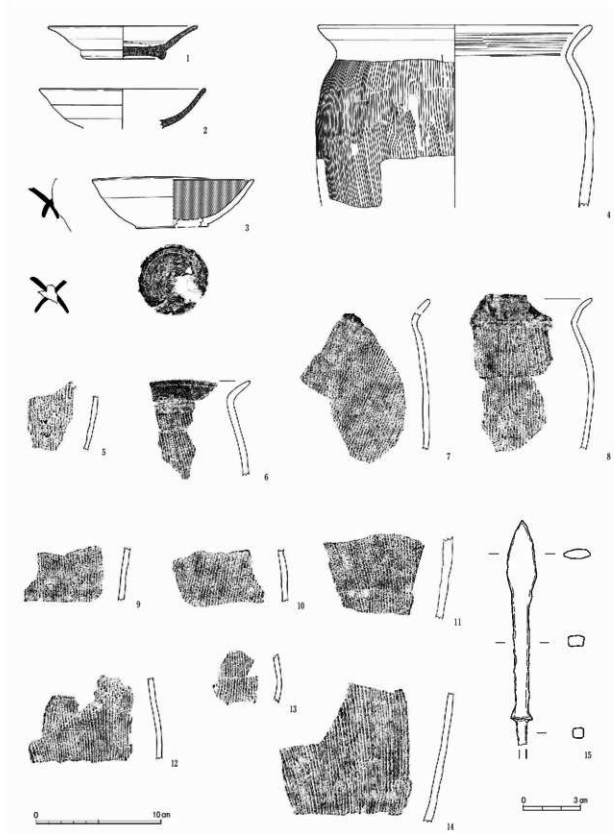


- 1: 黒褐色土
- 2: 暗褐色土(やや黄色味をおび、焼土粒ややまじる)
- 3: 暗褐色土(黄色味をおび、焼土少量まじる)
- 4: 暗褐色土(黄色土多くまじる)
- 5: 暗黄色土
- 6: 暗黄褐色土(黄色土まじる)
- 7: 暗褐色土(黄色小粒ややまじる、焼土粒ややまじる)
- 8: 黄色土・黄褐色土の混合土
- 9: 暗黄褐色土(黄色土粒ややまじる)
- 10: 暗黄褐色土(焼土粒少量まじる)
- 11: 暗褐色土(焼土多くまじる)
- 12: 暗黄褐色土
- 13: 焼土

第86図 第1号住居址カマド実測図



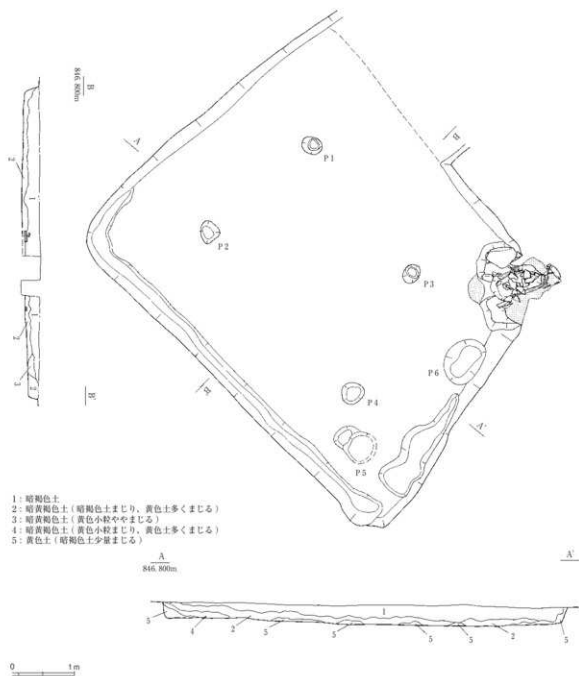
第87図 第1号住居址実測図



第88図 第1号、2号住居址出土遺物 (1・2・15:2住、3~14:1住)

第2号住居址(第89図・第90図)

この住居址は、調査区西部に出土し、第7号住居址を切っている。長辺6.3m、短辺約5mで、南西部壁がやや張り出しており、やや台形のようなプランである。検出時の深さは約50cmであった。覆土は全体的に黄色味を帯びた褐色土が中心であった。床には硬化面は確認されておらず比較的軟弱であり、この床を掘り込んだP1～P6のピットが検出されており、このうち柱穴はP1(深さ約28cm)P2(35cm)P3(31cm)P4(30cm)と考えられる。また、南西壁と、南東壁の直下には周溝が出土している。また、南東部壁の周溝はやや不整形に出土しているが、この地点はプランが明確に検出できなかったことから、カクランが入っていた可能性もある。



第89図 第2号住居址実測図

第1章 小田原遺跡の遺構と遺物

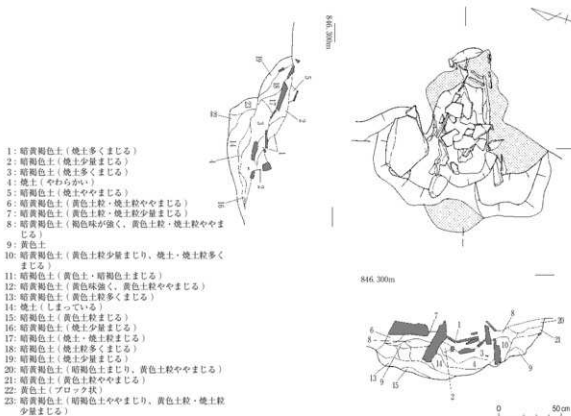
カマドは南東部隅に築かれ、袖石と天井石には鉄平石が材料として使用されている。天井石についてはカマド内に割れて落ち込んだ状態で出土した。また、カマド左袖脇には上面を平坦にして置かれた礫が出土しており、作業台として使用されていたと考えられる。

遺物（第88図）

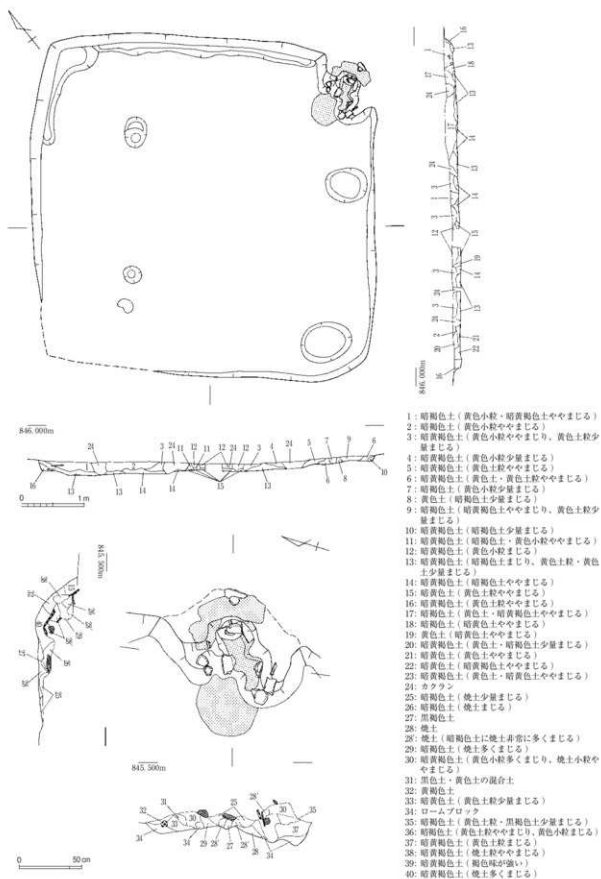
この住居址からは図示できる遺物は第88図1・2の灰釉陶器2点のみであった。1は段皿であり、完形品である。丸みを帯びた高台を持ち、立ち上がり気味に口縁部へとびている。2は浅めの碗である。15は鉄鎌である。茎部が欠損している。これらの遺物から平安時代後期と考えられる。

第9号住居址（第91図）

この住居址は調査区東部に位置し、第12号住居址を切っている。プランは1辺が約5.4mの正方形で、検出時の壁高は約20cmであった。なお、耕作による削平で南西隅が失われている。床には、硬化面は見られず、柱穴も2カ所から検出できたにすぎない。周溝は北東壁と北西壁の一部に検出されたが、住居址内を全周していなかった。カマドは東隅から出土している。カマド内の土には焼土が混入しており、袖石外部には焼土がみられないことから、石の外部に暗褐色系の土を貼り付けてカマドを築造していることが想定できる。焼土はカマド内だけでなく、奥壁の検出面にまで赤色化がおよんでいた。このカマドの石は他の2住居と異なり、節理のある安山岩ではなく、一般的な安山岩を使用している。南東壁際には土坑が2基出土しているが、両者ともにこの住居址に伴うものと考えられる。図化できる遺物は出土していない。



第90図 第2号住居址カマド実測図



第91図 第9号住居址実測図

2. 土 坑

土坑は総数153基を数えるため、ページの関係上代表的なものについて記述し、ほかの土坑については表によって報告にかえたい。

土坑は大きく落とし穴状の形態を持つ土坑と、直径約50cm前後で深さも数十センチ程度の小規模な土坑に2分され、一部断面袋状を呈するもの等も検出された。また、小規模な土坑は焼土を伴うものと、そうでないものにとに分けることができる。

第10号土坑（第93図）

Kc09 7-13 Bm-45より出土している。遺構検出面でのプランは、直径2.35m×2.1mの楕円形、底部のプランは一辺0.7mの方形で、断面すり鉢状を呈している。底部の中心部には、直径約24cmのビッドが検出されている。

遺 物（第110図・第116図）

3点図示できた。第110図2は無文の土器である。5は縄文の施された土器である。第116図1は石磯である。

第28号土坑（第96図）

この土坑は第3号住居址と重複して出土している。長径1.45m、短径1.3mの不整楕円形を呈し、深さは約40cmを測る断面箱形の土坑である。当初は遺構検出面より突き出していた礫によって集石と考えていたため、土坑という認識となるまでに時間がかかり、住居址との前後関係を明確にすることができなくなってしまった。

土坑内には遺構検出段階で出土していた礫が予想を上回る大きさであることがわかり、さらに底部にも1枚出土した。礫は直径50cm～60cm、厚さ約5cmの偏平な礫で、合計5枚出土している。出土遺物は上層に数片と、底部におかれた礫上に1点出土しただけであった。なお、この土坑の底部付近中心部から土壌サンプルを採取し、分析を行っている。

遺 物（第110図・第116図）

第110図9～11が出土している。9・11が覆土中より出土し、10は底部の礫上から出土している。9は無文の土器、11は燃糸文、10は格子目を縦位に施文した押型土器である。第116図3は搔器と考えられる。

第31号土坑（第96図）

Kc09 7-14 Ba-48より出土している。この土坑上部には第3号礫群が分布しており、礫除去後に実施した遺構検出および、サブレンチの開坑によって確認された。長径1.4m、短径1mの不正形な楕円のプランである。この土坑内からは土器と共に礫も出土しており、覆土の一部と底部には焼土が確認された。

遺 物（第110図）

第110図12～21が出土している。12・13は格子目文である。14・17は網目文、15・18は縦位施文の山形文、16は市松文である。20・21は燃糸文である。

第32号土坑（第96図）

KC09 7-14 Ba-49より出土している。この土坑は第31号土坑と同様に第3号礫群直下より検出されている。長径1.4m、短径1mの楕円形を呈しており、第31号土坑と同様に礫が出土している。

遺 物 (第111図)

この土坑からは9片の土器片が図示できた。網目文(第111図1~4)を中心に、格子目文(第111図5)、楕円文(第111図6)等が出土している。

第40号土坑(第97図)

Kc09 7-13 Am-33より出土している。遺構検出面では直径1.2m、深さ約80cmの円形で、底部は平坦で、直径約1.2mであるが、壁の中程の直径が約1mと若干狭いために底部がやや上面より広がったいわゆる袋状を呈している。このタイプの土坑は他に第45号・第47号・第61号土坑が検出されている。

第70号土坑(第98図)

この土坑はKc09 7-13 Ap-41より検出された、今回の調査で唯一の縄文時代後期の遺構である。プランは直径約0.8mの円形であり、深さは14cmと遺存状況はあまりよくない。

遺 物 (第112図18)

第112図18が出土している。波状口縁をもち、口縁部上端部には連続した刺突文が施され、頸部の横位沈線で区画された体部には縦位に沈線が施文されている。この土器は縄文時代後期初頭の鉢型土器と考えられる。

第102号土坑(第106図)

Kc09 7-14 Ap-0付近より出土している。この土坑は第103~107号土坑と重複して検出されている。平面形は一辺約1.1mを測るが、重複が著しいため、平面形も不定形で、底部には凹凸があった。また底部には焼土が検出されている。このような土坑は、尾根の鞍部に集中して存在している傾向が伺えた。

また、第92・142・145・146号土坑と第50号集石炉のように焼土を伴う土坑と集石炉が重複して検出される例も数例ある。

遺 物 (第113図・第116図)

第113図5~10は、網目文の押型文である。第116図7は黒曜石製の剥片石器である。

第125号土坑(第103図)

Kc09 7-14 Al-2付近より出土している。長径1.5m、短径1mの楕円形を呈し、深さは約25cmであった。土層断面図を記録することができなかったが、この土坑底部の一部には焼土が検出されている。

遺 物 (第114図・第116図・第117図)

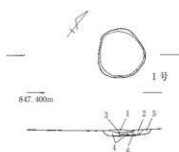
第114図1~7が出土している。格子目文(1・2・5)をはじめ、楕円文(3・4)、網目状燃糸文(7)等が出土している。第116図12は楔形石器と考えられる。

第149号土坑(第108図)

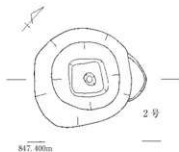
Kc09 7-14 Am-4より出土している。長径1.3m、短径1.1mの不整形である。深さは約20cmと浅かった。

遺 物 (第115図~第117図)

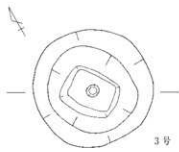
第115図が出土した土器である。1~6は同一個体であり、横位施文の山形文が見られる。また、7には縄文が施文されている。第116図18は楔形石器である。第117図6は凹石である。両面とも深い窪みが確認できる。



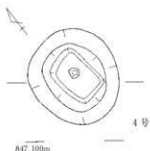
- 1: 暗褐色土
- 2: 暗褐色土 (黄色土較まじる)
- 3: 黒褐色土
- 4: 暗褐色土 (黄色土較まじる)
- 5: 暗褐色土 (暗褐色土まじる)
- 6: 黒褐色土 (黄色土較まじる)



- 1: 暗褐色土 (黄色土較ややまじる)
- 2: 黒褐色土 (暗褐色土まじり, 黄色土較ややまじる)
- 3: 暗褐色土 (黒褐色土まじり, 黄色土較ややまじる)
- 4: 暗褐色土 (黄色土少量まじる)
- 5: 暗褐色土 (黄色土・暗褐色土少量まじる)
- 6: 暗褐色土 (黄色味をおびる)
- 7: 暗褐色土 (暗褐色土少量まじる)
- 8: 暗褐色土 (暗褐色土・黄色土少量まじり, 黄色土較ややまじる)
- 9: 暗褐色土 (黄色土少量まじる)
- 10: 暗褐色土 (暗褐色土・黄色土まじる)
- 11: 暗褐色土 (褐色味をおび, 固くしまっている)
- 12: 暗褐色土 (黄色土まじり, 固くしまっている)



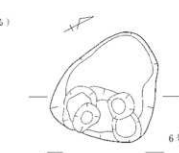
- 1: 暗褐色土 (黄色土較ややまじり, やわらかい)
 - 2: 暗褐色土 (黄色土較まじり, 暗褐色土少量まじる)
 - 3: 暗褐色土 (黄色土較多くまじり, 暗褐色土少量まじる)
 - 4: 暗褐色土 (黄色土較まじり, 暗褐色土少量まじる)
 - 5: 暗褐色土 (黄色土較多くまじる)
 - 6: 暗褐色土 (やや黄色味をおび, 黄色土較少量まじる)
 - 7: 暗褐色土 (黄色土較ややまじる)
 - 8: 暗褐色土 (黄色土まじる)
 - 9: 黄色土 (暗褐色土少量まじる)
 - 10: 暗褐色土 (黄色土較ややまじる)
 - 11: 暗褐色土 (黄色土較・黄色土少量まじる)
 - 12: 暗褐色土 (黄色味が強く, 黄色土ややまじる)
 - 13: 暗褐色土 (黄色味強い)
 - 14: 黄色土
 - 15: 暗褐色土 (黄色土較少量まじり, 固くしまっている)
 - 16: 暗褐色土 (黄色土較ややまじり, 固くしまっている)
 - 17: 暗褐色土 (黄色土較ややまじり, 固くしまっている)
- 3~14: 全体的にしまった土



- 1: 暗褐色土 (黄色土較・少量まじる)
- 2: 暗褐色土 (暗褐色土まじり, 黄色土較ややまじる)
- 3: 暗褐色土 (暗褐色土まじり, 黄色土較ややまじる)
- 4: 暗褐色土 (暗褐色土まじり, 黄色土較ややまじる)
- 5: 暗褐色土 (やや黄色味をおび, 黄色土較少量まじる)
- 6: 暗褐色土 (暗褐色土まじる)
- 7: 黄色土 (暗褐色土少量まじる)
- 8: 暗褐色土 (褐色味をおび, 暗褐色土少量まじる)
- 9: 暗褐色土 (黄色土較ややまじる)
- 10: 暗褐色土 (しまっている)
- 11: 黄色土 (やや暗い)
- 12: 黄色土
- 13: 暗褐色土 (黄色土較ややまじり, しまっている)



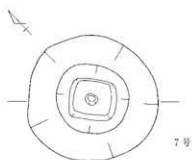
- 1: 褐色土
- 2: 暗褐色土 (やや黄色味をおび, 黄色土少量まじる)
- 3: 暗褐色土 (暗褐色土少量まじる)
- 4: 暗褐色土 (黄色土まじる)
- 5: 暗褐色土 (暗褐色土まじる)
- 6: 黄色土 (地山)



- 1: 地土 (段まじる)
- 2: 暗褐色土 (黄色土少量まじる)
- 3: 暗褐色土 (黄色土まじる)
- 4: 暗褐色土 (黄色土まじる)
- 5: 暗褐色土 (黄色土多くまじる)
- 6: 暗褐色土 (褐色味が強く, 黄色土少量まじる, 地山)
- 7: 黄色土 (地山)

0 1m

第92国 土坑実測図 (1)

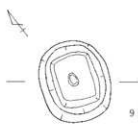


7号

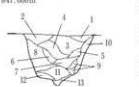
847.300m



- 1: 暗褐色土 (暗黄褐色土少量まじり、黄色小粒ややまじる)
- 2: 暗黄褐色土 (黄色小粒少量まじり、暗褐色土ややまじる)
- 3: 暗褐色土 (黄色味をおび、黄色小粒まじる)
- 4: 暗黄褐色土 (黄色小粒多くまじる)
- 5: 暗褐色土 (暗黄褐色土少量まじり、黄色小粒多くまじる)
- 6: 暗黄褐色土 (黄色土少量まじる)
- 7: 暗黄褐色土 (褐色味が強く、黄色小粒まじる)
- 8: 暗黄褐色土 (褐色味をおび、黄色小粒多くまじる)
- 9: 暗黄褐色土 (黄色土・暗褐色土まじる)
- 10: 黄褐色土 (褐色味をおび、黄色小粒まじる)
- 11: 暗黄褐色土 (黄色土まじる)
- 12: 黄色土
- 13: 暗黄褐色土 (固くしまっている)
- 14: カクラン

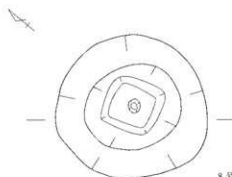


9号



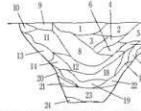
- 1: 暗褐色土 (黄色味をおびる)
- 2: 黒褐色土
- 3: 暗黄褐色土 (暗黄色土ややまじり、黄色小粒多くまじる)
- 4: 暗褐色土 (黄色小粒ややまじる)
- 5: 暗褐色土 (黄色土ややまじる)
- 6: 暗褐色土 (黄色小粒少量まじる)
- 7: 暗褐色土 (黄色土ややまじり、黄色小粒まじる)
- 8: 暗褐色土 (黄色土・黄色土まじる)
- 9: 暗褐色土 (黄色土少量まじり、黄色土粒ややまじる)
- 10: 暗黄褐色土 (暗黄褐色土まじる)
- 11: 暗褐色土 (やや黄色味をおび、暗黄褐色土少量まじる)
- 12: 黄色土 (暗褐色土まじる)
- 13: 暗黄褐色土 (黄色土まじり、固くしまっている)

0 1m



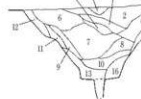
8号

846.700m



- 1: 暗褐色土 (暗黄褐色土少量まじり、黄色小粒ややまじる)
- 2: 暗黄褐色土 (暗褐色土まじり、黄色小粒少量まじる)
- 3: 暗褐色土 (暗黄色土まじり、黄色土粒少量まじる)
- 4: 暗黄褐色土 (暗褐色土・黄色土粒ややまじる)
- 5: 暗褐色土 (暗黄色土ややまじり、黄色土粒少量まじる)
- 6: 暗黄褐色土 (褐色味が強く、暗褐色土まじる)
- 7: 暗褐色土 (暗黄色土少量まじる)
- 8: 暗黄褐色土 (暗褐色土・黄色小粒多くまじる)
- 9: 暗褐色土 (やや黄色味をおびる)
- 10: 黄色土 (暗褐色土少量まじる)
- 11: 黒褐色土 (暗褐色土・暗黄色土まじり、黄色土粒少量まじる)
- 12: 暗黄褐色土 (褐色味が強く、黄色土粒ややまじる)
- 13: 黄色土 (ハードフォームまじる)
- 14: 暗黄褐色土 (暗黄褐色土ややまじる)
- 15: 暗黄褐色土
- 16: 暗黄褐色土 (黄色土粒少量まじる)
- 17: 暗黄褐色土 (黄色土粒ややまじる)
- 18: 暗黄褐色土 (暗褐色土少量まじり、黄色土粒ややまじる)
- 19: 暗褐色土 (やや黄色味をおび、黄色土粒少量まじる)
- 20: 黄色土 (暗黄色土まじる)
- 21: 暗黄褐色土 (黄色土まじる)
- 22: 暗黄褐色土 (暗黄褐色土少量まじる)
- 23: 黄色土 (暗黄色土まじり、固くしまっている)
- 24: 暗黄褐色土 (固くしまっている)
- 25: 暗黄褐色土 (黄色土まじる)

846.800m

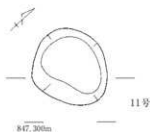


10号

- 1: 黒褐色土
- 2: 暗褐色土 (暗黄褐色土まじり、黄色小粒少量まじる)
- 3: 暗褐色土 (暗黄褐色土・黄色小粒まじる)
- 4: 暗褐色土 (黄色土・暗黄褐色土少量まじり、黄色小粒ややまじる)
- 5: 暗褐色土 (黄色味をおび、黄色小粒少量まじる)
- 6: 暗褐色土 (やや黄色味をおび、暗黄褐色土・黄色小粒少量まじる)
- 7: 暗黄褐色土 (暗褐色土まじり、黄色小粒多くまじり、固くしまっている)
- 8: 暗褐色土 (暗黄褐色土・黄色土少量まじる)
- 9: 暗褐色土 (暗黄褐色土・黄色土少量まじり、黄色土粒ややまじる)
- 10: 暗黄褐色土 (暗黄色土まじり、黄色土粒少量まじる)
- 11: 暗黄褐色土 (暗褐色土まじり、黄色土粒少量まじる)
- 12: 暗黄褐色土 (黄色土まじる)
- 13: 暗黄褐色土 (黄色土粒少量まじり、固くしまっている)
- 14: 暗黄褐色土 (暗褐色土多くまじる)
- 15: 黄色土 (暗黄褐色土まじる)
- 16: 暗黄褐色土 (暗黄色土まじり、黄色土粒ややまじり、固くしまっている)

第93国 土坑実測図 (2)

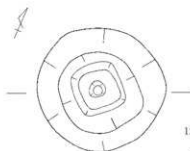
第1章 小田原道路の遺構と遺物



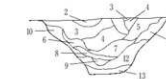
847.300m



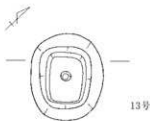
- 1: カクラン
- 2: 暗褐色土
- 3: 暗黄褐色土(暗黄色土まじる)
- 4: 黄色土(暗黄褐色土まじる)
- 5: 黄色土(暗黄褐色土まじる)



848.200m



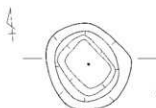
- 1: カクラン
- 2: 暗褐色土(黒褐色土・暗黄色土まじる)
- 3: 暗褐色土(やや黄色味をおび、黄色小粒少量まじる)
- 4: 暗褐色土(暗黄色土・黄色小粒まじる)
- 5: 暗褐色土(黄色土少量まじる)
- 6: 暗褐色土(暗黄褐色土少量まじる)
- 7: 暗褐色土(黄色小粒少量まじる)
- 8: 暗黄褐色土(黄色小粒ややまじる)
- 9: 暗黄褐色土(暗黄色土少量まじる)
- 10: 暗黄褐色土(黄色土ややまじる)
- 11: 暗黄褐色土(黄色土少量まじる)
- 12: 暗黄褐色土(黄色土粒ややまじる)
- 13: 暗黄褐色土(固くしまっている)



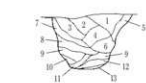
848.100m



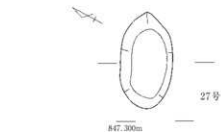
- 1: 暗褐色土(黄色小粒まじる)
- 2: 暗褐色土(黄色小粒ややまじる)
- 3: 暗黄褐色土(黄色土粒ややまじり、暗黄色土まじる)
- 4: 暗黄褐色土(暗黄色土少量まじる)
- 5: 暗黄色土(黄色土少量まじる)
- 6: 暗黄褐色土(暗黄色土少量まじる)
- 7: 暗黄色土(黄色土まじる)
- 8: 暗黄色土



847.500m



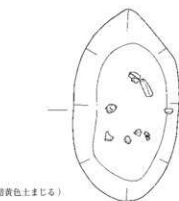
- 1: 暗褐色土(黄色味がかり、黄色土少量まじる)
- 2: 暗褐色土(黄色小粒少量まじる)
- 3: 暗褐色土(黄色味がかり、黄色土粒ややまじる)
- 4: 暗褐色土(黄色土ややまじり、黄色小粒少量まじる)
- 5: 黄色土(やわらかい)
- 6: 暗黄褐色土(黄色土少量まじる)
- 7: 暗黄褐色土(黄色土少量まじり、黄色土粒ややまじる)
- 8: 黄色土(暗黄褐色土まじる)
- 9: 暗黄褐色土(褐色味が強く、黄色土少量まじる)
- 10: 黄色土(暗黄色土ややまじる)
- 11: 暗黄色土(暗褐色土まじる)
- 12: 黄色土(暗褐色土少量まじり、しまっている)
- 13: 暗黄色土(しまっている)



847.300m



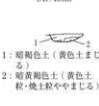
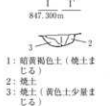
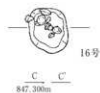
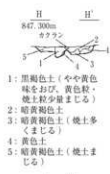
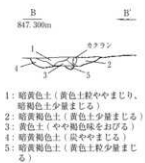
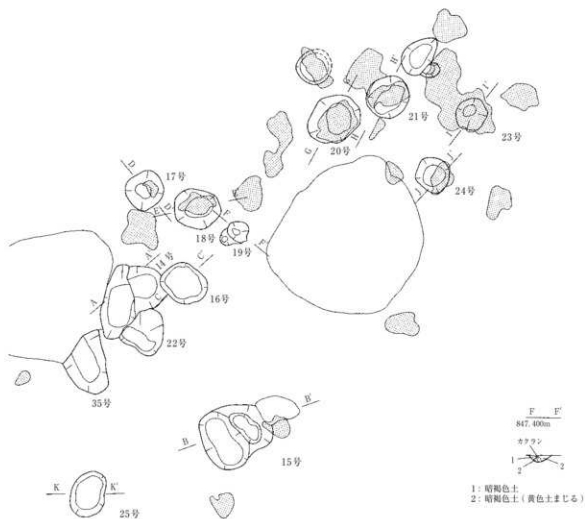
- 1: 暗黄褐色土(褐色味が強く、暗黄色土まじる)
- 2: 暗黄褐色土(黄色土まじる)
- 3: 暗褐色土(黄色土ややまじる)
- 4: 暗黄色土(暗褐色土まじる)



0 50m

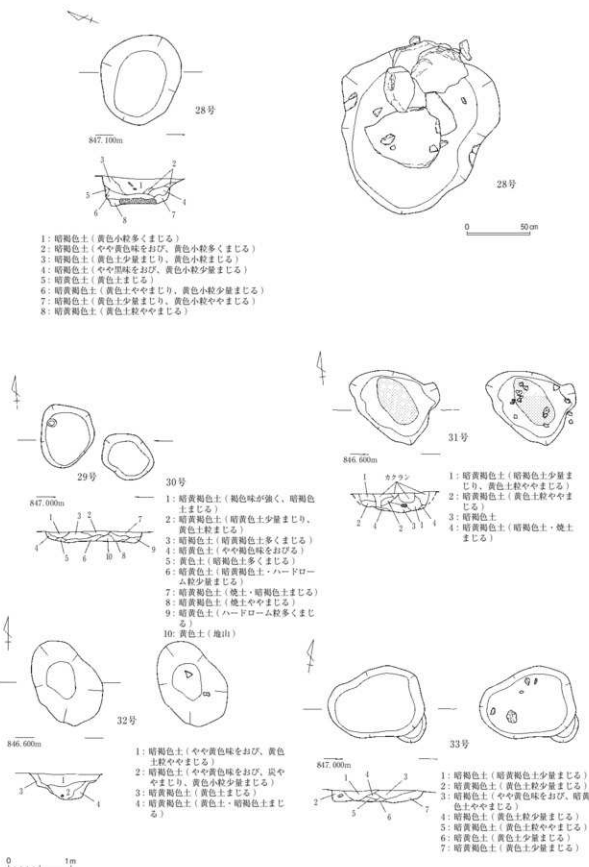
0 1m

第94図 土坑実測図 (3)

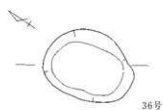


0 1m

第95号 土坑実測図 (4)



第96図 土坑実測図 (5)



36号

847.000m

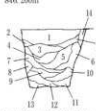


- 1: 暗褐色土 (黄色土粒ややまじる)
- 2: 暗褐色土 (黄色土・暗褐色土まじる)
- 3: 暗黄褐色土 (暗褐色土まじる)
- 4: 暗褐色土 (黄色土多くまじる)



37号

846.200m

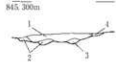


- 1: 暗褐色土 (黄色土粒多くまじる)
- 2: 暗褐色土 (黄色土まじり, 黄色土粒少量まじる)
- 3: 暗褐色土 (黄色土粒まじる)
- 4: 暗褐色土 (やや黄味をおび, 黄色土粒まじる)
- 5: 暗褐色土 (やや黄味をおび, 黄色土粒少量まじる)
- 6: 暗黄褐色土 (黄色土・暗黄褐色土少量まじる)
- 7: 暗黄褐色土 (黄味が強く, 黄色土少量まじる)
- 8: 暗黄褐色土
- 9: 暗黄褐色土 (黄色土少量まじる)
- 10: 暗褐色土 (やや黄味をおび, 黄色土少量まじる)
- 11: 黄色土 (暗黄色土まじる)
- 12: 暗褐色土 (やや黄味をおび, 黄色土ややまじる)
- 13: 暗黄褐色土 (黄色土まじる)
- 14: 黄色土



38号

845.300m



- 1: 暗褐色土 (黄色土粒多くまじり, 黄色土ややまじり, 少量まじる)
- 2: 暗黄褐色土 (黄色土まじる)
- 3: 暗褐色土 (黄色土まじる)
- 4: 暗黄褐色土 (黄色土少量まじる)



39号

845.400m

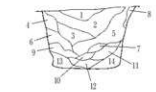


- 1: 暗褐色土 (黄色土粒多くまじり, 黄色土ややまじり, 少量まじる)
- 2: 暗褐色土 (黄色土まじる)
- 3: 暗黄褐色土 (黄色土少量まじる)
- 4: 黄色土 (地山)



41号

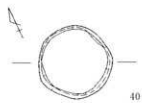
845.500m



- 1: 暗褐色土 (暗黄褐色土少量まじる)
- 2: 暗褐色土 (黄色土ややまじる)
- 3: 暗褐色土 (黄色土少量まじる)
- 4: 暗黄褐色土 (黄色土・暗褐色土少量まじる)
- 5: 暗褐色土 (暗黄褐色土・黄色土まじる)
- 6: 暗黄褐色土 (黄色土少量まじり, 暗褐色土まじる)
- 7: 暗黄褐色土 (黄色土少量まじる)
- 8: 黄色土 (暗黄褐色土少量まじる)
- 9: 暗黄褐色土 (黄色土少量まじる)
- 10: 暗黄褐色土 (黄色土との混合土)
- 11: 暗黄褐色土 (黄色土との混合土)
- 12: 黄色土と暗褐色土との混合土
- 13: 暗黄褐色土 (黄色土・黄色土粒少量まじる)
- 14: 暗黄褐色土 (黄色土・暗褐色土との混合土)

ややあれた土

土のような堆積状況



40号

845.500m



- 1: 暗褐色土 (暗黄褐色土多くまじり, 黄色土粒まじる)
- 2: 暗褐色土 (黄色土粒まじる)
- 3: 暗褐色土 (黄色味をおび, 黄色土ややまじり, 黄色土粒まじる)
- 4: 暗褐色土 (黄色土粒ややまじる)
- 5: 暗黄褐色土 (黄色土少量まじり, 炭ややまじる)
- 6: 暗黄褐色土 (黄色土粒少量まじり, 黄色土粒まじる)
- 7: 暗黄褐色土 (黄色土粒ややまじり, 暗褐色土まじる)
- 8: 暗黄褐色土 (黄色土粒少量まじる)



42号

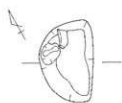
845.500m



- 1: カクラン
- 2: 暗黄褐色土 (カクラン)
- 3: 暗褐色土 (黄色土粒ややまじる)
- 4: 黄色土

0 1m

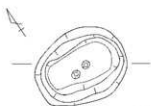
第97国 土坑実測図 (6)



43号



- 1: 暗褐色土 (暗黄褐色土まじる)
- 2: 暗褐色土 (黄色土粒少量まじり、暗黄褐色土まじる)
- 3: 暗褐色土 (黄色土粒ややまじり、暗黄褐色土まじる)
- 4: 暗褐色土
- 5: 暗褐色土 (黄色土粒少量まじり、黄色土粒ややまじり、暗黄褐色土まじる)
- 6: 暗褐色土 (暗黄褐色土まじる)
- 7: 暗褐色土 (黄色土粒ややまじり、暗黄褐色土まじる、6より割合が多い)
- 8: 暗褐色土 (暗褐色土まじる)

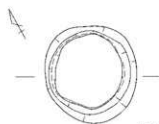


44号

845.100m

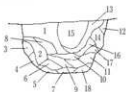


- 1: 暗褐色土 (黄色土粒ややまじり、暗黄褐色土まじる)
- 2: 暗黄褐色土 (黄色土まじる)
- 3: 暗黄褐色土
- 4: 暗黄褐色土 (やわらかくもろい)
- 5: 暗黄褐色土 (黄色土まじる)
- 6: 暗褐色土 (黄色土粒少量まじる)
- 7: 暗褐色土 (暗黄褐色土まじる)
- 8: 黄色土 (暗褐色土まじる)
- 9: 暗褐色土 (黄色土多くまじる)
- 10: 暗褐色土 (黄色土粒多くまじる)
- 11: 黄色土 (暗褐色土多くまじる)
- 12: 暗黄褐色土
- 13: 暗褐色土 (黄色土粒ややまじる)
- 14: 暗褐色土 (黄色土粒まじる)
- 15: 暗褐色土 (黄色土粒多くまじる)

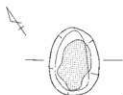


45号

845.600m



- 1: 暗褐色土 (暗黄褐色土まじり、黄色土粒少量まじり、黄色土粒多くまじる)
- 2: 暗褐色土 (暗黄褐色土・暗黄褐色土まじり、黄色土粒少量まじる)
- 3: 暗黄褐色土 (黄褐色土まじる)
- 4: 暗褐色土 (黄色土粒まじる)
- 5: 暗黄褐色土 (黄色土ややまじる)
- 6: 暗黄褐色土 (黄色土粒ややまじる)
- 7: 暗褐色土 (暗黄褐色土まじり)
- 8: 暗褐色土 (黄色土粒ややまじり、黄色土粒少量まじる)
- 9: 暗黄褐色土 (黄色土粒ややまじる)
- 10: 暗褐色土 (暗黄褐色土まじり、黄色土粒ややまじる)
- 11: 暗黄褐色土 (黄色土粒多くまじる)
- 12: 暗黄褐色土 (黄色土粒ややまじる)
- 13: 暗褐色土 (黄色土粒ややまじる)
- 14: 暗黄褐色土 (暗褐色土まじり、黄色土粒ややまじる)
- 15: 暗褐色土 (暗黄褐色土まじり、黄色土粒多くまじる)
- 16: 暗黄褐色土 (暗褐色土まじり、黄色土粒ややまじる)
- 17: 暗黄褐色土 (黄色土粒・黄色土まじる)
- 18: 黄色土 (地山)



68号

846.300m



- 1: 暗褐色土 (焼土粒ややまじり、黄色土粒少量まじる)
- 2: 暗黄褐色土 (黄色土粒まじり、黄色土粒ややまじる)
- 3: 焼土
- 4: 暗褐色土 (黄色土粒まじる)
- 5: 暗褐色土 (焼土粒多くまじる)
- 6: 暗黄褐色土 (地山?)



70号

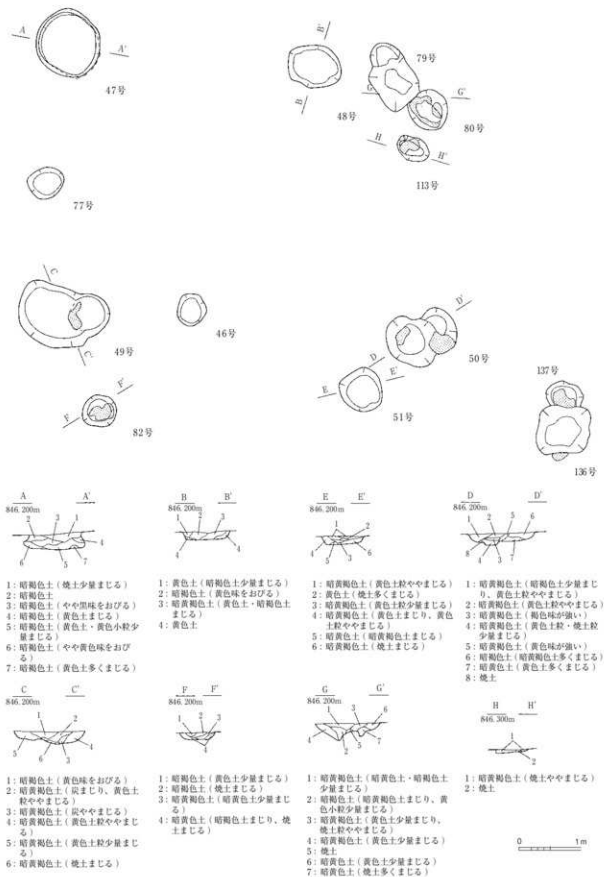
846.200m



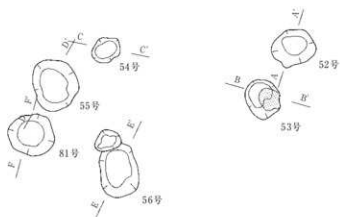
- 1: 暗褐色土
- 2: 暗褐色土 (やや黄色味をおびる)
- 3: 暗黄褐色土 (黄色土まじる)
- 4: 暗黄褐色土

0 1m

第98図 土坑実測図 (7)



第99図 土坑実測図 (8)



C C'
846.200m



- 1: 暗黄褐色土 (黄色土粒ややまじる)
- 2: 暗黄色土 (暗黄褐色土少量まじる)
- 3: 暗黄褐色土 (黄色味が強い)
- 4: 焼土

B B'
846.200m



- 1: 暗黄褐色土 (黄色味が強い)
- 2: 暗黄色土 (焼土まじり、黄色土粒ややまじる)
- 3: 暗黄色土 (焼土少量まじる)

A A'
846.200m



- 1: 暗黄褐色土

F F'
846.200m



- 1: 暗黄褐色土 (暗褐色土まじる)
- 2: 黄色土
- 3: 暗黄色土

E E'
846.200m



- 1: 暗黄褐色土 (褐色味が強い)
- 2: 暗黄褐色土 (黄色土少量まじる)
- 3: 暗黄色土 (焼土粒ややまじり、黄色土粒少量まじる)

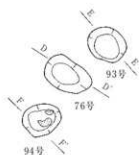
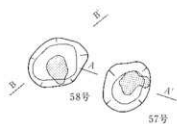
D D'
846.200m



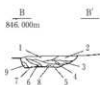
- 1: 暗黄褐色土 (黄色土粒少量まじる)
- 2: 暗黄褐色土 (黄色土少量まじる)
- 3: 暗黄色土 (黄色土粒まじる)
- 4: 暗褐色土 (灰ややまじる)
- 5: 暗黄褐色土 (黄色土粒ややまじり、黄色土少量まじる)
- 6: 黄色土

0 1m

第100図 土坑実測図 (9)



- 1: 暗褐色土 (暗褐色土まじる)
- 2: 暗褐色土 (黄色土粒少量まじり, 焼土粒ややまじる)
- 3: 暗褐色土 (焼土粒・黄色土粒少量まじる)
- 4: 暗褐色土
- 5: 黄色土 (暗黄色土まじる)



- 1: 暗褐色土 (やや黄色味をおび, 焼土粒ややまじる)
- 2: 暗褐色土 (黄色土粒少量まじり, 焼土粒ややまじる)
- 3: 暗褐色土 (黄色土粒まじる)
- 4: 暗褐色土 (黄色土粒・焼土粒ややまじる)
- 5: 暗褐色土 (焼土粒少量まじる)
- 6: 暗褐色土 (やや褐色味をおび, 焼土粒ややまじる)
- 7: 暗褐色土
- 8: 黄色土 (焼土まじる)
- 9: 黄色土 (暗黄色土まじる)

- 1: 暗褐色土 (黄色土粒少量まじる)
- 2: 暗褐色土 (黄色土粒少量まじる)
- 3: 暗褐色土 (焼土まじる)

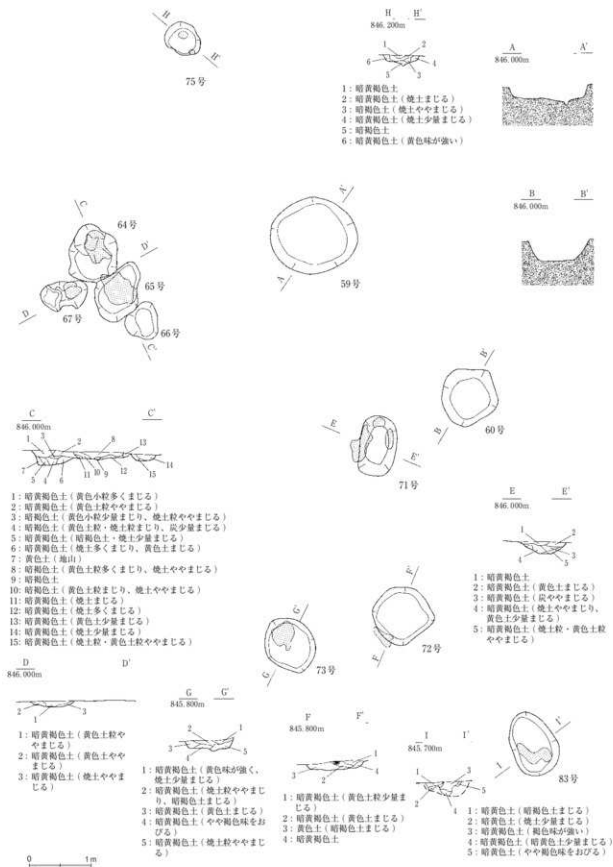
- 1: 暗褐色土 (焼土まじる)
- 2: 暗褐色土 (やや褐色味をおびる)

- 1: 黄色土 (ハーローム)
- 2: 暗褐色土 (褐色味が強く, 焼土粒ややまじる)
- 3: 暗褐色土 (焼土ややまじる)
- 4: 暗褐色土 (黄色土粒・焼土粒少量まじる)
- 5: 暗褐色土 (暗褐色土まじる)
- 6: 暗褐色土 (黄色土まじる)
- 7: 暗褐色土 (暗褐色土まじる)

- 1: 暗褐色土
- 2: 暗褐色土 (やや褐色味をおびる)
- 3: 黄色土

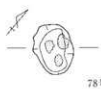
0 1m

第101図 土坑実測図 (10)



第102図 土坑実測図 (II)

第1章 小田原道路の遺構と遺物



78号

846.400m



- 1: 暗黄褐色土 (黄色土少量まじる)
- 2: 暗黄色土 (焼土まじり、やわらかい)
- 3: 暗黄褐色土 (焼土まじる)
- 4: 黄色土

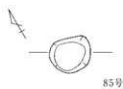


84号

845.500m



- 1: 暗褐色土 (焼土まじる)
- 2: 暗黄褐色土
- 3: 暗黄褐色土 (焼土まじる)



85号

846.400m



- 1: 暗黄褐色土 (黄色土まじり、焼土・灰やまじる)
- 2: 暗黄褐色土 (黄色土粒・焼土粒少量まじる)
- 3: 暗黄褐色土 (黄色土粒まじる)
- 4: 暗黄褐色土 (黄色味が強く、黄色土粒・焼土粒ややまじる)
- 5: 焼土

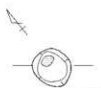


86号

846.400m



- 1: 暗黄褐色土
- 2: 暗黄褐色土 (暗黄色土・焼土・黄色土粒まじる)
- 3: 暗褐色土 (暗黄色土少量まじり、黄色小粒まじる)
- 4: 暗黄色土 (暗黄褐色土まじる)
- 5: 焼土



87号

846.400m



- 1: 暗黄褐色土 (焼土少量まじり、黄色小粒多くまじる)
- 2: 黄色土 (暗黄褐色土まじる)
- 3: 暗黄褐色土 (焼土多くまじる)
- 4: 暗黄色土
- 5: 焼土



89号

846.400m

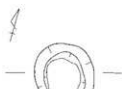


100号

851.300m



- 1: 暗褐色土 (黄色土ややまじる)
- 2: 暗黄褐色土 (黄色土まじる)
- 3: 暗黄褐色土 (褐色味が強く、黄色土粒少量まじる)
- 4: 暗黄褐色土 (黄色土少量まじる)
- 5: 暗黄色土 (黄色土・ハードローム多くまじる)
- 6: 暗黄色土 (黄色土まじる)
- 7: 暗黄褐色土

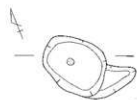


101号

851.700m



- 1: 暗褐色土 (黄色土ややまじる)
- 2: 暗褐色土 (暗黄色土多くまじる)
- 3: 暗黄褐色土 (黄色土まじる)
- 4: 暗褐色土 (黄色味をおび、黄色土ややまじる)
- 5: 暗黄褐色土 (黄色土少量まじる)
- 6: 暗黄褐色土 (黄色土多くまじる)
- 7: 暗黄褐色土 (黄色土まじり、黄色土粒少量まじる)
- 8: 暗褐色土 (黄色土粒まじる)
- 9: 暗黄褐色土 (ハードロームブロック多くまじる)
- 10: カクラン



138号

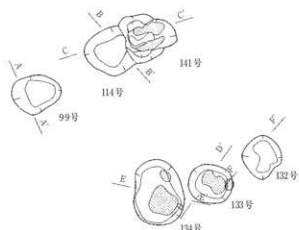
845.700m



- 1: 暗褐色土 (やや黄色味をおび、黄色土粒ややまじる)
- 2: 暗褐色土 (やや黄色味をおびる)
- 3: 暗黄褐色土 (暗黄色土・焼土少量まじる)
- 4: 暗黄褐色土 (黄色土粒ややまじる)
- 5: 暗黄褐色土 (黄色土粒少量まじる)
- 6: 暗褐色土 (やや黄色味をおびる)
- 7: 暗黄色土 (暗黄褐色土少量まじる)

0 1m

第104図 土坑実測図 (13)



- 1: 暗褐色土 (黄色土粒少量まじる)
- 2: 暗褐色土 (褐色味をおびる)
- 3: 暗褐色土 (黄色小粒ややまじる)
- 4: 暗褐色土 (黄色土粒まじる)
- 5: 暗褐色土



- 1: 暗黄褐色土 (黄色土少量まじり、黄色土粒ややまじる)
- 2: 暗黄褐色土 (黄色土粒ややまじる)
- 3: 暗黄褐色土 (黄色土少量まじる)
- 4: 暗黄褐色土 (黄色土多くまじる)
- 5: 暗褐色土 (やや黄色味をおびる)



- 1: 暗褐色土 (黄色味をおび、黄色土粒ややまじる)
- 2: 暗褐色土 (黄色味をおび、黄色土粒・焼土少量まじる)
- 3: 暗褐色土 (黄色味をおび、焼土少量まじる)
- 4: 暗黄褐色土 (褐色味をおびる)
- 5: 焼土



- 1: 暗黄褐色土 (褐色味をおび、黄色土・赤色小粒少量まじり、黄色小粒まじる)
- 2: 暗黄褐色土 (黄色土まじる)
- 3: 暗黄褐色土 (褐色味をおび、黄色土粒ややまじる)
- 4: 暗黄褐色土 (黄色土粒まじる)
- 5: 暗黄褐色土 (暗褐色土まじり、黄色土粒ややまじり、赤色小粒少量まじる)
- 6: 暗黄褐色土 (黄色土・暗褐色土少量まじる)
- 7: 暗黄褐色土



- 1: 暗黄褐色土 (黄色小粒少量まじる)
- 2: 暗黄褐色土 (赤色小粒少量まじる)
- 3: 暗黄褐色土 (黄色土粒・黄色小粒ややまじる)
- 4: 暗黄褐色土 (褐色味をおびる)
- 5: 暗黄褐色土 (黄色土粒少量まじり、黄色小粒ややまじる)
- 6: カクラン

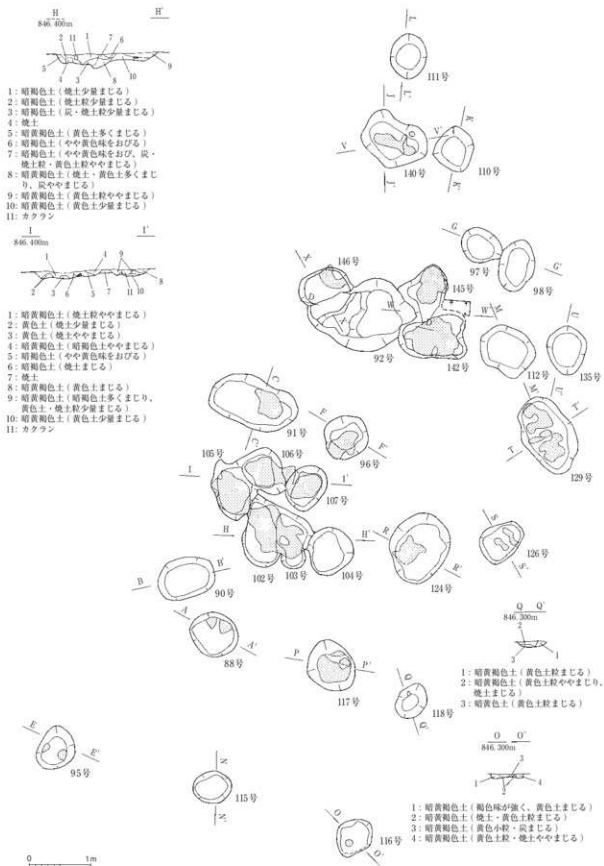


- 1: 暗黄色土 (黄色土粒少量まじる)
- 2: 暗黄褐色土 (焼土まじり、黄色小粒ややまじる)
- 3: 暗黄褐色土 (黄色土まじる)
- 4: 暗黄色土 (黄色土粒ややまじる)
- 5: カクラン

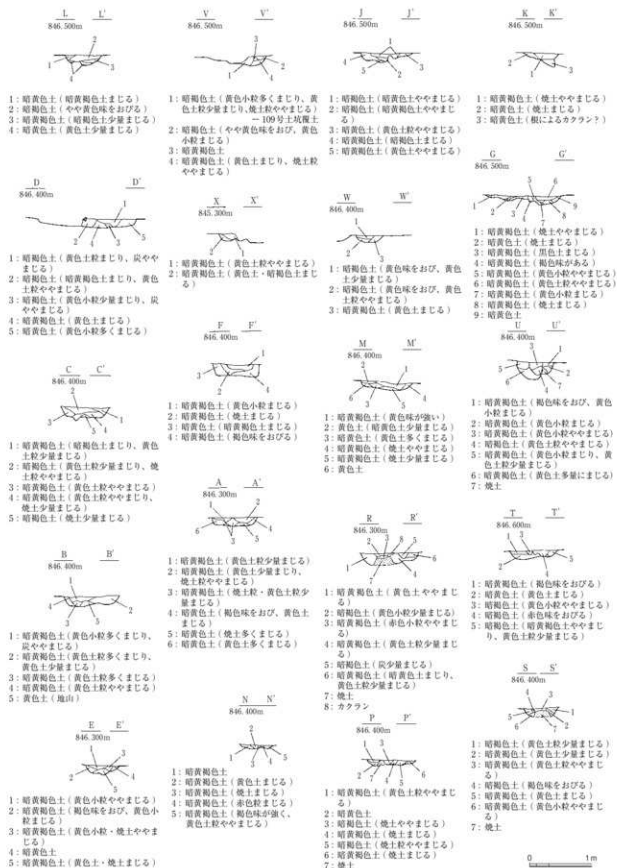
0 1m

第105図 土坑実測図 (14)

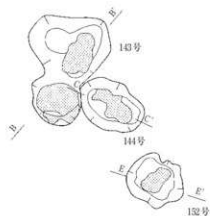
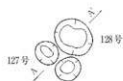
第1章 小田原道路の遺構と遺物



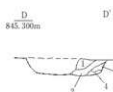
第106図 土坑実測図 (15)



第107圖 土坑実測圖 (16)



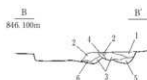
- 1: 暗褐色土 (黄色小粒少量まじる)
- 2: 暗黄褐色土 (黄色土粒ややまじる)
- 3: 暗褐色土 (褐色味が強く、黄色小粒ややまじる)
- 4: 暗黄褐色土 (暗褐色土・黄色土粒ややまじる)
- 5: 暗褐色土 (暗黄褐色土まじり、黄色土粒ややまじる)



- 1: 暗褐色土 (黄色味をおび、黄色土粒ややまじる)
- 2: 暗褐色土 (黄色味をおび、暗黄褐色土少量まじり、黄色土粒ややまじる)
- 3: 暗黄褐色土 (灰ややまじり、暗黄褐色土少量まじる)
- 4: 暗黄色土 (暗黄褐色土まじる)



- 1: 暗黄褐色土 (暗褐色土ややまじる)
- 2: 暗褐色土
- 3: 暗黄褐色土 (褐色味をおび、黄色小粒少量まじる)
- 4: 暗黄褐色土 (褐色味をおび、焼土ややまじる)
- 5: 暗黄褐色土 (黄色小粒ややまじり、灰まじる)
- 6: 暗黄褐色土 (黄色小粒まじり、赤色小粒少量まじる)
- 7: カクラン



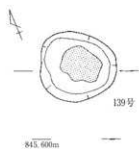
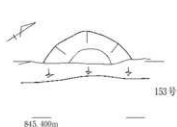
- 1: 暗黄褐色土 (黄色味をおびる)
- 2: 暗黄褐色土
- 3: 暗褐色土 (暗黄褐色土まじり、焼土ややまじる)
- 4: 焼土
- 5: 暗黄褐色土 (黄色土まじる)
- 6: 黄色土



- 1: 暗褐色土 (黄色味をおびる)
- 2: 暗褐色土 (黄色味をおび、黄色土まじる)
- 3: 暗黄褐色土 (暗黄褐色土まじり、焼土ややまじる)
- 4: 暗黄褐色土 (黄色土少量まじる)

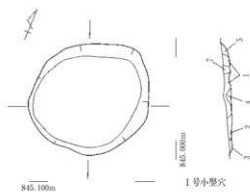
0 1m

第108図 土坑実測図 (17)

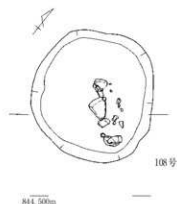


- 1: 第12号住居残土
 2: 暗褐色土(暗黄褐色土まじる)一第11号住居残土
 3: 暗褐色土(暗黄褐色土多くまじる)
 4: 暗褐色土(黄色土少量まじる)
 5: 暗黄褐色土(黄色土・暗褐色土まじる)
 6: 暗黄褐色土
 7: 暗褐色土(黄色土多くまじる)
 8: 暗黄褐色土(黄色土較・黄色土ややまじる)
 9: 黄色土(しまっている)

- 1: 暗褐色土(黄色味をおび、焼土較ややまじる)
 2: 暗褐色土(黄色味をおび、焼土較・黄色土較少量まじる)
 3: 暗褐色土(黄色味をおび、焼土較・黄色土較ややまじる)
 4: 焼土
 5: 黄色土



- 1: 暗褐色土(やや黄色味をおび、しまっている)
 2: 暗褐色土(灰ややまじる)
 3: 暗黄褐色土(ややわらかい)
 4: 暗黄褐色土(暗黄褐色土少量まじり、しまっている)
 5: 黄色土(堆山)
 6: 暗黄褐色土(黄色土較多くまじる)
 7: カクラン



- 1: 暗黄褐色土(黄色土少量まじる)
 2: 暗黄褐色土(暗褐色土多くまじる)
 3: 暗黄褐色土(暗黄褐色土ややまじる)
 4: 暗黄褐色土(黄色土まじる)
 5: 黄色土(ややわらかい)
 6: 暗褐色土(黄色土少量まじる)
 7: 暗褐色土(黄色味をおび、黄色土較少量まじる)
 8: 暗褐色土(黄色土較少量まじる)

横による
カクラン

0 1m

第109図 土坑、小堅穴実測図

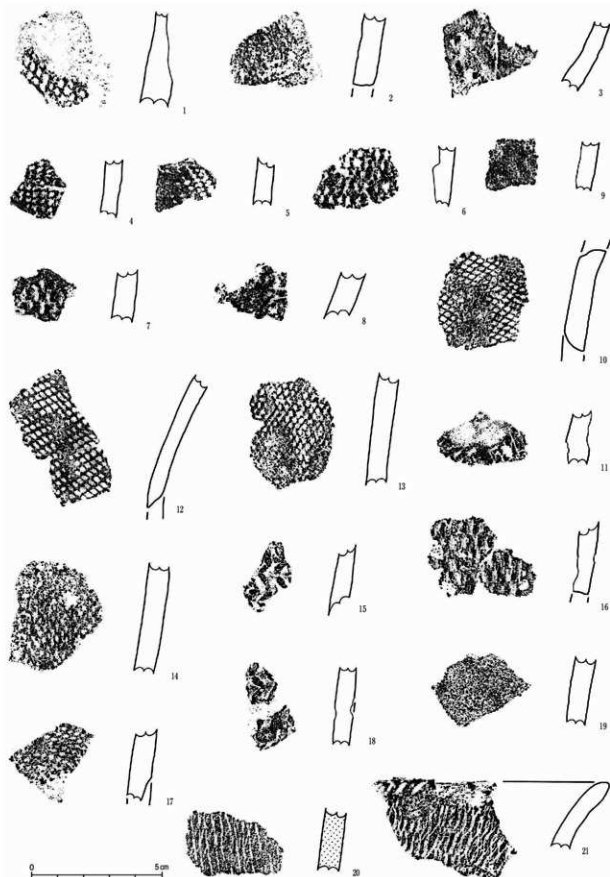
第1表 小田原遺跡土坑一覧

番号	出土位置	検出面				ビット		検出形態		所見	備考	
		上端		下端		直径	深さ	検出面	底部			
		長径	短径	長径	短径							
1	Kc09 7-14 Bc-5	0.72	0.70	0.74	0.70	0.06			円形	円形		
2	Kc09 7-14 Bc-5	1.68	1.52	0.50	0.48	1.02	0.22	0.20	不整円形	方形		墓とし穴
3	Kc09 7-14 Bq-10	1.92	1.88	0.72	0.52	1.03	0.20	0.30	円形	長方形		墓とし穴
4	Kc09 7-13 Bp-58	1.58	1.49	0.68	0.46	0.77	0.18	0.35	楕円形	長方形		墓とし穴
5	Kc09 7-13 Bk-41	1.48	1.26	1.32	1.04	0.16			不整円形	不整円形		土坑?
6	Kc09 7-13 B1-41	1.80	1.50	1.64	1.20	0.19			不整円形	不整円形		土坑?
7	Kc09 7-14 B1-2	2.20	2.20	0.60	0.54	1.05	0.20	0.38	円形	方形		墓とし穴
8	Kc09 7-14 B1-0	2.44	2.22	0.66	0.60	1.34	0.22	0.41	不整円形	方形		墓とし穴
9	Kc09 7-13 Bc-44	1.32	1.12	0.72	0.56	0.71	0.22	0.06	楕円形	長方形		墓とし穴
10	Kc09 7-13 Bc-45	2.34	2.10	0.60	0.54	1.13	0.24	0.20	不整円形	方形		墓とし穴
11	Kc09 7-13 Bk-5	1.32	1.14	1.04	0.72	0.19			不整円形	不整円形		
12	Kc09 7-14 Bc-13	2.08	1.98	0.60	0.60	0.90	0.26	0.13	円形	方形		墓とし穴
13	Kc09 7-14 Bc-14	1.40	1.16	0.72	0.52	0.67	0.16	0.30	楕円形	長方形		墓とし穴
14	Kc09 7-14 Bc-11	1.22	0.50	0.70	0.36	0.26			楕円形	楕円形		22土、16土と重複
15	Kc09 7-14 Bd-12	1.16	0.90	0.30	0.14	0.20			不整円形	楕円形		プラン不整形、底部に焼土あり
16	Kc09 7-14 Bc-12	0.72	0.60	0.56	0.46	0.11			楕円形	楕円形		埋出土
17	Kc09 7-14 B1-0	0.66	0.56	0.26	0.20	0.16			円形	円形		底部・貝殻に焼土あり
18	Kc09 7-14 B1-12	0.76	0.62	0.46	0.32	0.90			不整円形	楕円形		底部に焼土あり
19	Kc09 7-14 B1-12	0.50	0.34	0.10	0.08	0.11			楕円形	円形		2基重複
					0.14	0.08				楕円形		
20	Kc09 7-14 B1-13	0.90	0.72	0.30	0.28	0.19			楕円形	楕円形		底部に焼土あり
21	Kc09 7-14 Bq-13	0.70	0.66	0.58	0.32	0.14			円形	楕円形		底部・貝殻に焼土あり
22	Kc09 7-14 Bc-11	0.68	0.58	0.54	0.21	0.08			不整円形	楕円形		13土と重複、土層断面図なし
23	Kc09 7-14 Bq-13	0.54	0.48	0.23	0.16	0.14			円形	楕円形		底部・貝殻全面焼土
24	Kc09 7-14 B1-13	0.60	0.52	0.28	0.23	0.17			円形	円形		土坑平面に焼土あり
25	Kc09 7-14 Bc-11	0.76	0.56	0.57	0.40	0.14			不整円形	不整円形		
26	Kc09 7-14 Bq-5	1.44	1.26	0.72	0.52	0.64	0.04	0.04	不整楕円形	長方形		墓とし穴
27	Kc09 7-14 B1-8	1.54	0.84	1.10	0.55	0.17			不整楕円形	楕円形		
28	Kc09 7-14 Bq-7	1.48	1.26	1.08	0.76	0.45			楕円形	楕円形		埋出土
29	Kc09 7-14 Bc-10	1.00	0.84	0.80	0.71	0.21			不整円形	不整円形		
30	Kc09 7-14 Bc-10	0.85	0.66	0.64	0.46	0.18			不整円形	不整円形		
31	Kc09 7-13 Bc-48	1.40	1.00	1.11	0.90	0.27			不整方形	不整方形		底部に焼土あり、埋出土
32	Kc09 7-13 Bc-49	1.42	1.01	0.60	0.43	0.36			楕円形	不整円形		埋出土
33	Kc09 7-13 Ay-14	1.52	1.08	1.26	0.90	0.18			不整楕円形	不整楕円形		埋出土
34												欠番、30土坑と同じ
35	Kc09 7-14 Bc-11		0.62		0.32	0.17			不整楕円形	不整楕円形		5位と重複
36	Kc09 7-13 Bc-45	1.44	1.10	1.16	0.72	0.26			楕円形	楕円形		断面より片状
37	Kc09 7-13 B1-47	1.12	1.06	0.70	0.62	0.94			円形	方形		墓とし穴
38	Kc09 7-13 A1-30	1.42	1.26	1.12	0.70	0.16			不整円形	不整円形		
39	Kc09 7-13 Ak-31	1.30	0.92	0.94	0.34	0.18			楕円形	楕円形		
40	Kc09 7-13 Am-23	1.18	1.18	1.06	1.04	0.40			円形	円形		断面図状
41	Kc09 7-13 Aq-32	1.62	1.25	1.14	0.54	0.94			楕円形	楕円形		墓とし穴
42	Kc09 7-13 Ag-32	1.54	0.88	1.12	0.74	0.15			楕円形	楕円形		
43	Kc09 7-14 Av-13	1.27	0.87	1.02	0.47	0.18			不整楕円形	不整楕円形		
44	Kc09 7-13 An-31	1.30	1.20	0.12	0.12	0.16			楕円形	楕円形		底部に2箇所
				0.12	0.20	0.13						
45	Kc09 7-13 Am-34	1.60	1.46	0.57	0.56	0.82			円形	円形		壁一部張り出しあり
46	Kc09 7-13 Ak-43	0.52	0.46	0.40	0.33	0.08			円形	円形		断面図なし
47	Kc09 7-13 Am-42	1.10	1.02	1.00	0.88	0.22			円形	円形		断面図状
48	Kc09 7-13 Am-44	0.91	0.70	0.73	0.52	0.15			不整楕円形	不整楕円形		
49	Kc09 7-13 Ak-42	0.95	0.97		0.73	0.22			楕円形	楕円形		円形土坑と重複
50	Kc09 7-13 Ak-45	1.12	0.85	0.46	0.44	0.16			不整楕円形	円形		底部に焼土あり

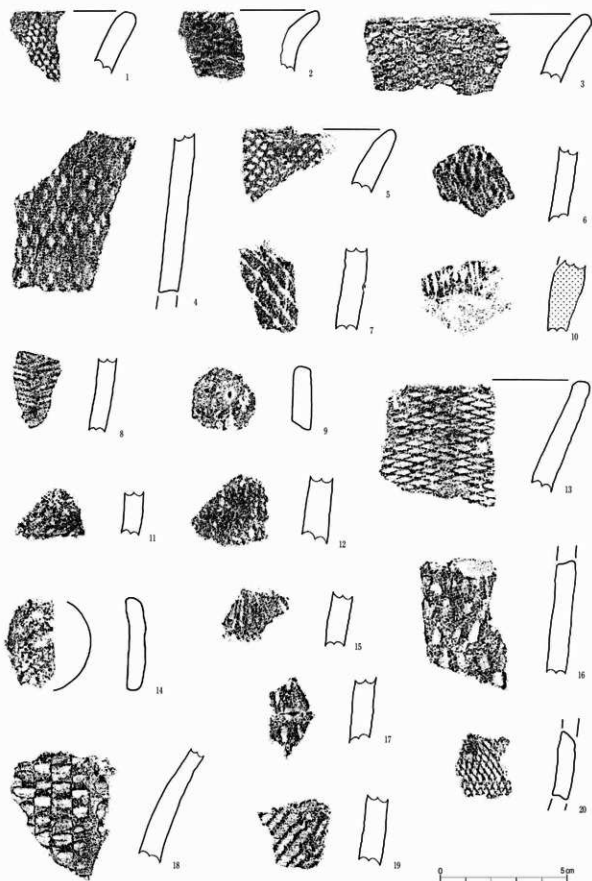
番号	出土位置	検 出 面				ピット		検 出 形 態		所 見	備 考
		上 端	下 端	深さ	直 径	深さ	検 出 面	底 部			
		長径	短径						長径		
51	Kc09 7-13 Ak-44	0.68	0.66	0.47	0.46	0.13		不整円形	不整円形		
52	Kc09 7-13 Ah-45	0.68	0.58	0.39	0.30	0.18		不整円形	不整円形		
53	Kc09 7-13 Ah-45	0.63	0.53	0.40	0.30	0.08		不整円形	不整円形	底部から葉状にかけで出土あり	
54	Kc09 7-13 Ai-43	0.48	0.38	0.35	0.23	0.14		不整楕円形	不整楕円形		
55	Kc09 7-13 Ai-43	0.82	0.73	0.58	0.42	0.15		不整円形	不整円形		
56	Kc09 7-13 Ah-54	0.60	0.60	0.60	0.39	0.19		楕円形	楕円形		円形土坑と重複
57	Kc09 7-13 Af-41	0.87	0.73	0.56	0.45	0.17		楕円形	楕円形	底部に出土あり	
58	Kc09 7-13 Ag-40	0.98	0.76	0.75	0.58	0.15		楕円形	楕円形	底部に一部出土あり	
59	Kc09 7-13 Ai-47	1.42	1.22	1.14	0.96	0.22		不整円形	不整円形		
60	Kc09 7-13 Af-49	0.88	0.88	0.60	0.60	0.12		不整方形	方形		
61	Kc09 7-14 Ak-1	1.02	1.02	0.85	0.73	0.28		円形	円形	断面袋状	150 土と重複
62	Kc09 7-14 Ai-1	1.18	0.82	0.81	0.54	0.16		楕円形	楕円形		151 土と重複
63	Kc09 7-13 Ag-44	1.11	0.66	0.96	0.54	0.13		不整楕円形	不整楕円形	底部に一部出土あり	
64	Kc09 7-13 Ag-46	0.92	0.76	0.18	0.16	0.16		不整円形	不整方形	底部付近に出土あり	円形土坑・65 土と重複
65	Kc09 7-13 Ag-46	1.02	0.73	0.82	0.54	0.07		楕円形	楕円形	底部に出土あり	66 土・64 土と重複
66	Kc09 7-13 Ag-46	0.60	0.52	0.45	0.25	0.12		不整円形	楕円形		65 土と重複
67	Kc09 7-13 Ag-45	0.76	0.38	0.30	0.25	0.16		楕円形	不整方形	底部に出土あり	
68	Kc09 7-13 An-47	1.10	0.80	0.96	0.52	0.14		楕円形	楕円形	底部に出土あり	
69	Kc09 7-14 Ai-0	1.22	1.00	0.86	0.76	0.13		不整円形	不整円形	底部に一部出土あり	
70	Kc09 7-13 Ap-41	0.82	0.74	0.50	0.42	0.14		円形	円形		後期土器出土
71	Kc09 7-13 Af-48	0.98	0.58	0.60	0.36	0.05		楕円形	楕円形	壁面面に出土あり	
72	Kc09 7-13 Ae-48	0.90	0.86	0.70	0.68	0.08		不整方形	不整方形	壁付近に一部出土あり	
73	Kc09 7-13 Ad-47	0.94	0.78	0.73	0.66	0.11		楕円形	楕円形	底部に一部出土あり	
74	Kc09 7-14 Ai-0	0.94	0.62	0.48	0.42	0.20		楕円形	円形		不整形土坑と重複
75	Kc09 7-13 Ai-46	0.60	0.46	0.40	0.40	0.11		不整円形	隅丸方形	底部に一部出土あり	
76	Kc09 7-13 Ae-42	0.78	0.50	0.47	0.30	0.11		楕円形	楕円形		
77	Kc09 7-13 Ai-42	0.58	0.50	0.46	0.35	0.10		円形	円形	断面図なし	
78	Kc09 7-13 An-46	0.80	0.66	0.68	0.38	0.08		楕円形	楕円形	底部に一部出土あり	
79	Kc09 7-13 An-44	0.75	0.66	0.46	0.22	0.26		不整方形	不整方形		円形土坑・80 土と重複
80	Kc09 7-13 An-45	0.63	0.61	0.42	0.22	0.11		円形	楕円形	底部周辺に出土あり	79 土と重複
81	Kc09 7-13 Ah-43	0.77	0.66	0.42	0.42	0.10		円形	円形		
82	Kc09 7-13 Ai-42	0.57	0.54	0.36	0.36	0.13		円形	円形	底部に出土あり	
83	Kc09 7-13 Ae-49	1.04	0.70	0.90	0.52	0.17		楕円形	楕円形	底部に一部出土あり	
84	Kc09 7-13 Ab-49	0.88	0.50	0.64	0.22	0.08		不整楕円形	不整楕円形	底部に出土あり	
85	Kc09 7-13 Ap-47	0.66	0.58	0.50	0.42	0.18		円形	円形		
86	Kc09 7-13 Ap-47	0.95	0.66	0.84	0.54	0.07		不整楕円形	不整楕円形	底部に一部出土あり	2 重複か?
87	Kc09 7-13 Ap-48	0.64	0.56	0.50	0.44	0.09		円形	円形	底部に一部出土あり	
88	Kc09 7-13 Ao-49	0.78	0.54	0.56	0.56	0.15		円形	不整円形	底部に一部出土あり	
89	Kc09 7-13 Ao-46	0.76	0.54	0.70	0.40	0.24		楕円形	楕円形		
90	Kc09 7-13 Ap-49	0.92	0.65	0.73	0.46	0.16		楕円形	楕円形		
91	Kc09 7-14 Aq-0	1.40	0.74	1.20	0.56	0.12		楕円形	楕円形	底部に一部出土あり	
92	Kc09 7-14 Ar-0	1.18	0.70	0.64	0.14			不整円形	不整円形		142 土・143 土・146 土・50 号出土と重複
93	Kc09 7-13 Ae-43	0.63	0.55	0.44	0.37	0.09		円形	円形		
94	Kc09 7-13 Ae-42	0.60	0.50	0.42	0.30	0.08		不整円形	不整円形	底部に一部出土あり	
95	Kc09 7-13 An-48	0.69	0.56	0.46	0.36	0.11		不整円形	円形	底部に一部出土あり	
96	Kc09 7-14 Aq-2	0.76	0.66	0.48	0.34	0.20		円形	不整円形	底部から壁の一部に出土あり	
97	Kc09 7-14 Ar-1	0.68	0.54	0.48	0.35	0.07		楕円形	楕円形		96 土と重複
98	Kc09 7-14 Ar-2	0.84	0.58	0.62	0.32	0.13		楕円形	楕円形		97 土と重複
99	Kc09 7-14 Ar-2	0.78	0.58	0.46	0.38	0.11		不整円形	不整円形		
100	Kc09 7-06 Bn-29	1.42	0.90	1.16	0.44	0.67		楕円形	長方形		溝とし穴
101	Kc09 7-06 Bn-43	1.11	0.94	0.66	0.53	0.92		円形	円形		溝とし穴
102	Kc09 7-14 Ap-0	1.14	0.94	0.11				楕円形	楕円形	底部に一部出土あり	103 土と 105 土と重複

第1章 小田原道路の遺構と遺物

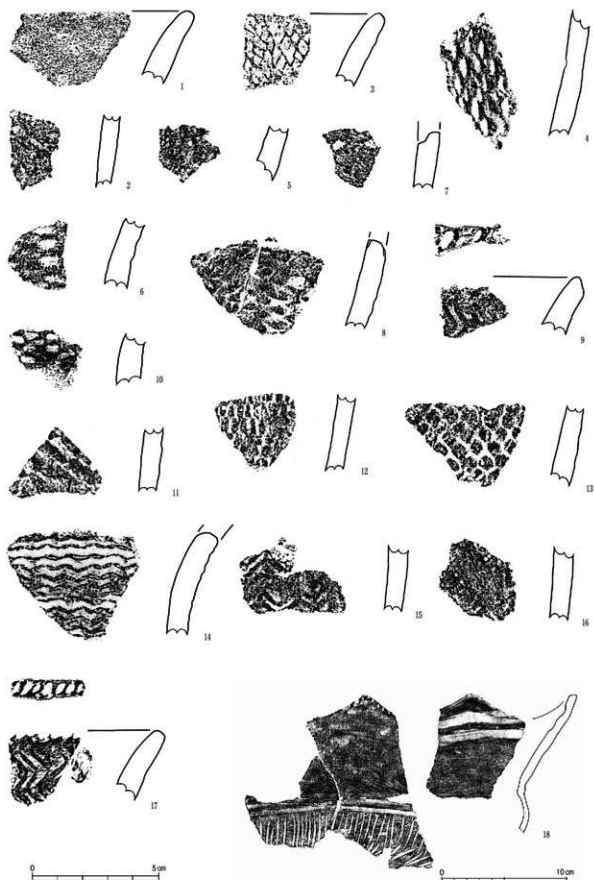
番号	出土位置	検出面			ビット		検出形態		所見	備考	
		上端	下端	深さ	直径	深さ	検出面	底部			
		長径 短径	長径 短径								
103	Ke09 7-14 Ap-0	0.90	0.78	0.18			不要円形	不要円形	底部に焼土あり	102 土と 104 土と重複	
104	Ke09 7-14 Ap-0	0.76	0.70	0.64	0.48	0.13		円形	不要円形		102 土と重複
105	Ke09 7-13 Ap-49	1.00		0.70		0.08		楕円形	楕円形	底部から中に焼土あり	102 土と 106 土と重複
106	Ke09 7-14 Aq-0	0.80		0.56		0.10		楕円形	楕円形	底部から中に焼土あり	105 土と 107 土と重複
107	Ke09 7-14 Aq-0	0.71	0.58	0.60	0.40	0.09		楕円形	楕円形	底部から中に焼土あり	
108	Ke09 7-21 Br-23	2.06	1.98	1.64	1.62	0.24		円形	円形	礫出土	
109	Ke09 7-14 As-2	0.95	0.66	0.62	0.44	0.10		不要円形	不要円形	底部に一部焼土あり	140 土と重複
110	Ke09 7-14 As-2	0.64	0.60	0.40	0.28	0.12		不要方形	不要方形		
111	Ke09 7-14 Ar-1	0.72	0.56	0.42	0.40	0.12		不要楕円形	不要長方形		
112	Ke09 7-14 Ar-2	0.88	0.70	0.66	0.48	0.10		楕円形	楕円形		
113	Ke09 7-13 Am-45	0.54	0.44	0.42	0.22	0.06		楕円形	楕円形	底部に一部焼土あり	
114	Ke09 7-14 As-3	0.76		0.52		0.18		不要円形	不要円形		141 土と重複
115	Ke09 7-13 An-49	0.62	0.52	0.52	0.34	0.07		円形	楕円形		
116	Ke09 7-14 An-0	0.58	0.52	0.44	0.42	0.05		不要方形	不要方形	底部に一部焼土あり	
117	Ke09 7-14 An-0	0.84	0.70	0.56	0.54	0.10		不要円形	不要円形	底部に焼土あり	
118	Ke09 7-14 An-2	0.60	0.44	0.52	0.20	0.07		楕円形	楕円形		
119	Ke09 7-14 An-1	0.42	0.35	0.26	0.24	0.08		円形	円形		
120	Ke09 7-14 An-0	0.50	0.38	0.36	0.26	0.08		楕円形	楕円形	底部に焼土あり	
121	Ke09 7-13 A1-49	0.56	0.40	0.32	0.28	0.05		不要楕円形	不要円形		
122	Ke09 7-13 A1-48	0.46	0.36	0.26	0.20	0.08		楕円形	楕円形		
123	Ke09 7-13 Am-48	0.53	0.42	0.32	0.28	0.04		楕円形	円形	底部に焼土あり	
124	Ke09 7-14 Ap-1	1.06	0.92	0.96	0.69	0.15		不要円形	不要円形	底部に一部焼土あり	
125	Ke09 7-14 A1-2	1.56	0.92	0.92	0.37	0.24		楕円形	楕円形	底部に一部焼土あり	
126	Ke09 7-14 Ap-2	0.74	0.54	0.62	0.40	0.10		楕円形	楕円形	底部に一部焼土あり	
127	Ke09 7-14 An-3	0.40	0.36	0.24	0.13	0.12		円形	楕円形		
128	Ke09 7-14 An-3	0.65	0.56	0.44	0.29	0.13		円形	不要円形		
129	Ke09 7-14 Aq-2	1.30	0.80	1.12	0.64	0.09		楕円形	楕円形	底部に焼土あり	
130	Ke09 7-14 A1-1	0.56	0.46	0.32	0.25	0.18		不要円形	不要円形	底部に一部焼土あり	
131	Ke09 7-14 Ak-1	0.88	0.82	0.58	0.48	0.11		円形	不要円形	底部に一部焼土あり	
132	Ke09 7-14 Ar-4	0.60	0.56	0.40	0.24	0.11		不要方形	不要方形		
133	Ke09 7-14 Ar-4	0.72	0.62	0.52	0.44	0.10		円形	円形	底部に焼土あり	
134	Ke09 7-14 Ar-3	1.06	0.80	0.88	0.64	0.14		楕円形	楕円形	底部に一部焼土あり	
135	Ke09 7-14 Ar-2	0.78	0.60	0.54	0.45	0.28		楕円形	楕円形		
136	Ke09 7-13 Aj-46	0.84	0.84	0.54	0.46	0.06		方形	不要方形	周囲に焼土あり	137 土と重複
137	Ke09 7-13 Ak-46	0.60		0.42		0.07		不要円形	不要円形	底部に焼土あり	136 土と重複
138	Ke09 7-14 Ad-0	1.04	0.86	0.88	0.64	0.10		楕円形	楕円形	底部に一部焼土あり	不要粗土灰土と重複
139	Ke09 7-14 Ad-1	1.20	1.10	1.06	0.96	0.18		不要円形	不要円形	底部に一部焼土あり	
140	Ke09 7-14 As-2	0.58		0.26		0.12		不要円形	不要円形	底部に一部焼土あり	
141	Ke09 7-14 As-3	0.80	0.71	0.38	0.06	0.26		不要円形	不要円形	底部周辺一部焼土あり	114 土と重複
142	Ke09 7-14 Ar-1	1.04		0.86	0.60	0.04		楕円形	楕円形	底部に焼土あり	92 土と 145 土と重複
143	Ke09 7-14 An-6			0.90	0.88			楕円形	楕円形	底部に焼土あり	71 集石、41 集石と重複
144	Ke09 7-14 Am-6	1.10	0.78	0.90	0.46	0.13		楕円形	楕円形	底部に焼土あり	71 集石と重複
145	Ke09 7-14 Ar-1	0.75		0.58	0.44	0.12		不要円形	不要円形	底部に一部焼土あり	92 土と 142 土と隣接
146	Ke09 7-14 Ar-0	0.82		0.68	0.44	0.11		楕円形	楕円形	底部に一部焼土あり	50 集石と重複
147	Ke09 7-14 Ak-1	1.50	0.66	0.90	0.36	0.20		楕円形	不要方形	底部に一部焼土あり	148 土と隣接
148	Ke09 7-14 Ak-0	0.98	0.82	0.58	0.54	0.19		円形	円形	底部に一部焼土あり	61 土と円形1号と重複、147 土と隣接
149	Ke09 7-14 Am-4	1.36	1.12	0.88	0.84	0.23		不要方形	不要方形		
150	Ke09 7-14 Ak-1	0.78		0.62		0.16		不要円形	不要円形	底部に一部焼土あり	61 土と重複
151	Ke09 7-14 Aj-1			0.66		0.36	0.14		不要円形	不要円形	62 土と重複
152	Ke09 7-14 Am-6	0.94	0.71	0.64	0.52	0.11		不要円形	不要方形	底部に一部焼土あり	
153	Ke09 7-14 Ar-4	0.50		0.24		0.04		不要円形	不要円形		落とし穴



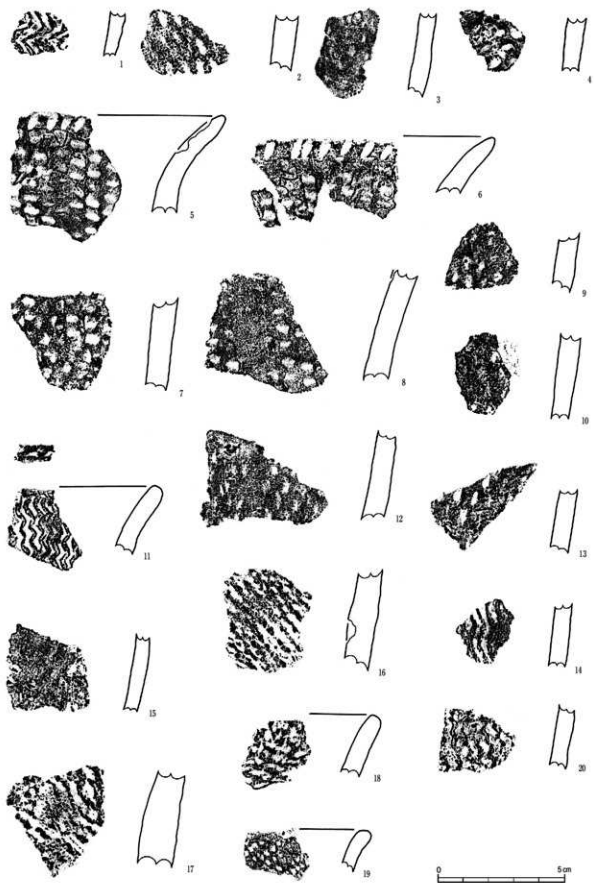
第110图 土坑出土遗物 (1) (1:3土, 2-5:10土, 3:12土, 4:14土, 6:17土, 7:18土, 8:27土, 9-11:28土, 12-21:31土)



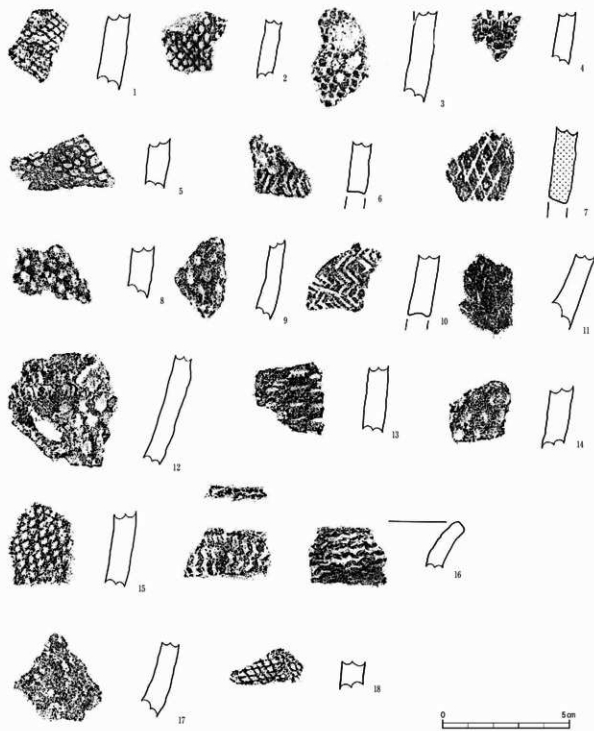
第111図 土坑出土遺物 (2) (1~10:32土, 11~13:33土, 14:35土, 15:47土, 16~18:49土, 19:50土, 20:56土)



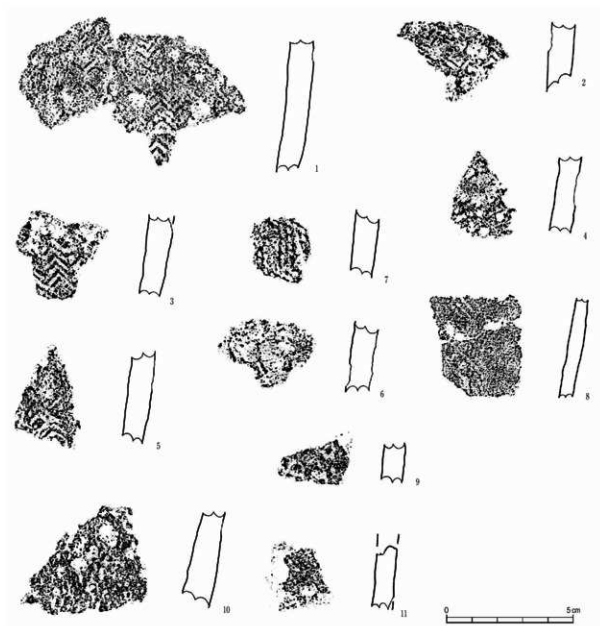
第112圖 土坑出土遺物 (3) (1:43土, 2:60土, 3:61土, 4:62土, 5:69土, 6:80土, 7~9:92土, 10:87土, 11:90土, 12~13:98土, 14:96土, 15~17:92土, 18:70土)



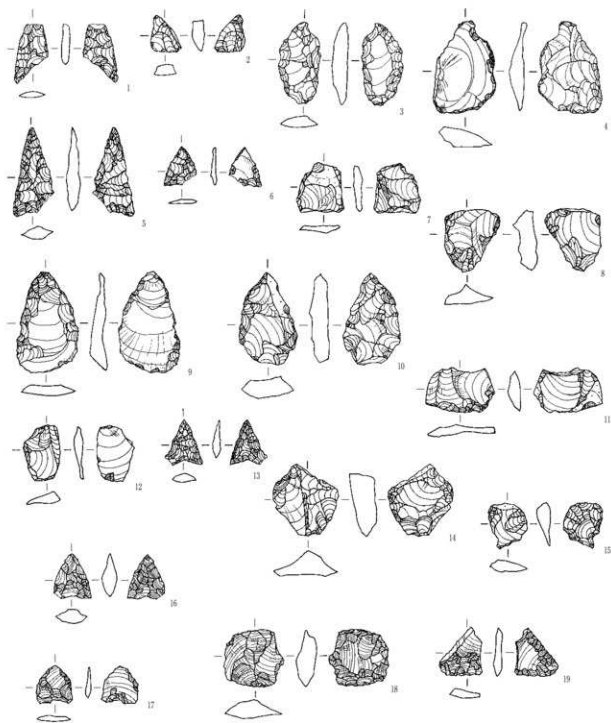
第113圖 土坑出土遺物 (4) (1: 95土, 2: 99土, 3~10: 102土, 11~12: 104土, 13~14: 105土, 15: 108土, 16: 114土, 17: 145土, 18: 133土, 19: 136土, 20: 139土)



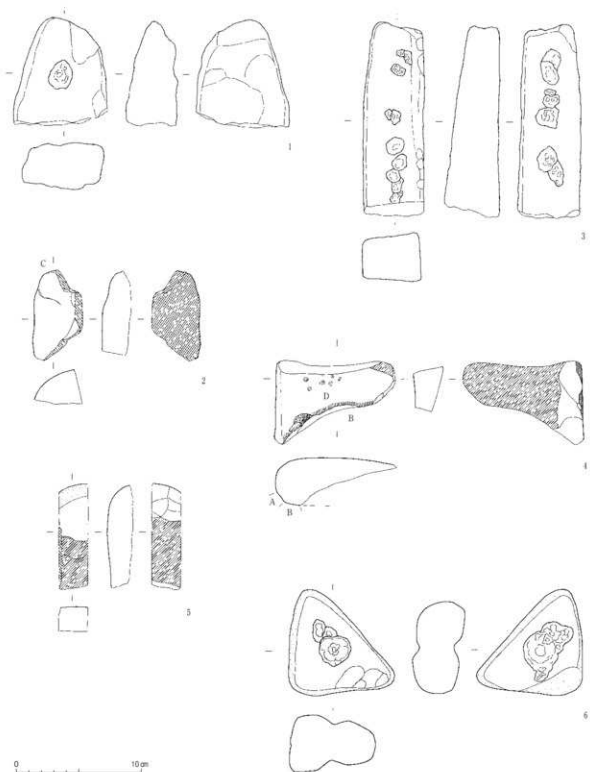
第114图 土坑出土遺物 (5) (1~7:125土, 8~11:129土, 12~14:142土, 15~16:144土, 17~18:147土)



第115図 土坑出土遺物 (6) (109±)



第116图 土坑出土遗物 (7) (1: 10土, 2: 12土, 3: 28土, 4: 33土, 5-6: 61土, 7: 102土, 8: 117土, 9: 74土, 10: 108土, 11-12: 125土, 13: 127土, 14-15: 128土, 16: 142土, 17: 147土, 18-19: 149土.)



第117図 土坑出土遺物 (8) (1:16±, 2:38±, 3:27±, 4:61±, 5:125±, 6:149±)

3. 集石炉

合計74基出土しており、中には集石炉と考えるのは難しい遺構もあるが、現場での遺構番号の混乱を避けるためにあえて集石炉として番号をとっている。

集石炉にはサイコロ状の礫を平坦面を揃える形で敷いているものと、扁平な礫を使用している炉についてはその礫自体を使用して炉の形状を形作っているのがみられる。また、敷かれた石の上部に拳大の礫を入れている例も見られる。

第1号集石炉（第118図）

Kc09 7-14 Bb-7より出土している。直径70cmの平面円形の掘り込みがあり、その底部に扁平な礫を敷き、上部に角礫をのせている。

遺物（第132図）

第132図 1~14が出土している。格子目文（1~7）を中心に、網目文（8・9・11）や山形文（10）等の押型文が出土している。

第2号集石炉（第118図）

Kc09 7-14 Be-3から検出されている。直径約60cmの平面円形を呈し、底部と壁面に扁平な礫を組み、その中に若干の礫が入っていた。

遺物（第132図）

第132図 15~19が図示できた土器である。格子目文（15）、市松文（16）、網目状懸糸文（17）等が出土している。

第3号集石炉（第118図）

この集石炉はKc09 7-14 Bf-0から出土している。直径1.3mの平面円形を呈し、比較的扁平な礫を使用して形成されているが、厚く積み上げられている様子はなく、下には数点石が敷かれているのみであった。

第15号集石炉（第121図）

この集石炉はKc09 7-14 AW-2より出土している。扁平な礫を使用して直径60cm程の小規模な掘り込みの壁面に礫を立て、底部に礫を敷きつめて炉としている。このような構成の集石炉が13例出土している。

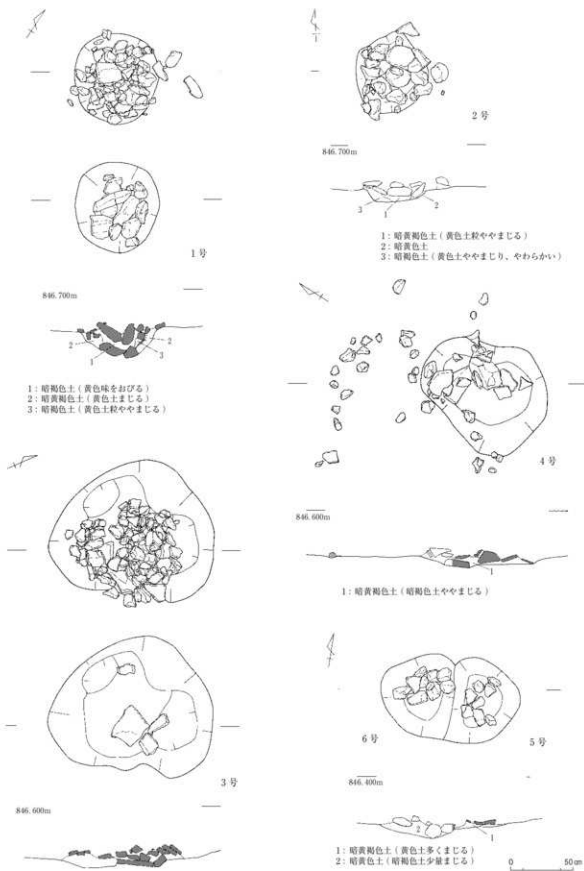
第17号集石炉（第122図）

Kc09 7-14 Ap-6より出土している。直径8cm程度の礫が集中しているが、底部に掘り込みが確認できず、集石炉というよりは集石としたほうが適切な遺構である。このような例は第62号集石炉が該当すると思われる。

第22号集石炉（第123図）

この遺構はKc09 7-14 Au-9から出土している。直径約1m、深さ約30cmの掘り込みに、方形の礫を上面が平坦になるように敷きつめ、その上に礫を積み上げている。このようなタイプの集石炉の出土例が5例確認されている。

第1章 小田原道路の遺構と遺物



第118図 集石如実測図 (1)



7号

846.400m



- 1: 暗褐色土 (黄色小粒多くまじる)
- 2: 暗褐色土 (黄色土少量まじる)
- 3: 暗褐色土 (暗褐色土まじる)

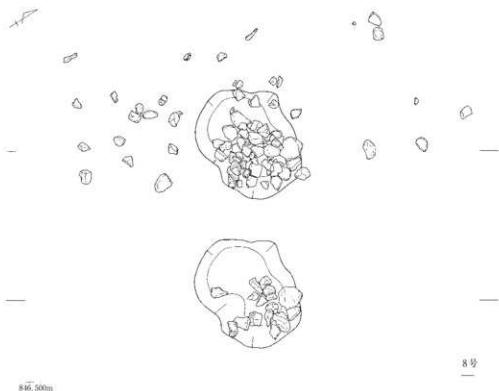


7号

846.400m



- 1: 暗褐色土 (カクラン)
- 2: 暗褐色土 (黄色味をおび、黄色土粒ややまじる)
- 3: 暗褐色土 (黄色小粒多くまじる)
- 4: 暗褐色土 (やや黄色味をおび、黄色土ややまじる)
- 5: 暗褐色土



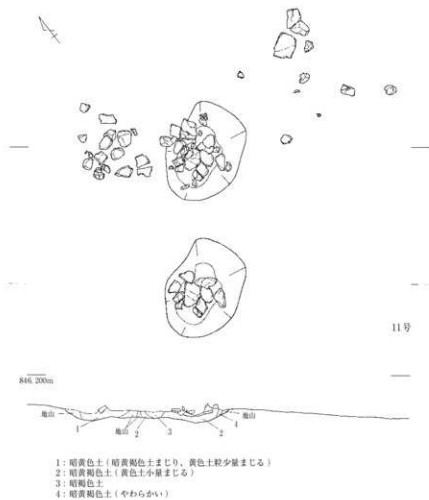
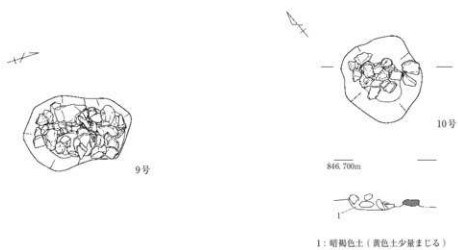
8号

846.500m

0 50cm

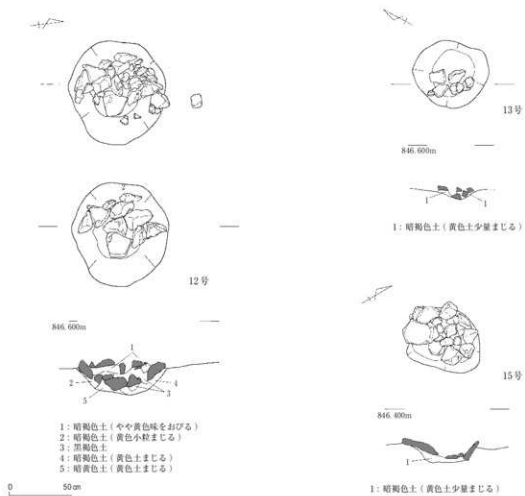
- 1: 暗褐色土 (黄色土粒少量まじる)
- 2: 暗褐色土 (黄色土少量まじる)

第119回 集石炉実測図 (2)



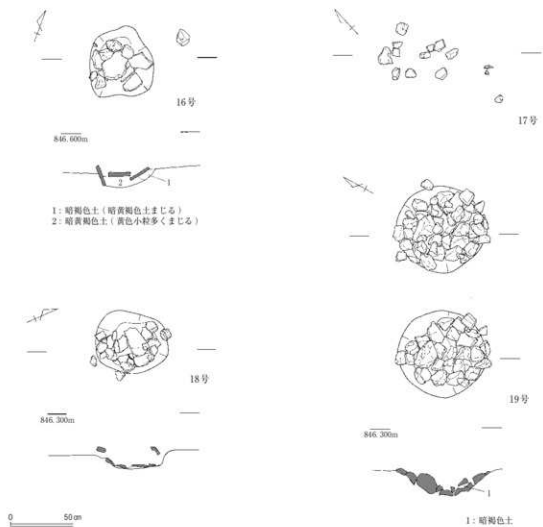
0 50cm

第120図 集石炉実測図 (3)



第121図 集石炉実測図 (4)

第1章 小田原道路の遺構と遺物



第122図 集石炉実測図 (5)

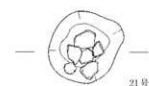


20号

846.300m



- 1: 暗黄色土
- 2: 黒褐色土
- 3: 暗黄褐色土
- 4: 暗褐色土



21号

846.400m



- 1: 暗褐色土
- 2: 暗褐色土(黄色味をおび、黄色土砂やまじる)



22号

846.400m



- 1: 暗褐色土(黄色土粒まじる)
- 2: 暗褐色土(暗黄褐色土ややまじる)
- 3: 暗黄褐色土(黄色土まじる)
- 4: 暗褐色土(黄色土・暗黄褐色土まじる)
- 5: 黄色土



23号

846.500m



0 50m

第123図 集石卵実測図 (6)

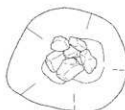
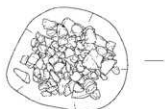


24号

846.400m



- 1: 暗褐色土 (黄色土少量まじる)
- 2: 暗褐色土 (黄色土まじる)
- 3: 暗黄褐色土 (暗褐色土まじる)
- 4: 暗褐色土
- 5: 暗褐色土 (黄色土ややまじる)
- 6: 暗黄色土



26号

846.300m



- 1: 暗黄色土 (黄色土較ややまじる)
- 2: 暗黄褐色土 (黄色土較ややまじる)
- 3: 暗褐色土 (黄色土少量まじる)
- 4: 暗褐色土 (黄色土・灰ややまじり、黄色土粒少量まじる)



25号

846.400m



- 1: 暗褐色土
- 2: 暗褐色土 (黄色土多くまじる)
- 3: 暗褐色土 (暗黄褐色土まじる)



27号

847.100m



- 1: 暗褐色土 (暗黄色土まじる)
- 2: 暗褐色土
- 3: 暗黄褐色土



28号

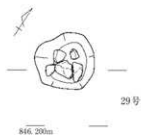
845.500m



- 1: 暗黄褐色土 (暗褐色土まじる)
- 2: 暗褐色土 (黒色珪をおび、黄色土粒まじる)
- 3: 暗黄色土
- 4: 暗褐色土 (黒色珪をおび、黄色土まじる)
- 5: 暗褐色土 (黄色土較ややまじり、灰まじる)

0 50m

第124図 集石如実測図 (7)

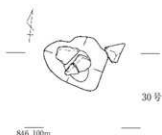


29号

846.200m



1: 暗黄褐色土 (黄色土多くまじる)

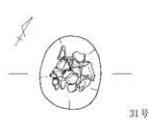


30号

846.100m

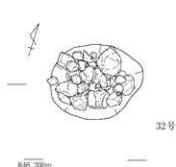


1: 暗褐色土 (黄色土少量まじる)
2: 暗黄褐色土



31号

846.100m



32号

846.200m



1: 暗黄褐色土 (しまっている)

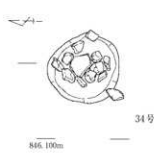


33号

845.900m



1: 暗黄色土 (黄色土まじる)
2: 暗黄褐色土 (黄色土ややまじる)

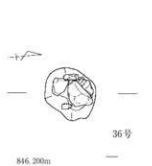


34号

846.100m



1: 暗褐色土



36号

846.200m



1: 暗黄褐色土 (黄色土ややまじる)
2: 暗褐色土 (黄色味をおびる)

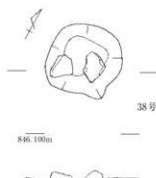


37号

845.600m



1: 暗褐色土
2: 暗黄褐色土 (黄色小粒多くまじる)
3: 暗黄褐色土 (黄色土粒ややまじる)



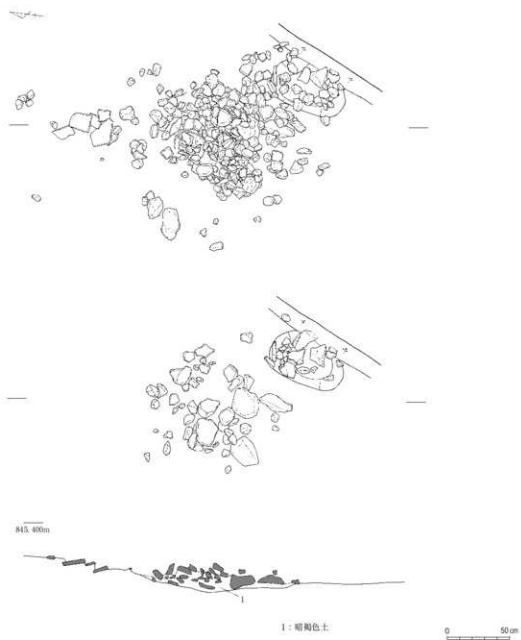
38号

846.100m

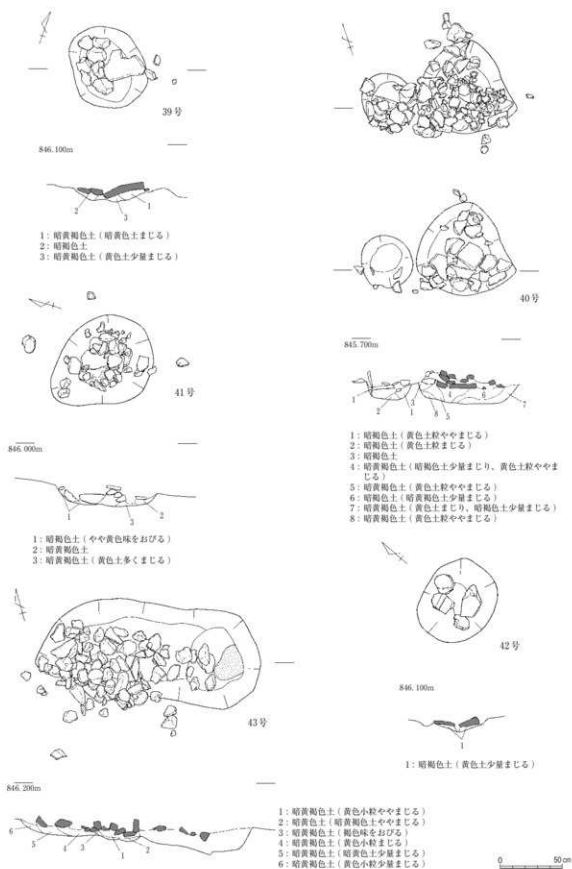


1: 暗褐色土 (黄色味をおびる)
2: 暗黄褐色土 (暗褐色土少量まじる)

0 50cm



第126図 集石炉実測図 (9) (第35集石炉)



第127図 集石炉実測図 (10)



44号



846.100m



- 1: 暗褐色土
- 2: 黄色土(暗褐色土まじる)
- 3: 暗褐色土
- 4: 暗褐色土(黄色土・炭やまじる)
- 5: 暗褐色土(黄色土ややまじる)
- 6: 暗褐色土(暗褐色土ややまじる)

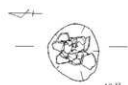


45号

846.000m



- 1: 黒褐色土(暗褐色土多くまじる)
- 2: 暗褐色土
- 3: 暗褐色土(黄色土まじる)



46号

846.200m



48号

846.200m



- 1: 暗褐色土(やや黄色味をおびる)



49号

846.100m



- 1: 暗褐色土
- 2: 暗褐色土(黄色土絞まじる)



47号

846.200m



- 1: 暗褐色土(黄色土多くまじる)



50号

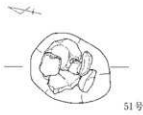
846.200m



- 1: 暗褐色土(黄色土ややまじる)
- 2: 暗褐色土(黄色土ややまじる)
- 3: 黄色土(暗褐色土まじる)
- 4: 暗褐色土(黄色土絞まじる)
- 5: 暗褐色土(黄土まじる)

0 50cm

3. 集石卵



51号

845.600m



- 1: 暗黄褐色土 (褐色味が強く、やわらかい)
- 2: 暗黄褐色土 (黄色土粒ややまじる)
- 3: 暗黄褐色土 (黄色土少量まじる)
- 4: 黄色土



52号

846.100m



- 1: 暗褐色土
- 2: 暗褐色土 (黄色土少量まじる)
- 3: 暗黄褐色土 (黄色土少量まじる)
- 4: 暗黄色土
- 5: 黄色土



53号

846.200m



- 1: 暗黄褐色土 (黄色土まじる)
- 2: 暗黄褐色土 (黄色土小粒多くまじる)



54号

846.300m



- 1: 暗黄褐色土 (やや黄色味をおびる)

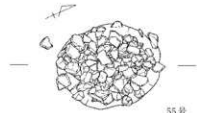


57号

846.300m



- 1: 暗褐色土
- 2: 黄土



55号

846.000m



- 1: 黒色土
- 2: 暗黄褐色土 (黄色土ややまじる)
- 3: 暗褐色土 (暗黄褐色土まじる)

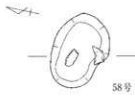


56号

846.000m



- 1: 暗褐色土
- 2: 暗褐色土 (黄色味をおびる)



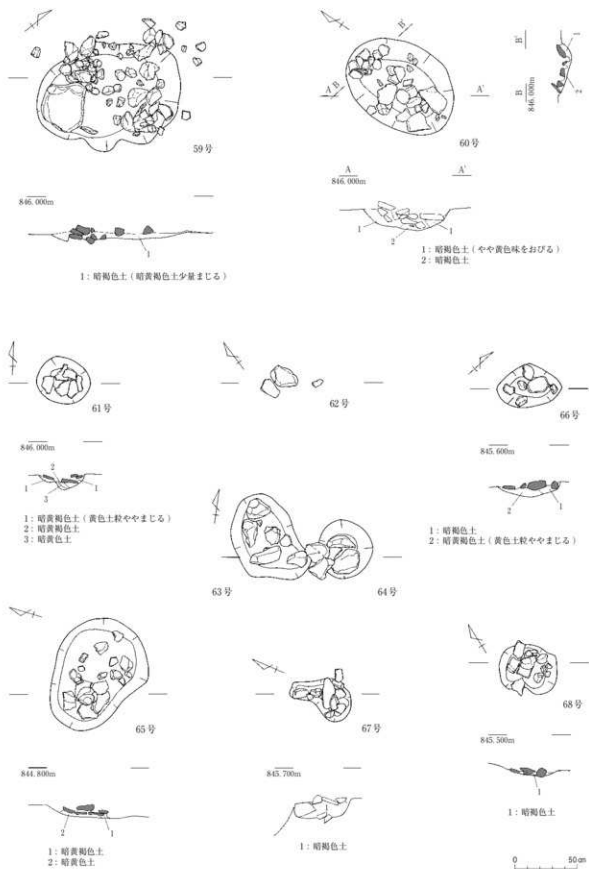
58号

846.200m



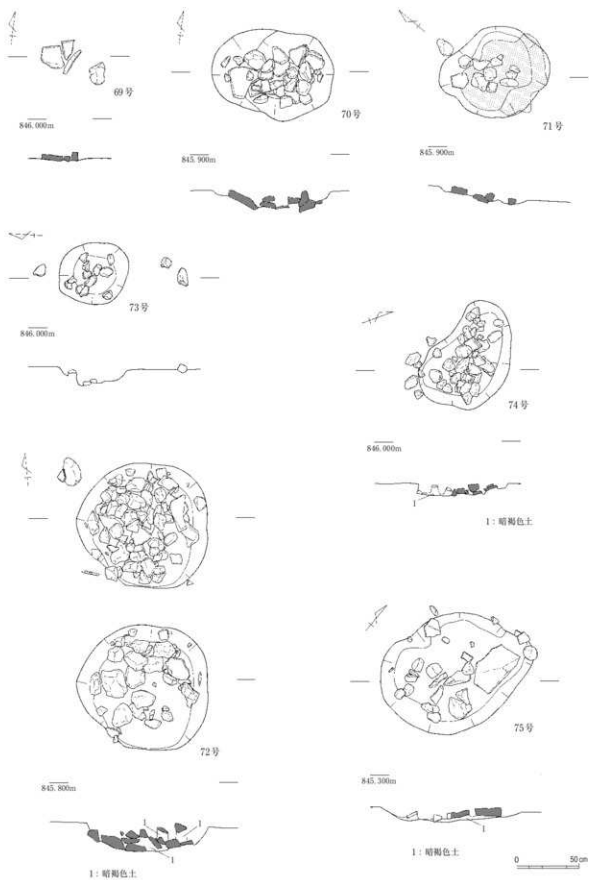
- 1: 暗黄褐色土 (暗黄色土まじる)
- 2: 暗黄褐色土 (暗褐色土まじる)

0 50m



第130図 集石炉実測図 (13)

3. 集石炉



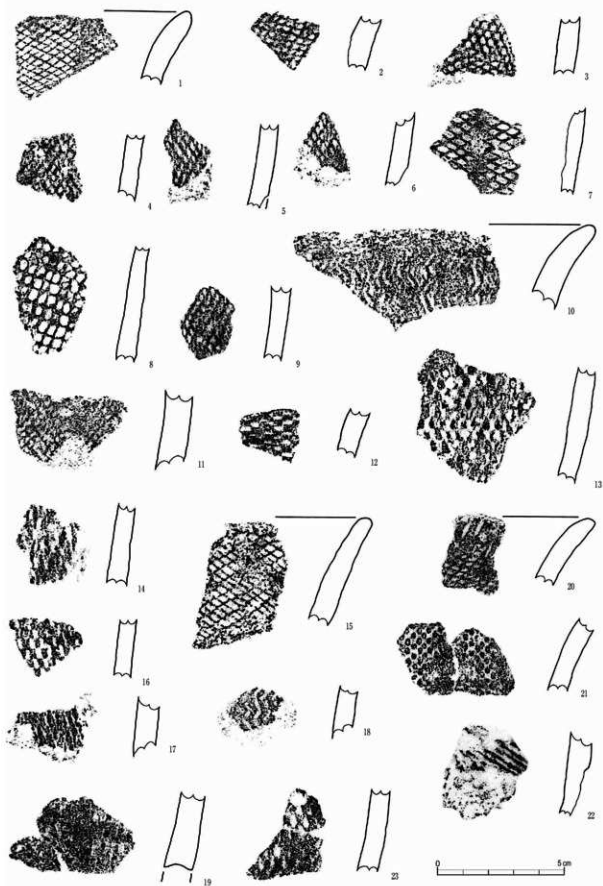
第131图 集石炉实测图 (14)

第2表 小田原遺跡集石¹⁾一覧表

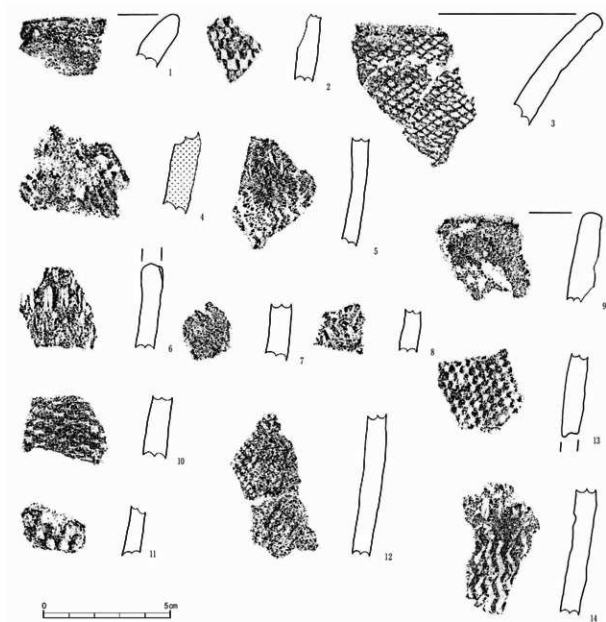
番号	出土位置	集石規模		掘形規模		掘形				掘型	備考	
		直径	深さ	直径	深さ	石数	石皿	敷石なし	集石			その他
1	Kc09 7-14 Bb- 7	φ 70×	30	φ 70×	20	○平					B1	
2	Kc09 7-14 Be- 3	70×60	10	65×60	10		○平				A	石皿上に少量石あり
3	Kc09 7-14 Bf- 0	80×90	18	130×102	8	○平					B1	敷石一部のみ
4	Kc09 7-14 Bf- 1	150×150	14	100×80	8				○?		D1	石敷在
5	Kc09 7-14 Aw- 4	40×25		68×(52)	4				○?		D1	掘形なし、6号集石が重複
6	Kc09 7-14 Av- 4	48×28		66×60	10				○?		C2	石敷在、5号集石が重複
7	Kc09 7-13 Bc-49	100×130		73×70	12		○平				A	上部に石少量あり
8	Kc09 7-13 Bd-49	70×50	20	94×64	10			○			C2	一部石敷き
9	Kc09 7-14 Ba- 7	70×60	?	86×32	?					○		用途不明、断面なし
10	Kc09 7-13 Bm-46	50×30		64×70	10				○		C2	少量の石
11	Kc09 7-14 Av- 4	50×40		78×60	8				○		C1	一部石敷在、掘形不明確
12	Kc09 7-14 Aw- 9	76×50 (50)×(70)	24	82×78	22	○角礎					B2	上部に石少量
13	Kc09 7-13 Bk-48	32×20		×						○	C2	少量の石のみ
14		×		×								
15	Kc09 7-14 Av- 2	60×46		60×48	14	○平					B1	
16	Kc09 7-14 Bb- 4	50×42		56×52	12		○				A	石敷のみ
17	Kc09 7-14 Ap- 6	102×30		×						○	D2	石敷在
18	Kc09 7-13 Ay-48	52×34		60×48	12						B1	石敷のみ
19	Kc09 7-13 Ay-47	70×50 (70) (52)		×	22	○角					B2	上に礎少量
20	Kc09 7-14 Ar- 4	42×30	20	52×46	20				○?		C2	底に平石あり
21	Kc09 7-14 Au- 6	50×40 (38) (30)	10	62×56	10	○平					B1	上に礎少量
22	Kc09 7-14 Au- 9	78×46 (76) (60)	24	104×86	30	○角					B2	上に礎あり
23	Kc09 7-14 Bq- 5	90×50	20	?	?							6住と重複、プラン不明
24	Kc09 7-13 Bc- 48	60×50 (54) (50)	20	105×81	22				○		C2	上に少量の礎
25	Kc09 7-14 Bq- 0	50×47		67×44	14				○		C2	石敷在
26	Kc09 7-13 Ax-49	79×62 (42) (42)	34	96×81	34	○角					B2	上部多量の礎
27	Kc09 7-14 Be- 5	50×25		61×53	8				○		C2	石少量
28	Kc09 7-13 A1-35	44×42		82×73	18				○		C2	石少量
29	Kc09 7-13 At-47	30×20		×					○		D1	平石並べたるのみ
30	Kc09 7-13 At-46			×		○平?					D1	石4点のみ
31	Kc09 7-13 At-44	36×30	12	57×48	12		○				A	
32	Kc09 7-13 Av-47	69×46 (-) (-)	19	73×60	18	○角					B2	敷石、平面図なし、上に礎あり
33	Kc09 7-13 A1-48	42×32		64×51	15		○				A	敷石のみ
34	Kc09 7-14 An- 5	46×36	10	54×36	8	○平					B1	敷石のみ
35	Kc09 7-14 Ac- 1	94×134		×						○	C2?	2基重複
36	Kc09 7-14 Ar- 8	36×22	6	46×36	7	○					B1	
37	Kc09 7-14 Ae- 0	60×52		100×80	15					○	C2	

3. 集石型

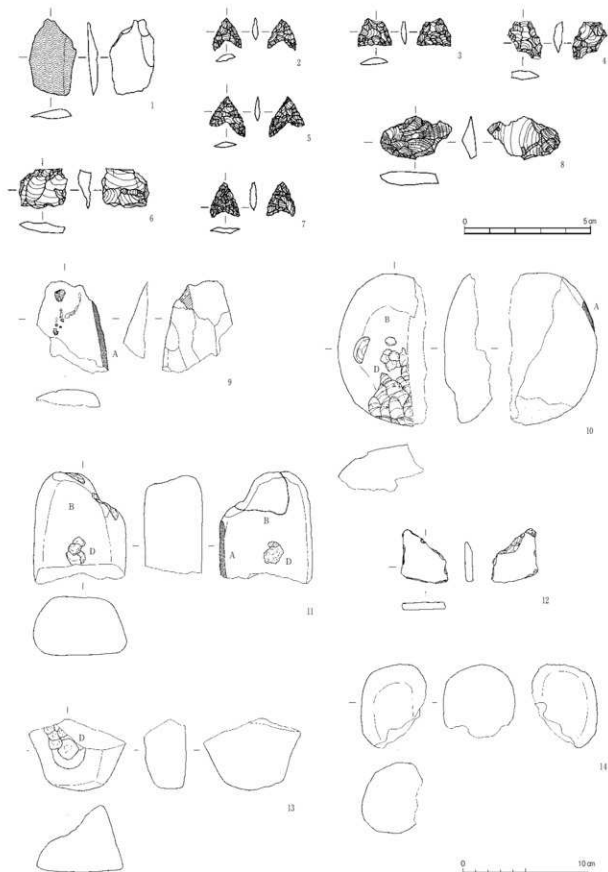
番号	出土位置	集石規模		掘形規模				石敷	石組	敷石なし	集石	その他	型式	備考
		直径	深さ	直径	深さ	石敷	石組							
38	Kc097-14 Al-1	×		×								○	D2	石2つ
39	Kc097-14 Am-5	50×40		69×36	10	○平							B1	
40	Kc097-14 Af-1	78×84		80×74	15	○平							B1	2基あり、遺構検出面に石
41	Kc097-14 Ak-5	43×4		90×70	14				○				C2	石敷在。12住と重複
42	Kc097-13 Ap-45	×		66×56	9						○		C1	石4つ
43	Kc097-14 Aq-6	100×60		178×72	7						○		C2	溝状土坑、重複? 底部に焼土
44	Kc097-13 Al-44	52×42 (46) (47)	25	65×54	22	○平							C2	上に石あり
45	Kc097-13 Ap-44	42×30		68×52	10				○				C2	石少量
46	Kc097-13 As-48	40×30		46×40	12		○平						A	
47	Kc097-14 Ar-3	×		60×53	10						○		C2	石4つ
48	Kc097-14 As-3	×		47×43	14						○		C2	石敷在。4つ
49	Kc097-13 An-45	43×56		68×57	8				○				C2	検出面に平石
50	Kc097-14 Ar-0	×		164×112	16				○				D2	不整形土坑、集石?
51	Kc097-13 Ae-41	45×42	12	68×52	22	○平							A	上に石敷在
52	Kc097-13 Am-45	64×46		86×70	24						○		C2	
53	Kc097-13 Aw-47	42×20		52×49	9	○平							A	
54	Kc097-14 As-1	38×32	14	65×51	14	○平							A	上に石なし
55	Kc097-13 Ak-42	78×60 (88) (62)	26	82×64	20	○平							B1	上に多量の石
56	Kc097-14 An-7	73×44		100×71	12						○		C2	底部付近に石。11住と重複
57	Kc097-14 As-1	φ 20×		φ 40×	4						○		D2	焼土あり。検出面に石
58	Kc097-13 Ao-45	×		×								○	C2	石2つ
59	Kc097-14 Al-4	φ 100×		116×85	4						○		C2	石敷在。大石1つ
60	Kc097-14 Al-5	82×40	18	93×68	14				○				C1	石敷在
61	Kc097-13 Al-45	24×22		42×36	9				○				C1	検出面に平石6つ
62	Kc097-21 Bn-25	×		×								○	C1	石3つ
63	Kc097-21 Bg-22	64×30		×								○	D2	柵門土坑に石敷在
64	Kc097-21 Bg-23	44×30		×								○		大型の礎使用
65	Kc097-21 Bx-49	×		×					○				C1	石敷在。敷石?
66	Kc097-14 Af-0	43×32		52×34	12						○		C2	検出面に石
67	Kc097-14 Ag-4	44×30	20	50×22	14								C2	12住と重複
68	Kc097-14 Ae-1	34×30		48×34	2						○		C2	石少量。12住と重複
69	Kc097-14 Ak-3	×		×									D1	検出面に石4つ
70	Kc097-14 Aj-3	74×38	9	96×70	14	○平							B1	上に石少量
71	Kc097-14 Am-5	52×24		90×72	2						○		D2	底に焼土。石少量
72	Kc097-14 Ah-3	90×80	18	105×98	20	○平							B1	敷石ややあらい。12住と重複
73	Kc097-14 Ak-3	40×42 (83) (62)		60×50	11						○		C2	石敷在
74	Kc097-14 Ak-3	78×60		×								○	C2	
75	Kc097-14 Ad-2	116×94		126×91	9						○		C1	検出面に石敷在



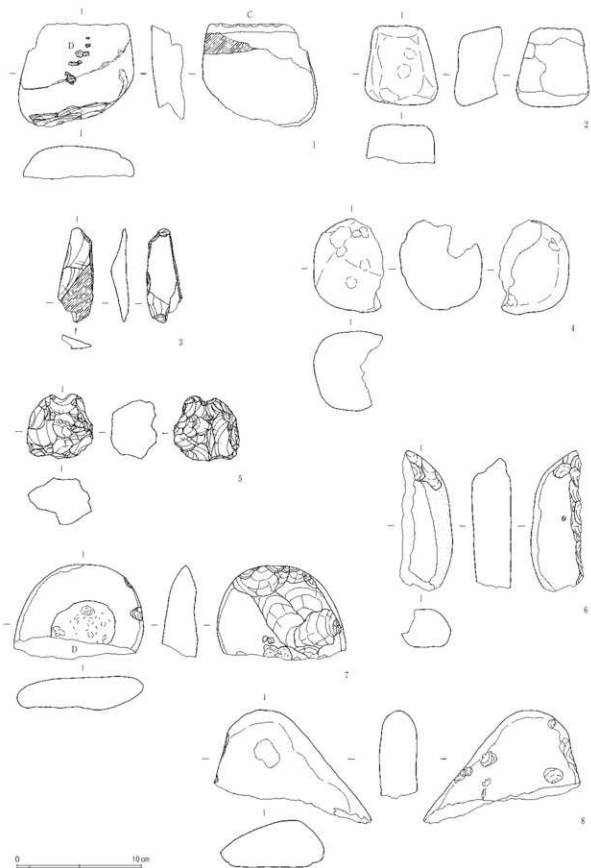
第132図 集石炉出土遺物 (1) (1~14:1集, 15~19:2集, 20~22:14集, 23:4集)



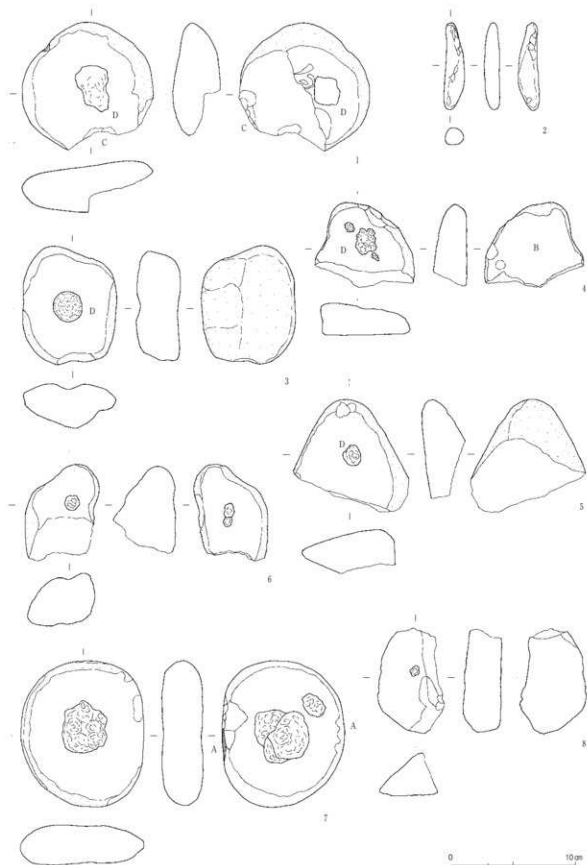
第133图 集石炉出土遗物 (2) (1·24集、29·59集、3·70集、4·20集、5·40集、6·43集、7·60集、8·66集、
10·11·71集、12·13·72集、14·75集)



第134図 集石炉出土遺物 (3) (1・2:43集, 3~6:59集, 7:75集, 8:74集, 9・10:4集, 11・12:5集, 13:8集, 14:12集)



第135图 集石炉出土遗物 (4) (1·2:18集, 3:20集, 4:23集, 5:27集, 6:37集, 7:40集, 8:57集)



第136図 集石塚出土遺物 (5) (1:52集, 2:59集, 3~5:55集, 6:66集, 7:60集, 8:27集)

4. 石 列

第1号石列（第137図）

この遺構は Kc09 7-14 At-4 を中心にして検出されている。長さ 1.91 m、幅約 30 cm の列と、長さ 2.12 m、幅約 30 cm の 2 列で構成されている。礫は、西部の石列から多量に出土しており、土がほとんど入り込んでいない状況であった。東部についてはややまばらな印象である。礫を除去した後の掘形は明瞭であり、深さは約 20 cm を測った。

また、西部石列からは、近世以降と考えられるすり鉢の底部も出土している。

遺 物（第138図・第139図）

第138図 2～5・第139図 2 はいわゆる磨石である。第139図 1 は黒曜石製の剥片石器である。

第2号石列（第137図）

この遺構は Kc09 7-14 At-4 より出土している。長さ 1.64 m、幅約 40 cm の規模である。第1号石列と同様に礫が密集して出土しており、その中に礫器が混入しているような状況であった。また、掘形の規模は第1号石列とはほぼ同規模であり、深さも 23 cm とよく近似している。

なお、この石列からは土器が出土していないため、時代の決定は難しい。

遺 物（第139図・第140図）

第139図 4・第140図 2・3・5 はいわゆる磨石である。第140図 4 は石材として遺跡に持ち込まれた礫と考えられる。

第3号石列（第137図）

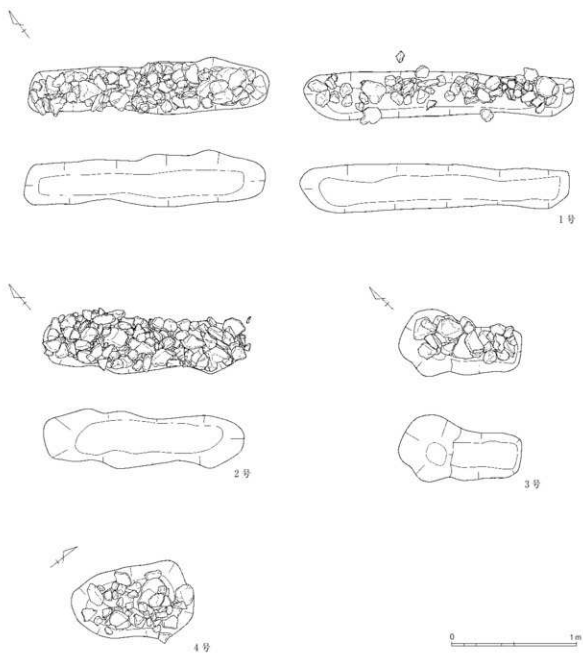
この遺構は Kc09 7-13 Ap-49 より出土している。長さ 1 m、幅約 35 cm と第1号、2号石列に比べて小規模である。掘形から推定すると、溝状に掘り込んだ部分と、土坑状に掘られた部分が重複しているような状況であり、土坑状の掘り込みが溝を切っているような様子であった。なお、礫を検出した段階ではこの重複状況は把握することができなかった。

この遺構からは遺物は出土していない。

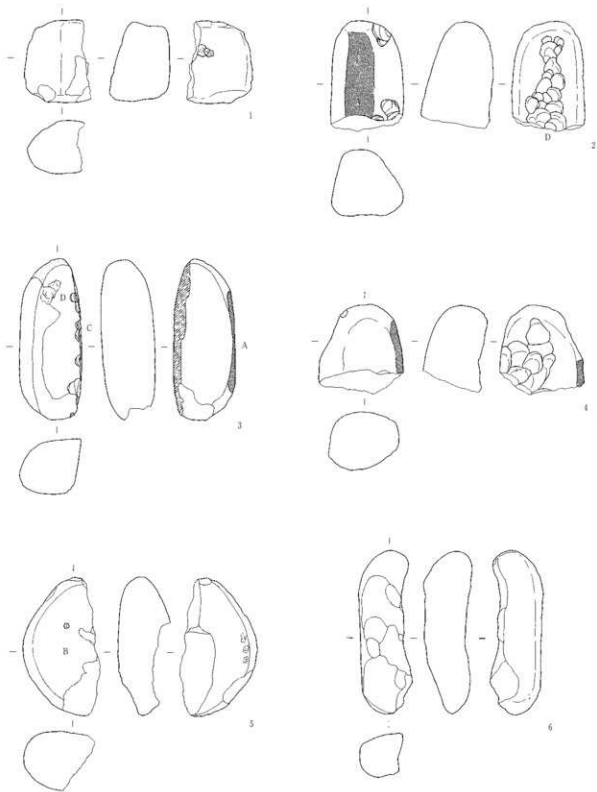
第4号石列（第137図）

この遺構は Kc09 7-14 An-7 より出土している。当初細長く列をなしているような状況が見られたため、石列としたが、調査が進むと、長さ 1 m、幅約 60 cm の規模となり、石列として取り扱うのが適当か疑問の残る結果となってしまった。また、底部には比較的大きめの礫が存在していることから、集石炉の可能性もある。

この遺構からも遺物は出土していない。

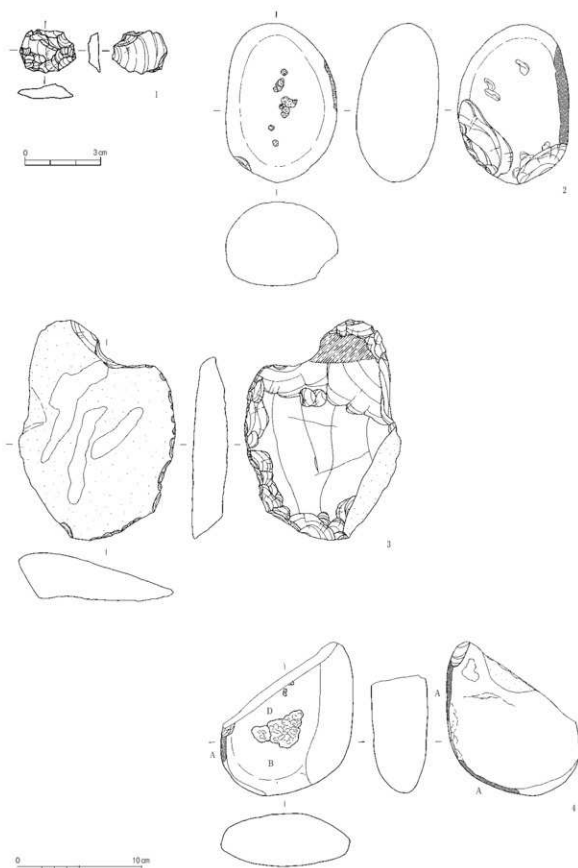


第137図 石列実測図



0 10cm

第138图 第1号石列出土遗物



第139図 第1号、2号石列出土遺物 (1~3:16, 4:26)



第140图 第2号石列出土遗物

5. 溝 址

第1号溝址（第142図）

Kc09 7-13 Bj-46 付近から出土している。長さ約 35 m で深さは約 20 cm と浅い。全体的に黄色小粒の混じった暗褐色の土で覆われている。出土遺物はなかった。

第2号溝址（第141図）

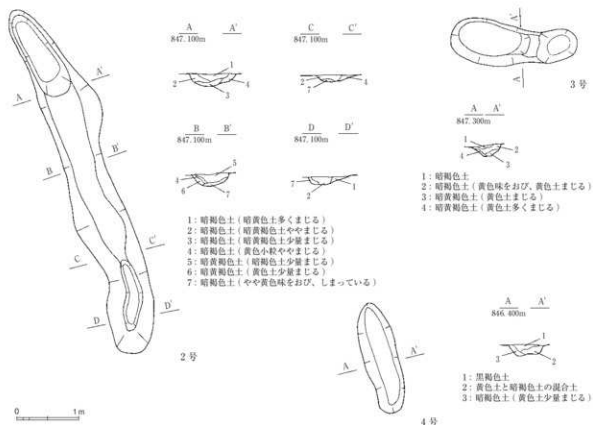
Kc09 7-14 Bj-2 付近から出土している。長さ約 3 m を測り、北部は一段深く掘り込まれている。遺物は出土していない。

第3号溝址（第141図）

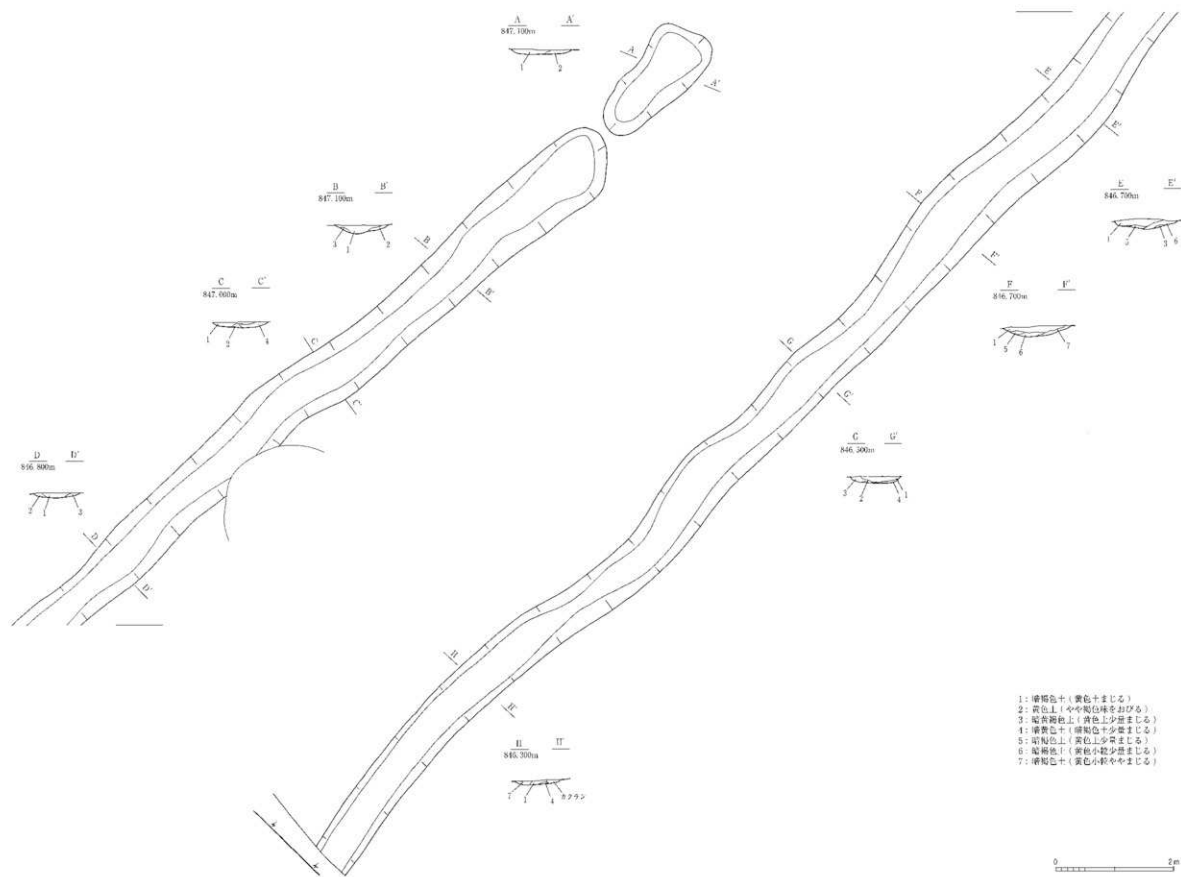
Kc09 7-14 Bd-16 付近から出土している。長さ約 1 m、幅約 30 cm の小規模な遺構である。深さは 20 cm を測る。遺物は出土していない。

第4号溝址（第141図）

Kc09 7-13 Ao-49 付近から出土している。長さ約 1 m、幅約 60 cm と規模の小さい溝址である。



第141図 溝址実測図



第142图 第1号沟址实测图

6. 礫 群

遺構検出作業時に礫が比較的集中している地点が3カ所検出され、それぞれに遺構番号をつけて調査記録を実施した。しかし、その後の調査により、これらの礫群のうち、第1号礫群については、第3・8号住居址、第2号礫群については第6号住居址の上層に存在していた礫であることが判明した。このため、本来は各住居址の項に掲載しなければならないが、遺物をグリッドおよび、一括で取り上げている部分もあるため、あえて礫群として掲載している。

第1号礫群（付図4）

この礫群はkc09 7-14 Bd-6付近を中心に検出された。礫群といっても密集しているのではなく、散漫に広がっている状態であった。

この礫群は、前述のとおり第3・8号住居址の上層の遺物を含んでおり、平面図でもこれらの住居址付近に礫が集中している傾向がうかがえる。

遺 物（第143図・第145図）

出土している遺物で掲載できた土器は17点である。格子目文（第143図1～8）を中心にして山形文（第143図10・12）、楕円文（第143図11・14・15）が出土し、黒鉛の入った破片（第143図13）も出土している。

石器は第145図6・9である。6は黒曜石製の剥片石器である。9は石材として持ち込まれたと考えられる礫である。

第2号礫群（付図5）

Kc09 7-14 Bb-5付近より出土している。Kc09 7-14 Ay-5付近には第23号集石塚も出土しており、第6号住居址の上面に重複して出土していることが分かる。また、第1号礫群と同様に住居址の確認される地点に、より礫が集中している傾向がうかがえる。

遺 物（第144図・第145図）

21点の土器片を掲載することができた。第1号礫群と同じように、格子目文（第144図1～11）を中心として、山形文（第144図13～16）、楕円文（第144図17）、市松文（第145図18）等が出土している。

石器は、第145図2～5・7・8である。第145図2～5は黒曜石製の剥片石器で、比較的大きな石器である。また、第145図7は横刃型石器（刃部図中の側面）、8は石材として持ち込まれた礫と考えられる。

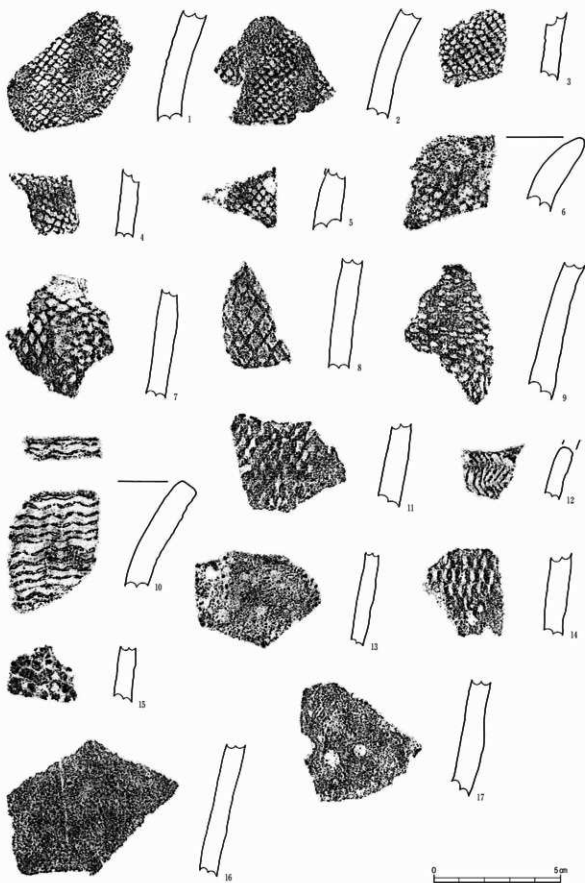
第3号礫群（付図6）

Kc09 7-14 Bb-4付近より出土している。この礫群でも礫が大きく2カ所に集中している傾向が確認できたため、検出作業を行ったが集中地点には遺構は検出されなかった。

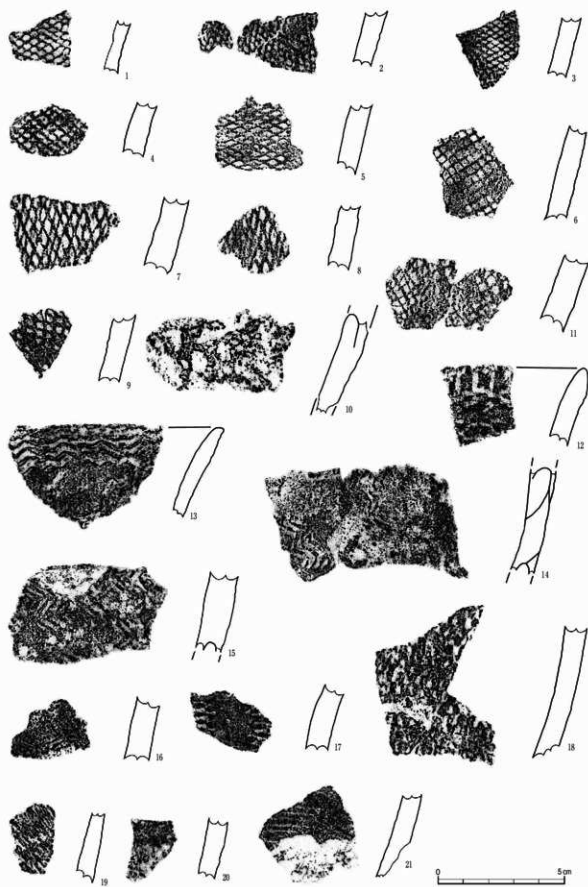
遺 物（第146図～第148図）

20点の土器片が図示できた。格子目（第146図1～8）を中心として山形文、楕円文、市松文等が出土している。

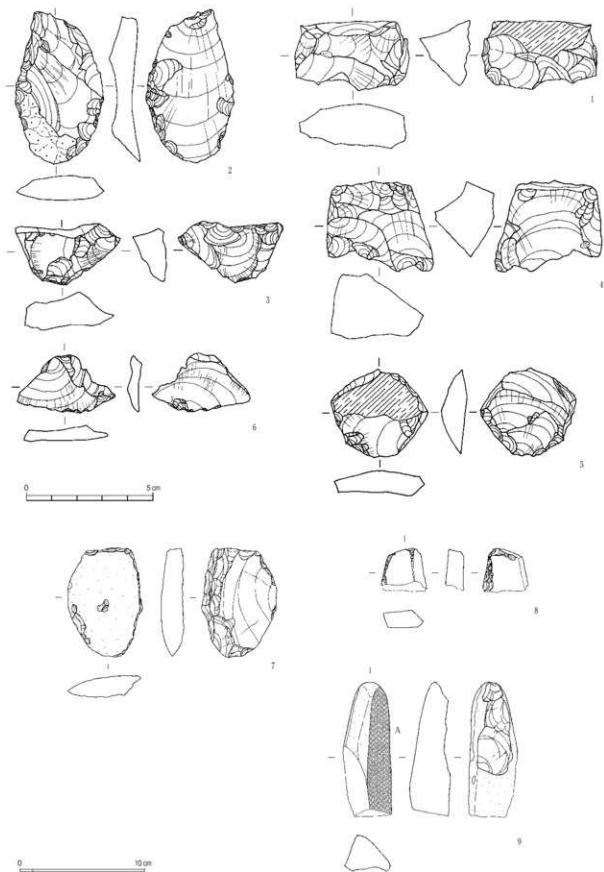
石器は第147図・第148図が出土している。磨石2点（第147図3・10）をはじめ、凹石（第147図4）や敲石（第147図9）、石材として持ち込まれたと考えられる礫（第147図5～8・第148図1・4）と考えられる石も出土している。



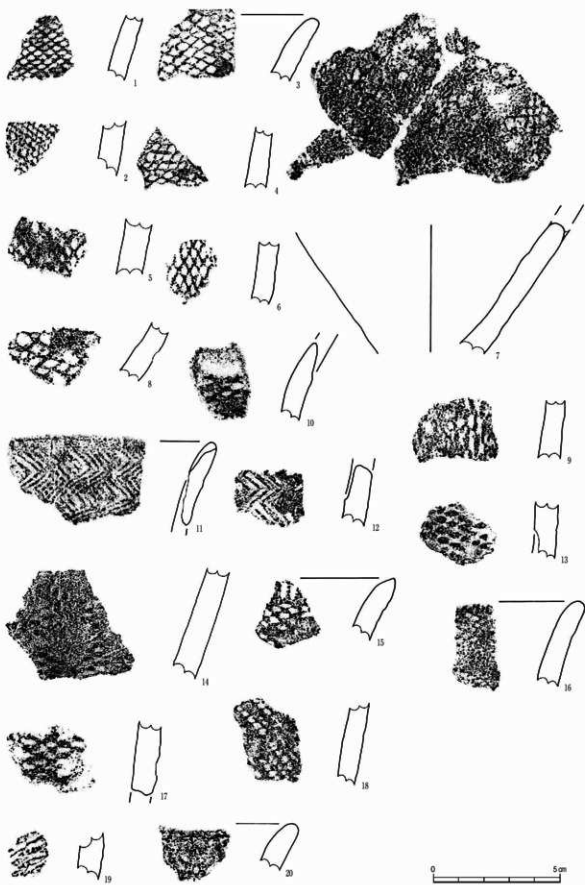
第143図 第1号塚群出土遺物



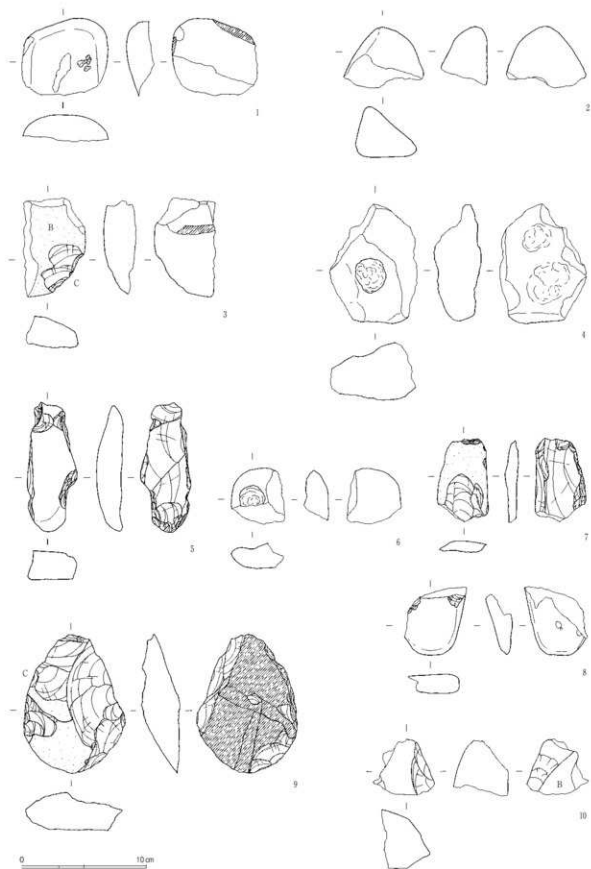
第144图 第2号襪群出土遗物



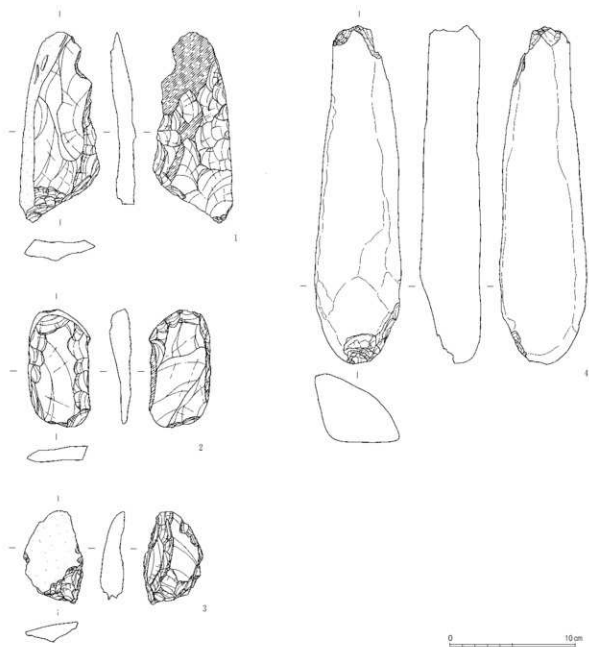
第145図 礫群出土遺物 (1) (1:3号礫群、2-5・7・8:2号礫群、6・9:1号礫群)



第146图 第3号碟群出土物



第147図 磯群出土遺物 (2) (第3号磯群)



第148图 裸群出土遺物 (3) (第3号裸群)

第Ⅱ章 まとめ

1. 遺 構

(1) 住 居 址

今回の調査では13基の堅穴住居址が出土した。このうち、平安時代の堅穴住居址が3基であり、残りの10基が縄文時代早期の堅穴であった。

平安時代の住居址は、北東部にカマドが築かれ、床面がさほど硬化していない状況が確認され、笠根遺跡で検出されている住居址と同様な傾向を示す。时期的にも、遺物の点数が少ないので明確には確定できないものの、須臾器が出土せず、内黒土器と灰軸陶器が出土している状況から、笠根遺跡とはほぼ同じ時期と推定することができる。

このうち、第1号住居址は、住居址の四隅に、不定形な掘り込みが確認され、用途、住居址が機能していた時点での状況等がどのような状況であったのか検討が必要である。

次に、縄文時代の住居址であるが、これらの堅穴からはすべて押型文が出土しており、後述されているように、早期前半期の堅穴と考えてよさそうである。これらについては、一辺約3mの比較的小型の遺構と、一辺約5mクラス、一辺約8mクラスの3つの規模に分けることができそうである。大型の住居址については、第6号住居址以外は深さも約80mと遺存状況も良好であった。

小型の堅穴については覆土中に多量の礫が混入しているといった共通する特徴が見られ、これらの礫中に遺物が含まれていた。このため、遺物のほとんどが床面より浮いた状態で出土している。

また、床面を精査したが、遺構に伴うと考えられるピットが確認されなかったことも共通する。このため、報告段階では住居址としているものの実際の取り扱いでは「堅穴」とした方が適切ではないかとも考えている。

次に中型の住居址については、このクラスの中で、第10号住居址しか確認されていないため、状況は不明である。この住居址については、床直上まで削平がおよび、プランを明確に把握しきれなかった面がある。このため、記録段階で楕円形状に記録せざるをえなかったものの、写真で見ると、円形の住居址が重複しているように思われる。

大型住居址は、遺構を完掘していないため、規模等について確定できない要素もあるが、第12号住居址を主体として考えた場合、全体として隅丸方形を呈し、小型の堅穴と比較して、壁の立ち上がりがなだらかで、傾斜の変化点が数カ所に確認される。床面はいわゆるハードルームまで掘り込まれ、柱穴となるかどうかの小規模なピットが多数検出されている特徴がある。壁際の覆土は地山の土目と近似していたため、的確に遺構が検出できず、ずるずると掘り進めていくことにより確認していたため、壁際については層位等を明瞭に記録することができなかった。

なお、第11号住居址の床面に、焼土が数カ所から検出されているが、これらについては調査段階で検出することができなかった、底部に焼土を伴う土坑が重複していたためと考えられる。

また、第13号土坑は、遺構の一部しか調査を実施できなかったものの、北壁部に焼土が検出されている。この地点では板状剥離を呈する安山岩が立てられており、何らかの施設であることは確実であるが、類例について確認できないため、今後の検討課題である。

住居址については小型の堅穴は尾根の鞍部に集中し、大型の住居址は南向きの傾斜地にまとまって検出されている状況であり、遺構の規模によって立地が異なるという傾向をみることができよう。

(2) 土 坑

土坑は、いわゆる落とし穴状の土坑の他に、底部に焼土を伴うものや、内部に何も伴わないものが検出されている。落とし穴状の土坑については、遺跡の北東部に集中しており、生活域と分離された地点に掘り込まれている印象を持つものの、時期を決定できるような遺物が出土していないため、明確にすることができない。

焼土を伴う土坑については、炉穴との見方が示されているような土坑も検出されているが、その根拠となる遺構の必要条件を把握していないため、ここでは焼土を伴う土坑として一括して取り扱う。

焼土を伴う土坑は、平面形態から円形またはそれに類するプランを有するもの（A類）と、不整形を呈するもの（B類）の2種類に大きく分けることができる。A類はさらに、底部の被熱箇所によって、3種類に分かれる。1類は底部の中央部付近を中心に検出されるもので、2類は、中央部には検出されず、壁面付近に見られるものである。また、底部のみではなく遺構外にまで被熱箇所が及んでいる土坑（3類）も検出されている。各タイプは印象的にはあるが、検出状況に差異がみられる。まずA1類は単独で出土しており、A2類は2～3基の土坑が重複しているような状況を示し、A3類については複数の同型の土坑が隣接して出土している傾向が伺える。

一方、B類は同様のプランを持つ遺構が6基ほど重複し、中には集石炉とも切り合い関係を持つ遺構も存在する。また比較的浅いといった特徴が共通してみられる。覆土についても黒色系の土は少なく、火を焚くためにそのつど掘り込まれているといった印象が強い。このことは短期的な使用であったことを物語っているのではなかろうか。

(3) 集 石 炉

集石炉は本遺跡では大きく4種類に分類が可能と考えられる。

A：4～5個の扁平な礫を使用して炉状に組み込む。石組みの中に角礫が少量出土する例もある。

今回7例検出された。

B：礫を敷いた上部に礫を入れ込むもので、敷かれている礫が扁平なものを中心にしているもの（1）と、角礫が中心となるもの（2）に細分できる。B1は10例、B2は5例検出されている。

C：掘り込み中に単純に礫を入れ込んだもの。礫が扁平なもの中心（1）の場合と、角礫中心の場合（2）がある。C1は7例、C2は25例出土している。

D：遺構検出面に礫がおかれるだけのもの。やはり扁平な礫の場合（1）と、角礫の場合（2）とに分けられる。

D1は1例、D2は2例出土している。

集石炉の形態としては、C2類が最も多く、一般的な形態ととらえることができる。この類型はさらに規模の大小によって2分でき、大型のものは住居地に極近い地点（重複も含めて）に存在しており、機能的な差があったことも考えられる。C2類の小型のタイプおよびB1類は町内でも調査例があり、縄文時代に一般的に見られる類型と考えられるかもしれない。

一方、A類やB2類については町内の調査事例ではあまり類例がみられないタイプであった。A類は尾根の鞍部に集中して検出されており、比較的平坦な地点を選んでいる傾向が伺える。礫の構成も比較的シンプルで、4～5個の扁平な礫を箱状に組み合わせているのみであり、いわゆる「石組炉」と呼ばれる遺構を想定させる。これに対してB2類は立地的には特徴的なものはいないが、各礫の平坦面を描えるようにして土坑底部に敷き詰め、その上に礫を詰め込む構造は他の町内遺跡では見られないことから、押型文土器の出土するこの遺跡に特徴的な類型といえる。

2. 遺物

(1) 早期前葉土器

1) 出土状況

縄文時代早期前半に比定される土器は細片をのぞいておよそ1,500点が出土、そのうち押型文系土器は900点である。ただし、細片を含んでいない数である。大半は遺構内の出土であり、特に9基の該期住居址堅穴覆土内の出土は86%に及ぶ。伴出する縄文、燃糸文、無文土器を加えると覆土内から出土した土器は全体の91%である。

ここでは住居址堅穴の覆土から出土した土器全般についてその概略を記しておく。出土数の詳細は第3表にまとめた。

3号住居址

細片を除いて63片が出土。内訳は格子目文(第2図)23、網目文(第3図1~7・14)8、無文18、山形文(同8・9・12、第4図1~5)9、楕円文(第3図10・11・13)4、縄文(同16)1ほかである。格子目文は格子目の大きさが中くらいのものが多く、山形文は長く細い山形で、黒鉛入りのものは4片(第4図2~4)だけである。

4号住居址

9片があるだけである。格子目文(第11図1~4・8)5、網目文(同7)1、楕円文(同6)2、無文1と少なくて詳しいことは分からない。楕円文は大粒である。

5号住居址

19片と少ない。格子目文(第12図1~5)9、市松文(同6)1、山形文(同10)2、楕円文(同7~9)3、燃糸文2、無文2である。第12図3の格子目文は横位施文で無文部を残す。

6号住居址

細片を除く185片が出土している。格子目文(第15・16・17・18図1~6)93、網目文(第18図7~10)7、市松文(第19図9~13)7、山形文(第18図11~21、第19図1・2)18、楕円文(第19図3~8)16、縄文(同14~19、第20図)6、燃糸文(第20図4・5)2、網目状燃糸文(同1~3)3、無文29、含繊維(同14~17)4である。

格子目文には大きな破片がいくつかあって、器形、文様構成を知ることができる。第15図1は口縁が大きく外湾して、胴上部が緩く膨らみ中くびれ形になる。格子目は小さく、口縁部~頸部を縦位に胴部を横位に施文する。器形は、あまり開かないチューリップハット形に近い例、直線的に外反する例など若干バラエティーがある。格子目は小さいものが多いことが注意されようか。山形文は縦位施文がほとんどであり、長く細い山形である。縄文には縄の太細がある。

8号住居址

66片が出土している。内訳は網目文(第8図5・6)11、格子目文(第7・8図1~4)28、市松文(第8図14)1、山形文(同7・8)5、楕円文(同9・11・13)3、網目状燃糸文(同10)1、無文17である。

第4表 文様別点数

	3・4・5・6・ 8・10住	11住	12住	その他	計	%
網目文	39	54	9	16	118	8.5
格子目文	166	125	54	74	419	30.3
市松文	11	14	11	8	44	3.2
						(42.0)
山形文	43	72	81	22	218	15.8
楕円文	33	31	14	18	96	6.9
平行線文	0	4	3	0	7	0.5
						(23.2)
縄文	12	66	54	9	141	10.2
撚糸文	9	13	7	7	36	2.6
網目状撚糸文	4	2	2	4	12	0.8
						(13.6)
無文	75	112	70	36	293	21.2
小計	392	493	305	194	1384	
含繊維	5	51	76	9	141	
合計	397	544	381	203	1525	

6住同様に格子目文は、上半部を復元できる接合個体がある。第7図11は器形は口縁部が緩く反し、胴上半は直立に近い形態である。文様施文は、口縁部～頸部を縦位に、以下を横位に密接施文する。

10号住居址

細片を除いて30片が出土している。内訳は網目文(第28図6～8)3、格子目文(同1～5)6、市松文(同16・17)2、山形文(同9～12)4、楕円文(同13～15)4、縄文(第29図1～5)4、撚糸文(同6～8)3、無文4と全体に少数のうえバラつきがある。

縄文の底部が図上復元できる。尖底部は乳房状ではない細身の底部で、縦位施文である。若干施文に乱れがあるが、無文部を帯状に残す。単節のLRである。胎土は、赤色、白色、黒色、半透明灰色、透明の細粒を多量に含み、内面はザラザラである。雲母を多量に含み、立野式に共通の胎土を示す。

11号住居址

破片は544片と最も多い。内訳は網目文(第35図10～22、第36図1～10)54、格子目文(第32～35図1～9)125、山形文(第36図11～21、第37・38図1～15・18・19)72、楕円文(第39図1～13)31、平行線文(第38図16・17)4、市松文(第39図14～20)14、縄文(同21・22、第40・41・42図1～14)66、撚糸文(同16・18～21)13、網目状撚糸文(同15・17)2、無文(第43～45図1～9)112、含繊維(第45図10～18、第46～48図)51である。

文様と器形

数量的には格子目文が主体的であるが、細片が多く、器形、文様構成など全体を知ることのできるまとまりはない。口縁部破片から推測すると、器形は大きく外湾するものと、直線的に緩く外反するものとある。文様構成は全面密接であり、口縁部～頸部は縦位に、以下、横位に施文する。縦に無文帯を残すものも少しあるが、意識的な帯状施文ではないと思われる。

網目文も多いが、まとまった破片がなく器形、文様構成など明確ではない。ほぼ格子目文と器形、施文とも同じである。

山形文は異方向帯状も含め、波長の長く細い山形が主である。黒鉛入りは小さな山形である。器形はあまり外湾しない砲弾形になると思われる。楕円文は大粒のことが多い。

縄文は同一個体片がまとまってあり、図上復原できるよい資料である。第40図③、⑦は、内面・口唇施文の異方向帯状構成をとる特異な存在である。外面は口唇直下と胴部に横位帯状に施文する。横位帯状の間隔が広い点に注意される。特異な点は内面の施文で、口唇直下の横一帯のみならず3帯ほどやや乱れながら施文していることである。帯状構成の外面が密接構成だったら表裏縄文土器である。器形は、やや大きく外湾し、胴部は軽く膨らむチューリップハット形になると思われる。縄文は単節のLRである。胎土は10住の縄文底部に同じで、立野式特有のものである。

器形と胎土については、小さな山形文の第38図⑤も厚い器壁で立野式と同じ含有物を多量に含む点に注意される。ただし、同6・8の山形文は含有物の少ない、種沢式に近い胎土である。

無文土器は含有物が極めて多く、立野式と同じである。雲母の微粉はむしろ格子目文、網目文より多いほどである。器形は砲弾形であろう。

含繊維土器は柳状施文具による条痕文または沈線文の土器である。内面に条痕はなく、繊維の量はそれほど多くない。一部に貝殻腹縁文の付く例が10片ある(第46図8～12)。

出土層位と文様

11住では、農道部に住居址範囲が広がり、この部分は断面に基づいて分層発掘されている。上・中・下の3層に分けて遺物を取り上げているが、下層は床面近くで遺物が少ないので、上・中層の比較でおよその傾向を見ることができる。

- ・含繊維は大半が上層にある。
- ・縄文は上層に35片、中層に11片、接号例のまとまった第40図③・⑦は大部分が上層の出土である。
- ・山形文の黒鉛入りは上層に6片、中層に2片と上層に多い。
- ・市松文は6片すべて中層である。
- ・網目文、格子目文は中層に多い(上層38、中層83)。
- ・無文は上層に多い(上層27、中層16)。

以上はあくまでも傾向であって、含繊維は下層にも3片とたとえ僅かでも検出されているのであり、断定的にはいえないが、含繊維の一群は覆土上面に混入していると見てよいであろう。縄文が上層に多い点は注意されようか。

12号住居址

11号住に次いで多い381片(不明、細片を除く)が出土している。内訳は網目文(第60図13～18)9、格子目文(第59・601～12、第61図9～20)54、市松文(第65図11～20)11、山形文(第62～64図)81、楕円文(第

65図1～10図)14、平行線文(同21～23)3、縄文(第66～68図1～7)54、燃糸文(同8～11・13)7、網目状燃糸文(同12・16)2、無文(同14・15、第69・70図)70、含繊維(第71～74図)76、である。

文 様 と 器 形

山形文が多い点特徴であるが、同一個体破片が多いため数量的な比較は意味がないかもしれない。

格子目文は破片が多い割に、まとまった接合例もないのははっきりいえないが、器形は口縁が比較的外湾が強いものと緩いもの両者がある。施文は同じように口縁部～頸部を縦位に施文するが、胴部横位施文の例が少ないので、それ以下は明確ではない。

山形文は異方向帯状施文の好資料がある(第63図)。口唇直下に横位帯状一帯、少し間隔をあけて、胴部上半に横位帯が入るとされる。口唇部施文、そして内面には2帯を横位に施文する。内面施文の差を除けば11住の縄文(第40図③・⑦)に文様構成は酷似する。文様は山形が細く長い、条の間隔が広く、原体が短いなど縄文に近い特徴をもつ。胎土に黒鉛を含まず、雲母の微粉を多量に含む。第63図、第64図1・2・4・5まで同一個体破片と思われる。

その他の山形文では横位帯状が目立つ。山形は小さいが原体はやや長い。第62図9は黒鉛入りであるが、雲母の微粉を多量に含む。

出土層位と文様

11住と同様に分層発掘されている。上・下2層に分けて、遺物を取り上げており、その内容は次のとおりである。

- ・含繊維土器は上層のみに集中する。
- ・無文は上層に44片、下層に9片。
- ・縄文は上層に18片、下層に7片。
- ・山形文は上層に28片、下層に16片。
- ・格子目文は上層に31片、下層に17片。

上層に遺物が集中的に出土したということで上下差は明瞭な結果は出ていない。含繊維については上層のみに集中しており、これは伴出資料から除外して考えてもよいであろう。

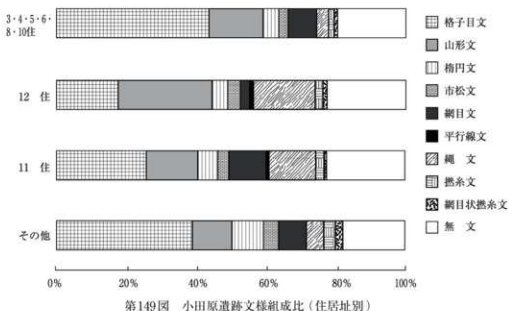
13号住居址

破片25片が出土しているが、各文様が少しずつあり、まとまりがない。網目文(第84図3～5)9、格子目文(同1・2)2、山形文(同6～8)5、楕円文(同9)1、縄文(同10)1、燃糸文(同11・12)2、無文4、含繊維(同15)1である。

2) 押型文系土器の位置付け

小田原遺跡の押型文系土器は、ほとんど全種が出揃っているといっても過言ではないほどに内容豊富である。破片が多い割には復原できる接合も少なく、図上復原もあまりできなかったことは残念である。したがって、破片だけの文様の組み合わせを見て一定の傾向を出すことが有効であるかどうか、検討を要することであろう。そのため、ここでは、およその傾向を見るにとどめて、詳しい位置付けは差し控えることにした。

文様は大きく10種を抽出した(ここでは混在と思われる含繊維土器を除く)。文様種別点数は第4表のとおりである。



文様別に見ると、特に目に付くことは格子目文が30.3%と主体的に存在することである。次いで無文の21.2%、山形文15.8%、縄文10.2%である。立野式土器の特徴の一つ、網目文(ネガティブな楕円文)は8.5%であるが、市松文は3.2%と少ない。しかし、格子目文、網目文、市松文を合わせると42.0%と多い。実際には山形文、楕円文のほとんどが立野式に伴うタイプのものであることを考慮すれば、押型文土器は若干の種別式の山形文を除くと大半が立野式といえるであろう。

なお、格子目文の大・中・小の分離は、格子目のおよそ1辺が5.0mm以上を大、3.0~5.0mmを中、3.0mm以下を小とした。楕円文の大・中は米粒状の細久保タイプに一般的な丸みのあるものを小、立野タイプに伴う細長い大きい類や縦横に並ぶ類を大・中にした。

3) 小田原遺跡の押型文系土器

立野式土器のまとまった在り方を示し、なおかつ精緻な分析が行われている遺跡は美女遺跡である。そこでは、バラエティーに富む文様種別から比較的読み取りにくい立野式押型文土器の文様構成に至るまで研究・報告がなされている。

概略をまとめると、報告者馬場保之氏は、立野式土器の文様については7類に分け、その中でさらにA~I種に細分し、器形は8類に分け、口唇部の形状は6種、また文様構成は9類型を抽出している。立野式土器のバラエティーに富む文様を可能な限り網羅して全体の分析をしている姿勢は十分に評価されてよいであろう。

今回の小田原の分析では、基本的にその分類を参考にしつつ、大まかな括りのなかでまとめるにとどめた。復原資料が少ないことや、接合破片が乏しく、文様・器形の全体を窺い知ることのできる資料的まとまりに欠けたためである。

小田原の編年の位置付けを知る上で、美女の押型文土器と文様、文様構成は重要である。美女では立野式の押型文に加えて、縄文、摺糸文、網目状摺糸文、無文、その他押型文を立野式に含めて考えている。これについては異論を唱える向きもあろうが、文様構成比を比較する上では必要であると考え。小田原では型式の扱いともあれ、同じように組成を見た(第149図)。

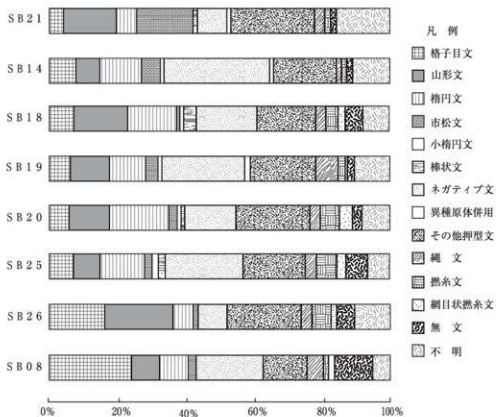
美女の各住居址別文様組成は第150図に示した。報告書のまとめでは、文様の組成比から市松文の多いグル

ープ(A群)、山形文・楕円文が多く市松文が少ないグループ(B群)、格子目文の多いグループ(C群)の3グループに分け、さらに住居址の切り合いによる新旧関係からA→B→C群の古→新関係を把握。つまり、「全体として格子目文の増加傾向と市松文の減少傾向が指摘できる」と結論している。また、文様の「類型の消長」において、後出する文様類型、消失していく文様類型をあげているが、これについては後出あるいは消失していく類はオーソドックスな文様のパリエティー部分とみれなくもないので、ここではあまり触れない。

美女遺跡で把握された古→新の3段階をベースに置くと、小田原の格子目文主体の在り方は、第2～第3段階に相当する。9基の住居址は、11・12住を除くと土器片の総数が少ないため、個々の比較は無理である。土器片の多い、11・12住はそれほど大きな変化・差はないので、両者に時間をおくことなく考える必要があろう。その上で美女と比べてみた場合、最も大きな違いは無文、縄文の比率が小田原11・12住では高いことである。縄文は異方向帯状構成の桶沢式の構成要素の一角を占めている。しかし、一見して表裏縄文を思わせる内面施文があり、胎土も立野式に共通する含有物を含んでいる点に注意される。これは新たに桶沢と立野を結び付ける資料の一つに加えることが許される一群かと思っている。無文土器も桶沢式では大きな組成要素をなしていることはいうまでもない。美女に比べて無文土器が増加していることはやはり重要である。

以上のことから、小田原11・12住は、立野式でも最終段階、美女遺跡3段階ないし、それに後続する段階と捉えておきたい。縄文については、桶沢式に伴う例は深い位置の内面施文はほとんどない。表裏縄文との関連性については、検討の余地があろうか。

最後に、含繊維土器の存在であるが、前述のとおり住居址堅穴の覆土上層に集中して出土した一群である。外面柳状工具による条痕文または沈線文、として理解する。内面は条痕をナデにより消して整形している。わ



第150図 美女遺跡文様組成比(住居址別)(住居址の順番は引用にあたり作り替えている)

ずかに部分的に条痕の認められるものがある。近くでは、岡谷市禅海塚、茅野市判の木山、少し離れて望月町新水B、御代田町塚田の各遺跡に類例を求められる。新水B併行ぐらゐに考えておきたい。樋沢、向陽台、美女には全く見られない一群であり、混入と捉えられる。

参考文献

- 1997 会田 進・阿部 芳郎・田中 聡・中沢 道彦ほか
『押型文と沈線文』本編 長野県考古学会縄文(早期)部会
1998 馬場 保之 「美女遺跡の土器」 『美女遺跡』 飯田市教育委員会

(2) 石 器

1) 石 鏃

石鏃は未製品および欠損品を含めて79点が遺物整理の対象となった。このうち、分類可能な製品(欠損品も含む)44点について分類した。なお、遺情外出土の石鏃については遺漏があるが、時間の制約から、今回の集計に反映させることができなかった。

また、石鏃の分類は各報告書で様々な方法が行われているが、ここでは樋沢遺跡での分類を参考としている。

第1類 全体の形状が二等辺三角形を呈しているもの。これらは、基部の抉れから、逆V字状に加工されているもの(A)と、いわゆるY字形石鏃(B)、平基(C)に細分できる。また、Y字形石鏃は個縁形状が直線的(1)か、弧を描く(2)かによって細分でき、さらに弧が丸みを帯びる(1)か、直線的(2)かで2分することができる。

第2類 全体の形状が正三角形を呈している。これらは、基部が逆V字状を呈するもの(A)、Y字形石鏃(B)浅い弧状の抉れ(C)に分類される。また、Y字形石鏃は個縁部の形態が、直線的(1)か、弧を描く(2)かによって細分でき、さらに弧が丸みを帯びる(1)か、直線的(2)かで2分することができる。

第3類 いわゆる鏃形鏃である。

第4類 長さ3cm前後の大型の石鏃である。全体に二等辺三角形を呈し、基部の加工によって浅い弧状(A)と深い弧状(B)に分類できる。

第5類 有茎の石鏃である。この形態は出土例が1点しかなく、細分はできない。

これらの形状では、第1類(A)が4点、(B1)が3点、(B2-1)が3点、(B2-2)が3点、(C)が1点出土している。

第2類は(A)が5点、(B1)が3点、(B2-1)が9点、(B2-2)が0点であり、(B2-2)は今回の調査では確認されなかった。また、第3類は2点、第4類(A)は3点、(B)は1点、第5類も1点の出土であった。

石鏃の総点数が少数のため、はっきりしないものの総体的には第2類(B2)を中心として、第2類(B)が主体的になっているようである。また、第2類(C)の出土量も比較的多いことや、鏃形鏃が若干見られることを考慮すると、美女遺跡の全体的な傾向とは若干異なっているような印象をうける。

未製品は21点確認され、このうちで二等辺三角形を呈するものは9点、正三角形を呈するものは12点であった。二等辺三角形を呈するもののうち3点はほぼ成形が終了しており、これらの形状をみると平基無茎石鏃といった形状であり、表面を成形し、背面を加工し始めた段階で終了している。その他の未製品も一方の個縁を加工したのみのものが多いが、その多くが表裏ともの成形痕が確認でき、一方の個縁部を相成りした後にもう一方を加工していき、最終段階で茎部を加工するといった手順が想像できるが明確にはできない。

また、欠損品は14点であったが、基部の欠損品が7点、先端部の欠損が6点、両者が欠損しているものが1点であった。先端部位の欠損品はすべて平基無茎礫の形態であり、欠損品と考えるより未製品としたほうが適当かもしれない。基部の欠損では一方のみの欠損が3点、両方とも欠損しているものが4点であった。

2) 楔形石器

本報告書では、いわゆるピエスエスキュー、楔形石器として使用されたと考えられる石器および石礫の素材となる石核を、明確な分類基準を持たないままにすべて楔形石器と総称している。そのため、混乱も生じているが承願したい。またこれらに分類できると考えられる石器は約30点をかぞえる。

なお、これらの中には石礫の加工の初期段階と考えられる未製品も含まれており、その分類基準はきわめてあいまいである。今後さらに検討を進めていきたいと考えている。

3) 磨石類

凹石、磨石、敲石、石摺り石（いわゆる穀摺石）を一括して磨石類としてまとめた。これらは河原転石を素材として利用し、使用のための「形」を作り出すことをしない石器である。形状は使用の結果であり石核などに転用される例も報告されている。（註2）

これらは、そこに残された使用痕によって石器の名称が付されているが、複数の使用痕が残されている場合が多く、多機能を併せ持つ石器という観点から、また機能に時間差を持つという観点から、一つの機能のみ取り上げて呼称するのではなく、あえて一括して磨石類とした。（註1）

a 機能部の分類

凹み、磨耗痕、敲打痕と呼ばれる使用痕を機能部として、それらを「何らかの用途に応じて使用した結果として残された使用痕」と捉えることを前提としている。以下の5種の使用痕A～Eを分類した。図中の記号はこれに当たる。

第1種 磨耗痕A 素材の稜線部分または側面に、細長く残る平坦な面である。磨り減ったような在り方であるため、磨耗痕であると思われる。面の断面形は、軽く弓状に反り、角は丸みを持つ。面の感触はザラザラという表現で示され、面の縁に剥離痕Eを残す例が多い。

第2種 磨耗痕B面 素材の広い平坦面に残された範囲の広い磨耗痕である。平坦面とは実測図上の表裏面であるが、断面凸レンズ状に、あるいは扁球形状に丸みのある面と、平らな面とある。面の感触はツルツルが多い。

第3種 敲打痕C部 素材の先端、縁、側面に残された部分的な摩滅面である。先端では小さな平坦面を形成し、縁、側面では角がつぶれて丸みを帯びる。敲打によって摩滅した敲打痕であろう。残る部位にバラエティが見られる

第4種 敲打痕D部 表裏面、側面に残された局所的な使用痕の集合、すなわち凹みである。鋭い尖端の打撃痕、衝撃痕と思われる例が多い。凹みの形状によって細分できる。

第5種 剥離痕E A面の長辺の縁に残る大小の剥離痕。大きめな剥離が並ぶことから、調整剥離のような敲打による打撃痕ではなく、縁全体に力が加わって生じた剥離であろう。

第5表 石摺り石の機能面・部の組み合わせと点数

機能面・部	点 数
ABCD	14
ABC	9
AB D	11
A CD	9
AB	4
A C	29
A D	7
A	28
計	111

b 細分類と名称

これらの使用痕が単独の在り方をする場合は、磨耗痕Aは石摺り石、いわゆる穀摺石あるいは特殊磨石である。磨耗痕Bは磨石、敲打痕Cは敲石、敲打痕Dは凹石である。ここでは磨石類を以下の4種に分けた。

- 1 石摺り石 磨耗痕A面を残すいわゆる穀摺石と呼ばれる石器である。単独のものより使用痕B面、C部、D部のいずれか、あるいはいくつか複数を残す場合が多いが、A面を残す場合はすべて石摺り石とした。
- 2 磨石 磨耗痕B面を残す円形ないし楕円形の凹い石器である。四角形の6面が磨耗するセッケン形もある。A面を除いてC、D部を残す場合はB面を優先して磨石とした。
- 3 凹石 D部を有する石器である。
A、B面を残すものを除いて、D部を残す場合はD部を優先した。
- 4 敲石 C部の敲打による摩滅を残す石器である。スタンプ形石器とは区別する。小型の細長い転石を使った敲石も含めて考える。

C 小田原遺跡の磨石類

総数は剥片を含め184点、器種別点数は石摺り石111点、磨石10点、凹石28点、敲石8点、はっきりしないもの、本類の一部と思われる剥片等不明のもの27点である。

不明なものを除くと70%が石摺り石である。出土状況は別表のとおり住居址から54点、土坑、集石址、礫群、石列などから21点が出土。そのほか畑の石捨て場から36点が採集されている。この石器の説明は第5表にまとめたので詳細はそちらを参照されたい。

各種の概略を以下簡単にまとめておく。なお、分類基準は樋沢遺跡調査報告書の分析をそのまま使っているので詳しくはそちらを参照されたい。(註3)

石摺り石

押型文系土器に伴出する特徴的な石摺り石は、断面三角の三角柱状の形状が典型的といわれているが、本遺跡でも、断面三角形の1類は37点と主体を占める。しかし最も特徴的な1-A類は13点と少ない。それに対し、断面楕円ないし卵形の2類が18点とやや多いことが注意される。また注目したいことは樋沢遺跡や向陽台遺跡に少ない8類が26点と多いことである。住居址覆土から11点(第4表及び7表)出土している。

磨石

平坦な面に広い磨耗面を残す磨石は10点と少ない。住居址の出土は5点だけであるが、石摺り石のB面を加えると37点となる。分厚いセッケン形はない。

凹石

大小の深い凹み、または打撃痕の浅いキズや月のアバタ状の浅いキズが集合するなどの凹みだけの認められる凹石は28点ある。このうち住居址から出土したのは11点と少ない。石摺り石に残る凹みは浅い敲打痕のようなキズの集合が多く、1カ所集中的にあっても浅い凹みが多いが、単独の凹石は深い凹みが多い。(第80図5)

敲石

角や先端、縁あるいは側縁に敲打痕の残す敲石は8点と少ない。

小型の転石を使った敲石は出土していない。石摺り石に伴用されたC部の認められる例は61点あり、B面、D部に比べてかなり多い。石摺り石と敲石のみ重複する例が29点になる。

考察：立野式押型文土器の石摺り石、その形態と編年の位置について

1 石摺り石の名称

中部山岳地方の押型文系土器を出土する遺跡の特有な石器に石摺り石がある。最も特徴的な断面三角形のものには桶沢式ないし細久保式土器に伴うとされ、製粉具あるいは皮なめし具など様々な用途がいわれてきた。これについて桶沢遺跡の報告書に研究史と分類および用途について詳しくまとめているので詳細はそちらを参照していただくとして(註3)、名称について、また一部のタイプの位置付けについて不足の部分があったので補足の意味で小田原遺跡の石摺り石についてまとめる。

この石器は従前より穀摺石の名称で呼ばれてきた。製粉具であると思われたからであるが、穀類のない縄文時代にはふさわしくないとの見地もあり、特殊な磨石として特殊磨石の名称が一般化していた。しかし、筆者は和田峠下のホウロク遺跡の集中出土を契機に分析を進めて、これが皮なめしの道具ではないかという結論に達し、また、押型文土器期から、縄文時代全般をとおして同様機能の磨石が散見されることが分かってきたため、「石摺り石(いしずりいし)」の名称を提起した。皮なめし工程の中にある石摺り作業に使う石器という意味である。

皮をなめすという工程は、民俗なめしの事例では様々な方法があり、必ずしも石摺り作業を必要としない。また、縄文時代の皮の利用形態にも、需要度にも年代的变化があったであろう。石礫の出土量など石器組成の上からも充分な検討の上で、機能を論ずるべきであるが、磨耗痕の観察をする限り、何かを摺ってできた磨耗面であることは明らかである。製粉具として平な石の上で摺ることによってできた面でないことは磨耗痕の部位や形状から見て明らかである。第一に臼となる台部が出土していない。

また、呪術具ならともかく、生産・加工具に特殊な機能や形態があつてはならないと考える。

以上のことから、少なくとも穀摺石や特殊磨石の名称はやめるべきである。

2 石摺り石の分析

(1) 分類基準としての断面形

石摺り石の最も特徴的なことは、河原転石の形態を整えることなく、稜線部分や側面を使用していることである。したがって磨耗痕A面の位置や数は断面形によく示される。A面の数は素材の形状によって決まる。断面三角の角柱状は稜が3辺あり、それらが使われると結果として断面六角形になる。扁平な断面楕円形は一辺に、同じく長方形は二辺にA面が残されることが多い。断面によって形状の特徴も限定される。断面三角あるいは四角ということは細長い角柱状が多く、板状は丸みのある不整四角形または長方形、楕円形(小判形)が多い。

このようにみると、形態分類の基準を考えるには形とともに断面形を考慮しなければならないことが分かる。基本的に断面形は三角形、扁楕円(小判形)、卵形、隅丸長方形である。

平面形は、磨耗痕A面を手前に向けて置いた状態がよく特徴を現すと考えられる。断面をみると、機能面が下を向き、石摺り作業の状態に近いからである。形は基本的に横に長い楕円形、三角形、長方形であるが、一様ではなく小判形、卵形(フットボール形)、隅丸長方形・台形・二等辺三角形・直角三角形など様々である。河原転石の形を整形していないのであるからバラエティーがあつて当然であろう。

以上の断面形、平面形から8類に分類される。

第6表 磨石類遺構別点数

遺 構 名	石摺り石	磨 石	凹 石	敲 石	計
3号 住 居 址	4				4
4号 住 居 址			1		1
5号 住 居 址	1			1	2
6号 住 居 址	6		1	1	8
8号 住 居 址	1	1			2
11号 住 居 址	22		5	2	29
12号 住 居 址	18	2	4	1	25
13号 住 居 址	2	2			4
小 計	(54)	(5)	(11)	(5)	(75)
土 壙	1		2	1	4
集 石 址	4	1	7		12
礫 群	1	2	1	1	5
石 列	8	1			9
石 捨 て 場	36	1	7	1	45
そ の 他	7				7
	111	10	28	8	157

(2) 分 類

第1類 断面形が三角形の棒状あるいは角柱状の一群。全体の形状から3種に分けられる。

- A 三角柱状の細長いもの、3稜線に磨耗痕が残る断面六角形の例がある
- B 断面形、平面形とも丸みのあるもの
- C 断面三角形であるが角柱状にならない不整形なもの、破損品で不明確のもの。

第2類 断面が円ないし楕円形の細長い柱状または棒状の一群。同様に3種に分けられる。

- A 断面が円形に近く、2～3面のA面を持つもの
- B 断面が隅丸長方形
- C 断面が卵形

第3類 断面が扁平な長方形ないし角張った不整四角形の柱状または棒状の一群。磨耗痕は稜ではなく側面に
ある。同様に3種に分けられる。

- A 断面形、平面形とも長方形
- B 断面形が台形ないし不整四角形
- C 断面形、平面形とも不整形

第4類 断面形が楕円または卵形をなし、全体の形状も卵形かフットボール形の一群。

磨耗痕A面以外に平坦な面はないほど全体に丸みと厚みがある。2種がある。

- A 小型で丸みのあるもの
- B 平面形が隅丸四角形に近いもの

第5類 断面形が正方形に近い柱状の一群

第7表 石摺り石の分類別点数

	住居址								小計	土 壙	集石	礫群	石列	石捨	他	計
	3	4	5	6	8	11	12	13								
1-A					1	4	3		(8)					5		13
1-B				1		2	1		(4)					1	1	6
1-C				1		3	4		(8)					8	1	17
2-A	1					1	1		(3)					2		5
2-B						1		1	(2)						1	3
2-C						1	1		(2)			1	4	2	9	
3-A													2		2	
3-B																
3-C						1			(1)				1		2	
4-A								1	(1)			1			2	
4-B																
5													1		1	
6-A																
6-B	1					1	1		(3)		1		1		5	
6-C																
7																
8-A				2		2	1		(5)		2	1	6	1	15	
8-B	1			1		1	3		(6)			2			8	
8-C												1	2	1	4	
不明	1		1	1		5	3		(11)	1	1	1	2	3	19	
計	4	0	1	6	1	22	18	2	(54)	1	4	1	8	36	7	111

第6類 断面形や平面形が不整形ではっきり分類できない一群。

第7類 扁平な薄い板状の石の一边に、磨耗痕A面と剥離痕Eが残るもの。類例はきわめて少ない。

第8類 薄い扁平な楕円形もしくは小判形、隅丸四角形の細長い一群。磨耗痕A面は側面にあり、1~6類に比べて板状であり一見して異質。3類とは類似するが厚さが異なり表裏面が平面的である。厚さをどこで区切るか根拠はないが、側面全体を使用する場合は多少厚くても本類でいいのではないかと考えるに至った。

平面形から3種に分けられる。

- A 平面形が楕円形ないし不整形、隅丸四角形
- B 平面形が隅丸の長方形、扁楕円形の細長いもの、セッケン形を含む
- C 大型磨製石斧状の細長いもの、両端に剥離痕が入り礫器状であるものを含む

以上、基本的に樋沢遺跡の分類にしたがっているが、それはこの石器の在り方が極めて類似していること、両者を比較する上に合理的であると考えたからである。8類は樋沢より良好な資料があり、補足することができた。

(3) 小田原遺跡の石摺り石

① 形態の特徴

石摺り石の総点数は111点である。住居址覆土の出土は54点、住居址別点数、その他遺構別点数は第6表のとおりである。これらの分類別点数も第7表に示した。

1類の断面三角形のものが36点と、全体の33%を占め、2類が17点と両者で半数をしめる。3～6類は少ないが、これはどの遺跡も共通する傾向にある。

注意したいのは8類が27点(26%)とやや多いことである。住居址では6・11・12住に多い。11・12住は全体に遺物が多いので比較しにくい、6住は6点の石摺り石の中で3点が8類である(第23図1・2・5)。

② 扁平な石摺り石 8類について

8類だけ抜き出して見ると、その特徴はさらに明瞭である。

6住出土の第23図1は典型的な8類Aである。磨耗痕A面は側面にあり、表裏の広い平坦面にB面・D部を残し、C部も角に認められる。C・D部は全体に痕跡は弱く、浅く明瞭ではないがよく特徴を示す。同2はA面がかすかに観察される。

第23図5は8類Bの典型である。同様にA～Dが認められ、扁平形の二辺にA面がある。

11住は3点ある。第55図1が最も8類らしい形状(A)であるが側面にA面が残るだけである。第54図4はセッケン形に近いタイプであるが、凹みの形状はやや異質である。第54図1は2類と区別が難しいタイプである。やや厚みがあり、断面かまぼこ状に近いが、細長い形が想像されることからあえて8類にしておく。これまで注意が足りなかった類である。

12住には4点ある。第79図4はセッケン形の典型8類Bである。やはりA～Dまで確認され、A面は側面に、B面は平坦面にある。第78図5も8類B、同7はやや厚みがあり問題であるが側面が使用されていること、表裏面が平坦であることから同じくBに加えた。同8は逆に丸みのある表裏面であるが、きわめて扁平であり一見して8類である。

石捨て場で採集された資料中に8類が多く見られる。時期的な考察には不十分であるが8類Cは好例が2点ある。一つは形状が殆ど刃形石斧のようであり、先端に剥離痕が入り打製石斧か礫器のようである。しかし両側の側面が平坦に磨耗して剥離痕Eも残る。敲打痕C・D部も認められる。他の1点も同様であるがD部は残っていない。これらの先端部の剥離はA面形成の後で行われているように観察される。10住の第30図8、2号石列の第140図2も8類Cの好例である。11住出土の第55図2も同類かもしれない。

3 立野式押型文土器の石摺り石

小田原の石摺り石について類例を求めて位置付けしておきたい。小田原の立野式押型文土器に極めて近いと思われる美女遺跡と地理的に近い向陽台、樋沢遺跡の石摺り石と比較を試みる。

(1) 塩尻市向陽台遺跡の石摺り石

昭和60～62年度、国道20号線改築工事(塩尻バイパス)に伴う調査において、Ⅱ区から縄文時代早期の住居址4基が発見された。そのうち3号住居址は、樋沢式押型文土器期の住居址で、他時期の遺物を含まない単一の該期遺物の在り方を示していた。(註4)

3号住居址は樋沢遺跡の場合よりも、異方向帯状施文の山形文土器の樋沢式土器を単純に出土している。伴出した石器類も該期の石器組成の様相を示す好例と思われる。

本址では磨石類34点が検出されており、内訳は石摺り石21、磨石7、凹石6である。石摺り石21点の細分は、

基本的に樋沢遺跡と同様の観点で分類している。第1類が15点、第2類が2点、第3・4類が各1点、不明2点と、1類が大半を占めていることが特徴である。

樋沢式土器に伴う石摺り石は、1類の断面三角形の一群が主体的にあることを再度指摘しておきたい。

第8類については、この時点ではまだ明確な分析ができていなかったこと、良好な資料に接していなかったことにより、十分に抽出されていないが、磨石に細分した7点のなかに第8類Aが3点含まれている(註4、第253図152・153・157)。これら3点は152を除いて、A面～D部を合わせ持ち、側面にA面(向陽台遺跡の分析時点ではB面に扱っている)を残す。D部の凹みは、152・153が浅く、157は深い。157は小田原遺跡の第54図4によく似ている。

(2) 岡谷市樋沢遺跡の石摺り石

これまで4次にわたる調査が行われているが、最大の面積を発掘した平成10・11年度第4次調査は、良好な包含層が調査できたため、ある程度まとまった出土品があった。(註3)

調査面積384.4㎡、押型文土器を主体とする縄文時代早期の遺物が出土、磨石類は92点、6例の接合があるので実質86点の内訳は、石摺り石67、磨石4、凹石9、敲石6である。分類基準は前述のとおり、当遺跡と同じである。

樋沢遺跡では破片・細片を除き、良好に全体形状を観察できる41点の石摺り石について分析した。第1類断面三角形の類は17点、断面卵形の第2類が11点、第3～6類は合わせて10点、第8類は2点が出土しただけである。

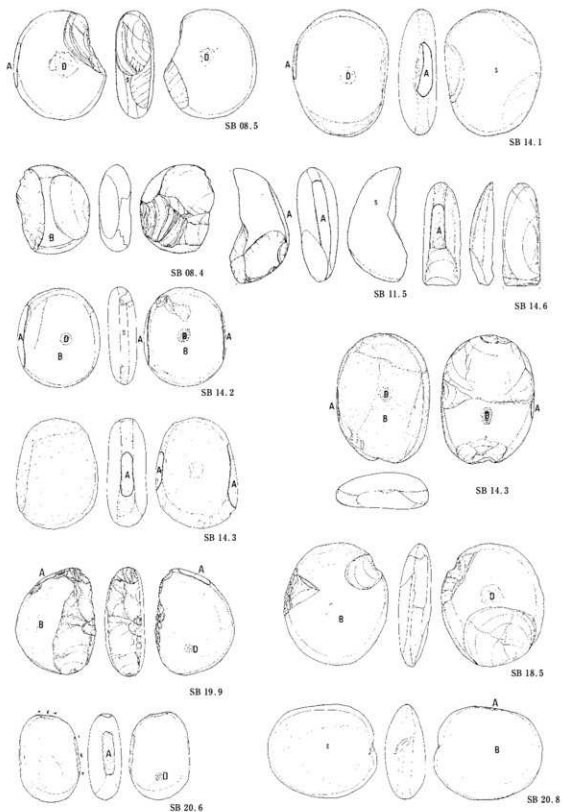
この数字を見る限り、主体は断面三角形のいわゆる穀摺り石と呼ばれたタイプのものであるが、断面六角形になる磨耗痕A面が3面の例は8点とそれほど多くない。これまであまり注意されていない断面卵形の第2類は、丸みがあり角柱状の第1類と趣を異にするが、第4類もフットボール形の丸みと厚みがあって、同様のイメージである。A面は1～2面がほとんどである。2・4類で14点である。

第8類は2点とも、A種の扁平な楕円形と丸みのある台形状である。1点はA面～D部まで使用痕を残すが、D部の凹みは浅い。A面は側面に1面、C部は角および側面、縁辺の広範囲に残る。1辺は敲打痕によって平坦面を形成するほどである。もう1点はA面を1面残しているだけで、表裏面と磨耗痕B面を残す丸みのある磨石に近いタイプである。(第153図40・43)

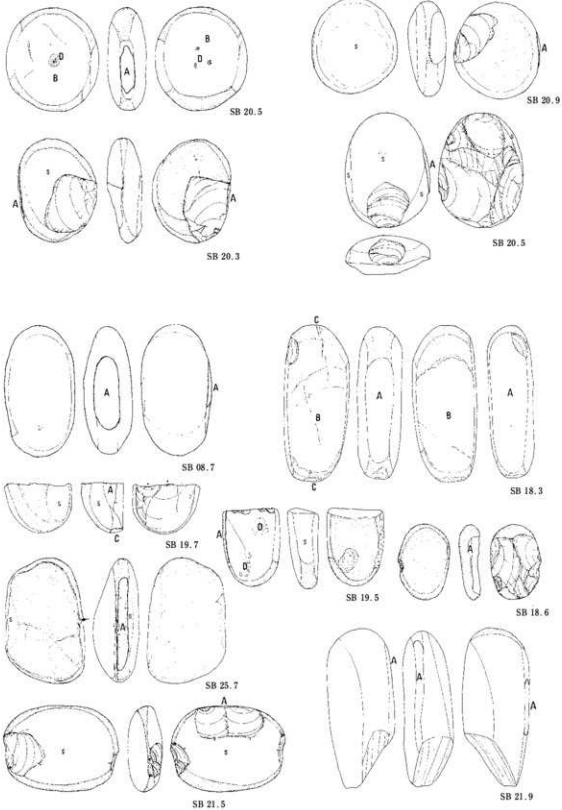
(3) 飯田市美女遺跡の石摺り石

美女遺跡は広域営農団地農道整備事業伊那南部2期地区、および県単農道整備事業に先立って、平成7～9年度に調査・整理が行われた。調査面積4,270㎡、縄文時代の遺構では早期の堅穴住居址11棟(その他4棟)を主体に、炉穴、集石、小堅穴等が多数発掘されている。

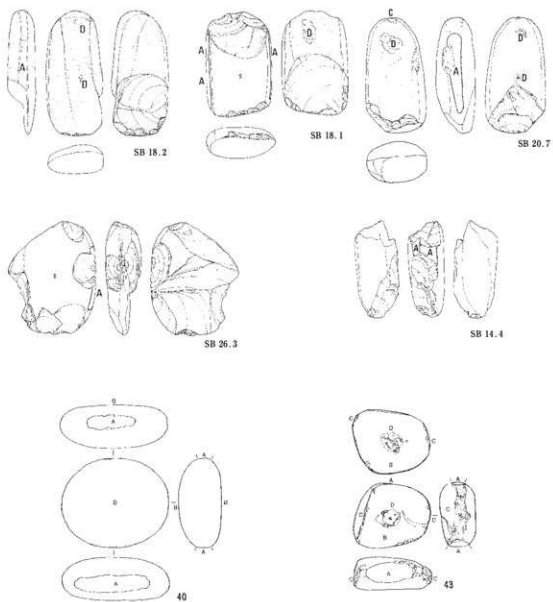
縄文時代早期の住居址は、押型文土器期の単一な集落址であり、それも立野式期とされる。したがって、比較的単一と見られる出土品の検討から、各住居址の出土石器、磨石類について再度分析を加えた。これについては、平成10・11年度樋沢遺跡調査報告書(註3)でも取りあげている。今回改めて実地調査して、そのときの分析を確認することができた。飯田市教育委員会の了解の上、実測図に若干の補足を加えて図示する。(第151～153図)(註2)



第151図 美女遺跡の石摺り石 (2) (8類A)



第152図 美女遺跡の石摺り石 (1) (上2段-8類A, 下段8類B)



第153図 美女遺跡(上段A類C、中段-不明)と桶沢遺跡(下段-8類A)の石摺り石

第8表 美女遺跡における石摺り石8類の点数

住居址	8類A	B	C	不明	計
SB01					
08	1	1			2
11	1				1
14	4			2	6
18	1	2	2		5
19	1	2			3
20	6	2	1		9
21		2			2
24					0
25		1			1
26				1	1
計	14	10	3	3	30

SB01住居址では、8類Bタイプの磨石は2点存在するが、磨耗痕A面は認められない。

SB08住居址では、8類A・Bタイプが各1点ずつあり、A面が側面に残る。第152図SB08.7は両側面に、第151図SB08.5はわずかであるが1側面に認められ、D部も浅く残る。

SB11住居址は、8類Aが1点あり、A面のみ側面に認められる。

SB14住居址は最も磨石類の出土点数が多く、8類Aが7点ある。1～2面のA面を側面に残し、浅い凹みのD部は4点に残る。B面は、明確に認められるのは1点(第151図SB14.2)である。

SB18住居址は5点あるが、バラエティーに富み、8類Aが1点、Bが2点、Cが2点ある。注意したいのは、Cの2点である(第153図SB18.1・2)。報文では掻器としてみているとおり、長大な転石の両端又は片端に大小の剝離を加え、刃部のような縁には調整加工痕か使用痕のような細かい剝離が並ぶ。この細長い石斧状の両側縁又は片側縁に磨耗痕A面が認められる。これは、整形のための磨痕とする報告書と見解を異にするが、別項では同様のタイプが石摺り石(特殊磨石)として図示されているので、削器または掻器とその石核との見解もあって、明確にその差を読み取れない。これについては別の機会に検討を加えさせていただく。なお、8類Cの剝離は、磨耗痕A面より後の行為であると思われる。

SB19住居址には3点あるが、1点(第151図SB19.9)は片刃礫器と説明されているとおり、半分を調整加工して刃部を作り出している。A面は側面に小さく残る。8類Aが原形であろう。他の2点は欠損品であるが、Bと思われる。

SB20住居址には、8類A～Cが認められる。やはり片刃削器のような礫器状のCが1点認められる。6点が8類Aであり、2点がBである。Bの1点はセッケン形に近い形状である。第152図SB20.9、同SB20.3・5は剝離痕を大きく残し、石核のようである。

SB21住居址には、2点の8類Bがある。A・Bタイプながら、磨耗痕A面を認められない磨石が3点ある。

SB24住居址は、8類は認められないが、21住同様の磨石が2点ある。

SB25住居址には1点、26住居址にも1点が認められる。

(4) 他地域の石摺り石

立野式押型文土器に最も近い大川式押型文土器の遺跡である奈良県宮の平遺跡では、534点の磨石・敲石類が出土している。報告者の橋本裕行氏は、これらの石器を分析して使用痕をA～Dに分類し、A～Dの4型式に細分、A型式が石摺り石に相当するが、これには二者ありとする。一つは断面楕円形または扁楕円形、一つは断面三角形、そしてこれを時間差による差と捉え、後者は樋沢式に伴い立野式にはわずかに存在するだけ、大川式には伴わない可能性が高いと考えている。(註5)

資料を見る機会がなく全点に当たって使用痕を確認したわけではないので、確定的にいうことはできないが、報告書でみると、小田原でいう8類AおよびBがいくつか含まれている。集石址3に4点、同5に3点、同6に2点、その他遺構に6点ほどが確認できる。いずれも断面が扁平な楕円形(小判形に近いが表裏面が平らでないものが多い)で平面形は不整楕円形・円形、隅丸三角形、細長い丸みのある長方形である。おそらく全体の中ではかなりまとまった数になるであろう。

そのほかの類は断面が楕円形ないし卵形が円形に近く、厚みのあるものが多い。樋沢では2類にしたものである。先に触れたように8類とは厚みの差であり側面全体が磨耗面になる点では共通する。表裏面が平坦ではなくかまぼこ状になる類は2類にしたほうがよいと思われる。樋沢式期より古い段階に出現するかもしれない。

8類は樋沢式に先行して出現することは確実なようである。まだ古い段階の遺跡全部にあたったわけではないのはっきりいえないが、2類も可能性を残しているようである。

(5) ま と め

以上、向陽台、樋沢、美女の三遺跡について8類タイプを実測した結果を概略にまとめた。中でも美女遺跡では、少なくとも石摺り石の磨耗面A面を持つ8類A・Bが27点確認できた。また、Cの礫器状(石斧状)の細長いタイプも3点あることが分かった。Cについてはこの種の円礫を石核として、剥片が削器、掻器に使われているので、慎重に扱う必要があろう。観察する限り、剥離が磨耗痕の後で行われていることから、石核への転用ということも考えなくてはならない。

美女遺跡は、相当に立野式期に限定された集落址である。この8類タイプの在り方はやはり指摘したとおり、樋沢式期の断面三角形タイプと、所属時期を異にすると思われる。現在の押型文土器編年観からすれば、この扁平な石摺り石は、断面三角形のいわゆる穀摺り石と呼ばれたタイプに先行するということである。

また礫器状のタイプは、押型文土器の初期に位置つけてよいであろう。小田原遺跡の8類Cも、押型文土器の編年の位置からみてなら矛盾しない。

註1 1986 会田 進 「磨石類」〔梨久保遺跡〕岡谷市教育委員会

註2 1998 馬場 保之・角張 純一 「美女遺跡の石器」〔美女遺跡〕飯田市教育委員会

註3 2000 会田 進 「縄文時代の「石摺り石」-いわゆる「穀摺り石」の形態分類と使用痕の分析」
〔樋沢遺跡〕岡谷市教育委員会

註4 1988 小林 康男、樋口貴重子、会田 進ほか 「向陽台遺跡」〔一般国道20号(塩尻バイパス)改築
工事埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書〕塩尻市教育委員会

註5 2003 橋本 裕行 「宮の平遺跡縄紋早期遺構出土の磨石・敲石類について」〔宮の平遺跡Ⅱ〕

国地区	遺物番号	細分類	形態	残存比	石材	A面数	B面	C面	D面	備考
第53国	* B 3656 11住№.7	石磨石	1-A	(2/3)		2	2		2	E部が顕著、D部浅いアバタ状
	* 2 * B 3664 11住№.14	四 右	2-C	(1/1)					1	使用痕跡が乏か
	* 3 * B 3655 11住№.6	石磨石	1-A	(1/1)		3	1	3	1	各面部分的にツルツルになる
	* 4 * B 3628 11住	四 右	1-C	(1/1)					2	浅い凹み 全体に丸みがある
第53国	* B 3661 11住№.11	石磨石	1-C	(1/1)		1			1	
	* B 3670 11住№.2-5	石磨石	?	破片		2				縦直して明確ではない
	第54国 1 010W B 6468 11住上層	石磨石	8-B ?	(1/2)		1			1	D部浅いアバタ状の凹み
	* 2 * B 6709 11住上層	四 右	1-A	(1/1)		1			2	浅い凹み
第54国	* B 3829 11住北	四 右	1-C	(1/2)					2	
	* 4 * B 675 11住上層	石磨石	8-A	(1/2)		1	2		2	D部は浅い、ロート状の凹みと、アバタ状の凹みとC部凹面をなす 新しいはずがついて不明瞭
	* 5 * B 7219 11住下層	石磨石	2-B	(1/2)		1				新しいはずがついて不明瞭
	* 6 * B 6464 11住上層	石磨石	3-C	(1/2)		1	1		1	D部不明瞭、B面も縦溝が乏か
第54国	* 7 * B 3665 11住№.2-1	四 右	1-C	(1/1)		1			1	
	第57国 1 * B 6664 11住上層	石磨石	1-C	(1/1)		2			2	縦溝が太く縦直し、一箇所は最も浅い
	第55国 1 * B 6961 11住中層	石磨石	8-A	(1/1)		2	1		1	A面が乏か、B面凹面が浅い
	* 2 * B 7068 11住中層	石磨石	?	破片		1			1	石磨石に潤滑が浅い、8面Cの可能性あり
第52国	* 8 * B 3661 11住	石磨石	?	破片		1			1	
	* B 3666 11住	石磨石	1-A	(1/2)		1			1	B面、C・D部全く見られない
	* 2 * B 3670 11住	石磨石	1-B	(1/3)		2	1		1	縦直してやや明確でない
	* 4 * B 3830 11住	石磨石	?	破片		2	1		1	縦面凹面のタイプが乏か
第55国	* 3 * B 3735 11住	石磨石	1-A	(1/2)		2			3	D部のみとB面を形成している面が一面ある、ややくぼむようなB面で、 縦溝が乏か見えない。A面は即座に潤滑が浅い、D部はアバタ状に浅い
	* 5 * B 3665 11住	石磨石	2-A	(2/3)		2			1	縦面もA面使用
	* 6 * B 6708 11住中層	石磨石	1-B	(2/3)		2	1		1	D部浅いアバタ状
	* 7 * B 3669 11住	石磨石	?	破片		2				丸潤の凹面凹面はA面の上である、自然の凹み凹みではなくA面の縦溝 の結果か。矢張り潤滑の一部かとも思われる形状を呈す
第55国	* B 3652 11住№.3	石磨石	6-B	(3/4)		1	1		1	C部が乏、E部潤滑多い
	第77国 6 * B 3657 12住№.11	石磨石	6-B	(2/3)		3	1		2	A面は凹面の凹み凹み乏か、C部も乏か乏か縦溝
	* 8 * B 4728 12住	?	破片							使用痕跡が乏か、縦溝も潤滑痕跡が乏か乏かに集中する
	* 9 * B 3655 12住上層	石磨石	1-C	(1/3)		2	1		1	C部に潤滑痕跡乏
第80国	* B 7737 12住東階	石磨石	1-C	(1/6)		1			2	三角柱の凹面をA面に使う典型例の凹面凹面はアバタ状、B面は縦溝 して乏か乏か乏か
	* 4 * B 7785 12住北サブトラ	石磨石	1-C	(1/2)		1	1		2	A面凹面も、2面が併存する
	* 2 * B 7708 12住上層	石磨石	1-C	(1/2)		1				凹面凹面凹面が先階に併存痕跡と使用による、潤滑痕跡が浅い
	* 3 * B 4727 12住	磨 石	?	破片			2			縦溝が縦溝である
第81国	* 5 * B 3699 12住上層	四 右	1-A	(1/1)					2	D部はロート状にきれいに凹み、C部に潤滑痕跡が浅い
	* 8 * B 7446 12住上層	四 右	3-A	(3/4)					1	D部は浅い、C部による縦溝か
	* 6 * B 7415 12住	磨 石	?	破片						
	第81国 1 * B 7447 12住上層	石磨石	1-C	(1/4)		1			1	縦面凹面な三角形を呈す
第79国	* 2 * B 7365 12住下層	磨 石	?	(1/3)					1	
	* 3 * B 3669 12住№.23	石磨石	2-A	(5/6)		2			1	B面に縦溝を欠すか
	* 7 * B 3877 12住№.31	石磨石	?	破片		1				
	* B 7448 12住上層	四 右	1-C	(1/3)					1	Aバタ状

図版No.	遺物番号	細分類	形態	残存比	石材	A面数	B面	C面	D面	備考	
第79図 2	* B 3658 12付No.12	石摺石 ?	?							破片、巾32mmのA面を残す	
	* 3 * B 7688 12付下層	石摺石 ?	?	破片	1	1				扁平石片、人の長切腹面が全面A面となる。B面片方はツルツル、D面は低い、C面は明確ではないが、大きな刺痕を残す	
	* 4 * B 7786 12付No.15合層	石摺石 8-B	1-B (1/1)	(2/3)	2	3	2			1 折損後もA面を使用、折れた跡を磨打している	
	* 5 010W B 7450 12付上層	石摺石 1-A-B	(2/3)	(1/1)	3	1	1	2		A面巾32mm、折損後もA面使用可	
	* 6 * B 7650 12付下層	石摺石 2-C	(2/3)	(2/3)	2	2	2	1		D面はアタタキにB面全体に広がる	
	* 7 * B 7689 12付下層	石摺石 1-A	1-A (1/2)	(1/2)	2	2	1	1		D面はかすかな刺痕、典型的な断面三角	
	* 8 * B 8847 12付No.1	石摺石 ?	?	破片						破片の割りに使用痕の刺痕が残る	
	第78図 1	* B 3661 12付No.15	石摺石 1-A	1-A (1/2)	(1/2)	2	2	1	1		C面は平坦な縁の短辺全体、A面は磨損して粗縁が若干
第85図 1	* 2 * B 4903 12付上層	石摺石 1-A	破片		2	1	2	1		A面、C面残存せず	
	* 4 * B 3965 12付No.9	石摺石 ?	(1/2)	(1/2)	2	2	1	1			
	* 5 * B 3870 12付No.24	石摺石 8-B	1-B (1/3)	(1/3)	1						
	* 6 * B 3850 12付No.4	四 右	1-A (1/1)	(1/1)						2 欠いくはみ	
	* 7 * B 3852 12付No.6	石摺石 8-A	1-A (1/3)	(1/3)	2	2	2			2 A・B面ともよく使われている	
	* 8 * B 3866 12付No.20	石摺石 8-B	1-B (2/3)	(2/3)	1					A面、C面とも粗縁が若干	
	第83図 1	* B 7807 13付上層	石摺石 2-B	2-B (3/4)	(3/4)	2	2	2			1 A面粗入5mm、A・B面とも使用が著しい
	* 2 * B 7887 13付	石摺石 4-A	破片		1						
第81図 3	* 3 * B 7888 13付	磨石 ?	磨石 ?								
	* 4 * B 7812 13付上層	磨石 ?	磨石 ?								
	第118図 3	* B 1355 27上層No.2	四 右	(1/1)							
	* 2 * B 5195 38上層No.1	磨石	磨石							6ヶ所と4ヶ所の凹み痕があるが、いずれも浅い、1ヶ所のみ浅いロート状(なめらか)の凹み	
第131図 9	* 4 * B 5207 64上層No	石摺石	破片		1		2	1		1 ?	
	* 6 * B 7965 149上層No.1	四 右	1-A (1/1)	(1/1)						折損時に磨痕が残る、A面は不明確	
	第131図 9	* B 8100 4号No.2	石摺石 ?	?						D面は深い凹みを両面にもつ	
	* 10 * B 3102 4号No.4	石摺石 8-A	1-A (1/3)	(1/3)	1	1	1			A面は粗面	
	* 11 * B 3114 5号No.2	石摺石 6-B	1-B (1/2)	(1/2)	1	2	1			2 A面凹みになるらしい	
	* 12 * B 3112 5号草部	砥石	砥石								
	* 13 * B 3154 8号No.1	四 右	1-A (1/2)	(1/2)						1 磨滅して不明確	
	* 14 * B 3219 12号No.2	磨石	1-B (1/3)	(1/3)						1 使用による磨痕がはっきりしない	
	第135図 1	* B 3257 18号No.2-1	四 右	1-A (1/3)	(1/3)			1			1 折損時に磨打の刺痕が若干、D面が若干
	* 2 * B 3258 18号No.1	砥石	砥石								1 磨痕が若干
	* 3 * B 3309 20号No.1	砥石	砥石								
	* 4 * B 3331 23号	砥石	砥石								
* 6 * B 5008 37号	?	?	?								
* 7 * B 5028 40号No.2-1	四 右	1-B (1/2)	(1/2)							2 D面は低い、かすかな凹みを残す	
第138図 1	* B 5059 52号No.2	四 右	2-C (2/3)	(2/3)						2 D面は低い、かすかな凹みを残す	
* 3 * B 5069 55号No.2	四 右	1-A (1/1)	(1/1)							1 凹み痕のきれいな凹み	
* 4 * B 5083 55号No.1	四 右	1-A (1/1)	(1/1)				1			1 B面片数もあるらしいが不明確	

図版No	遺物番号	細分類	形態	残存比	石材	A面数	B面	C部	D部	備考
第13図 6	* B 5130 66号№2	?								
	* B 5070 55号№3	円石		(1/2)					1	D部の内凹はかすかな痕跡
	* B 5120 60号№3	石筒石	8-A	(1/1)		2	1			D部は低い広い凹み、A面は凹み深い
	* B 3209 27号№2	?								
第14図 7	* B 665 Ba-5行互の磨研№21	横刃								縁辺が摩滅するがはっきりしない
	* B 1923 Bc-49磨研№96	石筒石		(横片)		1				
	* B 1862 Bc-49磨研№37	?								
	* B 1905 Bc-49磨研№138	磨石		(横片)		1	1			両片の間に微細な磨痕が残る
第15図 4	* O1W1402 Bc-49磨研№105	円石							1	
	* B 1963 Bc-49磨研№136	?		(横片)						
	* B 1047 Bc-49磨研№24	?								
	* B 1886 Bc-49磨研№53	?								
第18図 4	* B 1930 Bc-49磨研№103	最石							1	
	* B 1866 Bc-49磨研№21	磨石		(横片)			1			
	* B 3434 1号№5	?								
第18図 1	* B 3435 1号№6	石筒石	?	(1/2)		1			1	3枚画像も使用可
	* B 3442 1号№13	石筒石	8-B	(1/2)		1				1枚画像に縁を使用、磨痕が残る
	* B 3443 1号№14	石筒石	?	(1/3)		2				磨食はなほ大きくB面、C・D部は不明瞭
	* B 3444 1号№15	磨石?		(2/3)			1			
第19図 2	* B 3437 1号№8	石筒石	4-A	(1/3)		1				
	* B 8131 2号№3	石筒石	8-A	(1/3)		3				1A面は角を使った珍しい例
第10図 2	* B 8129 2号№1	石筒石	8-C	(1/5)		2	1			1ここまで細長い例はあまりない磨擦状の素材の2断面を使う
	* B 8130 2号№2	石筒石	8-A	(2/3)		2	2			2全体に磨食して不明瞭
第4	* B 8132 2号№	?								
	* B 8136 2号№	石筒石	8-B	(2/3)		2		2		1A面最大径39.6mm、よく使われている
石筒類	* B 6094 石筒	石筒石	1-A	(1/1)		3	1		2	C部の磨痕が両方に大きく残る、C部の片方は角を使う、断面三角
	* B 6126 石筒	石筒石	1-A	(2/3)		3			2	C部の片方は割れ目の角を使う
	* B 6014 石筒	石筒石	3-A	(1/2)		3				A面とも磨く残る
	* B 6014 石筒	石筒石	1-A	(1/2)		3	1		1	C面は角
	* B 6025 石筒	石筒石	3-A	(1/1)		2	1		2	D部アバツ状、一面に2ヶ所、C部の磨痕は大きく多い、卵形
	* B 6188 石筒	石筒石	3-C	(1/1)		2			2	D部の片方は角、A面は細い凹
	* B 6006 石筒	石筒石	1-A	(2/3)		2	1			C部は平端に磨滅
	* B 6137 石筒	石筒石	2-A	(2/3)		2	1	1	2	C部の片方は相当強い打撃により大きく破損、破損後も使用
	* B 6032 石筒	石筒石	2-A	(1/2)		2		2	1	C部はきれいな平面になる
	* B 6196 石筒	石筒石	1-B	(1/2)		2		1	1	C部はわずかな痕跡、折損面に縁を使用可
	* B 6017 石筒	石筒石	?	(1/4)		2	1			
第10図 2	* B 6072 石筒	石筒石	8-A	(1/5)		2	1		1	C部の片方は平断面を形成、縁線上の先端に磨打痕
	* B 6051 石筒	石筒石	6-B	(1/1)		1	1		3	
	* B 6031 石筒	石筒石	2-C	(1/1)		1			2	C部の両方は角

図版No.	遺物番号	編分表	形態	残存数	石材	A面数	B面	C面	D面	備考
	* B 6019 石摺	石摺石	1-A	(5・6)		1				中央のびれはひもかけ用か(後型のもの?)
	* B 6063 石摺	石摺石	1-C	(3・4)			1	1	2	C部は角を使用。片方は破損部のA面内
	* B 6121 石摺	石摺石	1-C	(5・6)			1	1	2	C部は破損部の縁を使用
	* B 6140 石摺	石摺石	3	(1・2)		1		1	1	C部は破損部の縁を使用
	* B 6066 石摺	石摺石	1-C	(1・4)		1		1	1	丸蓋の平出部縁を使用
	* B 6067 石摺	石摺石	1-C	(1・2)		1		1	2	片方はすかすか
	* B 6019 石摺	石摺石	8-A	(1・2)		1		1	1	D部は低い(丸蓋内底)
	* B 6019 石摺	石摺石	8-A	(1・4)		1		1	2	A・B面とも丸蓋はかすかに残る程度
	* B 6197 石摺	石摺石	1-C	(1・3)		1		1	1	D部はアバタ状。C部は平出部面を形成
	* B 6145 石摺	石摺石	2-C	(1・2)		1		1	1	破損不明な部分が多い
	* B 6041 石摺	石摺石	2-C	(1・3)		1		1	1	C部は平出部面を形成
008	B 6114 石摺	石摺石	1-C	(1・2)		1	1	1	1	片面、C部破欠のため不明
	* B 6069 石摺	石摺石	2-C	(1・3)		1		1	1	A面の破損わずか芥菜の葉の形面を使うC部の片方は何箇所縁をわずかに使用
	* B 6123 石摺	石摺石	8-C	(1・2)		1	1	1	2	
	* B 6193 石摺	石摺石	8-A ²			1				D部の凹み内はなめらか。B面不明
	* 6016 石摺	石摺石	8-A	(1・2)			1	1	1	D部は右側縁直状。A面は2面か。C部不明
	* 6186 石摺	石摺石	8-A	(1・1)		1		1	1	D部は右側縁直状。A面は2面か。C部不明
	* 6009 石摺	石摺石	1-C	(1・3)		1		1	1	A面の破損わずか。破損不明
	* 6021 石摺	石摺石	1-C	(1・3)		1		1	1	破損不明
	* 6013 石摺	石摺石	8-C	(3・4)		27				A面の一つは不明確。頸部は2号台石12はか 形状で面を穿う。破損不明
	* 6190 石摺	石摺石?	3 ²	(1・1)		47				表面内の石けん形であるが、煎食はげしく不明確
	* 6013 石摺	石摺石?	3	(1・1)	全組					表面内の石けん形であるが、煎食はげしく不明確 劣るものも。形状受ものも
	* 6039 石摺	四石	四石	(1・6)			1		1	A面の破損はわずか。D部は低い。ロート状になめらか
	* 6049 石摺	四石	四石	(1・3)				1	2	D部は低い。ロート状でなめらか
	* 6028 石摺	四石	四石	(1・1)				1	2	D部は低い。ロート状でなめらか
	* 6033 石摺	四石	四石	(1・1)					2	片方はロート状。一方はアバタ状
	* 6164 石摺	四石	四石	(1・1)					2	低い明木。煎食していて明確ではないが、なめらかでは ないようだ
	* 6107 石摺	四石	四石	(2・3)					2	片方は低いかずか。破損。多量買であるため明確ではない。扁平
	* 6005 石摺	四石	四石	(3・4)					1	低い明木
	* 6011 石摺	円筒状石摺 器石		(1・2)			1		1	円筒状に型利面縁を加えている。一部打痕と見える部分あり 縁に破損はわずか
	* 6191 石摺	器石		(1・4)						縁に破損はわずか
	* B 5795	石摺石	2-C	(1・3)		1			1	縁に破損はわずか
	* 3458 カタタシ	石摺石	2-C	(2・3)					1	C部かずかに平出部面を形成
	* B 8116 30a-42	石摺石	2-B	(1・2)		1		2	1	B面不明。C部平出
	* 1465 A7-11	石摺石	1-B	(1・1)		3			1	丸蓋六角
	* 3463 A5-10	石摺石	8-B	(2・3)		1		2	1	片面かずか? C部かずか
	* 1463 A7-11	石摺石	1-C	(1・3)		1			1	C部に丸蓋縁。石状状

あ と が き

今回の調査では、縄文時代早期前半期の良好な遺構が発見された。会田氏によると小田原遺跡は立野式期の後半期に相当するという。

縄文時代早期とは遠き昔のことで、自分とはあまり関わりのない時期と考え、何も勉強していなかった。そのため、調査段階からすべて手さぐり状態であった。このため、まとめではなかなか記述しづらいことについて、あとがきなら許されると考え、若干気のついた点を述べたい。

まず、石罫であるが、樋沢遺跡（2000）でその変遷が述べられており、この変遷表で小田原遺跡出土の石罫の形式を比較すると、美女遺跡で出土している石罫の形式とは若干異なっており、さらに、樋沢遺跡のそれとも一致してこない様相が伺える。多くの類例にあたっての見解でないため確かではないが、立野式から、次形式へと変遷していく移行期に存在していたということが石罫の変遷からもいえる可能性がある。

遺構では、底部付近に被熱箇所を検出した土坑が注目される。この内B類については重複遺構に集石炉を伴う例も存在していることから、この土坑で礫を熱して集石炉の土坑に入れていた可能性も考えられはしないだろうか。検出形状が不整形なのはやはり一過性の施設の可能性を示唆しているように感じる。

また集石炉のうちA類は炉の可能性はある。しかし、煮炊きに利用した遺構ならば、土器片が出土すると思われるが、今回の調査では遺物が出土しておらず、機能を明らかにする材料に乏しい。今後類例を調査し、検討していかなければいけない課題である。

その他の炉穴と呼ばれる遺構についても、壁面付近を中心に被熱箇所が検出された土坑があり、土坑中心部に「何か」において火を使用していた可能性が考えられよう。このような土坑が住居址の数にも増して出土していることは、日常的に必要な施設として利用していたことを物語っているといえよう。

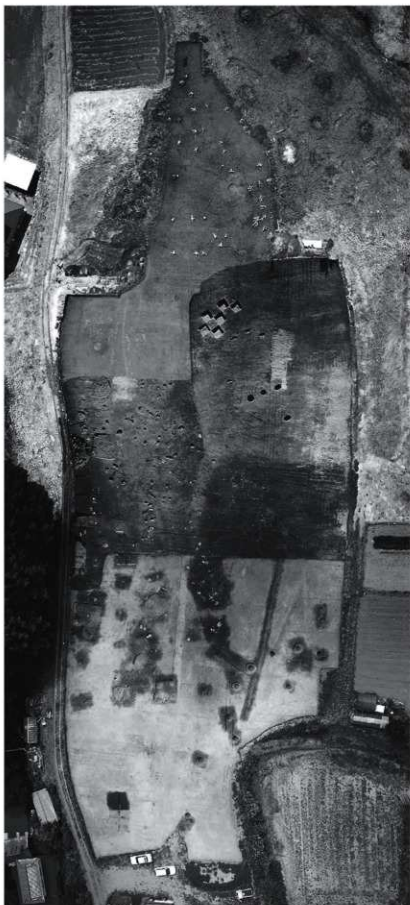
この遺跡調査は辰野町にとって数多くの課題を提供してくれたと思う。これらの課題について今後さらに検討を加え、少しでも歴史を明らかにしていかなければならない。

今回の調査は、平成10年に突然町農政課から「中山間総合整備事業」と呼ばれる開発計画が教育委員会に持ち込まれた事が契機であった。この時は、広大な開発面積をいかに調査日程に載せるかに躍起になって、つい「遺跡保護」という立場を見失ってしまっていたような気がする。記録保存は決して万全な方策ではない。今回の遺跡調査は、縄文時代早期に関して多くの資料を提示できたことは確かである。しかし、それと引き換えに遺跡は消滅し、ここに分厚い発掘調査報告書が残っただけである。あの時も思い切って事業を中止するように働きかければ、上伊那郡でも有数の遺跡は保存できたかもしれない。緊急発掘でなければもっと有意義な情報を引き出したかも知れない。報告書の刊行を目前にしてついそんなことが頭をよぎった。（調査担当者の非力さは棚にあげて…）

幸いにも、当時長野県教育委員会文化財・生涯学習課に広瀬昭弘氏が指導主事として在籍されており、隣の岡谷市には会田進氏がいらした。また、飯田市教育委員会の馬場保之氏にも有益な助言をいただいた。この方々には調査段階から数々の有益なアドバイスをいただき、大変お世話になった。また、会田氏にはご多忙な折にもかかわらず、原稿まで執筆していただいた。ここに、感謝の意を表すると共に、いただいた助言が十分反映できなかったことをお詫びします。

末筆にはなりましたが、暑いときも、寒いときも、現場の調査に従事し、落とし穴に頭から落ちんばかりの勢いで発掘して頂いた作業員の皆さんに厚くお礼申し上げます。

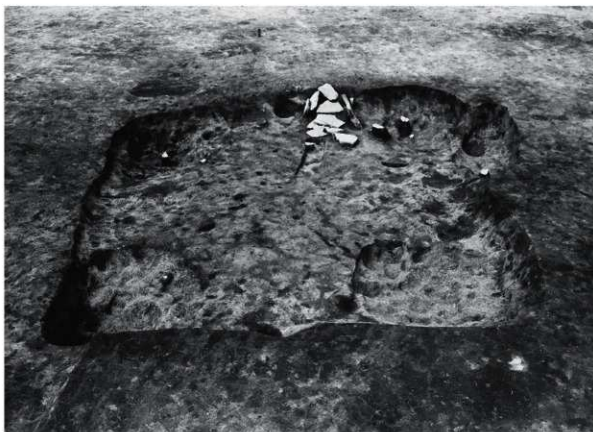
—写真图版—



全体写真 (1)



全体写真 (2)



第1号住居址



第 2 号住居址



第3号住居址



第4号住居址



第 5 号住居址



第 6 号住居址 (1)



第 6 号住居址 (2)



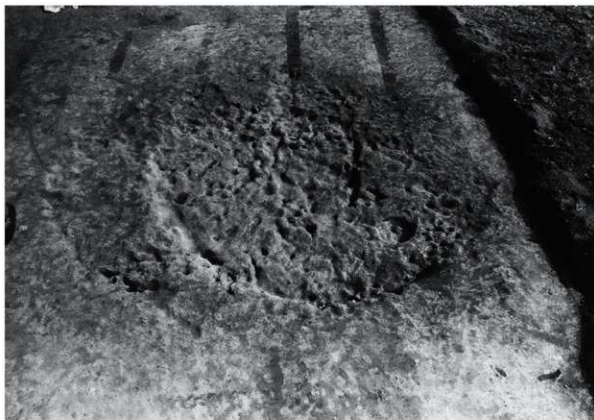
第7号住居址



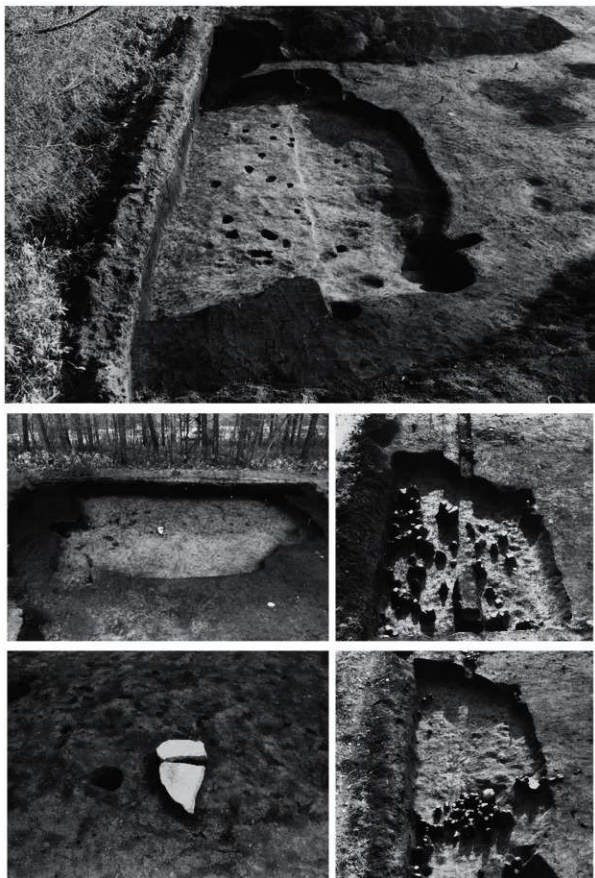
第 8 号住居址



第9号住居址



第 10 号住居址



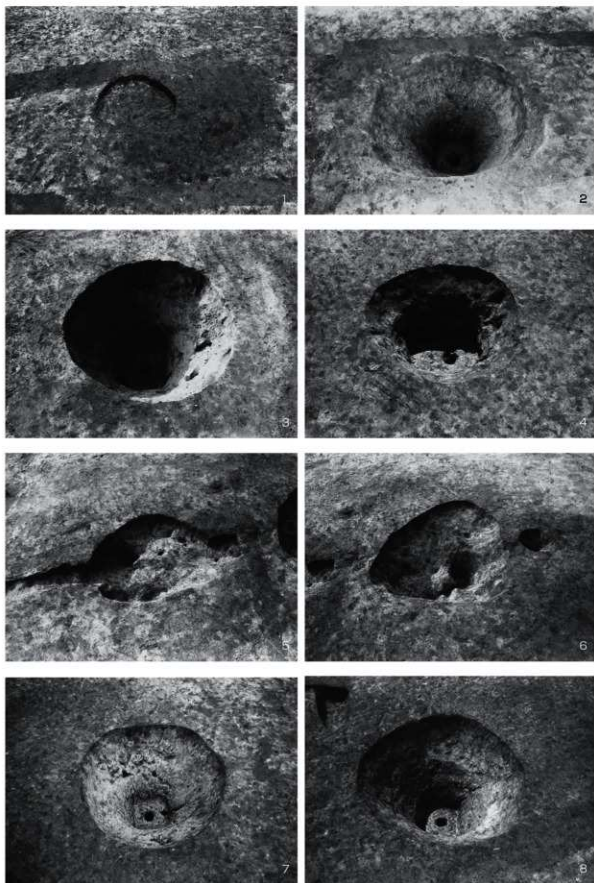
第11号住居址



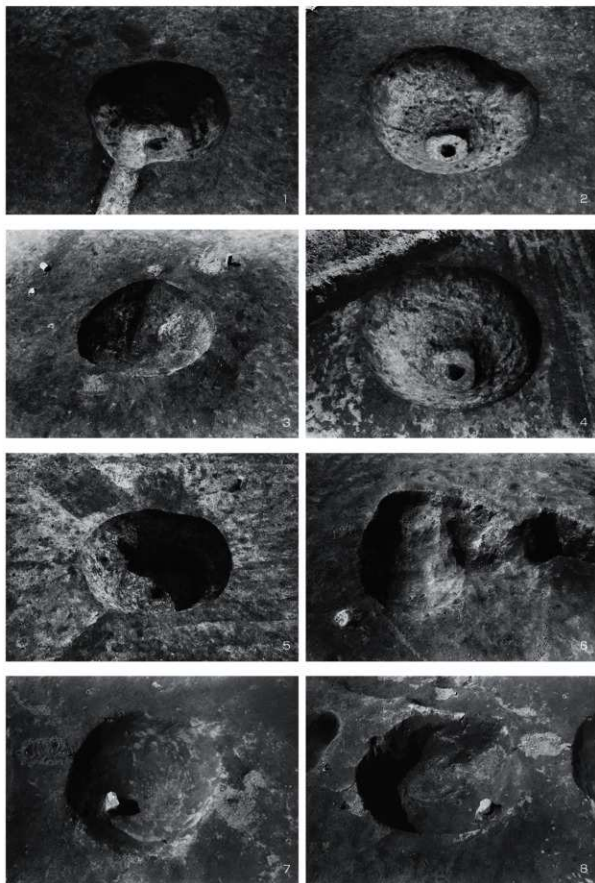
第 12 号住居址



第 13 号住居址



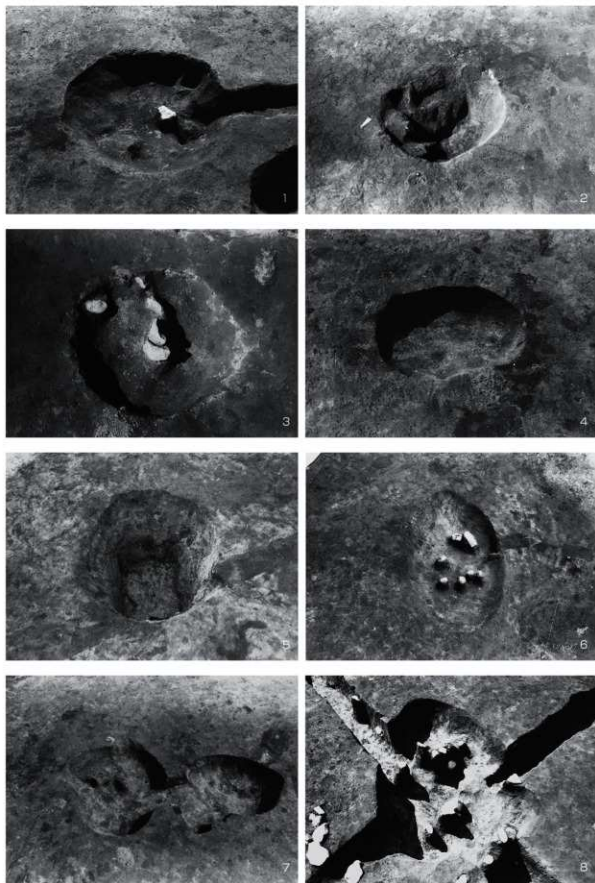
土坑(1) (1:1土, 2:2土, 3:3土, 4:4土, 5:5土, 6:6土, 7:7土, 8:8土)



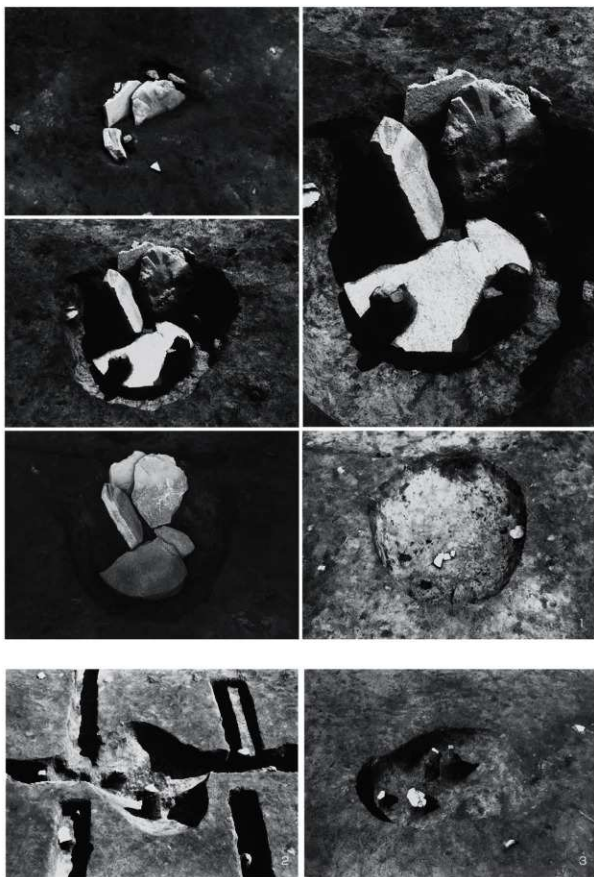
土坑(2) (1:9土, 2:10土, 3:11土, 4:12土, 5:13土, 6:15土, 7:17土, 8:18土)



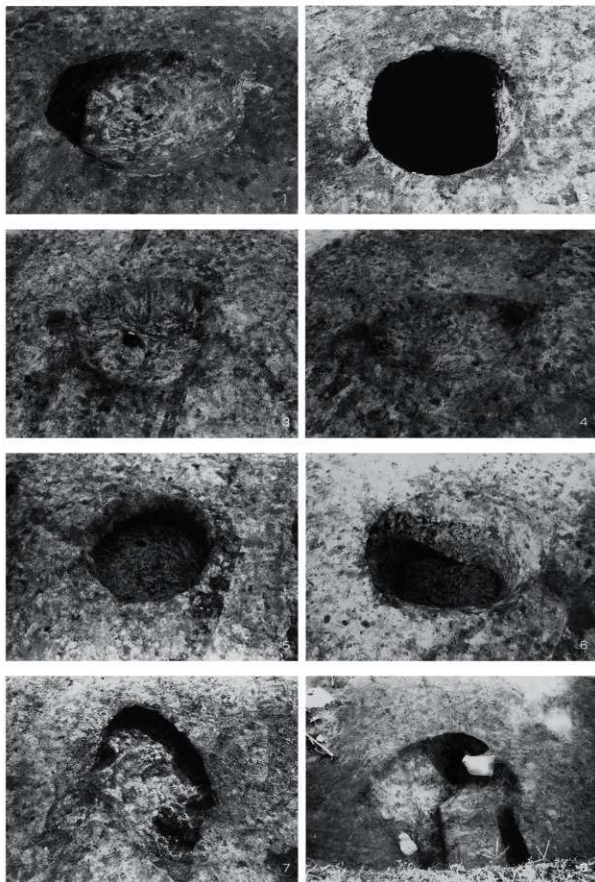
土坑(3) (1:14·22土, 2:16土, 3:19土, 4:20土)



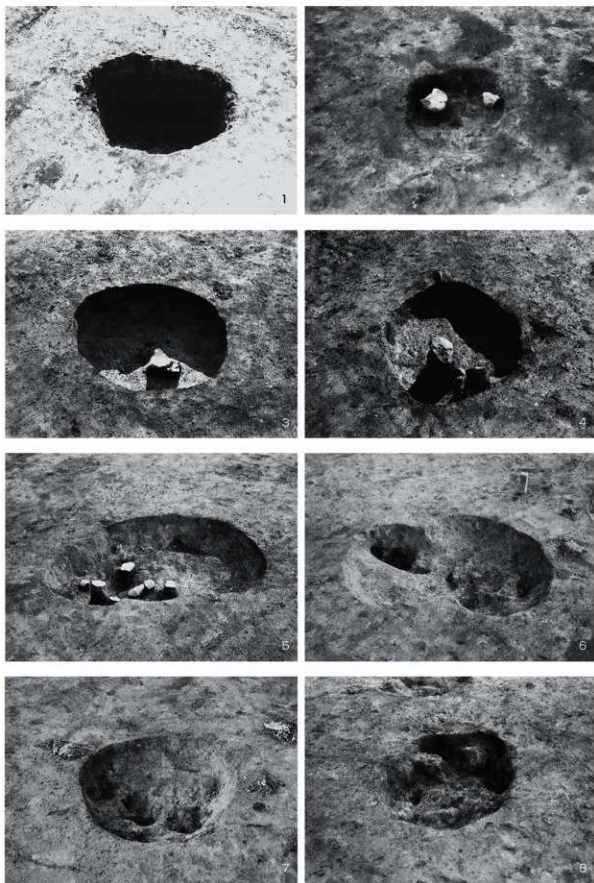
土坑(4) (1:21土, 2:23土, 3:24土, 4:25土, 5:26土, 6:27土, 7:29-30土, 8:31土)



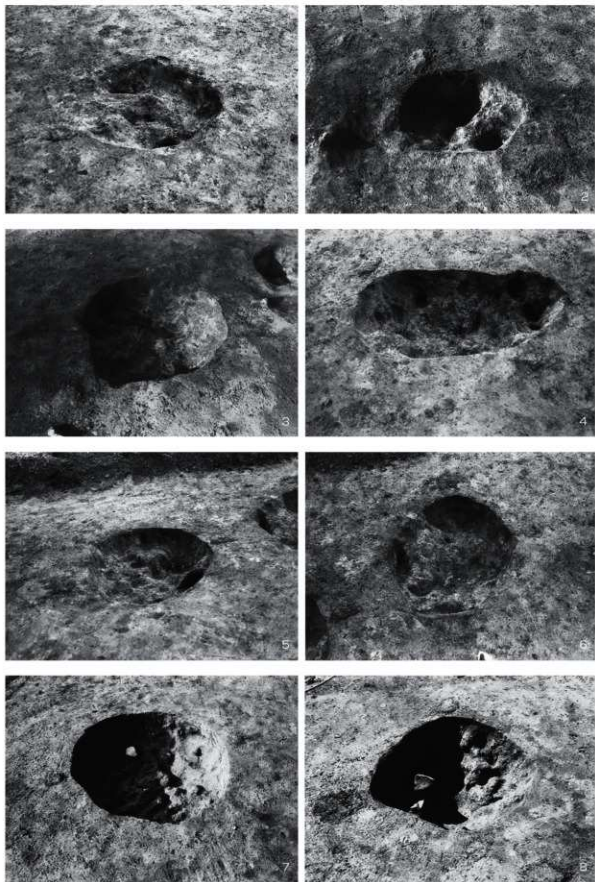
土坑 (5) (1:28土, 2:3土, 3:3土)



土坑 (6) (1: 36土, 2: 37土, 3: 38土, 4: 39土, 5: 40土, 6: 41土, 7: 42土, 8: 43土)



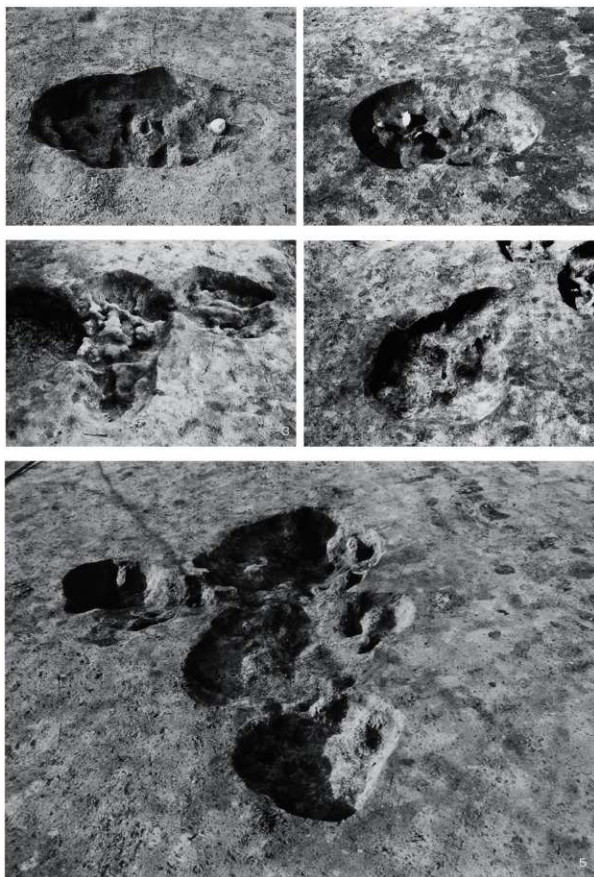
土坑 (7) (1:44土, 2:46土, 3:47土, 4:48土, 5:49土, 6:50土, 7:51土, 8:52土)



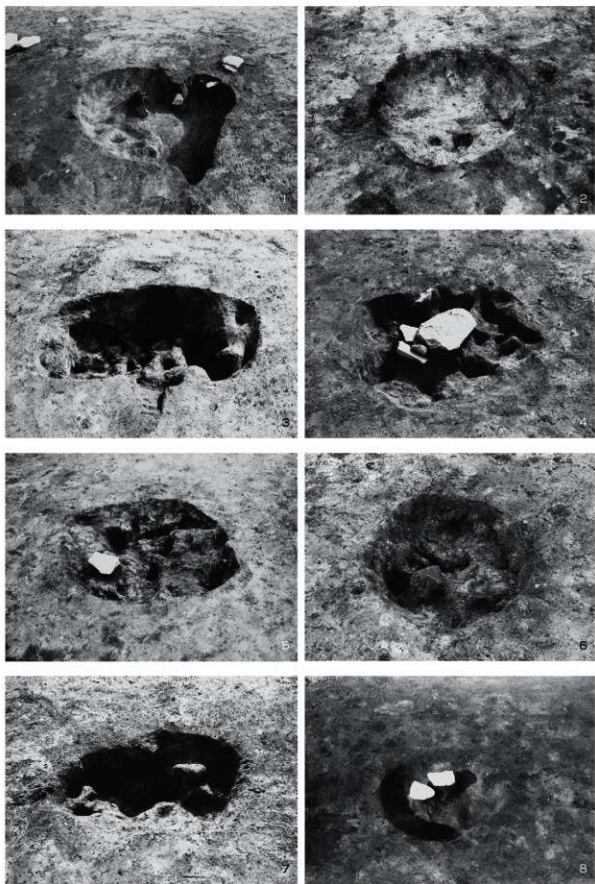
土坑 (8) (1: 53土, 2: 54土, 3: 55土, 4: 56土, 5: 57土, 6: 58土, 7: 59土, 8: 60土)



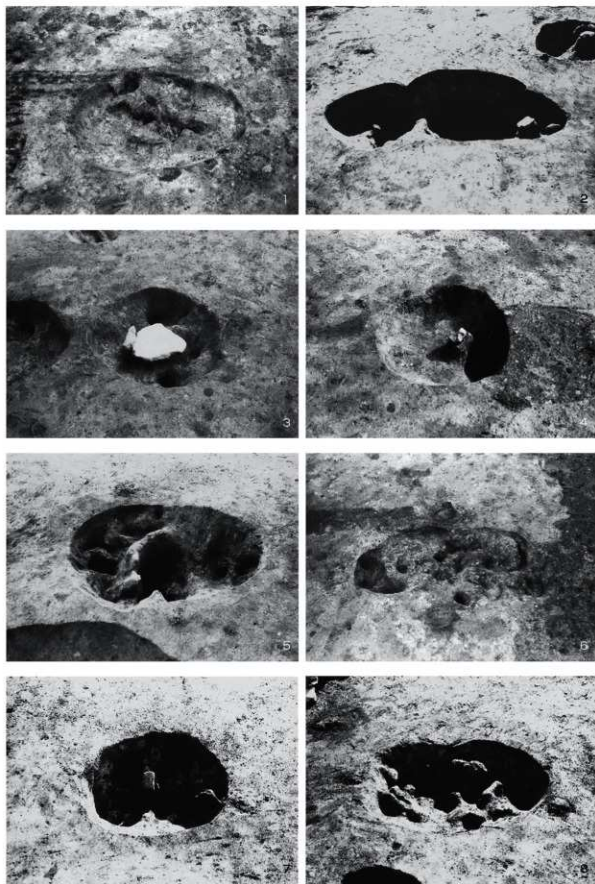
土坑(9) (1:61土, 2:62土, 3:74土, 4:147土)



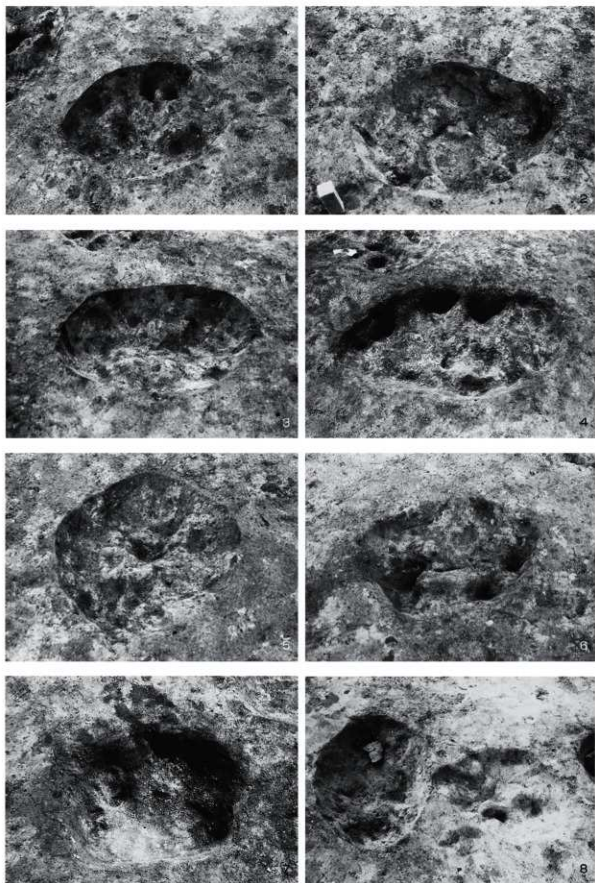
土坑 (10) (1: 63土, 2: 68土, 3: 148土, 4: 151土, 5: 64·65·66·67土)



土坑 (11) (1: 69土, 2: 70土, 3: 71土, 4: 72土, 5: 73土, 6: 75土, 7: 76土, 8: 77土)



土坑 (12) (1:78土, 2:79·80土, 3:81土, 4:82土, 5:83土, 6:84土, 7:85土, 8:86土)



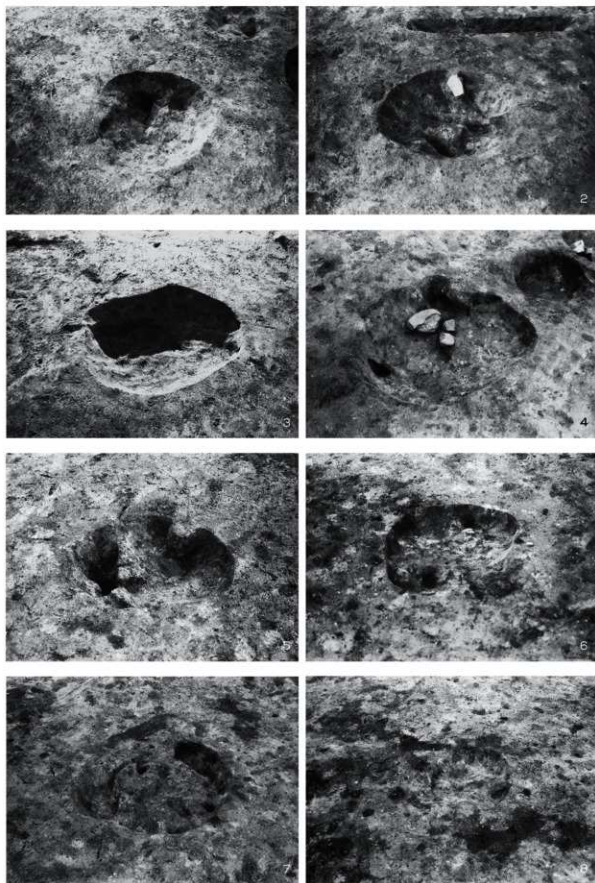
土坑 (13) (1:87土, 2:88土, 3:90土, 4:91土, 5:93土, 6:94土, 7:96土, 8:97·98土)



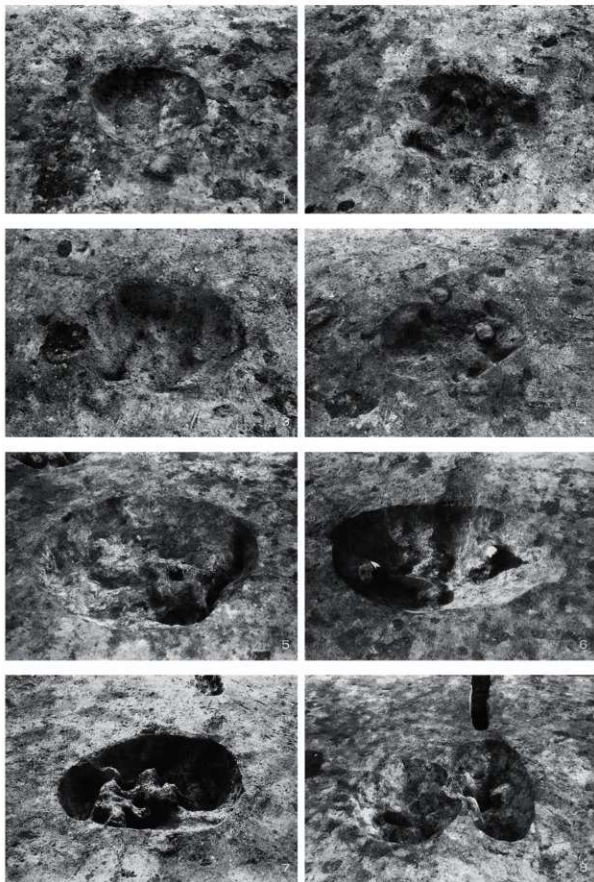
土坑 (14) (1:92-146土, 2:99土, 3:100土)



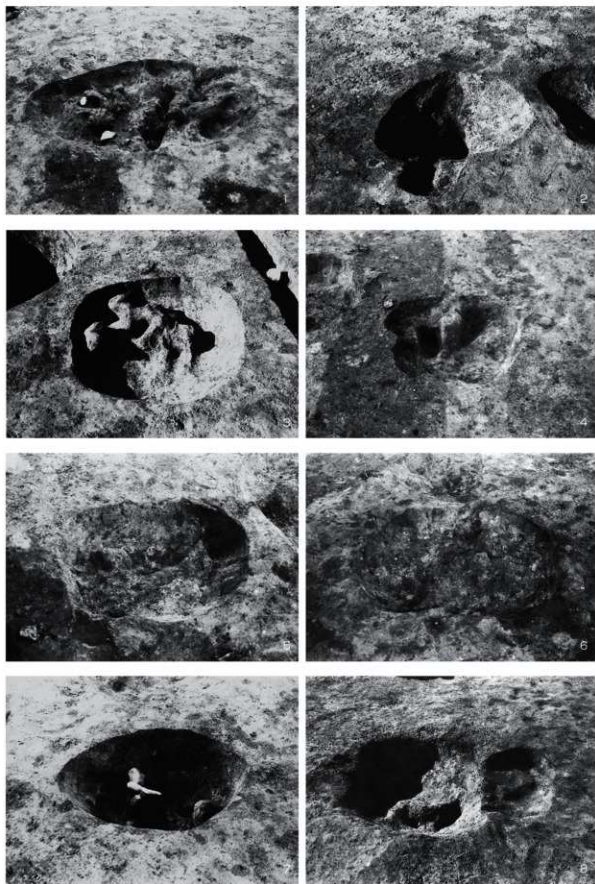
土坑 (15) (1: 102~107土, 2: 108土, 3: 101土, 4: 109·140土)



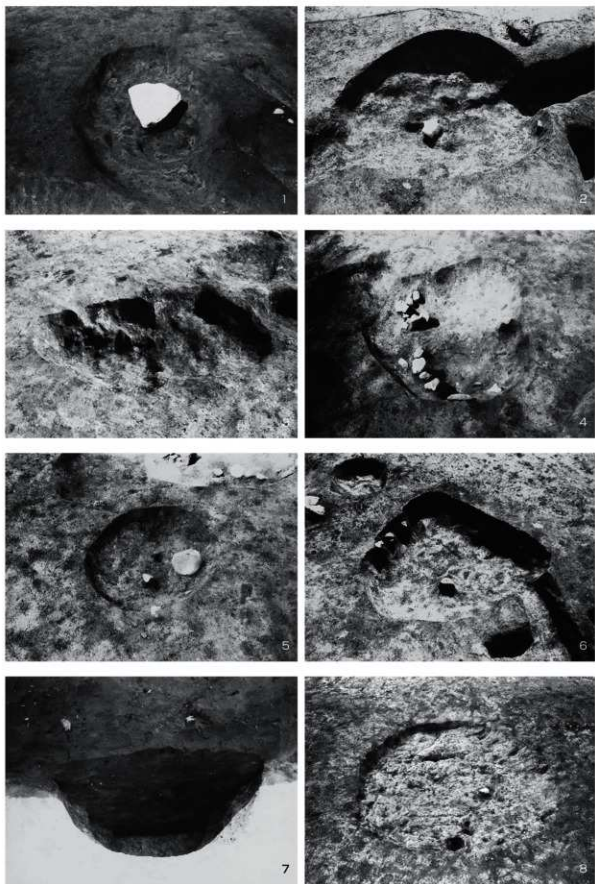
土坑 (16) (1: 110土, 2: 111土, 3: 112土, 4: 114土, 5: 115土, 6: 116土, 7: 117土, 8: 118土)



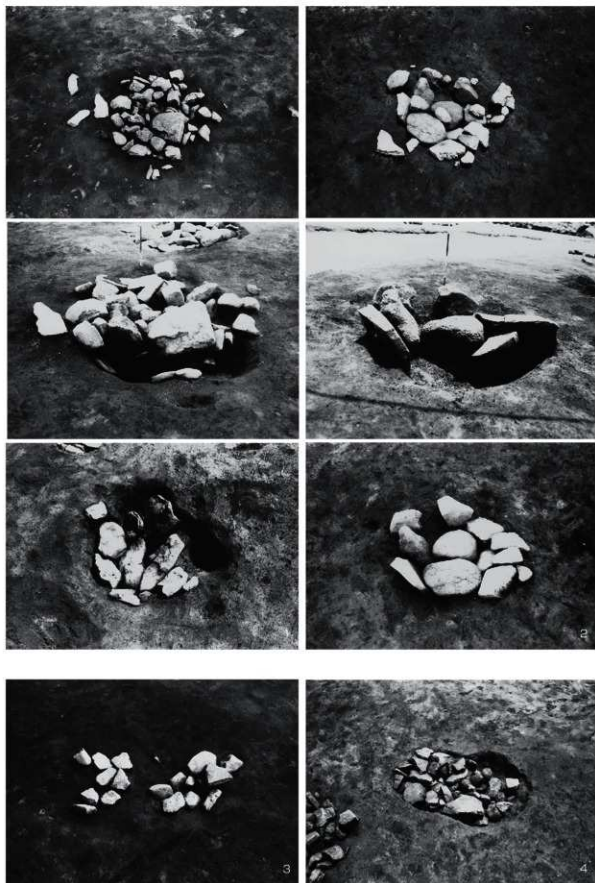
土坑 (17) (1: 119土, 2: 121土, 3: 122土, 4: 123土, 5: 124土, 6: 125土, 7: 126土, 8: 127-128土)



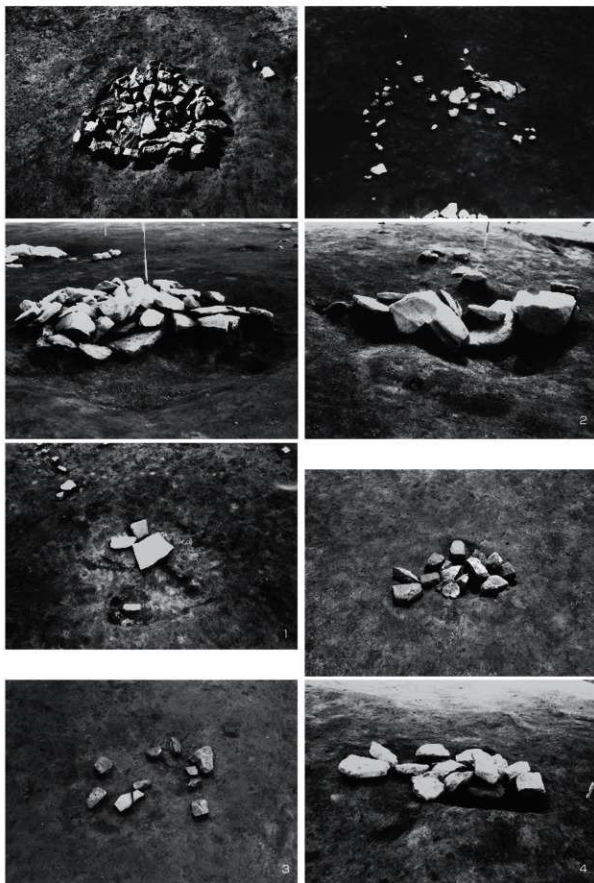
土坑 (18) (1: 129土, 2: 130土, 3: 131土, 4: 132土, 5: 133土, 6: 134土, 7: 135土, 8: 136-137土)



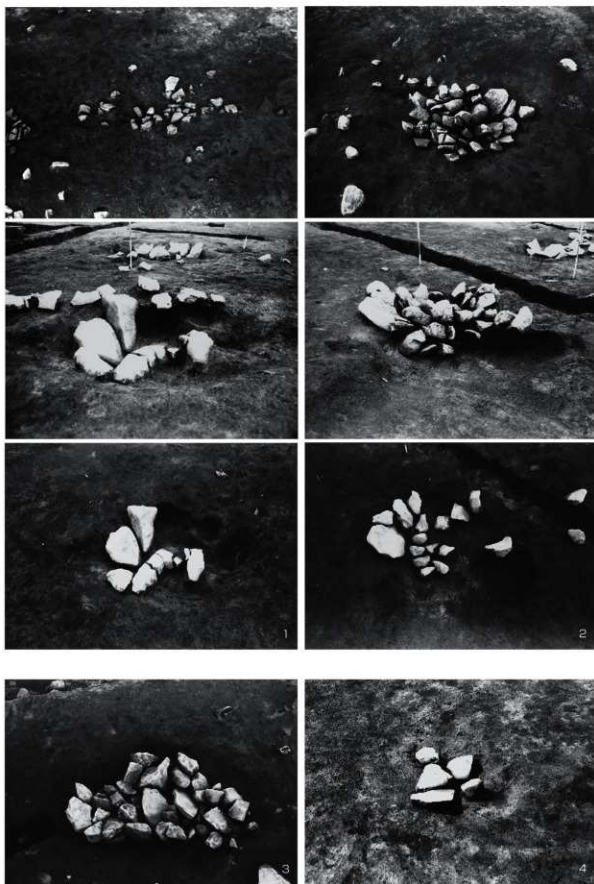
土坑·小竖穴 (1: 138 土, 2: 139 土, 3: 141 土, 4: 143 土, 5: 144 土, 6: 149 土, 7: 153 土, 8: 小竖穴)



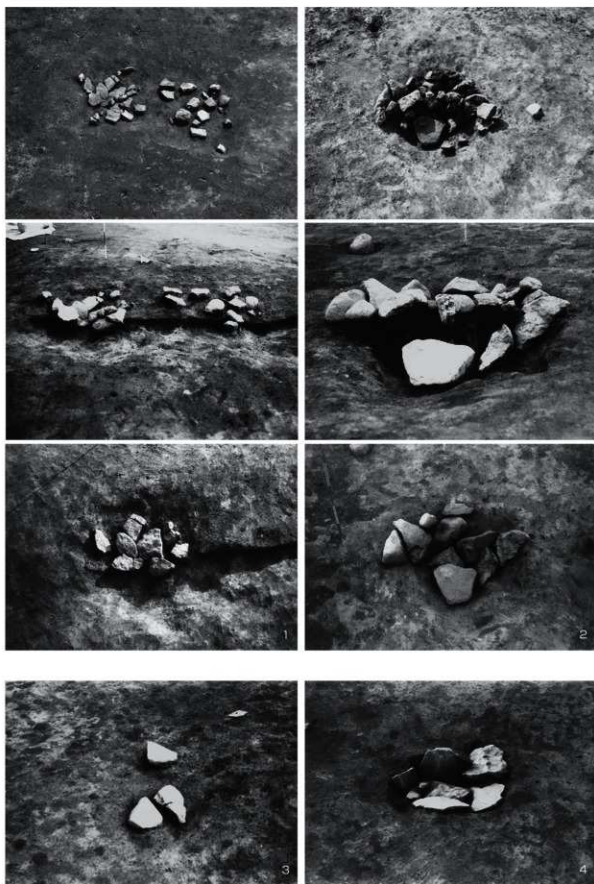
集石炉 (1) (1:1集, 2:2集, 3:5·6集, 4:9集)



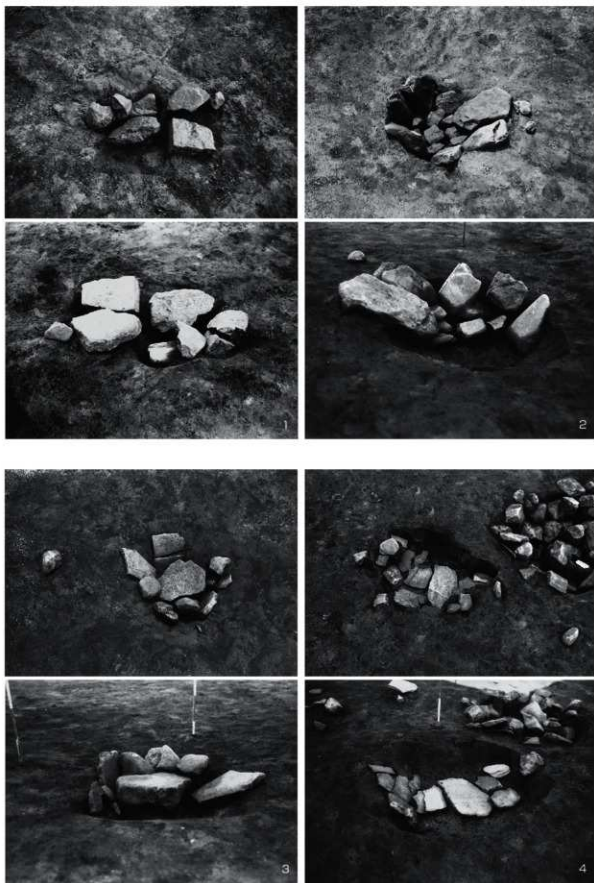
集石如 (2) (1:3集, 2:4集, 3:17集, 4:10集)



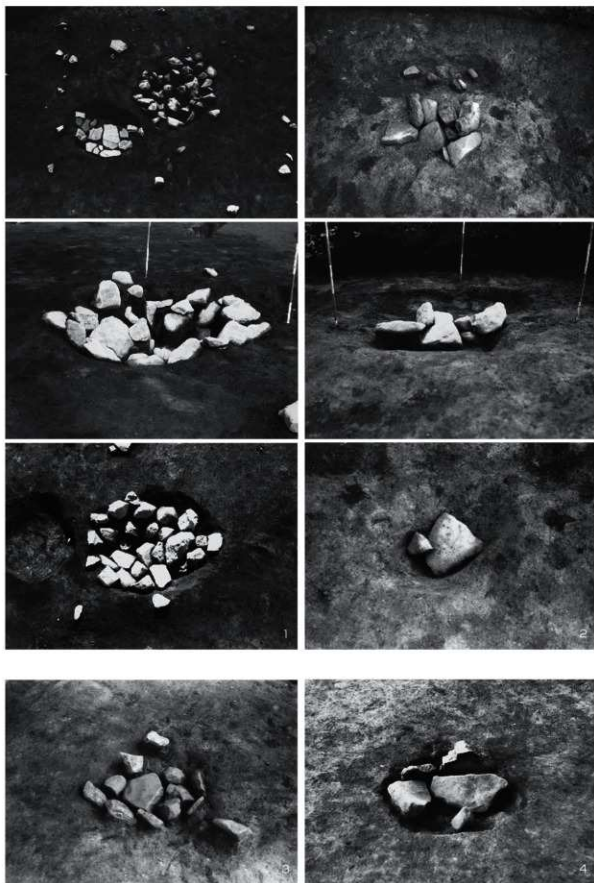
集石 卍 (3) (1:7集, 2:8集, 3:23集, 4:29集)



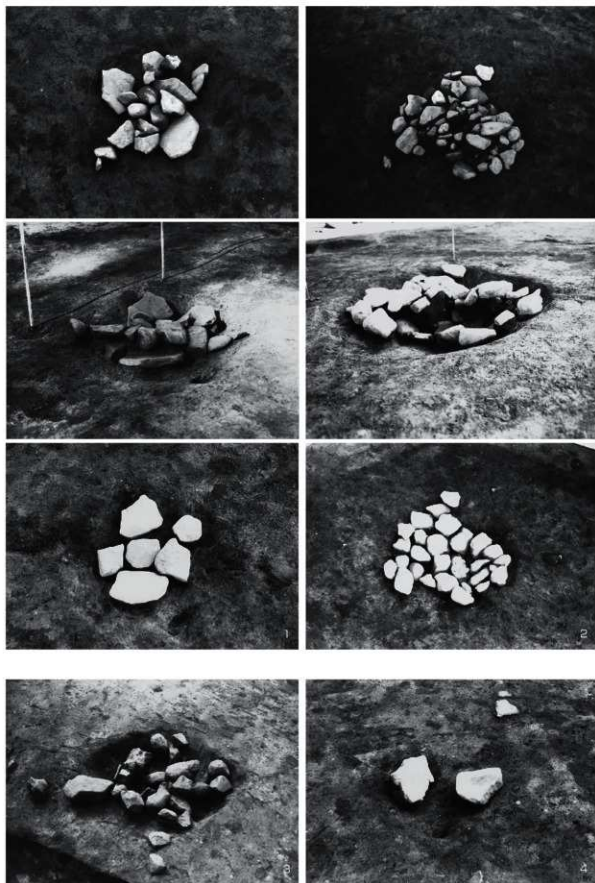
集石炉 (4) (1:11集, 2:12集, 3:30集, 4:33集)



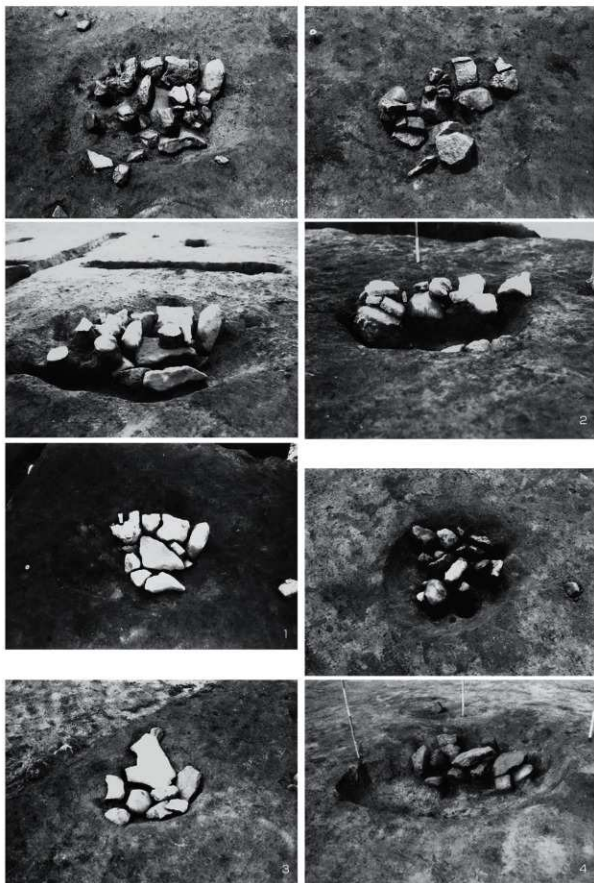
集石炉 (5) (1:13集, 2:15集, 3:16集, 4:18集)



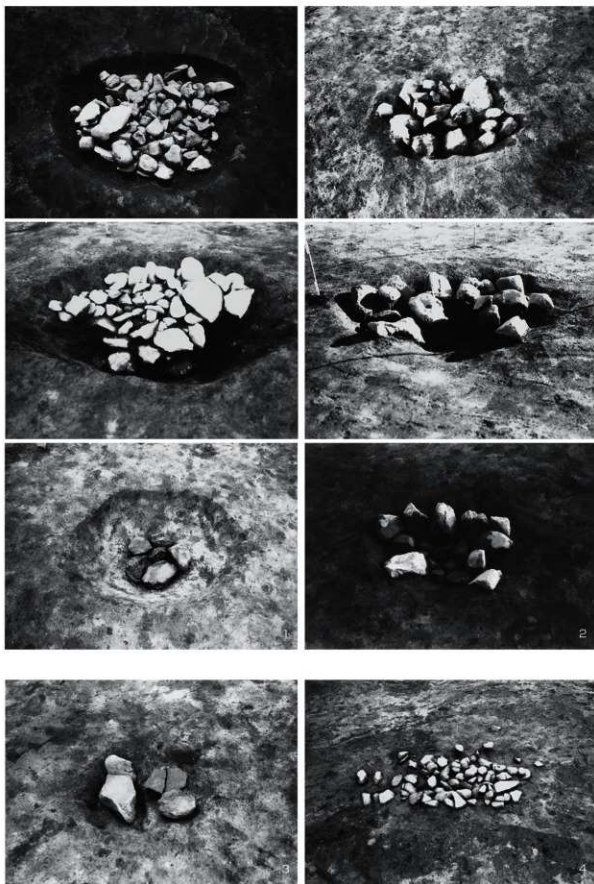
集石炉 (6) (1: 19集, 2: 20集, 3: 34集, 4: 36集)



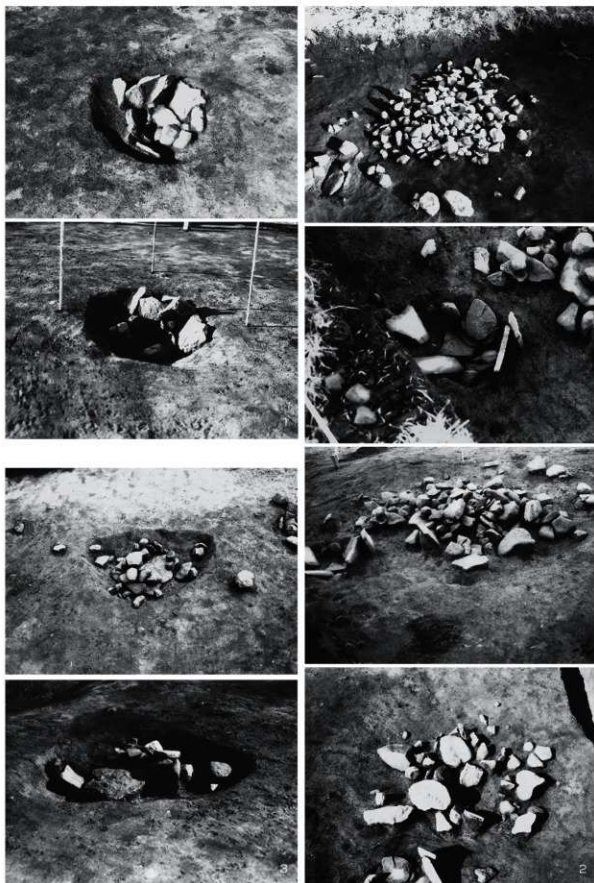
集石炉 (7) (1: 21集, 2: 22集, 3: 37集, 4: 38集)



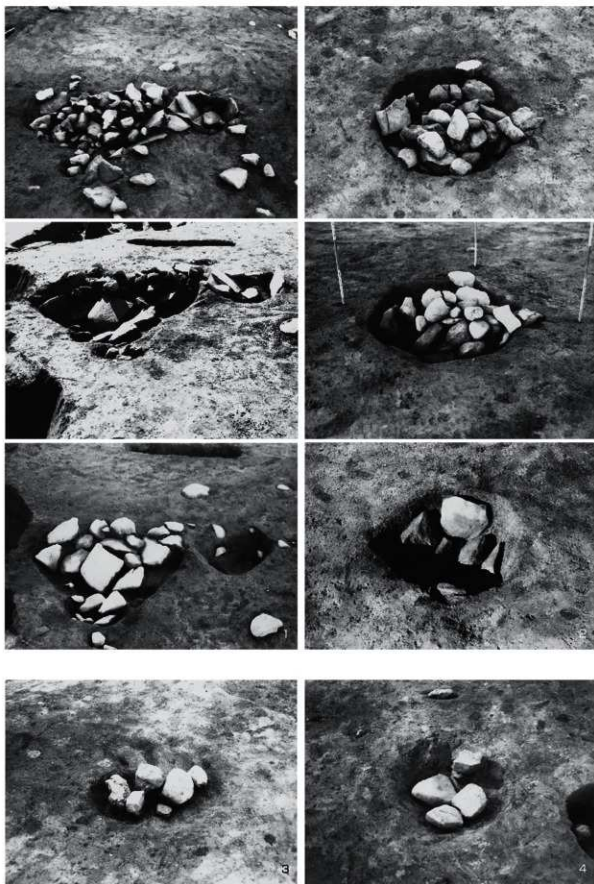
集石炉 (8) (1: 24集, 2: 25集, 3: 39集, 4: 28集)



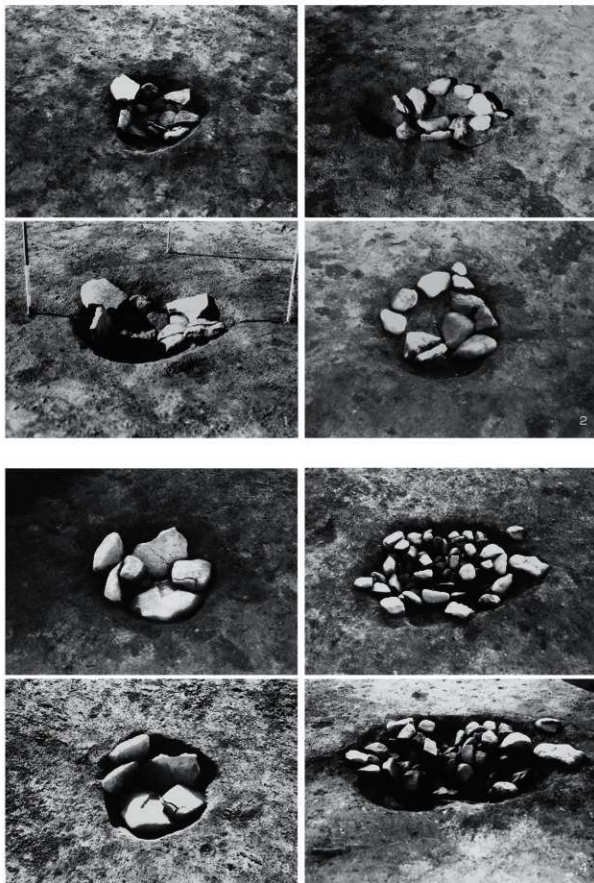
集石炉 (9) (1:36集, 2:32集, 3:42集, 4:43集)



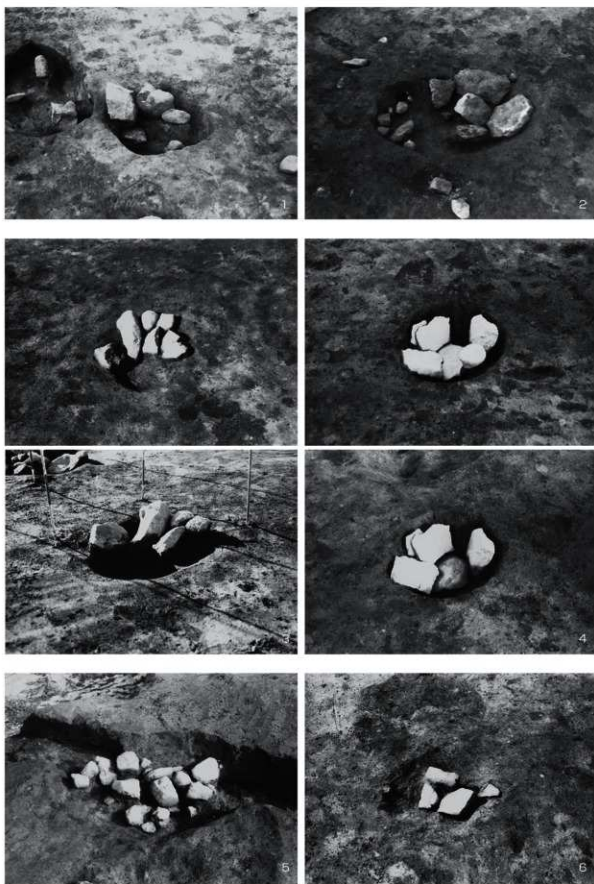
集石炉 (10) (1:31集, 2:35集, 3:41集)



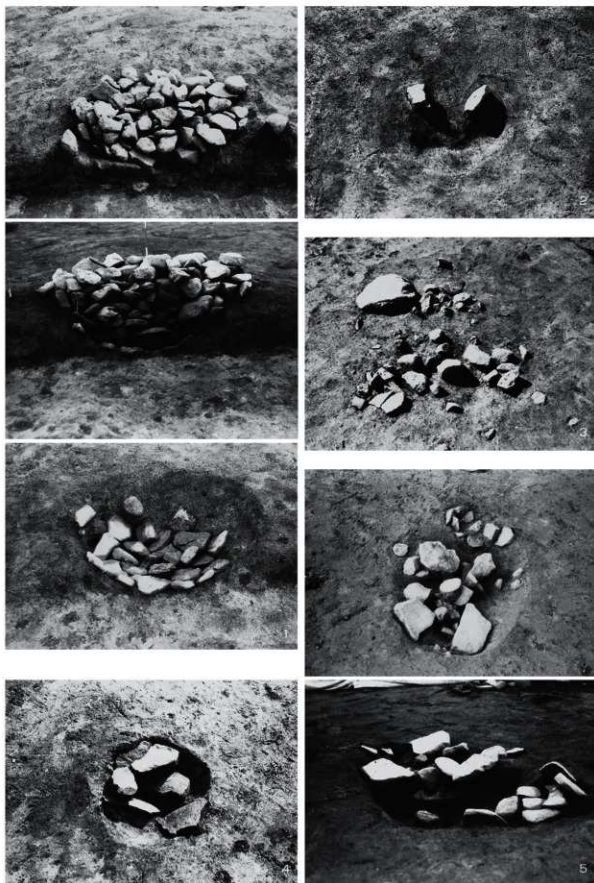
集石炉 (11) (1:40集, 2:44集, 3:45集, 4:47集)



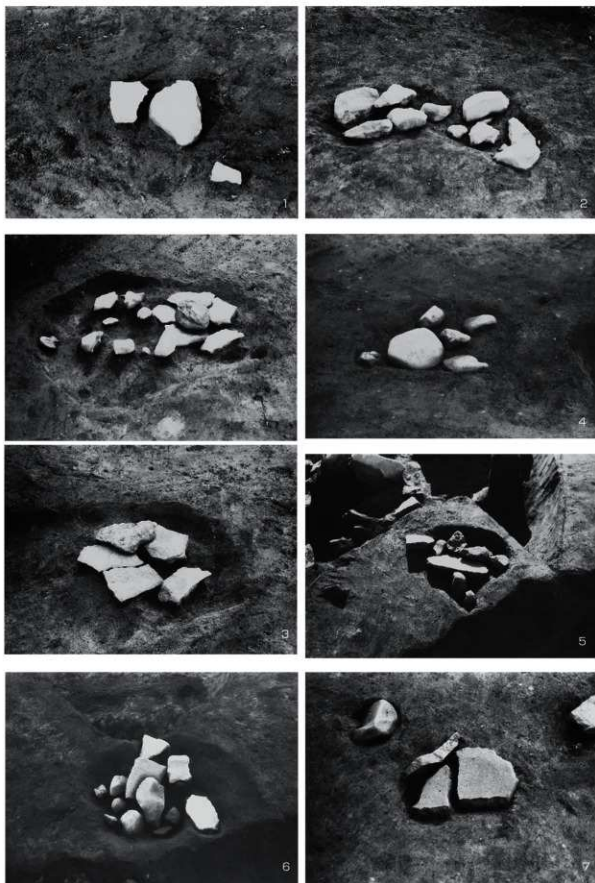
集石炉 (12) (1: 46集, 2: 49集, 3: 51集, 4: 52集)



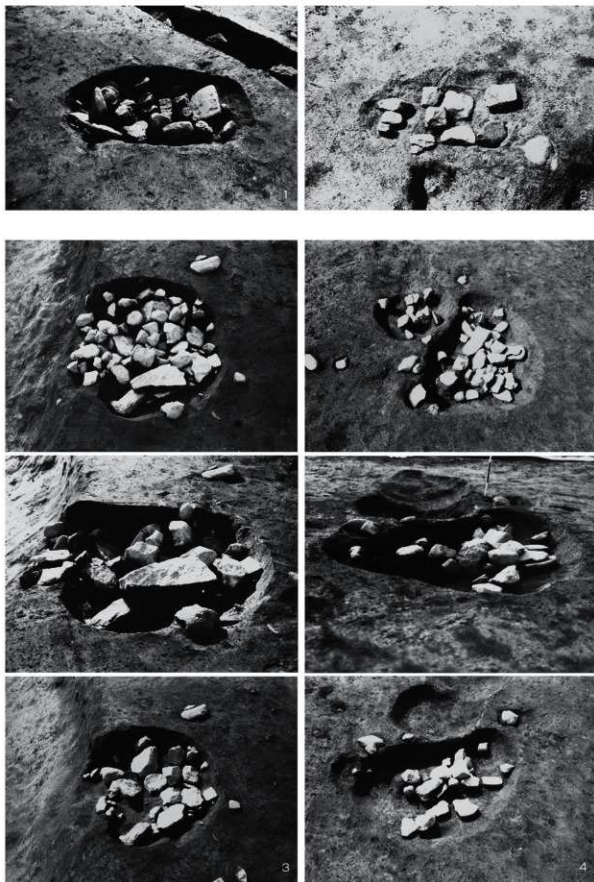
集石炉 (13) (1:48集, 2:50集, 3:53集, 4:54集, 5:56集, 6:57集)



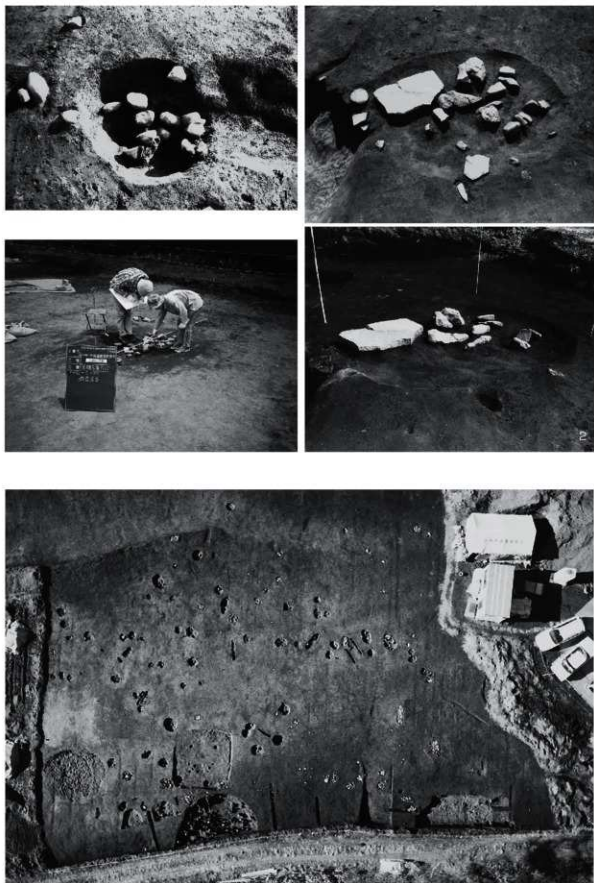
集石炉 (14) (1:55集、2:58集、3:59集、4:61集、5:60集)



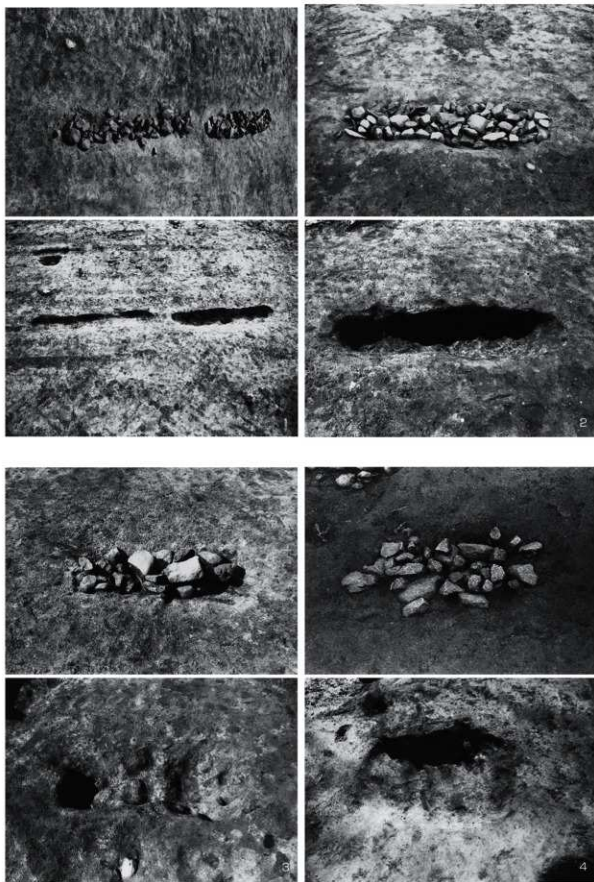
集石炉 (15) (1: 62集, 2: 63·64集, 3: 65集, 4: 66集, 5: 67集, 6: 68集, 7: 69集)



集石炉 (16) (1:70集, 2:71集, 3:72集, 4:74集)



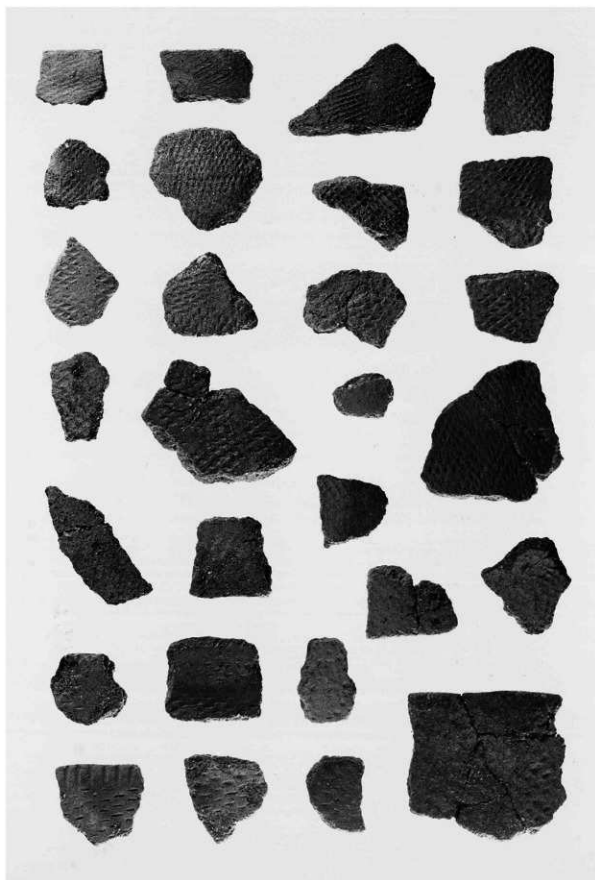
集石如 (17) (1:73集, 2:75集)



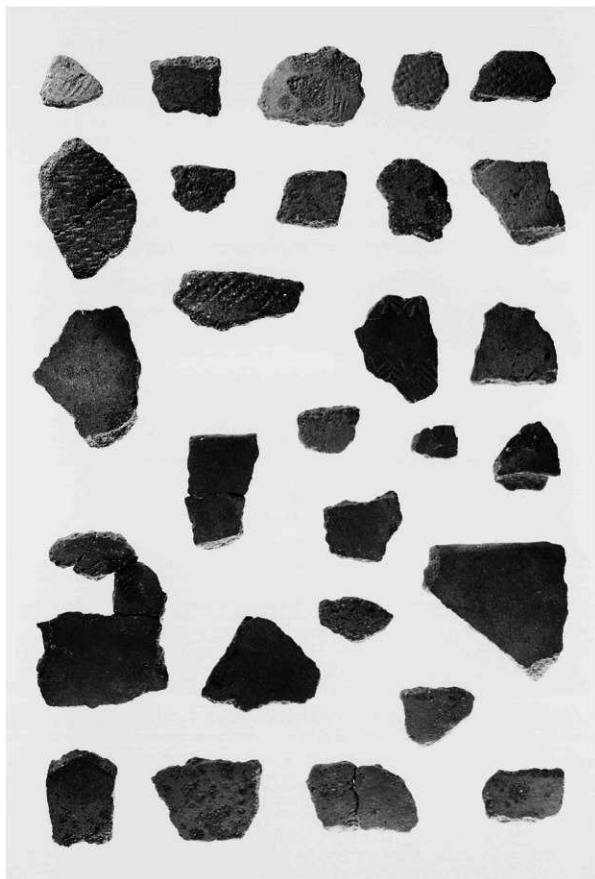
石 列 (1:16, 2:26, 3:36, 4:46)



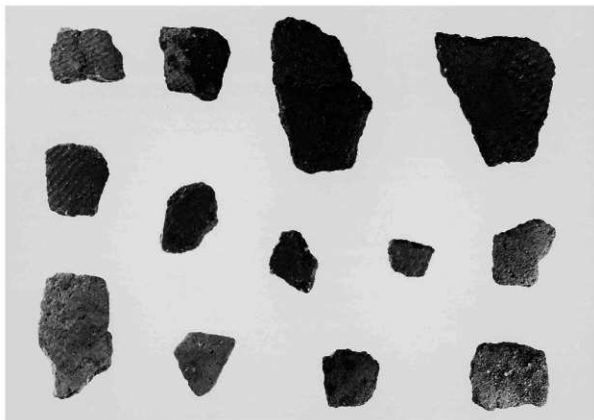
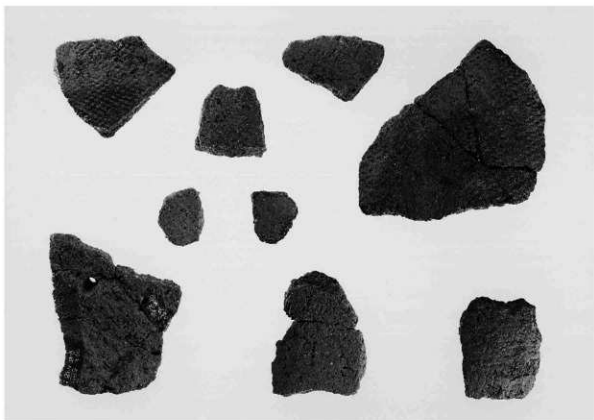
溝 址 (1:2溝, 2:3溝, 3:4溝, 4:1溝)



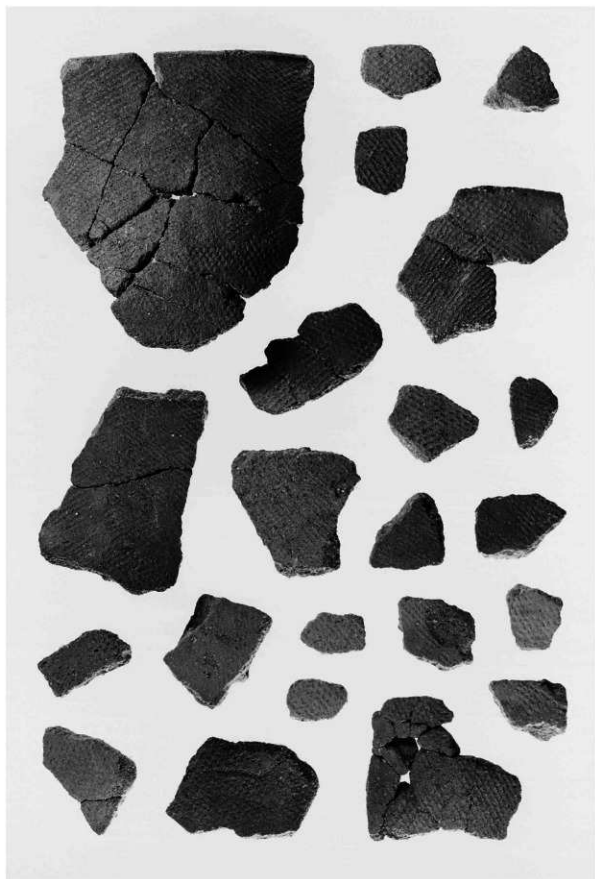
第3号住居址出土土器 (1)



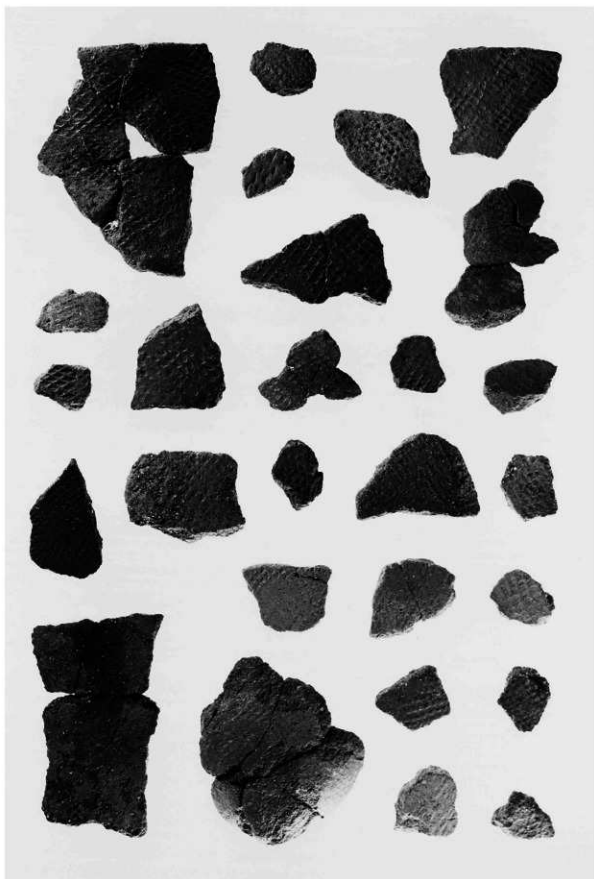
第3号住居址出土土器 (2)



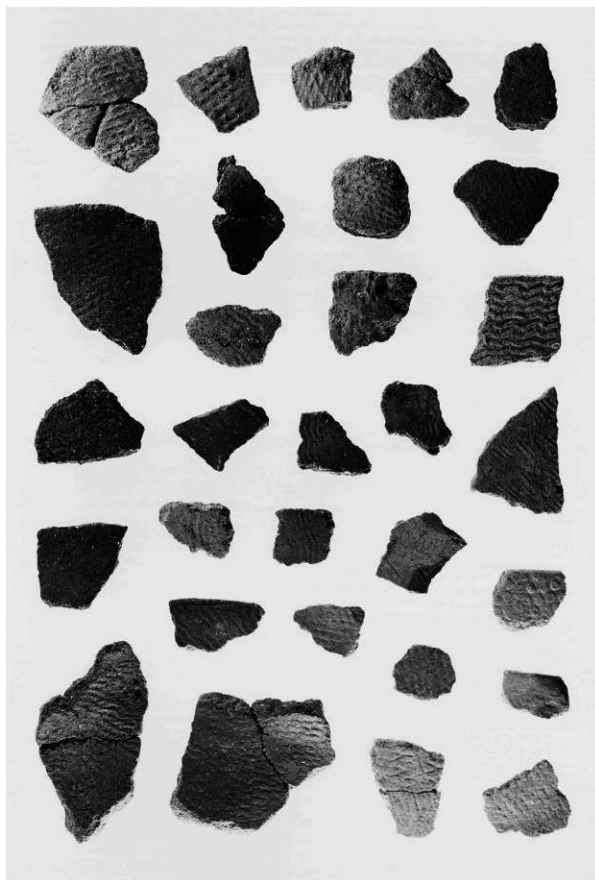
第4号住居址出土土器



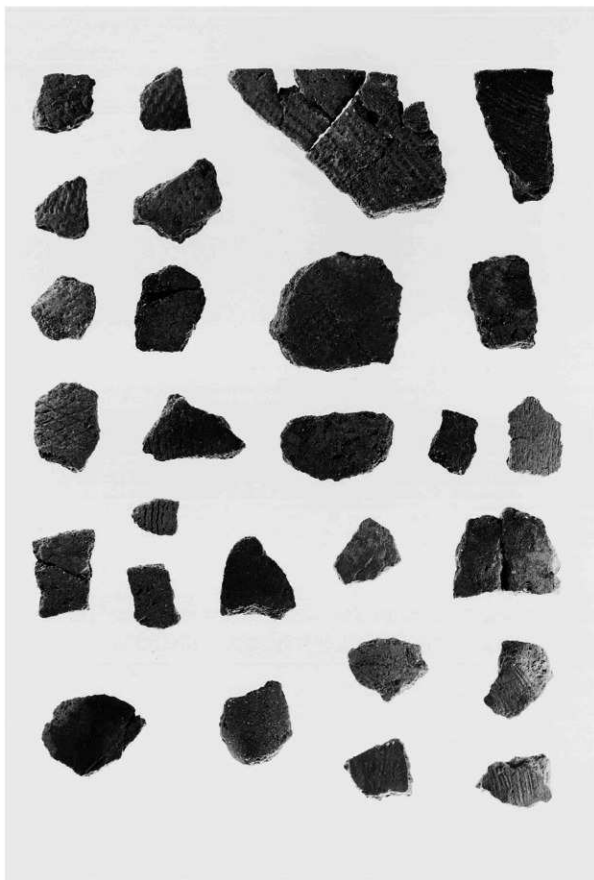
第6号住居址出土土器 (1)



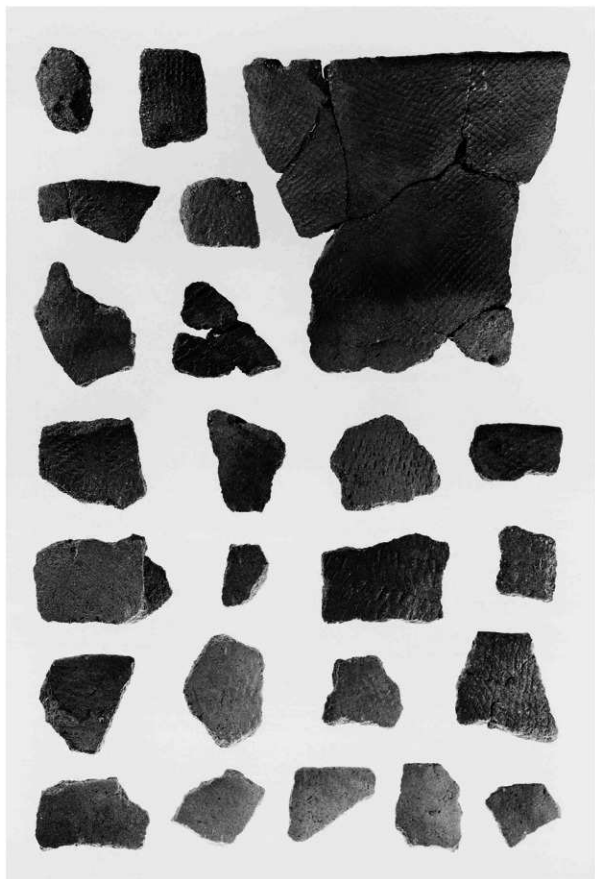
第6号住居址出土土器 (2)



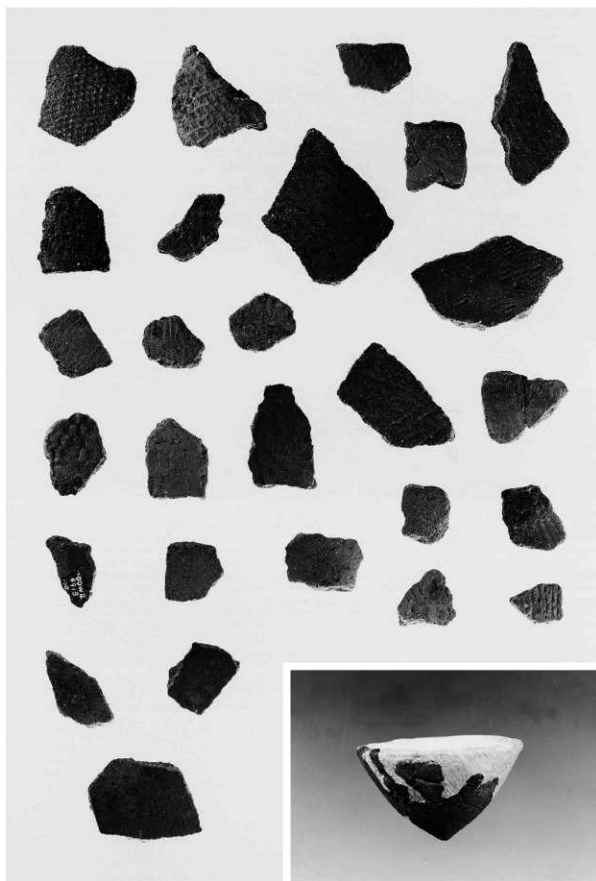
第6号住居址出土土器 (3)



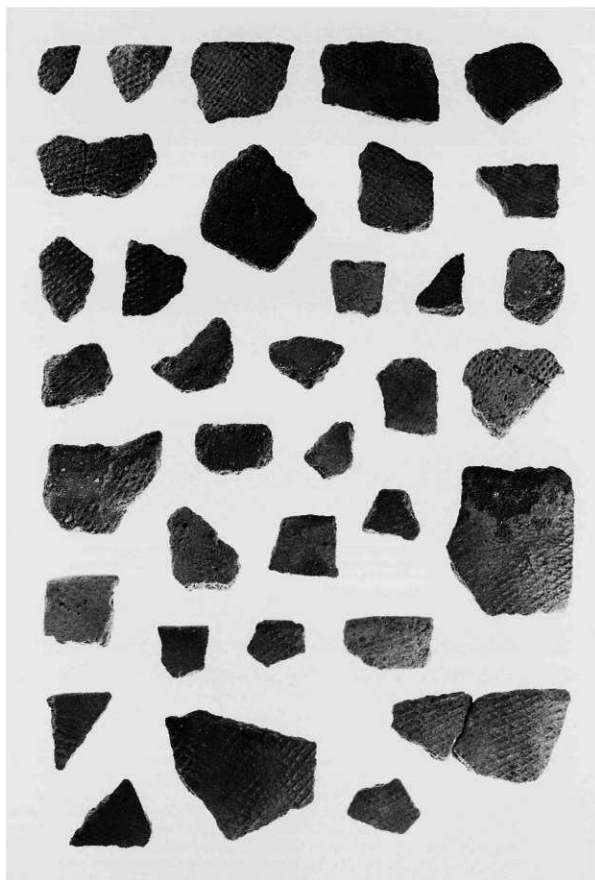
第6号住居址出土土器 (4)



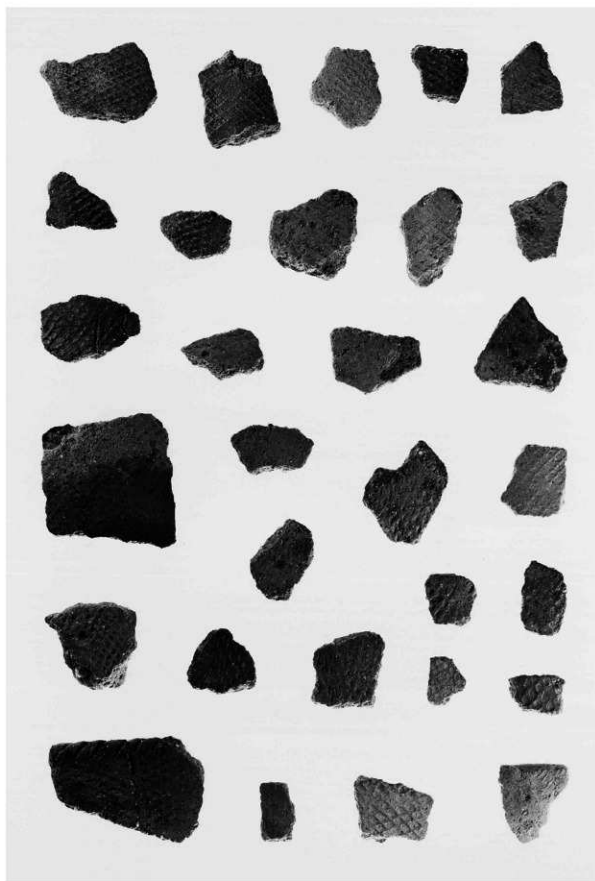
第 8 号住居址出土土器



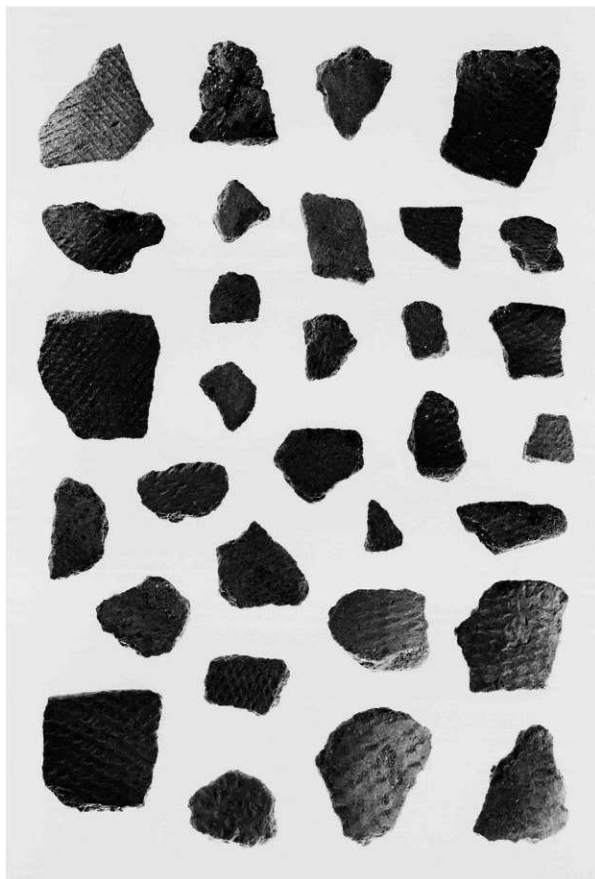
第10号住居址出土土器



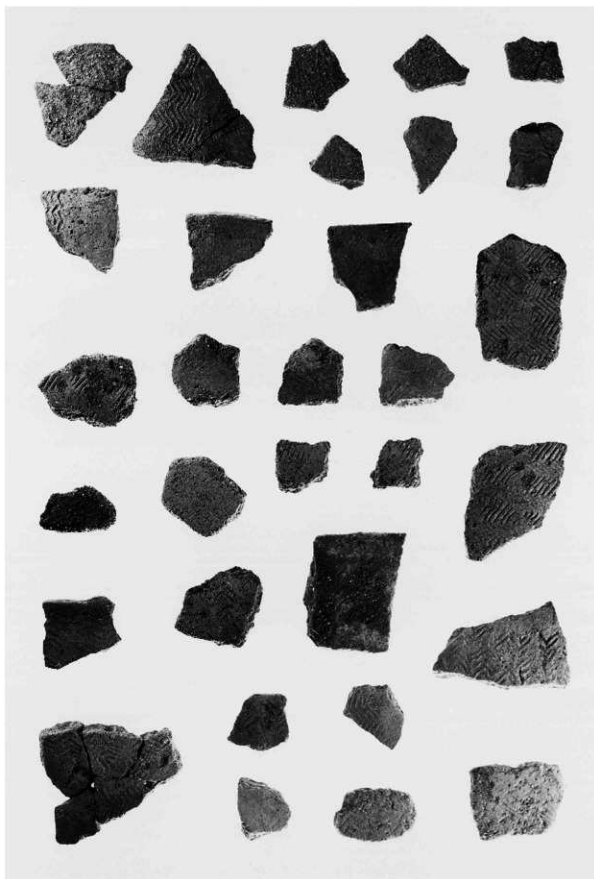
第11号住居址出土土器 (1)



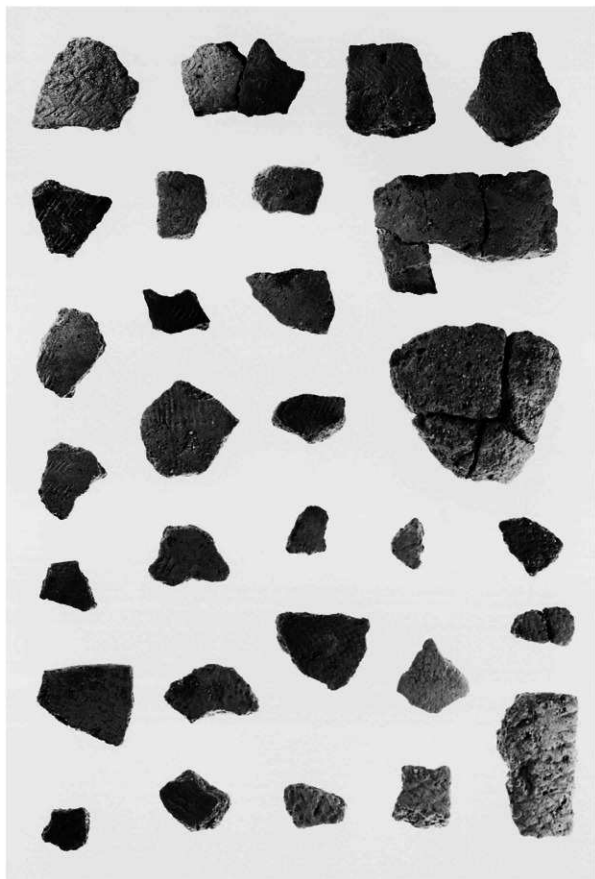
第11号住居址出土土器 (2)



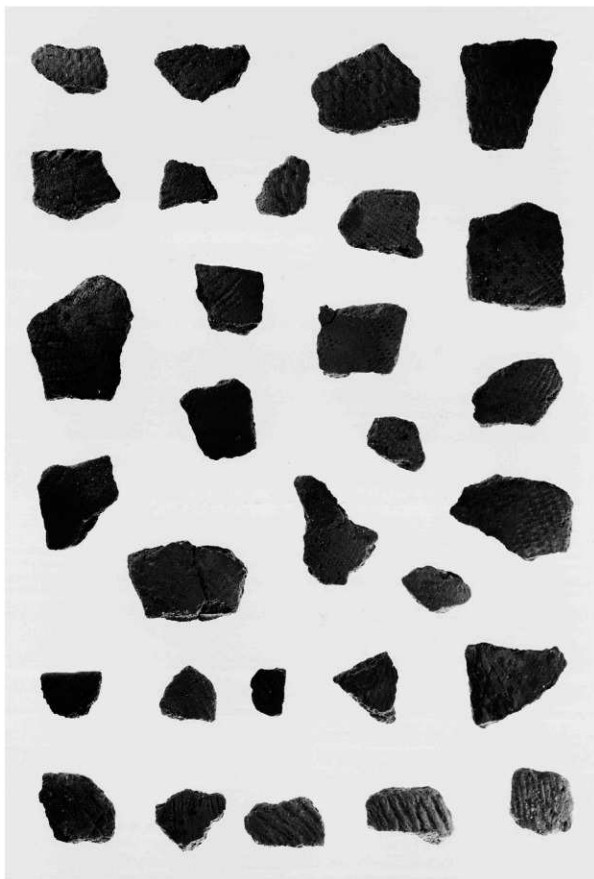
第11号住居址出土土器 (3)



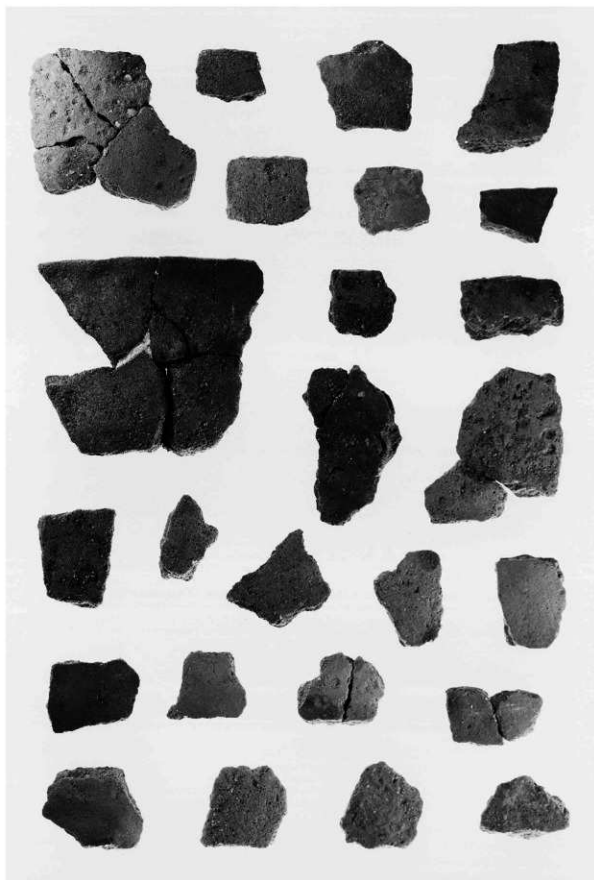
第11号住居址出土土器 (4)



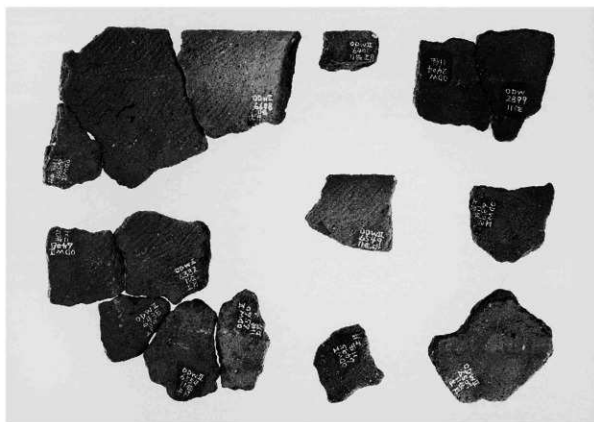
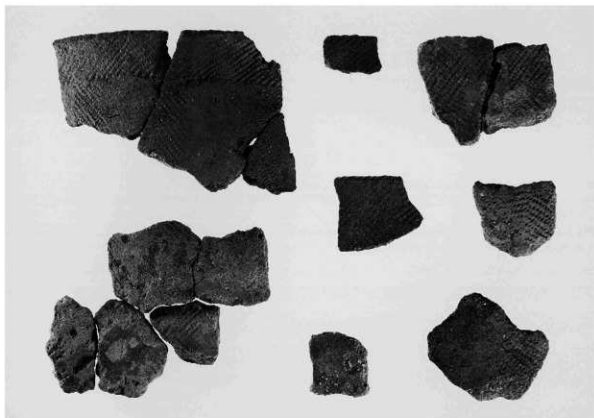
第11号住居址出土土器 (5)



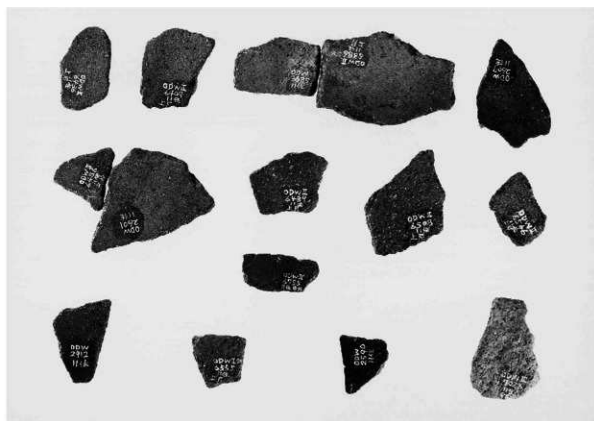
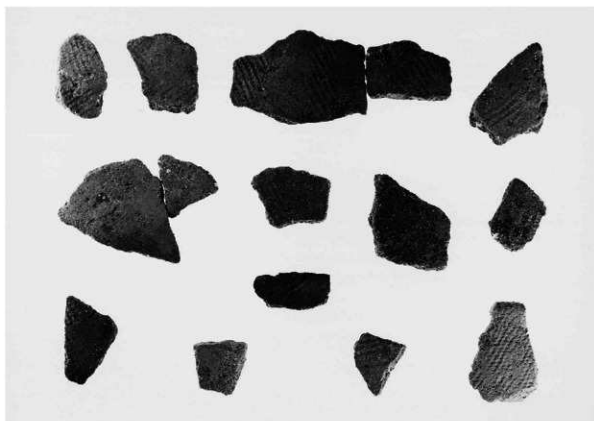
第11号住居址出土土器 (6)



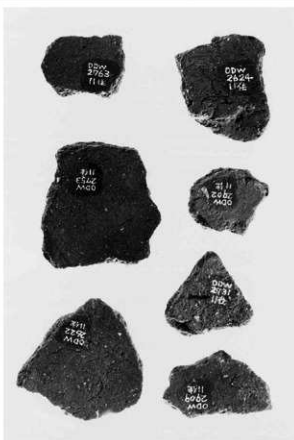
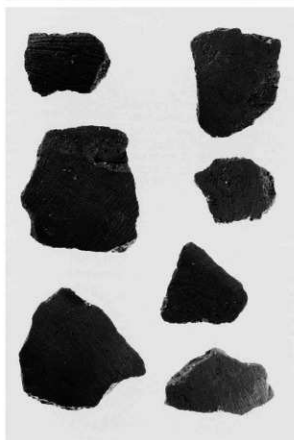
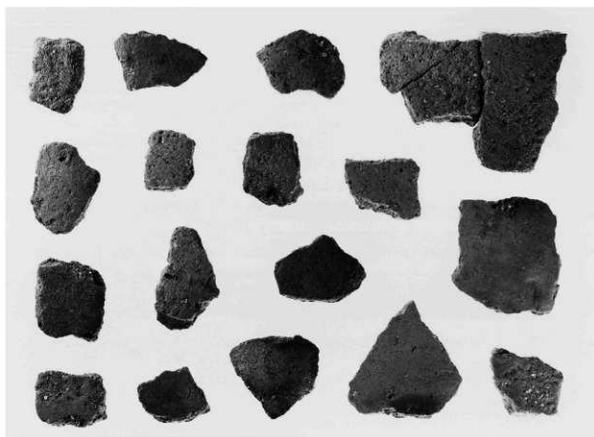
第11号住居址出土土器 (7)



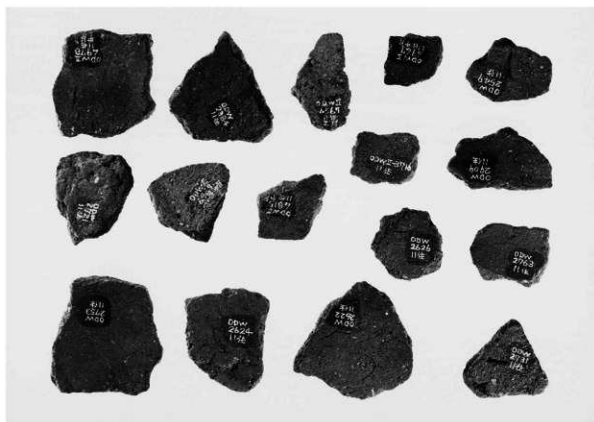
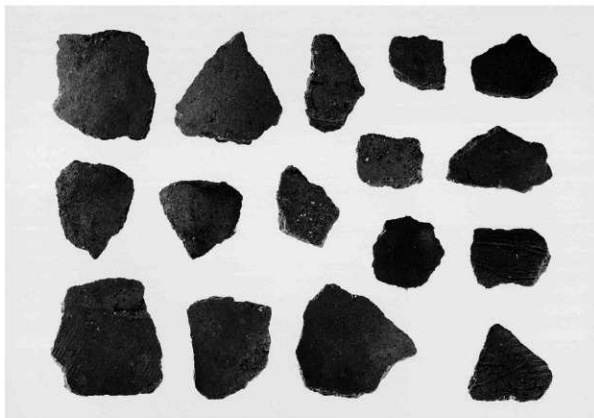
第11号住居址出土土器 (8)



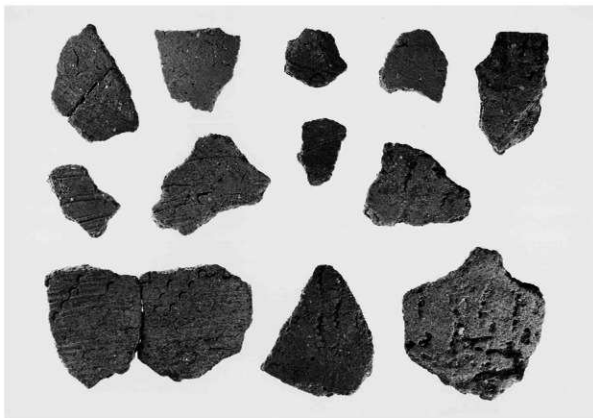
第11号住居址出土土器 (9)



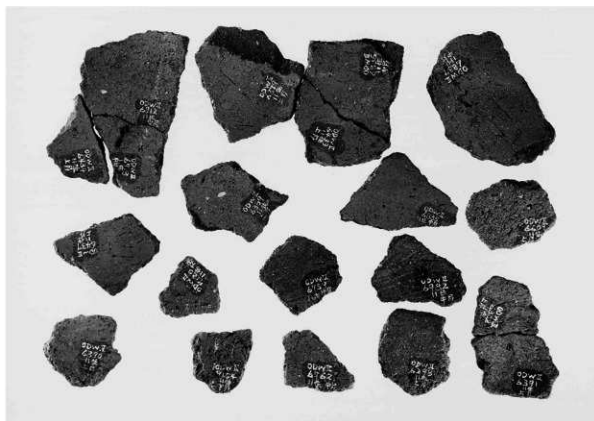
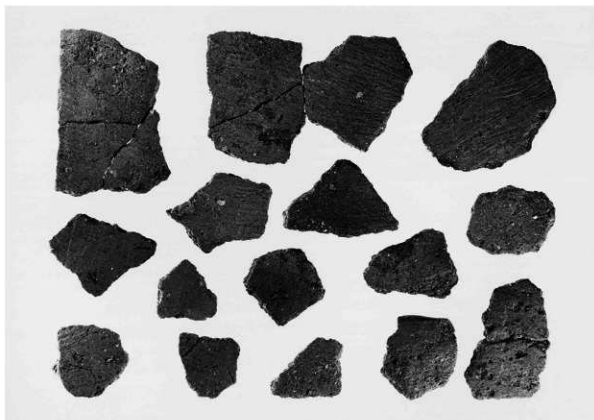
第11号住居址出土土器 (10)



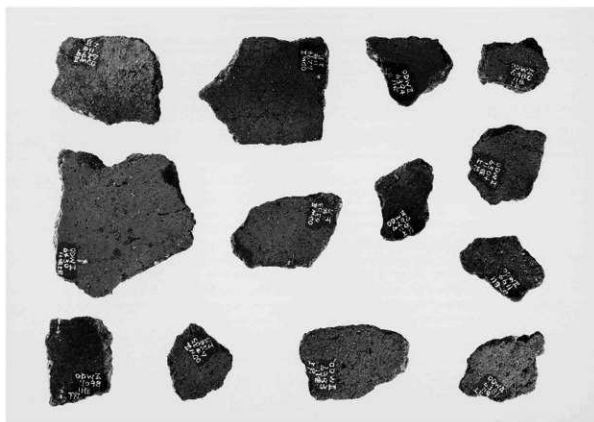
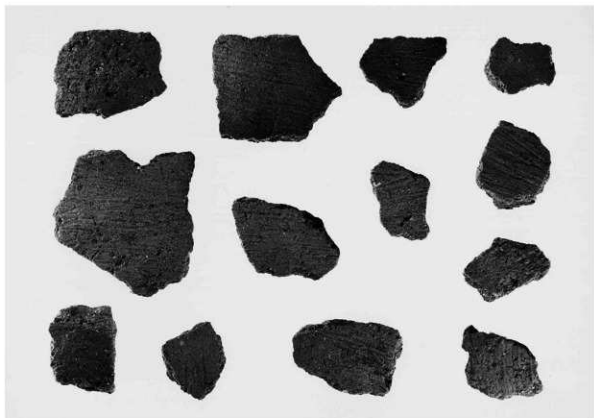
第11号住居址出土土器 (II)



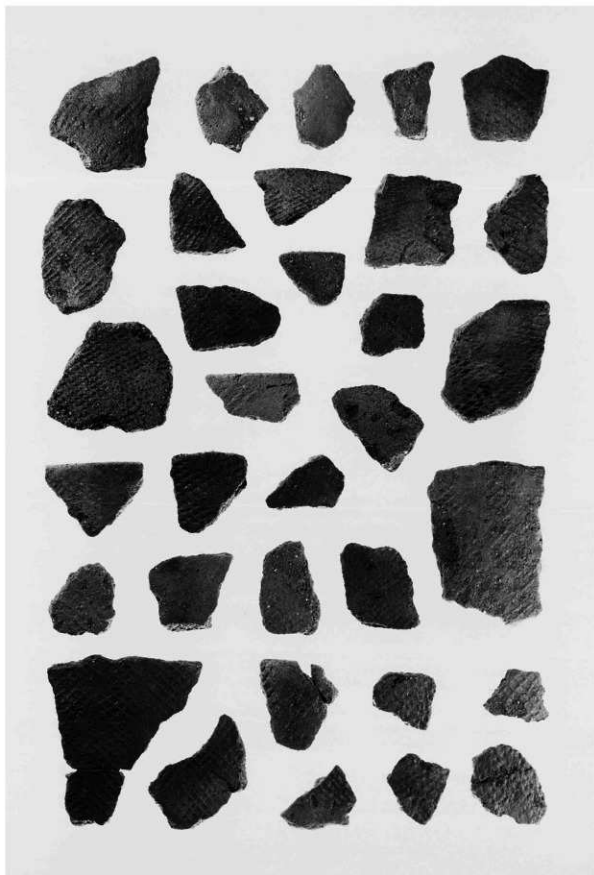
第11号住居址出土土器 (12)



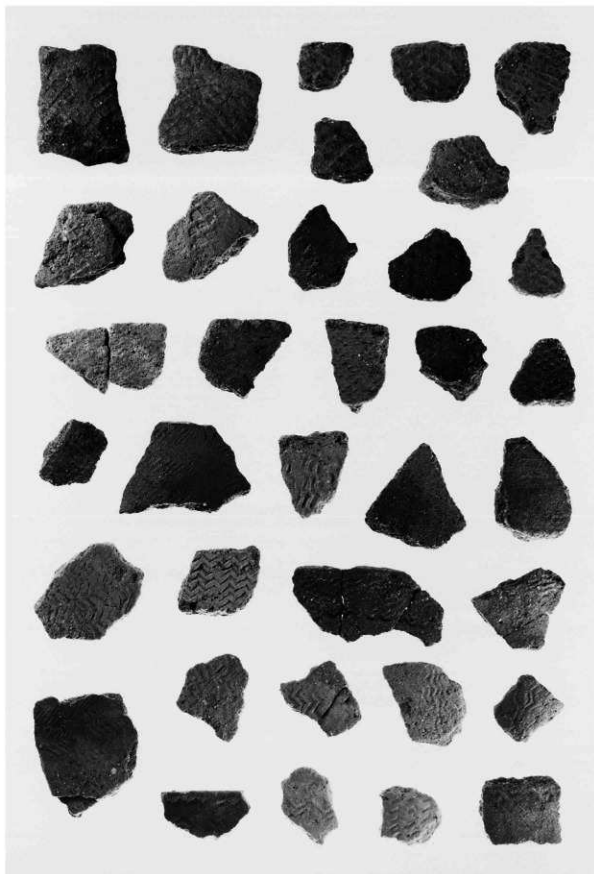
第11号住居址出土土器 (13)



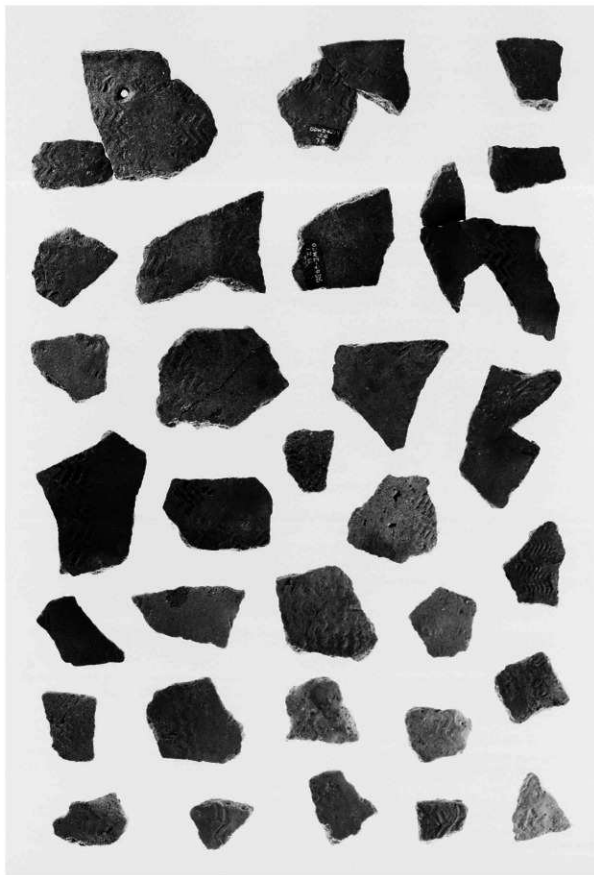
第11号住居址出土土器 (14)



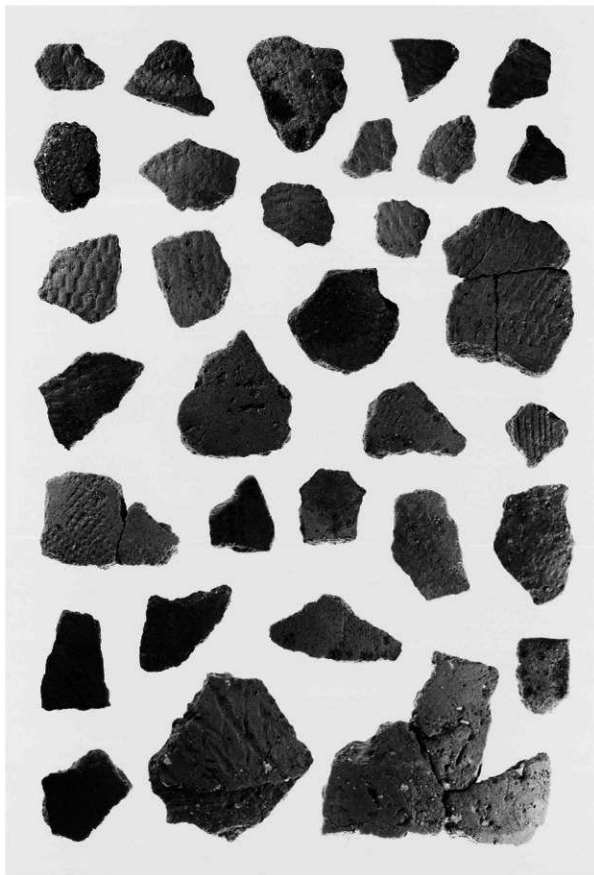
第12号住居址出土土器 (1)



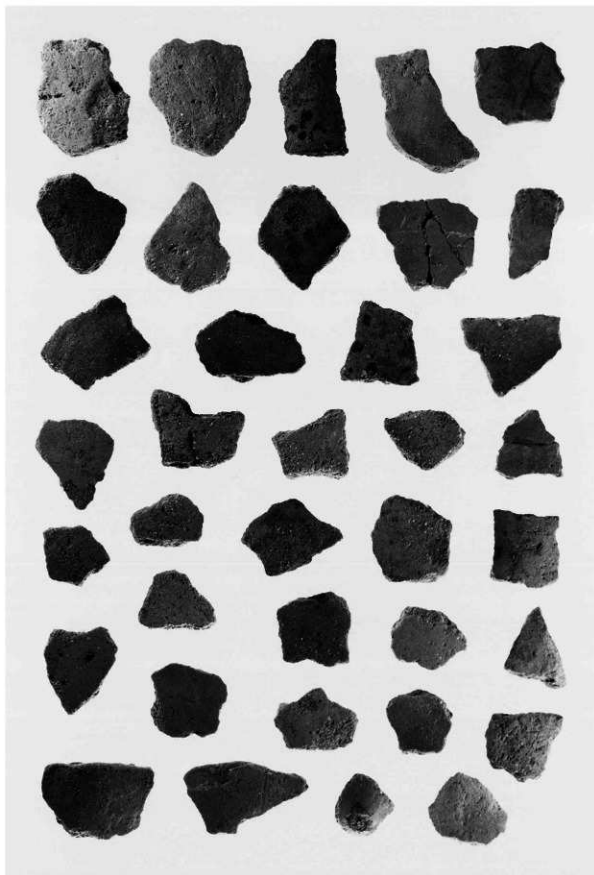
第12号住居址出土土器 (2)



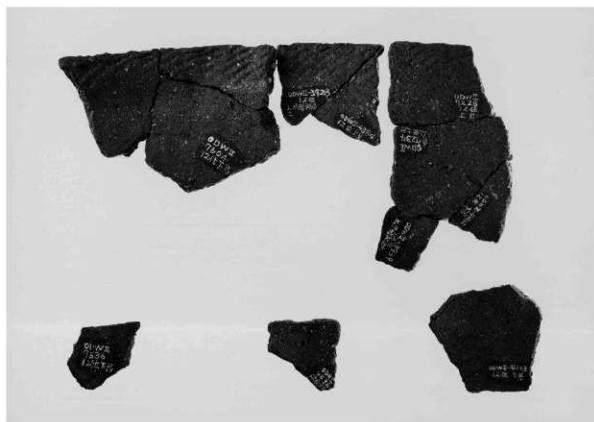
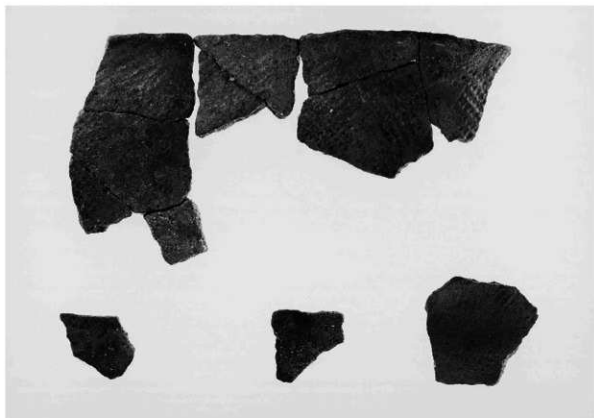
第12号住居址出土土器 (3)



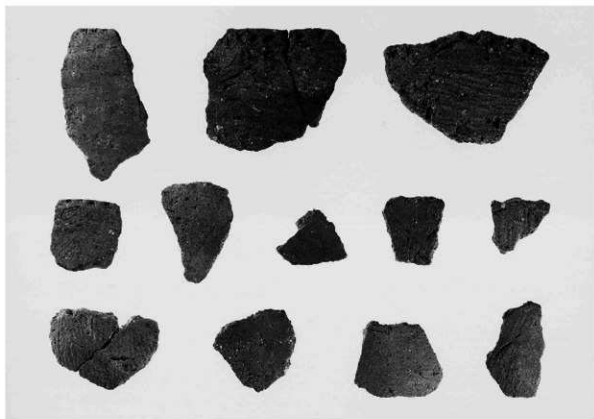
第12号住居址出土土器 (4)



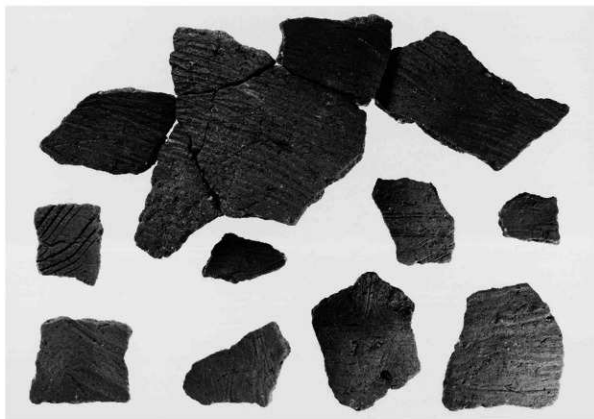
第12号住居址出土土器 (5)



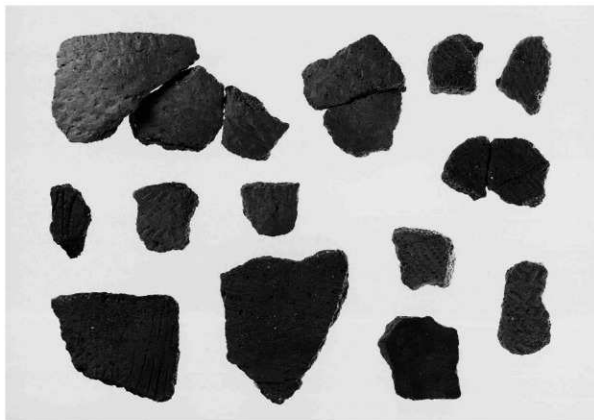
第12号住居址出土土器 (6)



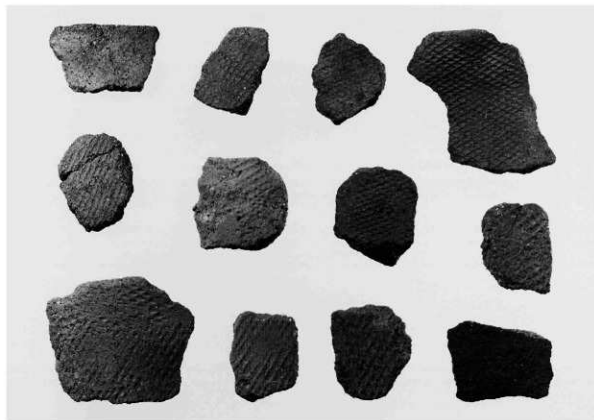
第12号住居址出土土器 (8)



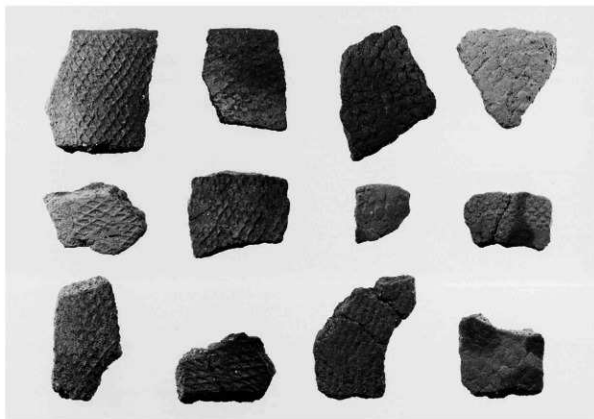
第12号住居址出土土器 (10)



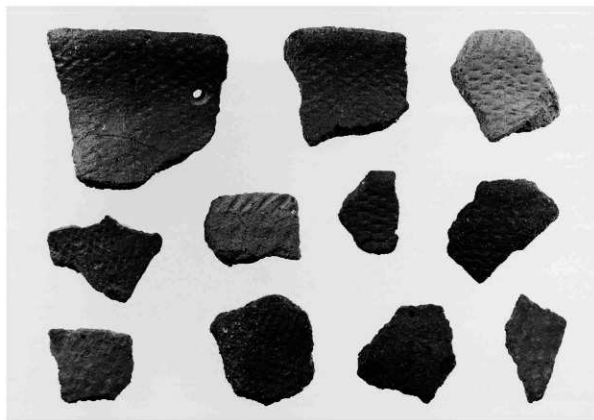
第13号住居址出土土器



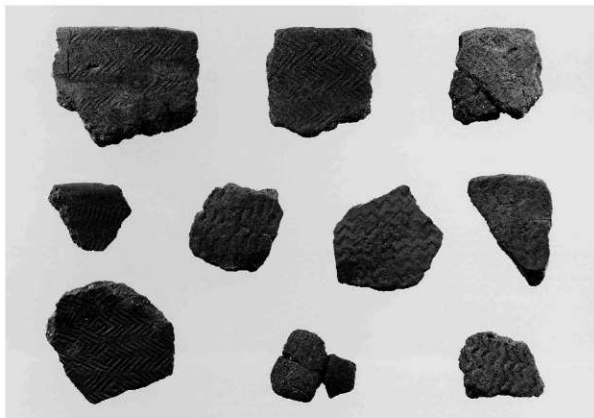
道構外出土土器 (1)



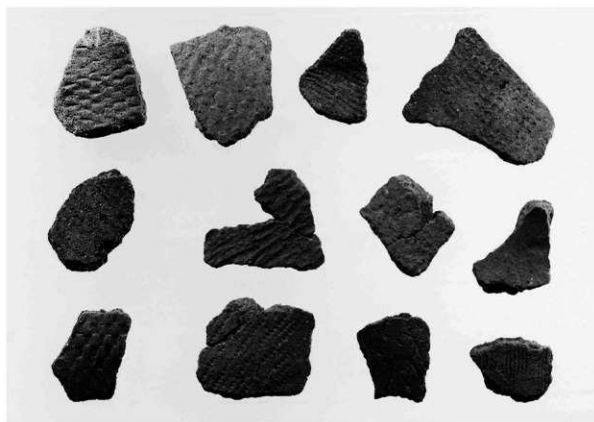
遺構外出土器 (2)



遺構外出土器 (3)



道橋外出土土器 (4)



道橋外出土土器 (5)



小型石器 (1) (3~10住)



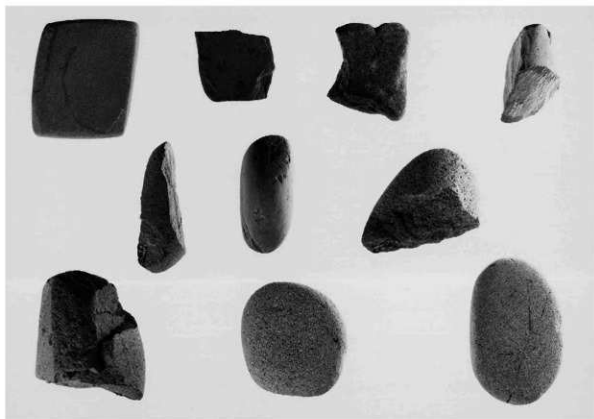
小型石器 (2) (11住)



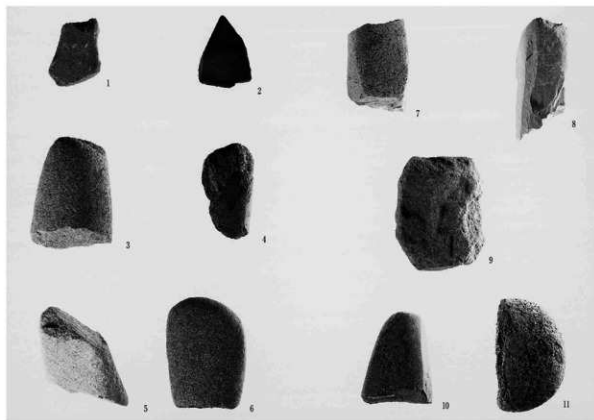
小型石器 (3) (11件)



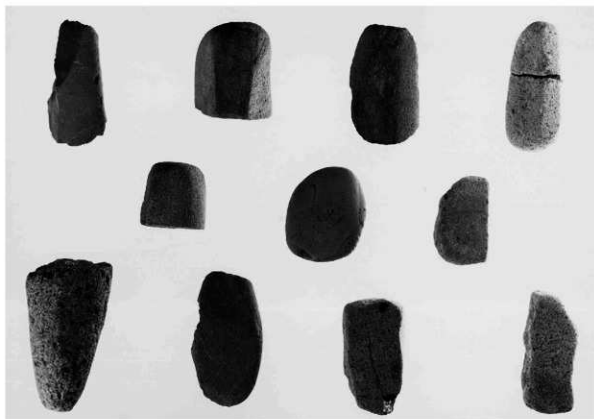
小型石器 (4) (12件)



炭 器 (1) (6件)



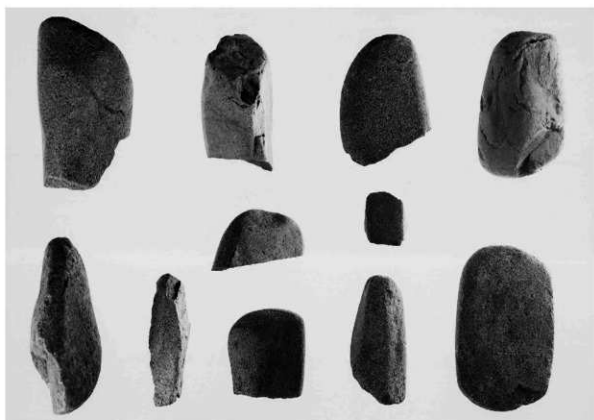
炭 器 (2) (1~6:3件, 7~8:5件, 9:4件, 10~11:8件)



石器 (3) (11件)



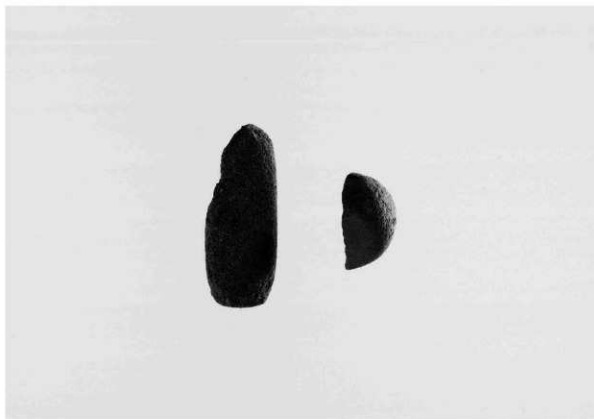
石器 (4) (11件)



石器 (5) (12件)



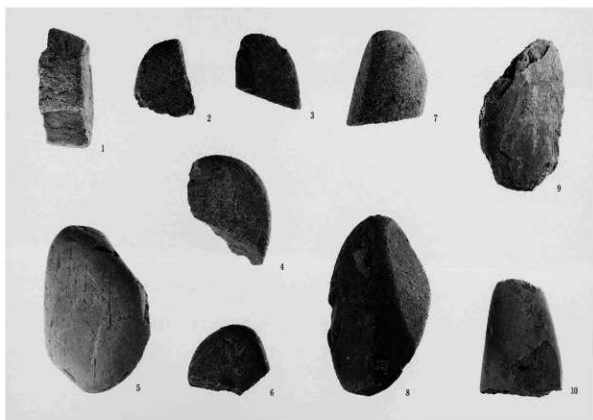
石器 (6) (12件)



礫 器 (7) (13住)



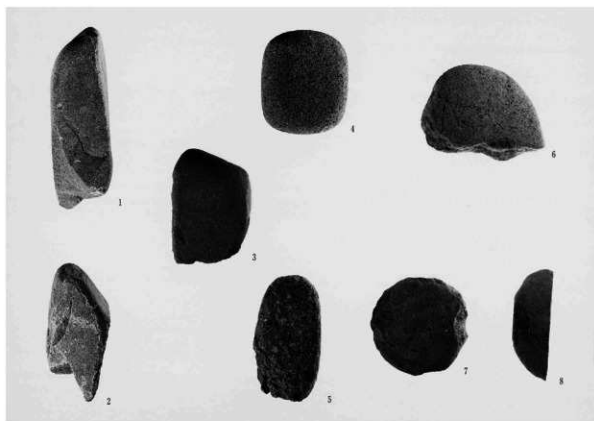
礫 器 (8) (石捨場, 1~5:1-A, 6・7:2-A, 8・9:3-A)



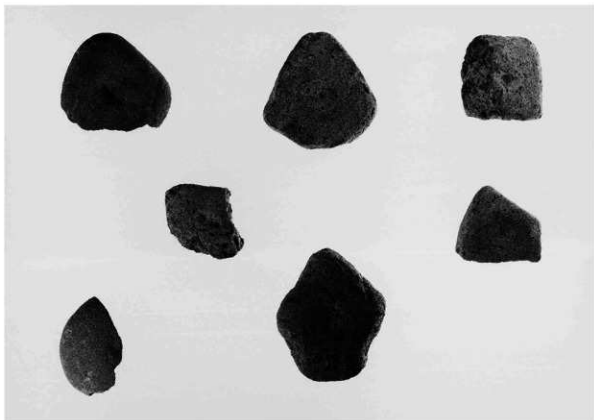
石器 (9) (石塘場、1~6:8-A, 7:1-B, 8:6-B, 9·10:8-C)



石器 (10) (石塘場、1~8:1-C, 9~12:2-C)



石器 (11) (石坊場, 1・2: 3-C, 3~5: 不明, 6: 磨石, 7: 円盤状石器, 8: 敲石)



石器 (12) (石坊場, 凹石)

報告書抄録

ふりがな	うえのちくまいぞうぶんかざいはくつちょうさほうこくしょ に						
書名	上野地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ						
副書名	県営中山間総合整備事業・小田原工区に先立つ緊急発掘調査						
著者名	福島 永・会田 進						
編集機関	辰野町教育委員会						
所在地	〒399-0493 長野県上伊那郡辰野町中央1番地 ☎ (0266) 41-1111						
発行年月日	平成16年2月27日						
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積
		市町村	遺跡番号				
小田原遺跡 <small>オダワラ</small>	長野県上伊那郡辰野町大字平出3908番地外	20382	147	35° 59' 33"	138° 01' 36"	20000515 ? 20010509	8,500㎡
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		
小田原遺跡	集落 狩猟場	縄文時代	住居址	10	縄文時代早期土器・石器 平安時代土師器・須恵器・灰輪陶器 平安時代銅製帯金具		
		平安時代	集石 ^知	75			
			石列	4			
			土坑（落とし穴状土坑含）	153			
			溝址	4			
			住居址	3			
特記事項	<p>縄文時代早期前半（立野式）の集落が発見された。この集落には大・中・小型の規模の住居址が出土し、特に大型住居址の第11・12号住居址は深さ約0.8mと遺存状況が良好で、多くの遺物が出土したことにより、立野式の後半期の様相を明らかにする資料が提示できた。</p> <p>また、集石^知では「石組^知」とも考えられる遺構をはじめ、角礫を土坑底部に敷きつめて作られたものなど、早期の^知の形態を明らかにできる遺構も出土している。</p> <p>土坑では、落とし穴状土坑をはじめ、土壙墓、焼土を伴ういわゆる「^知穴」の出土等様々なパターンの遺構が発見された。</p>						

上野地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

県営中山間地総合整備事業・小田原工区に先立つ緊急発掘調査

発行日 平成16年2月27日

編集
発行 辰野町教育委員会

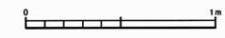
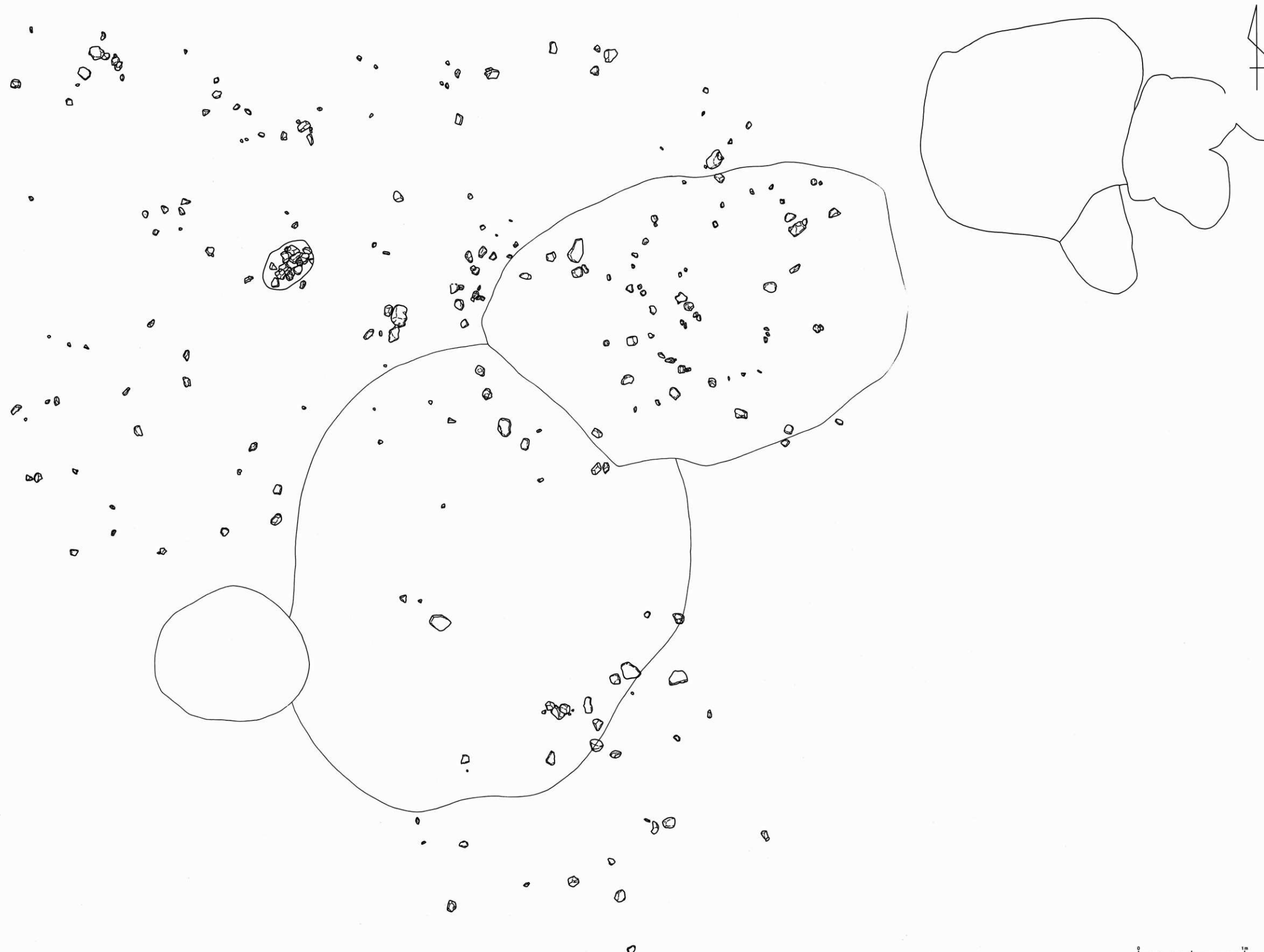
〒399-0493 長野県上伊那郡辰野町中央1

電話 0266 (41) 1111

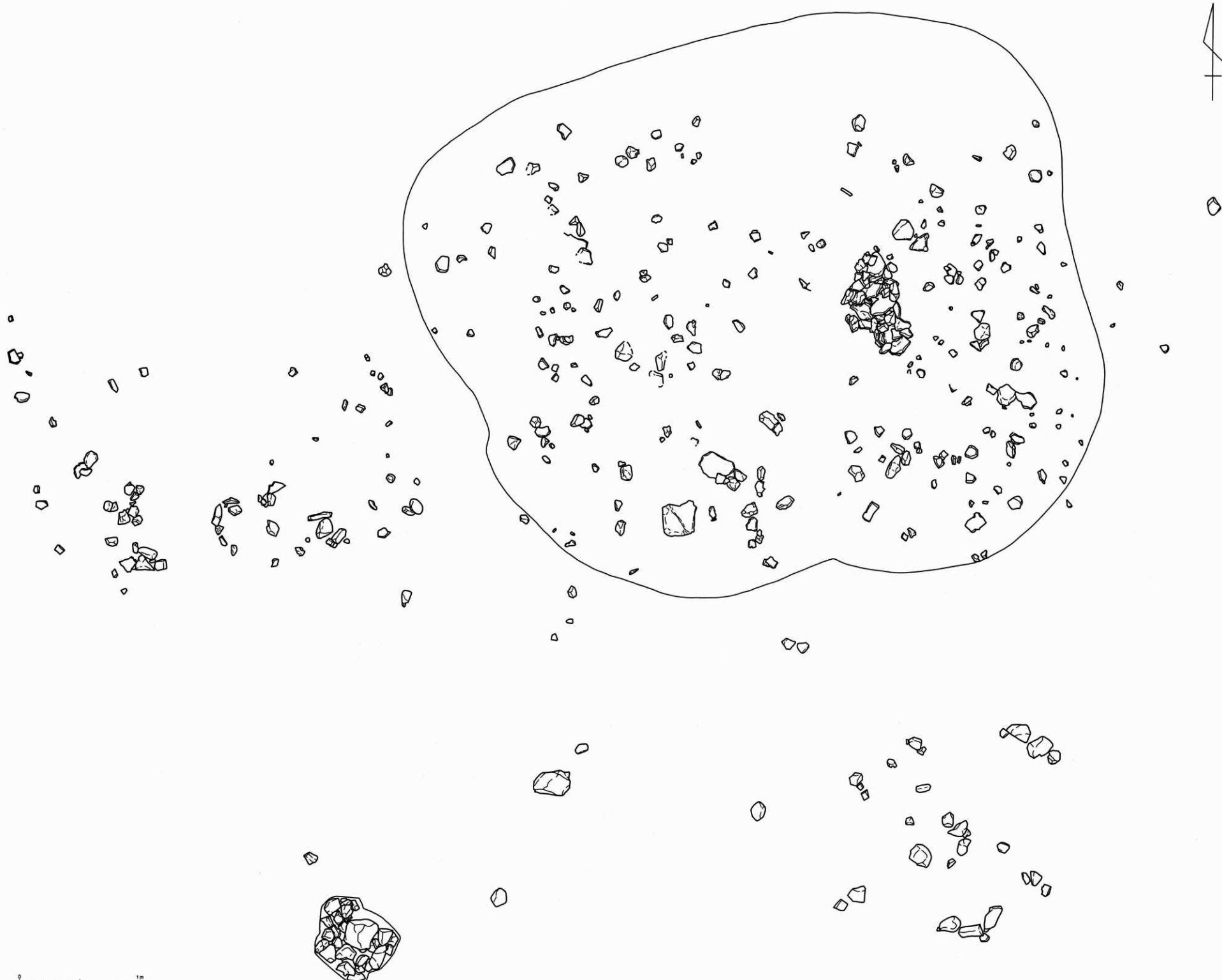
印刷
刷本 (有) グラフィックファクトリー

〒399-0421 長野県上伊那郡辰野町大字辰野1640-4

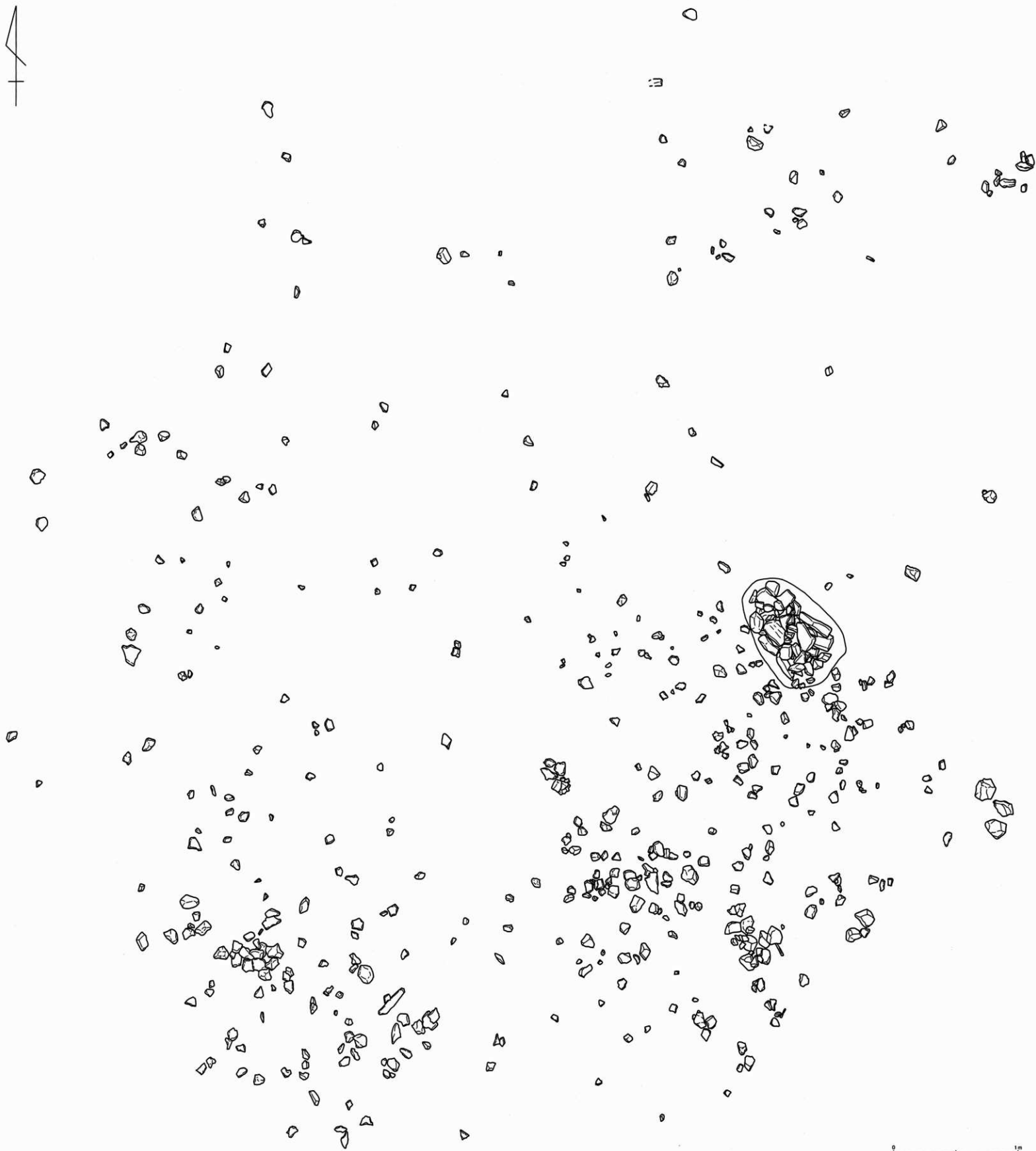
電話 0266 (44) 1170



付图4 第1号遗址平面图



付图5 第2号遗址平面图

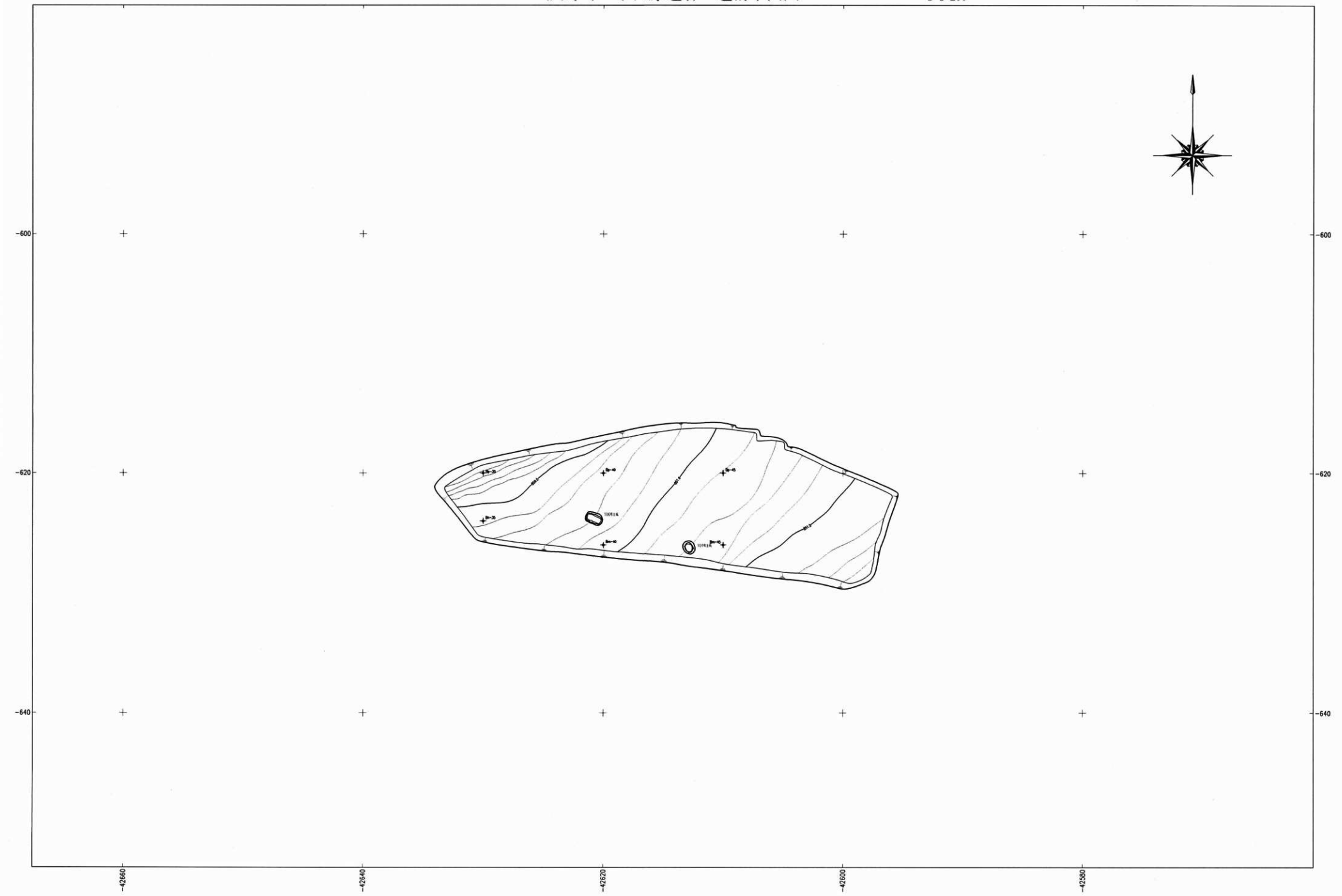


付图6 第3号遗址平面图



辰野町 小田原遺跡 遺構平面図

S=1:200



付図7 小田原遺跡全体測量図 (1)

